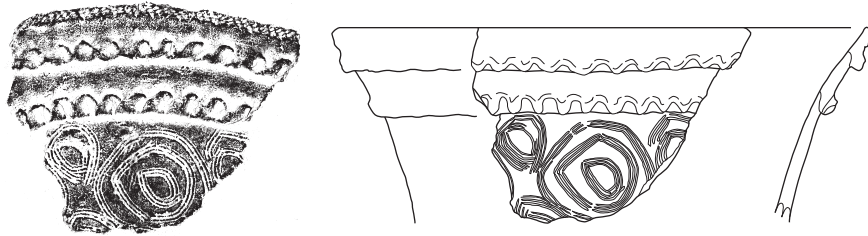


東前原遺跡

(第8地点第4次)

－区画道路6-27号線道路改良及び造成並びに流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－



2016

水戸市教育委員会

東前原遺跡

(第8地点第4次)

－区画道路6-27号線道路改良及び造成並びに流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2016

水戸市教育委員会



調査区の全景 (南西から)



A区全景 (西から)



B区全景(南から)



基本層序(B区・北東から)



S107 カマド 遺物出土状況(北から)



S110 カマド 遺物出土状況(西から)



S107 P3 土層断面(南から)



S113 カマド 遺物出土状況(東から)

ごあいさつ

水戸市域の東側にある東前原遺跡は、那須岳を水源とする那珂川右岸の台地上に位置しています。本遺跡の周辺には、文献に残る最古の貝塚である国指定史跡「大串貝塚」や、6世紀後半に築造された首長墓とみられる北屋敷古墳群、奈良・平安時代に交通の要衝として機能した平津駅家の関連集落と考えられている梶内遺跡など、多くの重要遺跡が残されており、古くから政治・文化の中心地域のひとつとして繁栄してきたと考えられています。

近年、東前原遺跡が位置する東前町周辺は、区画整理事業に伴い宅地化が急速に進んでおり、周辺に位置する遺跡の様相も大きく様変わりしています。埋蔵文化財は、その性格上、開発などにより一度壊されてしまうと、二度と現状に復すことができないため、私たちひとりひとりが大切に保存しながら後世に伝えていかなければならない貴重な財産です。本市教育委員会といたしましては、その意義や重要性を踏まえ、開発事業との調和を図りながら、文化財の保護・保存に努めているところです。

今回の調査では、弥生時代から中～近世にかけての多数の遺構や遺物を確認しました。弥生時代の遺構としては、中期後半～後期前半にかけての竪穴建物跡が調査区北側に集中して見つかっており、過去の調査結果と併せて考えると、この時期の集落が台地の北端部に広がる風景が窺えつつあります。さらには、奈良・平安時代の竪穴建物跡が多数確認されたほか、東側隣地での発掘調査で確認されている大型の溝跡を検出しました。

これらの成果は、東前原遺跡における土地利用の変遷を復元するうえで重要な資料であります。また、近接する小原遺跡や、那賀郡衙正倉別院と推定される大串遺跡など、東前町近辺に存在する遺跡との関連性を考えるうえでも大きな手がかりとなるものです。

ここに刊行する本書が、豊かな地域史の一端を復元することで貴重な文化財に対する保護・活用の意識の高揚や郷土愛の育成へと繋がることを願い、学術研究等の資料として、広く御活用いただければ幸いです。

末尾ながら、今回の調査実施にあたり、多大なる御理解と御協力を賜りました近隣住民の皆様方、並びに種々の御指導・御助言を賜りました関係各位に心から感謝申し上げます、ごあいさつといたします。

平成 28 年 9 月

水戸市教育委員会

教育長 本多 清峰

例 言

- 1 本書は、水戸市に所在する東前原遺跡(第8地点第4次)の発掘調査報告書である。
- 2 発掘及び整理調査は、区画道路6-27号線道路改良及び造成並びに流域関連下水道工事に伴い、水戸市教育委員会が行い、株式会社イビソクが支援した。
- 3 調査概要・及び調査組織は下記の通りである。

調査地	水戸市東前町1121, 1192-4, 1209-3・5・6・7・9番地地内
調査面積	1,670㎡
調査期間	平成28(2016)年3月8日～平成28(2016)年5月17日
調査主体	水戸市教育委員会
事務局	七字 裕二 水戸市教育委員会事務局教育部長 長谷川 仁 同歴史文化財課埋蔵文化財センター所長 米川 暢敬 同文化財主事(調査担当者) 太田有里乃 同主事 昆 志穂 同埋蔵文化財専門員 丸山優香里 同埋蔵文化財専門員 下山はる奈 同埋蔵文化財専門員 菅谷 瑛奈 同嘱託員(公開活用担当) 杉山 洋子 同嘱託員(庶務担当)
調査担当	米川暢敬(水戸市教育委員会事務局教育部歴史文化財課埋蔵文化財センター文化財主事)
調査支援	近藤美保(3月8日～4月8日迄) 小野麻人(4月11日～5月17日)(株式会社イビソク千葉営業所)
調査補助員	新井泰輔, 名久井伸哉(株式会社イビソク千葉営業所)
調査参加者	青木翔吾, 青木 誠, 有田洋子, 石川 勉, 飯塚 弘, 市毛友宣, 岡野政雄, 河原井俊吉郎, 小山司農夫, 佐々木由二, 塩野 進, 清水 昊, 白土和夫, 菅谷末吉, 立原正一, 谷川明正, 寺門正信, 根矢 稔, 三澤壮太, 皆川幸子, 村上巧兒, 八巻省三
整理作業参加者	青木翔吾, 安立美由樹, 飯野正子, 伊藤晴美, 今井千恵, 太田玄紀, 勝又麻里夫 岸俊太郎, 関根唯充, 長谷川知美, 長谷川玲子, 原 孝子, 福岡庸一, 村山彩子

- 4 本書の執筆は、第1章第1・3節と第2章を米川・丸山、それ以外を小野、鈴木裕子が担当した。文責は、それぞれの文末に記載した。遺物集計については鈴木が担当した。編集は、米川の助言・指導のもと小野、鈴木が行った。
- 5 出土遺物及び図面・写真等の記録類は、報告書刊行後、一括して水戸市大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財センターにて保管している。
- 6 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々・諸機関より御教示・御協力を賜った。記して深く謝意を表したい(敬称略・順不同)。

茨城県教育庁総務企画部文化課, (有)東海建設, 斎藤弘道, 佐々木藤雄, 前川雅夫

凡 例

1 本文中に掲載した遺構実測図の縮尺は次の通りである。

全体図：1/300

竪穴建物跡：1/30, 1/60 土坑・ピット：1/60 溝：1/60, 1/80, 1/150










遺物：1/3, 1/2, 原寸

2 遺構実測図中の座標値は公共座標（世界測地系）に基づく。方位は座標北，レベルは海拔高を示す。

3 遺物の写真図版の縮尺は実測図と基本的には一致する。

4 遺物番号は本文，挿図，写真図版と一致し，遺構ごとに通し番号とした。但し鉄滓は写真図版のみの掲載である。

5 遺構・遺物実測図中の表示は以下の通りである。

全体図		攪乱				
遺 構：竪穴建物跡		硬化面		復元線		
		カマド構築材の粘土		焼土・火床面範囲		ピット内の柱の圧痕
※その他特別なものは各頁に記載した。						
遺 物		須恵器（断面）		内面黒色処理		灰釉陶器

7 遺物の注記に使用した遺跡名の略号は以下の通りである。

201259-8-4（水戸市 旧常澄村(201)東前原遺跡(259)-第8地点第4次調査）

8 土層・遺物の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局ほか監修の、『新版標準土色帖』（2001年度版）に拠っている。

9 遺構（ピット含む）凡例図は以下の通りである。

平面形態



断面形態



10 土器観察表の「①胎土」の「針状物」はいわゆる白色針状物質＝海綿骨針の略である。

本文目次

序文

巻頭図版

例言・凡例・目次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	5
第3節 東前原遺跡における既往の調査	8
第3章 調査の方法と成果	10
第1節 基本層序	10
第2節 遺構と遺物の概要	11
第3節 弥生時代	14
1 竪穴建物跡	
第4節 奈良・平安時代	22
1 竪穴建物跡	
2 土坑	
3 ピット	
第5節 中・近世	58
1 溝跡	
2 土坑	
3 ピット	
第6節 遺構外出土遺物	64
第7節 出土遺物集計表について	64
第4章 総括	72

引用・参考文献

写真図版

報告書抄録・奥付

図版目次

第1図	東前原遺跡第8地点第1次調査試掘トレンチ配置図	1	第29図	SI10出土遺物	38
第2図	遺跡の位置	4	第30図	SI11	39
第3図	周辺の遺跡	5	第31図	SI11出土遺物	40
第4図	東前原遺跡における既往の調査地点	9	第32図	SI12	41
第5図	基本層序	10	第33図	SI12出土遺物	41
第6図	A区遺構図	12	第34図	SI13(1)	43
第7図	B区遺構図	13	第35図	SI13(2)	44
第8図	SI01	14	第36図	SI13(3)	45
第9図	SI01出土遺物	15	第37図	SI13出土遺物	46
第10図	SI02	17	第38図	SI14	48
第11図	SI02出土遺物	17	第39図	SI14出土遺物	48
第12図	SI05	19	第40図	SI15	50
第13図	SI05出土遺物	20	第41図	SI15出土遺物	51
第14図	SI09	21	第42図	SI16	52
第15図	SI09出土遺物	21	第43図	SI16出土遺物	53
第16図	SI03	23	第44図	SI17	54
第17図	SI03出土遺物	24	第45図	SI17出土遺物	55
第18図	SI04(1)	25	第46図	奈良・平安時代の土坑	56
第19図	SI04(2)	26	第47図	奈良・平安時代のピット	57
第20図	SI04出土遺物	27	第48図	SD01	59
第21図	SI06(1)	29	第49図	SD01出土遺物	60
第22図	SI06(2)	30	第50図	SD02・SD03・SD04	61
第23図	SI06出土遺物	31	第51図	中・近世の土坑	62
第24図	SI07	33	第52図	SK13出土遺物	62
第25図	SI07出土遺物	34	第53図	中・近世のピット	63
第26図	SI08	35	第54図	遺構外出土遺物(1)	65
第27図	SI08出土遺物	36	第55図	遺構外出土遺物(2)	66
第28図	SI10	37	第56図	遺構の変遷	72

表目次

第1表	主要な周辺遺跡一覧	6	第26表	SI14出土土器観察表	49
第2表	東前原遺跡における既往の調査一覧	9	第27表	SI15出土土器観察表	51
第3表	SI01出土土器観察表	16	第28表	SI15出土金属製品観察表	51
第4表	SI01出土石器観察表	16	第29表	SI16出土土器観察表	53
第5表	SI02出土土器観察表	17	第30表	SI16出土土製品観察表	53
第6表	SI02出土石器観察表	18	第31表	SI17出土土器観察表	55
第7表	SI05出土土器観察表	20	第32表	SI17出土石製品観察表	55
第8表	SI05出土土製品観察表	21	第33表	奈良・平安時代の土坑一覧表	56
第9表	SI09出土土器観察表	21	第34表	奈良・平安時代のピット一覧表	57
第10表	SI03出土土器観察表	24	第35表	SD01出土陶器・土器観察表	60
第11表	SI03出土金属製品観察表	25	第36表	中・近世の土坑一覧表	62
第12表	SI04出土土器観察表	28	第37表	SK13出土土製品観察表	63
第13表	SI04出土金属製品観察表	28	第38表	SK13出土金属製品観察表	63
第14表	SI06出土土器観察表	31	第39表	中・近世のピット一覧表	63
第15表	SI06出土金属製品観察表	32	第40表	遺構外出土土器観察表	66
第16表	SI07出土土器観察表	34	第41表	遺構外出土瓦観察表	67
第17表	SI07出土土製品観察表	34	第42表	遺構外出土土師質土器観察表	67
第18表	SI07出土金属製品観察表	34	第43表	遺構外出土石器観察表	67
第19表	SI08出土土器観察表	36	第44表	出土遺物集計表(1) 奈良・平安時代：土師器	68
第20表	SI10出土土器観察表	38	第45表	出土遺物集計表(2) 奈良・平安時代：須恵器	69
第21表	SI11出土土器観察表	40	第46表	出土遺物集計表(3) 奈良・平安時代：土師器，須恵器以外の製品	70
第22表	SI11出土金属製品観察表	40	第47表	出土遺物集計表(4) 奈良・平安時代：全体	70
第23表	SI12出土土器観察表	42	第48表	出土遺物集計表(5) 弥生時代	71
第24表	SI12出土金属製品観察表	42	第49表	出土遺物集計表(6) 中・近世	71
第25表	SI13出土土器観察表	47			

巻頭図版目次

巻頭図版1	調査区の全景(南西から) A区全景(西から)	SI07 カマド 遺物出土状況(北から) SI10 カマド 遺物出土状況(西から)
巻頭図版2	B区全景(南から) 基本層序(B区・北東から)	SI07 P3 土層断面(南から) SI13 カマド 遺物出土状況(東から)

写真図版目次

写真図版1	A区 完掘全景(南東から) B区 完掘全景(北東から) A区 基本層序(東から) A区 調査前現況(南西から) B区 調査前現況(南から) SI01 完掘(南東から) SI01 遺物出土状況(西から) SI01 炉 完掘(南西から)	SI13 カマド 完掘2(東から) SI13 P4 土層断面(西から) SI13南西隅 粘土塊出土状況(北西から) SI13 掘り方 完掘(南から) SI14 完掘(南東から)
写真図版2	SI01 掘り方 完掘(南東から) SI02 完掘(南から) SI02 遺物出土状況(西から) SI02 掘り方 完掘(南から) SI04・SI05 検出状況(東から) SI05 完掘(東から) SI05 土器出土状況(西から) SI09 完掘(東から)	写真図版9 SI14 カマド 完掘(南東から) SI15 完掘1(西から) SI15 完掘2(東から) SI15 鉄製品出土状況(南から) SI15 カマド 完掘(西から) SI15 棚状遺構 完掘(北から) SI16 完掘(西から) SI16 遺物出土状況(西から) SI16 土師器甕出土状況(西から)
写真図版3	SI03 完掘(南西から) SI03 遺物出土状況(南西から) SI03 カマド 完掘(南西から) SI03 掘り方 完掘(南西から) SI04 東西土層断面(南から) SI04 完掘(南西から) SI04 遺物出土状況(南西から) SI04 鉄製品出土状況(南西から)	写真図版10 SI17 完掘(西から) SI17 遺物出土状況(北東から) SI17 カマド 完掘(西から) SK08 完掘(西から) SK09 完掘(西から) SK20 完掘(南から) SK23 土層断面(西から)
写真図版4	SI04 カマド 完掘(南西から) SI04 掘り方 完掘(南西から) SI06 検出状況(西から) SI06 完掘(南西から) SI06 遺物出土状況(西から) SI06 カマド 完掘(南西から) SI06 掘り方 完掘(南西から) SI07 完掘(西から) SI07 遺物出土状況(西から) SI07 鉄製品出土状況(北から)	写真図版11 SD01 完掘全景(東から) SD01 完掘全景(西から) SD01 完掘西半部(東から) SD01 完掘東半張出部(西から) SD01 土層断面A(西から) SD02 完掘(東から) SD02(右)・SD03(左) 完掘(西から) SD03 完掘東半部(北から) SD03 土層断面K(東から) SD03(左)・SD04(右) 完掘(西から) SD04 土層断面F(東から) SK06 完掘(東から) SK06 土層断面(西から) SK13 完掘(北東から) SK13 羽口出土状況(北東から) SK14 完掘(西から)
写真図版5	SI07 カマド 遺物出土状況1(西から) SI07 カマド 遺物出土状況2(北から) SI07 カマド 完掘(西から) SI07 P5 土層断面(南から) SI07 掘り方 完掘(西から) SI08 完掘(南から)	写真図版12 SD03 土層断面K(東から) SD03(左)・SD04(右) 完掘(西から) SD04 土層断面F(東から) SK06 完掘(東から) SK06 土層断面(西から) SK13 完掘(北東から) SK13 羽口出土状況(北東から) SK14 完掘(西から)
写真図版6	SI08 完掘西部(東から) SI08 須恵器坏出土状況(東から) SI10 完掘(南から) SI10 カマド 遺物出土状況(南から) SI10 カマド 完掘(南から) SI11 完掘(南から) SI11 須恵器坏出土状況(南から) SI11 カマド 完掘(南から)	写真図版13 1. SI01 出土遺物 2. SI02 出土遺物
写真図版7	SI12 完掘(北東から) SI12 土師器坏出土状況(北から) SI12 土層断面(北から) SI12 カマド 完掘(北東から) SI12 カマド 土層断面(北から) SI13 完掘1(南から) SI13 完掘2(西から) SI13 土層断面(北西から)	写真図版14 1. SI05 出土遺物 2. SI09 出土遺物 3. SI03 出土遺物
写真図版8	SI13 須恵器坏蓋出土状況(南から) SI13 カマド 遺物出土状況(南から) SI13 カマド 完掘1(南から)	写真図版15 1. SI04 出土遺物 2. SI06 出土遺物
		写真図版16 1. SI07 出土遺物 2. SI08 出土遺物
		写真図版17 1. SI10 出土遺物 2. SI11 出土遺物 3. SI12 出土遺物
		写真図版18 1. SI13 出土遺物 2. SI14 出土遺物 3. SI15 出土遺物
		写真図版19 1. SI16 出土遺物 2. SI17 出土遺物
		写真図版20 1. SD01 出土遺物 2. SK13 出土遺物 3. 遺構外出土遺物(1)
		写真図版21 1. 遺構外出土遺物(2)

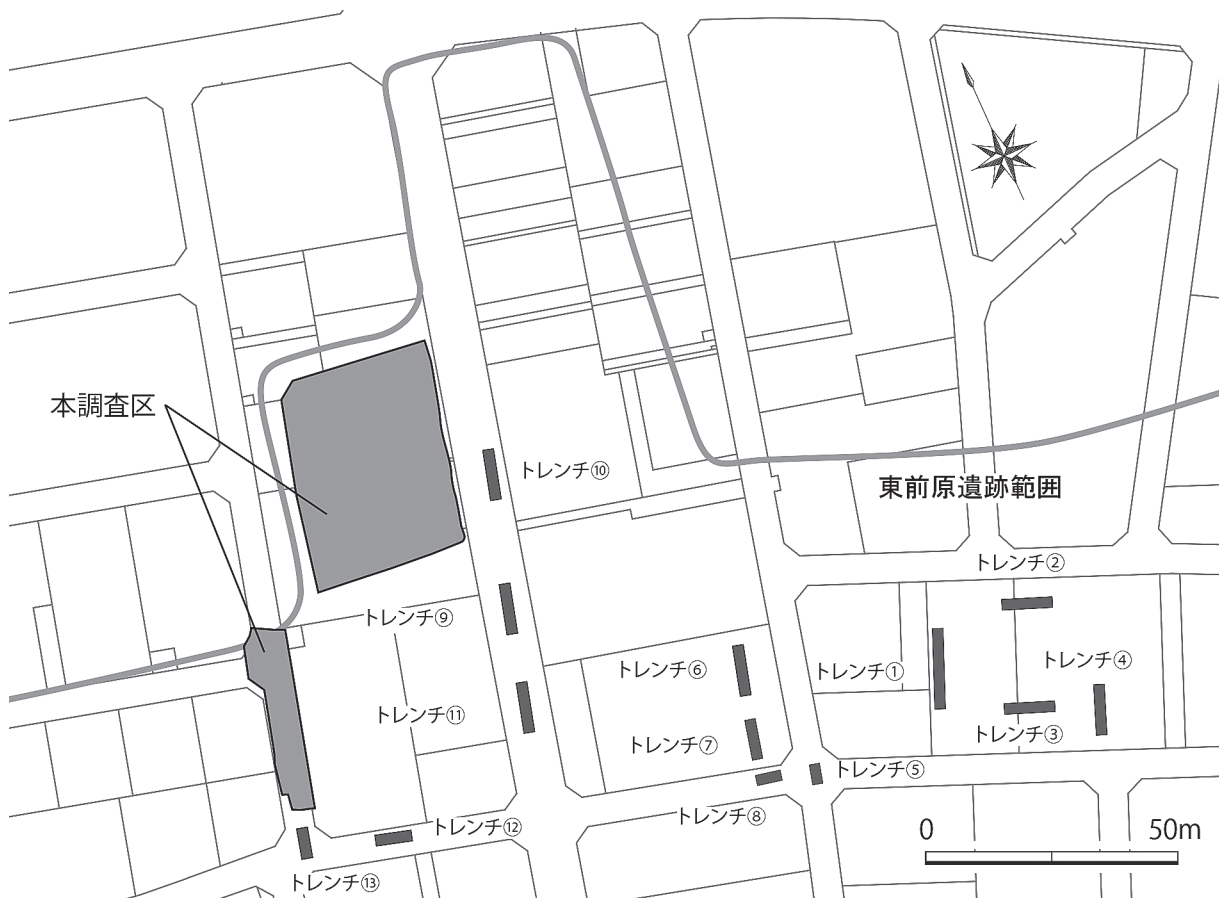
第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

平成27年6月10日付けで、土地区画整理事業に伴い、水戸市長(都市計画部市街地整備課東前地区開発事務所扱、以下「事業者」という)から、水戸市教育委員会(以下「市教委」という)教育長あて、「埋蔵文化財の所在の有無およびその取扱いについて」(教埋第763号)が提出された。

開発予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地「東前原遺跡」に該当していることから、平成27年6月16～19日に試掘調査を実施した。なお、開発予定地のうち埋蔵文化財包蔵地の範囲外とされていた箇所にも遺構の分布が想定されたことから、当該箇所にも調査区(トレンチ⑩)を設定した。当該試掘調査では、計13本の調査区を設定し、ほぼ全ての調査区から竪穴建物跡や溝跡をはじめとする多数の遺構・遺物を検出した(東前原遺跡第8地点第1次調査、教埋第764号、第1図)。なお、試掘調査により遺跡の範囲がさらに北側の台地縁辺まで広がることを確認したため、後日に東前原遺跡の範囲変更を行っている。

以上のことから、本件は「茨城県埋蔵文化財発掘調査等取扱い基準」原則Ⅲ「恒久的な構造物の設置により相当期間にわたり埋蔵文化財と人との関係が絶たれ、当該埋蔵文化財が破損したに等しい状態となる場合」に該当すると判断された。そのため、市教委は、現状保存に向け事業者と協議を重ねたが、工事による影響は不可避であり、埋蔵文化財の現状保存は極めて困難であるとの結論に達した。このため市教委は、事業者から提出のあった文化財保護法第94条第1項に基づく通知について、



第1図 東前原遺跡第8地点第1次調査試掘トレンチ配置図(1:1,500)

記録保存を目的とした本発掘調査を実施すべき旨の意見書を付して茨城県教育委員会(以下「県教委」という)教育長あて進達した(教埋第765号)。

この通知に対し、県教委教育長から平成27年7月15日付け文第1011号にて、工事着手前に発掘調査を実施すること、また、調査の結果重要な遺構が確認された場合にはその保存について別途協議を要する旨の指示・勧告があった。

これを受けて、市教委は工事対象地のうち、埋蔵文化財が確認された面積1,670㎡を調査対象とし、平成28年3月8日～平成28年5月17日の期間をもって発掘調査を実施した。なお、当該地点は、事業範囲が広範であったため、工事实施区画にあわせて次数を分けており、これまでに工事対象地の南東側において、平成27年12月22日～平成28年1月20日の期間で第2次発掘調査を、当該地点の東側隣地において、平成28年3月1日～平成28年4月6日の期間で第3次発掘調査を行っている。これらの経緯から、当該地点は第8地点第4次として発掘調査を実施している。(米川・丸山)

第2節 調査の方法と経過

(1) 発掘作業の経過

発掘調査は、平成28年3月8日から平成28年5月16日に実施した。調査区は、事業対象地のうちの1,670㎡を対象とし、北側のA区、その南西側の細長いB区の2箇所に分かれている。これらの調査区を網羅するように、世界測地系の公共座標(第IX系)に基づき5m方眼のグリッドを設定し、北から南へA～R、西から東へ1～14とグリッド名を付した。

調査前の現況は、A区が住宅の上物撤去が済んだ空地、B区が区画道路6-27号線事業予定地の旧道部分と隣接する荒蕪地であった。

3月8日から、重機による表土掘削をA区の北東側から開始し、並行して機材庫や仮設トイレの搬入にあたった。掘削の結果、現地表下1.0mで遺構確認面であるソフトローム層の上面に至った。この付近からは、弥生時代の竪穴建物跡であるSI01が検出された。同月15日までA区と続いてB区の表土掘削と排土の搬出を進めた。なお、A区の南西角から南側にかけては、電柱及び既存道路沿いに深い溝(SD01)の存在が確認されたため、安全上の理由を考慮して掘削を断念した。また、B区の北西の一面では、地山にまで達する大規模な攪乱が確認され、調査ができなかった。

3月16日より作業員を投入し、人力による遺構確認と掘削に着手。トータルステーションによる平面測量と遺物微細の写真測量、カメラ3台(デジタル(2,472万画素)・カラーリバーサルフィルム・モノクロフィルム)による写真撮影、断面図は主に手実測により適宜記録をとりつつ、弥生～奈良・平安時代の竪穴建物跡12軒ほかの遺構群の調査を進めた。4月26日に市教委担当者の終了確認を受け、ドローンによる空撮を行った。その後、翌27日に補足調査を行ってA区の調査は終了した。B区は、4月上旬より一部攪乱抜きなどの作業を行っていたが、本格的に遺構調査に入ったのは、5月6日からである。奈良・平安時代の竪穴建物跡5軒を中心とする遺構群の調査・記録を行い、同13日に市教委の終了確認を得た。ドローンによる空撮と補足調査を週明けの同16日に行い、17日の機材関係の撤収作業終了を以て、現地での調査を終了した。

(2) 整理等作業の経過

整理作業は平成28年4月14日より9月31日までの約5箇月にわたって実施した。現場調査と並行して、手洗いによる遺物洗浄と接合作業、及び測量データの結線図化を進めた。現場終了後の5月

20日に、終了報告や埋蔵物発見届等各方面への提出書類の作成にあたった。

5月27日に遺物の洗浄を終了し、インクジェットプリンターによる注記作業を開始。7月7日から遺物の写真撮影と接合作業を行った。接合にはセメダインCを使用し、復元は石膏を用いて最小限に留めた。同時に遺構図面のデジタルトレース・修正を行い、図版を作成。7月5日に市教委による実測遺物の選別作業を行った後、遺物の手実測と採拓、実測図のデジタルトレースを行った。また、同時進行で現場記録写真(デジタル・カラーリバーサル・モノクロ)のアルバムへの収納と台帳作成を行った。原稿執筆と写真図版等の作成は6月15日より8月22日まで行い、順次報告書編集作業を実施した。8月29日に初稿を入稿。9月下旬に三校を校了し、印刷製本を行い、9月30日に本報告書の刊行となった。(小野)



第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

水戸市は、関東平野の北東部、茨城県のほぼ中央に位置する。市域の北部には、西から東へ流れる那珂川とその支流により形成される沖積低地が広がり、これに沿うように東茨城台地が太平洋に向かって突き出している。その下流域右岸の大半が水戸市域となる那珂川は、栃木県的那須連山を水源として、八溝山地の西縁を南へ流れた後、烏山の南から方向を東へ変えて八溝山地を横断し、今度は御前山を背にして南東へ方向を変えて那珂台地と東茨城台地との間を太平洋へと流れ出る。この那珂川の存在により、栃木県域に広がる那須野原や喜連川丘陵などの内陸部と太平洋沿岸部とが水上交通によって結ばれることから、歴史的に水戸市域は交通の要衝地となることが多かった。

東前原遺跡は、東茨城台地の北東部をなす水戸台地の東側縁辺、標高約19mのところろに位置しており、東西300m、南北150mほどの畑地に展開する。当該地周辺は明治18(1885)年には広範囲にわたって松林であったことが確認できるが(第2図・第3図)、近年では土地区画整理事業に伴い、大規模な土地改変が行われ、宅地化が進んでいる。



第2図 遺跡の位置 (○が東前原遺跡, 1:25,000 明治18年7月第一軍管地方迅速測図)

第2節 歴史的環境

東前原遺跡が立地する東茨城台地，特に東端部には，縄文から近世に至るまで，数多くの遺跡が密集している。ここでは東前原遺跡の周辺に分布する遺跡群とそれらを取り巻く歴史的環境を概観する。東前原遺跡周辺における人々の営みの歴史は先土器時代にまで遡る。当該期の資料は，東前原遺跡と石川川を挟んだ対岸に位置する森戸古墳群からの出土例が知られているのみである。森戸古墳群では，第12号墳(大六天古墳)の発掘調査において，チャートやメノウから構成される石器群の出土が報告されている。それら石器群の大部分は墳丘盛土・周溝覆土内からの出土であるが，剥片であるものの，1点が周溝底面のローム中から出土している(伊藤 1976)。これらの資料のほか，明確に遺跡としてくくられた範囲内での採集ではないが，水戸市百合が丘，下入野町地内などにおいて，ガラス製黒色デイスイトや硬質頁岩製の神子柴型尖頭器が採集されている(川口 2005, 2008)。



第3図 周辺の遺跡

(★:本地点, 1:30,000 水戸市埋蔵文化財包蔵地分布地図(平成24年度版))

第1表 主要な周辺遺跡一覧

遺跡番号	名称	所在地	種別	遺物	備考
201-006	下畑遺跡	元石川町	集落跡	縄文土器(中・後), 打製石斧, 石鏃, 石錘, 磨石, 凹石, 石棒, 石剣, 土器片鏃, 土師器(古後)	
201-141	雁沢遺跡	元石川町	集落跡	縄文土器(中), 弥生土器(後), 土師器(古前)	
201-175	大串貝塚	塩崎町	貝塚	縄文土器(前・後), 石製品, 貝刀, 釣針・刺突具	一部国指定
201-176	大串遺跡	塩崎町	集落跡	縄文土器(前・後), 土師器(古・奈・平), 須恵器(奈・平), 布目瓦, 灰釉陶器	
201-183	小原遺跡	東前町	集落跡	弥生土器(後), 土師器(古・奈・平), 須恵器(奈・平)	
201-186	金山塚古墳群	大串町	古墳	円筒埴輪, 鉄鏃, 刀子	前方後円(1), 円3(5)
201-187	大串古墳群	大串町	古墳	五獣鏡, 銅輪, 直刀, 鉄鏃, 壺鏡, 素環鏡板付鬚	前方後円1, 円1(5)
201-189	愛宕神社古墳	栗崎町	古墳		
201-192	森戸古墳群	森戸町	古墳	土師器(古), 円筒埴輪, 形象埴輪, 勾玉	前方後円1, 方0(1), 円15(17)
201-193	上平遺跡	栗崎町	集落跡	土師器(古・奈・平), 須恵器(奈・平)	
201-201	椿山館跡	東前町	城館跡		
201-202	和平館跡	栗崎町	城館跡		
201-242	高原古墳群	大場町	古墳		円2
201-244	諏訪前遺跡	大場町	集落跡	土師器(古・奈・平), 須恵器(奈・平)	
201-245	沢幡遺跡	大場町	集落跡	土師器(古・奈・平), 須恵器(奈・平), 墨書土器, 円面硯, 紡錘車, 砥石, 鉄鏃, 鉄鎌	
201-246	梶内遺跡	大串町	集落跡	土師器(古後, 奈・平), 須恵器(奈・平), 刀子, 円面硯, 墨書土器, 陶器, 古銭, 煙管	
201-247	高原遺跡	大串町	集落跡	弥生土器(後), 土師器(奈・平), 須恵器(奈・平), 土師質土器, 煙管	
201-248	北屋敷遺跡	大串町	集落跡	土師器(古後, 奈・平), 須恵器(奈・平), 瓦, 陶器	
201-249	北屋敷古墳群	大串町	古墳	形象埴輪, 直刀, 小刀, 鉄鏃	円1(2)
201-251	伊豆屋敷跡	栗崎町	城館跡		
201-252	上野遺跡	栗崎町	集落跡		
201-253	佛性寺古墳	栗崎町	古墳		
201-254	フジヤマ古墳	栗崎町	古墳		
201-256	諏訪神社古墳	栗崎町	古墳		
201-257	千勝神社古墳	栗崎町	古墳		
201-258	打越遺跡	栗崎町	集落跡	土師器(奈・平), 須恵器(奈・平)	
201-259	東前原遺跡	東前町	集落跡	弥生土器(後), 土師器(古, 奈・平), 須恵器(奈・平)	本調査遺跡
201-260	住吉神社古墳	東前町	古墳		
201-261	大串原館跡	大串町	城館跡		
201-263	宮前遺跡	大串町	集落跡	土師器(奈・平), 須恵器(奈・平),	
201-299	上の下遺跡	東前町	包蔵地		

縄文時代の遺跡としては、第一に挙げるべきは大串貝塚であろう。大串貝塚は『常陸國風土記』那賀郡条に記された巨人伝説とともに著名な前期貝塚であり、貝塚としては、文献に記載された世界最古のものである。一部が国指定となっているが、その名に恥じぬ豊富な出土資料は、質・量ともに茨城県下における当該期の貝塚を凌駕している(水戸市教委 2010)。また、下畑遺跡では、加曾利E式、大木8b式期の竪穴建物跡をはじめとする遺構群が確認されており(井上 1985)、複式炉を有する住居跡が発見されるなど、中期から後期にかけての人々の営みを窺うことができる。

弥生時代については、東前原遺跡周辺における状況も水戸市全域における傾向に変わらず、生活の痕跡は他時期のそれに比べてやや低調な傾向にある。しかしながら、後期に至っては、丘陵沿いの台地上や縁辺部に立地する小原遺跡、高原遺跡、雁沢遺跡などで遺物の採集や出土が報告されており、これらの調査成果の蓄積により、徐々にではあるが、水戸市域における弥生時代の土地利用の様相が像を結びつつある。

古墳時代を迎えると、大串古墳群、北屋敷古墳群、高原古墳群、森戸古墳群などを筆頭に、古墳が活発に築造されるようになる。これらの古墳のうち、北屋敷古墳群第2号墳では発掘調査が実施されており、円筒埴輪、武人をはじめとする人物埴輪、馬形埴輪など形象埴輪が多く出土した(井上 1995)。このうち、ほぼ全身が出土した武人埴輪は水戸市指定文化財となっている。集落の分布と

しては、中期の集落に係る資料に乏しく、周辺では管見に触れないが、前期の集落としては大串遺跡（井上 1994）、後期の集落としては梶内遺跡（梶村 1995）、小原遺跡（第3地点）などの調査事例がある。当該台地上においては、前期・後期ともに活発な土地利用がみてとれる反面、中期における土地利用が緩慢であると言わざるを得ない。このことは集落展開の動態について、中期において相応の変動があったことを示唆するものである。

奈良・平安時代となり、律令制下の中央政権体制が構築されていくなか、水戸市域においても地方末端支配を目的とした郡衙及び郡寺の造営が、渡里町に所在する台渡里官衙遺跡群において行われ、律令体制の中へと組み込まれていくこととなる。水戸市は全域が常陸国那賀郡域内にあり、当該遺跡周辺は同郡芳賀里（郷）に比定される（中山 1979）。当該時期の遺跡として、先ず注目すべきは大串遺跡の存在である。大串遺跡第7地点における発掘調査では、断面がV字状を呈する大型の溝によって区画された内部に、整然と並ぶ総地業の礎石建物跡3棟が確認されている。また、束柱をもち、壺地業を有する桁行6間×梁行3間の大型の掘立柱建物跡なども発見され、一般集落とは大きく異なる様相を示している。大型の掘立柱建物柱抜き取り穴からは多量の炭化材と共に炭化米が、区画溝からは炭化した穎稻や穀稻が出土しており、これらの建物が正倉としての性格を有し、火災により焼失していたことが明らかになっている。また、「厨」銘墨書土器も出土するなど、官衙的色彩の強さが目立つ遺構・遺物群から、本遺跡は那賀郡内に設置された正倉別院であったであろうことが指摘されている（水戸市教委 2007）。

このほか、梶内遺跡は、7世紀から10世紀まで、途中希薄になる時期は存在するものの、比較的長く継続する集落跡として注視すべき遺跡である。当該遺跡では、「舎人」「長」や里（郷）名を記したとみられる「芳」銘墨書土器、9点もの円面硯を出土しており、官衙関連遺跡としての性格を匂わせる（梶村 1995）。また、東前原遺跡直近に位置する小原遺跡では、近年相次いで実施した発掘調査の成果により、6世紀から9世紀にかけて存続した集落であることが明らかになっており、「官」銘墨書土器の出土から、梶内遺跡と同様の性格を有している可能性が考えられる（太田・土生 2015、齋藤・米川 2016）。以上のような遺跡群の集中する様は、『常陸國風土記』那賀郡条の「平津驛家西一二里有岡名曰大櫛」の記事（秋本 1958）とあわせ、東前原遺跡とその周辺地域が、常陸国那賀郡芳賀里（郷）の中核ともいえる地域であったことを物語っている。

中世、武士が実権を握る時代となり、東前原遺跡が所在する旧常澄村域と重なる恒富郷を根拠としていたのは、常陸平氏大掾氏の一流である石川氏であった（常澄村史編さん委員会編 1989）。東前原遺跡周辺の当該時期の遺跡としては、椿山館跡、和平館跡、大串原館跡が挙げられる。いずれの城館跡も土塁の残存が報告されているが、調査事例が少なく、その詳細については不明な点が多い（水戸市教育委員会 1999）。

近世において、当該地域の台地上は水戸城下の外縁部にあたり、必ずしも前代のような求心力を有する地域であるとは言い難い。しかしながら、当該時期に帰属する溝跡や土坑などは各所で散見され、その土地利用の痕跡を窺うことはできる。なかでも、『新編常陸国誌』などに立原伊豆守の居所と記されている伊豆屋敷跡では、発掘調査の結果、3条の土塁と1条の溝跡が確認されている（井上 1998）。

以上のように、東前原遺跡が立地する台地上には、縄文時代から近世に至るまで、豊富な遺跡が所在している。古代には、大串遺跡や梶内遺跡などの官衙関連遺跡が展開をみせ、古代常陸国那賀郡の中核であった台渡里官衙遺跡群との色濃い関連性は疑うべくもない。現在、東前原遺跡周辺における調査の蓄積には目覚ましいものがある。これらの調査成果の丹念な検討から、当該地域の歴史像が結ばれていくことが期される（引用・参考文献は第4章末尾参照）。

第3節 東前原遺跡における既往の調査

東前原遺跡における調査は、平成20(2008)年の第1地点の試掘調査から始まり、今次調査地点を含めて計12地点において行われている(第4図、第2表)。これらの半数は個人住宅建築に伴う調査面積が狭小な試掘調査であり、東前原遺跡南端部に位置する第6地点にて性格不明遺構が1基確認されたことを除き、明確に埋蔵文化財として捉えられる遺構は検出されていない。しかしながら、表採や調査区表土中では少なからず遺物が散見されていることから、埋蔵文化財が確認できなかった地点周辺に未だ発見されていない遺構が存在している可能性は極めて高い。また、近年の土地区画整理事業に伴う市道敷設範囲や整地予定地では、3地点(総調査面積434.5㎡)に亘る試掘調査を実施しており、そのほぼ全ての調査区から濃密な埋蔵文化財の分布を確認している。そのうち、これまでに第3地点第2次及び第8地点第2次で本発掘調査を実施している。なお、第8地点は、事業範囲が広範であったため、工事実施区画にあわせて次数を分け、今般の発掘調査を第4次として実施している。

第3地点第2次では、竪穴建物跡11軒(奈良・平安)や掘立柱建物跡2棟(時期不明)、土坑9基(奈良・平安時代、中近世)、溝跡6条(奈良・平安時代)、柱穴状遺構1基(時期不明)を検出しており、出土遺物としては、土師器、須恵器、鉄製品、石製品、獣骨がある。竪穴建物跡は、一辺が6mを超えるものから2.5mの小型のものなど様々な規模の建物がみられ、主軸方向は北北西―南南東を主とするが、東一西に向けたものもわずかに存在することから、異なる時期の集落が展開していたことが推測される。なお、当該地点で確認された竪穴建物跡の多くは北壁にカマドを持つ形状を基本としているが、そのうち1軒のみ、真北隅にカマドを持つ竪穴建物跡が確認されていることも注視される。

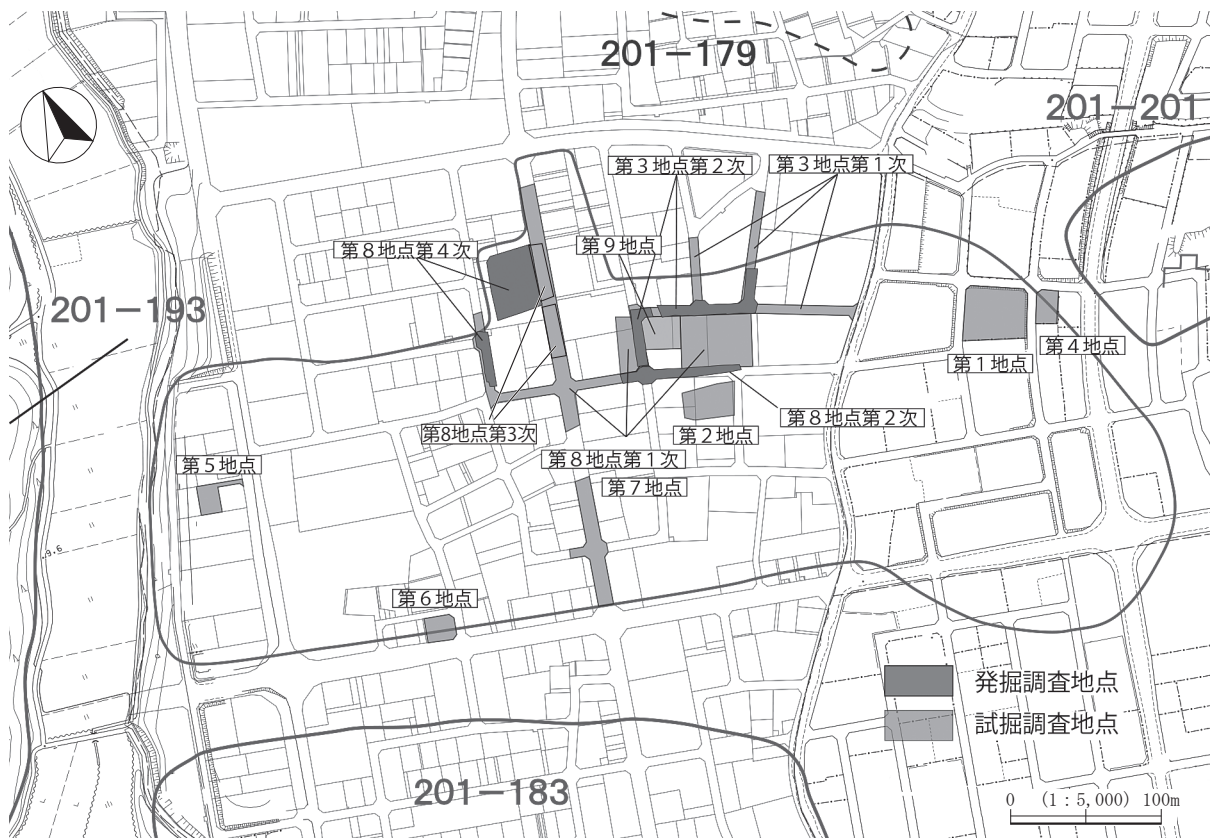
第8地点第2次では、竪穴建物跡6軒(奈良・平安)、掘立柱建物跡5軒(中近世)、ピット5基(中近世)、土坑9基(中近世)、ピット状遺構群1群(中近世)、溝跡2条(中近世)が確認されており、遺物は土師器(奈良・平安)、須恵器(奈良・平安)、土師質土器(中近世)、陶磁器、銅製品(煙管)が出土している。ほとんどの竪穴建物跡は全体の1/2程度のみを検出に留まり、全容は確認できなかった。建物の主軸は概ね南―北方向に向いており、1軒のみ一辺が7m程の大型の竪穴建物跡があるものの、それ以外は4m程度のものが多く、規模や出土遺物から奈良・平安時代に帰属するものとして考えられる。その他、中～近世の円形や方形の粘土張り土坑も検出している。

第8地点第3次では、竪穴建物跡17軒(弥生・奈良・平安)、掘立柱建物跡3軒(奈良・平安)、ピット98基(奈良・平安)、土坑12基(奈良・平安)、溝跡2条(奈良・平安)、竪穴状遺構2基(奈良・平安)、井戸跡1基(中近世以降)、土坑1基(中近世以降)が確認されており、弥生土器、土師器(奈良・平安)、須恵器(奈良・平安)、灰釉陶器(奈良・平安)、土器(奈良・平安)、瓦(奈良・平安)、土製品(奈良・平安)、手捏土器(奈良・平安)、石製品(奈良・平安)、鉄製品(奈良・平安)が出土している。当該地点では、東前原遺跡においては初の確認事例である弥生時代後期の竪穴住居跡2軒を確認している。また、調査区中央には東西に走る大型の溝跡を検出しており、集落を圍繞する区画溝としての機能が想定されているが、薬研状の形状や周辺に中世館跡が点在する環境から中世以降まで時期が下ることも考えられる。なお、本調査区地点においてもこの溝跡の延長プランが確認されている。

これらの多くの竪穴建物跡の確認から、一時その営みが確認されない時期もあるものの、古墳～奈良・平安時代にかけて展開した比較的規模の大きい集落跡であることは明らかとなっている。また、中～近世の遺構も点在していることから長きに亘って土地利用がなされてきたことも間違い

ない。

東前原遺跡における主要な発掘調査結果は以上のとおりである。東前原遺跡の全容を語るためには更なる追加調査を待ちたいが、これまでの調査にて発見された遺構群の在り様から、当該遺跡は東前地域における土地利用の動態を伝える極めて重要な物証に位置づけられる。(米川・丸山)



第4図 東前原遺跡における既往の調査地点 (1:5,000)

第2表 東前原遺跡における既往の調査一覧

地点名	回数	種別	調査期間	調査箇所	調査原因	遺構	遺物	備考
第1地点	1	試掘	H.20.11.11.	東前2丁目57・60	個人住宅建築	—	○	
第2地点	1	試掘	H.24.2.2.	東前町1098	個人住宅建築	—	—	
第3地点	1	試掘	H.26.5.8.～5.6.	東前町1104-1～1118-1	土地区画整理事業	○	○	
第4地点	1	試掘	H.26.7.30.	東前2丁目61, 62	個人住宅建築	—	○	
第5地点	1	試掘	H.27.1.22.	東前第二土地区画整理事業75街区符号15区画	個人住宅建築	—	—	
第3地点	2	発掘調査	H.27.2.9.～3.10.	東前町1106-1, 1113, 1115-2, 1116-1, 1117, 1118-1	土地区画整理事業	○	○	
第6地点	1	試掘	H.27.4.28.	東前町1147	個人住宅建築	○	○	
第7地点	1	試掘	H.27.5.8.	東前町1124-1～1126	土地区画整理事業	○	○	
第8地点	1	試掘	H.27.6.16.～6.19.	東前町1120～1122-1	土地区画整理事業	○	○	
第9地点	1	試掘	H.27.7.15.	東前第二土地区画整理事業48街区符号6・7区画	個人住宅建築	—	—	
第8地点	2	発掘調査	H.27.12.22.～H.28.1.20.	東前町1118-1ほか	土地区画整理事業	○	○	
第8地点	3	発掘調査	H.28.3.1.～4.6.	東前町1120, 1209-2・7・9, 1209-10の一部	土地区画整理事業	○	○	
第8地点	4	発掘調査	H.28.3.8.～5.16.	東前町1121, 1192-4, 1209-3・5・6・7・9	土地区画整理事業	○	○	本報告書

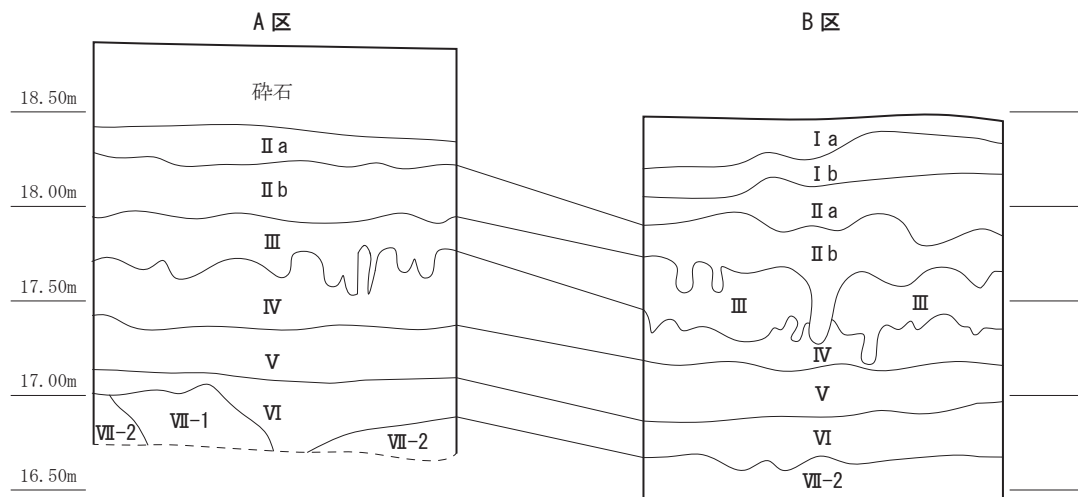
第3章 調査の方法と成果

第1節 基本層序

A区の西端部中央(T P 1), B区南端部(T P 2)において基本土層確認のためのテストピットを設け、土層観察作業を行った。I層は近現代の耕作層(表土)で、現地表面を形成する締りのない耕作土(I a層)と、その下のやや締まる旧耕作層(I b層)に細別される。弥生時代および奈良・平安時代の遺構はII層上面, 中・近世と推定される遺構も同面よりそれぞれ掘り込まれていた。本来の掘り込み面はより上層と考えられるが、後年の土地造成や耕作等削平・攪拌, 正確なところは判然としない遺構確認面はIII層上面とした。VII層が鹿沼パミス層になるが、特にT P 1を中心に、地下水の影響によると推定される褐色ローム色に変色した部分が観察された。

基本土層の概要は以下の通りである。 (小野)

- I a. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有 締りなし ローム粒・炭化物微量含む。現代の。表土。
- I b. 10YR3/1 黒褐色土 粘性締りやや有 ローム粒微量含む。旧。
- II a. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック・赤色粒微量含む。遺構の掘り込み面。
- II b. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック少量, 黒色粒微量含む。ローム漸移層。根攪乱により侵食されている。
- III. 10YR4/6 褐色土 粘性締り有 黒色粒・赤色粒微量, 微小黄白色軽石ごく微量含む。ソフトローム層。
- IV. 10YR5/6 黄褐色土 粘性有 締り強い 黒色粒・微小黄白色軽石ごく微量含む。ハードローム層。
- V. 10YR5/6 黄褐色土 粘性有 締り強い 黒色粒ごく微量含む。上層よりやや暗い。第2黒色帯。
- VI. 10YR4/6 黄褐色土 粘性有 締り強い 黒色粒ごく微量含む。上層より硬い。
- VII-1. 10YR6/6 明黄褐色土 粘性締り有 褐色土状に変色した鹿沼層。水被りの影響か。
- VII-2. 10YR7/8 黄橙色土 粘性なし 締り強い 鹿沼パミス層。一部褐色土状の色調に変色。



※ 土層観察地点は第6・7図に示す。

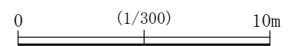
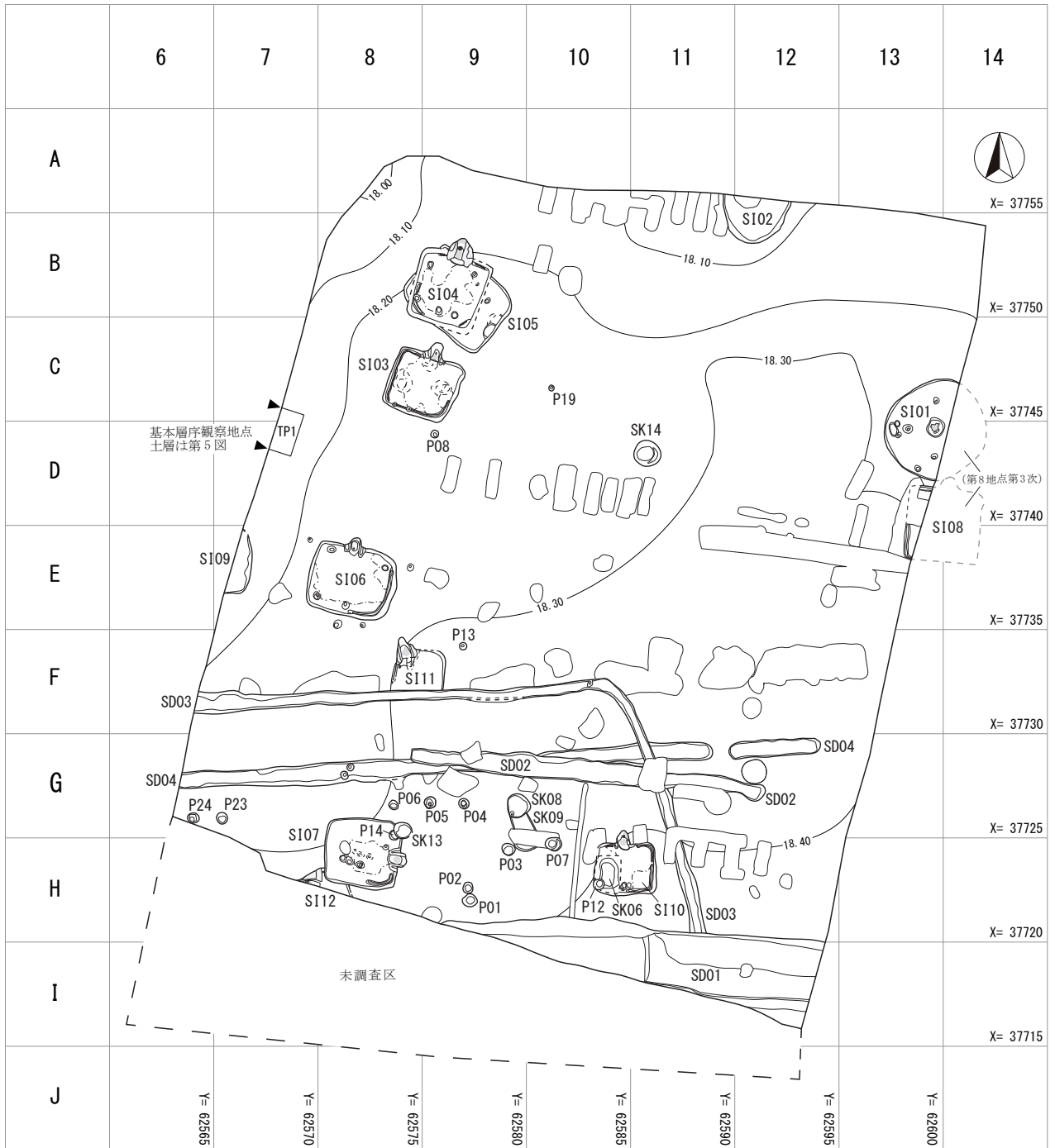
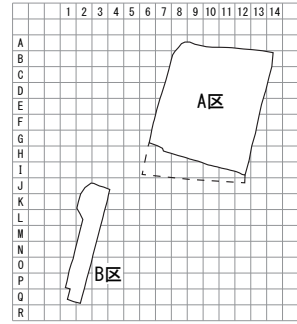
第5図 基本層序 (1/40)

第2節 遺構と遺物の概要

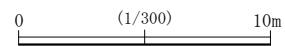
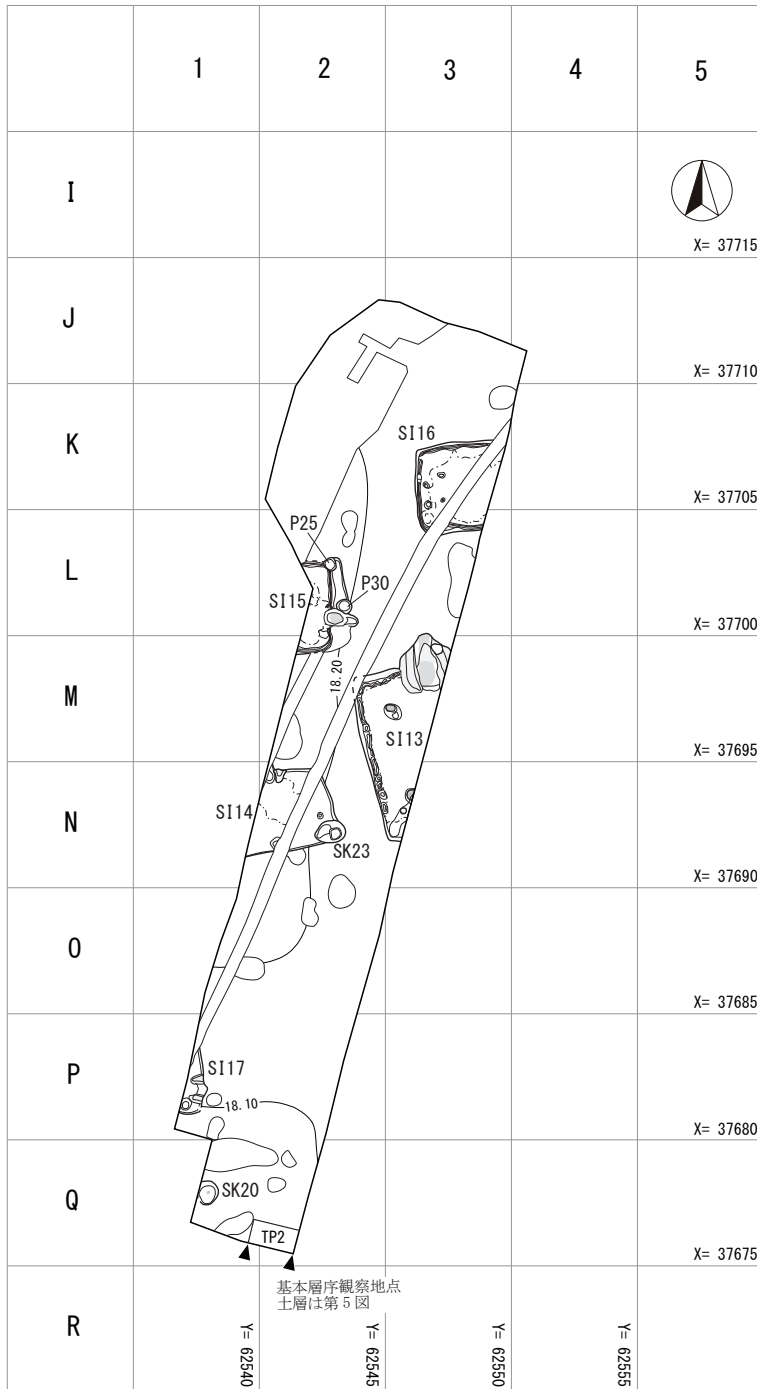
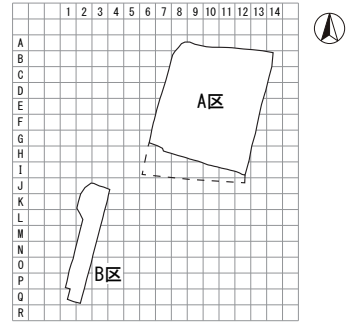
本調査で検出された遺構は以下の通りである。弥生時代の竪穴建物跡4軒、奈良・平安時代の竪穴建物跡13軒、土坑4基とピット10基、中・近世の溝4条、土坑3基とピット6基が検出された。断絶はありながらも3時代の生活の痕跡がみられたということになる。遺構の分布をみると、弥生時代の竪穴建物跡はA区の北半部に10～15mの間隔をおいてみられる。台地縁辺に近い場所に立地しているともいえる。時期はいずれも弥生時代後期前半と考えられる。奈良・平安時代の竪穴建物跡は南北に長い調査地点の全面に展開する。各竪穴建物跡は切り合いがある建物跡は1箇所のみで、2～10mほどの間隔で散在している。これらの建物跡は奈良時代から平安時代初期～中期であり、この中で2分割されるが、後者の方が軒数は多い。本地点の中央を横断する溝は出土遺物から中・近世と推定されるが、4条共にほぼ並行して東西行している。奈良・平安時代の遺構を壊しており、また竪穴建物跡の軸方位ともずれる。出土遺物は中世～近世のものであり、この時代が奈良・平安時代と一線を画していることは明らかである。なお検出された土坑・ピットは調査区内に点在していて、ピットは並びのみられるものはなかった。

出土遺物は弥生土器が総数434点で、出土場所別に分けると、遺構内は計256点、遺構外は計178点である。器種別・材質別では壺・甕・土製品・石器がみられた。奈良・平安時代は総数2,973点で出土場所別でみると、遺構内の土師器1,476点、須恵器630点、灰釉陶器1点、土製品4点、石製品6点、金属製品9点、製鉄関連遺物18点の計2,146点、遺構外の土師器443点、須恵器377点、瓦4点、石製品5点の計829点である。土師器・須恵器の器種別では坏・高台付坏・坏蓋・埴・高台付埴・皿・高台付皿・盤・鉢・高坏・甑・壺・円面碗・小型甕・甕がみられる。石製品は支脚がみられ、金属製品の器種は刀子・鎌・釘等がある。特筆すべき遺物としては、SI03で類似する2種類の墨書が須恵器坏にみられた。また破片ではあるが、須恵器円面碗の破片がSI13で出土している。SI07からは製鉄関連(小鍛冶)遺物の羽口や鉄滓が検出された。中・近世の遺物は総数16点で、遺構内は計11点で、その内訳は中世の陶器3点、金属製品2点、製鉄関連遺物2点、近世の土器3点、中近世の土製品1点である。遺構外は計5点。

なお、遺構の掲載方法は、特に土坑、ピット(竪穴建物跡に伴うものを除く)は一覧表を作成した。出土遺物も時代毎に破片数、個体数を算出し、第44～49表 出土遺物集計表1～6にまとめた。また、各遺構の事実記載の「出土遺物」の項の集計数は、特にことわらない限りその遺構に伴う時代の遺物のみ掲載している。その遺構に伴わないと考えられる時代の遺物で、図化し得た遺物は第3章第6節 遺構外出土遺物に掲載した。(鈴木)



第6図 A区遺構図



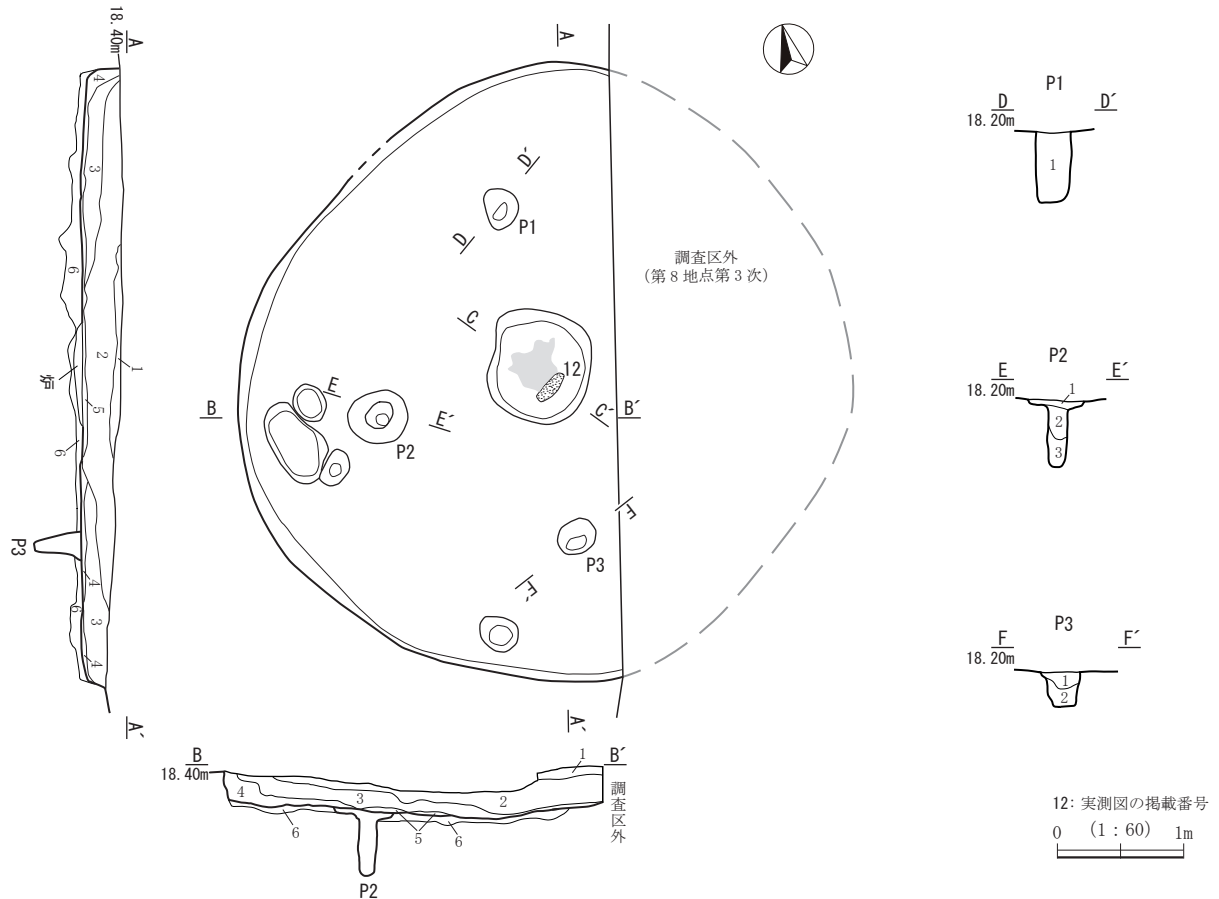
第7図 B区遺構図

第3節 弥生時代

1 竪穴建物跡

SI01

位置・重複関係等 A区の北東部, C・D-13・14グリッドに位置する。東から南にかけての3分の1ほどが調査区外である。



[SI01 土層説明]

1. 10YR4/4 褐色土 粘性締り有 ローム粒多量, 黒色粒少量, 赤色粒微量含む。
2. 10YR4/6 褐色土 粘性締り有 ロームブロック多量, 黒色粒・赤色粒中量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒少量, ロームブロック・黒色粒中量, 赤色粒少量含む。
4. 10YR3/4 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック中量, 黒色粒少量含む。
5. 10YR3/3 暗褐色土 粘性強い 締り有 ロームブロック多量, 黒色粒微量含む。
6. 10YR4/6 褐色土 粘性やや有 締り強い ロームブロック多量含む。貼床構築土。

[P1 土層説明]

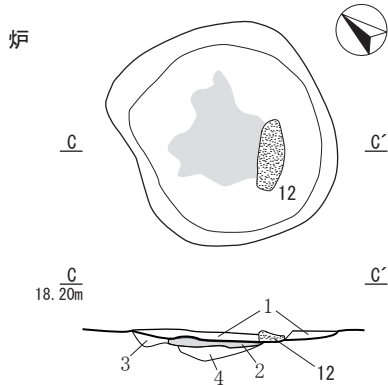
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒少量, 黒色粒微量含む。

[P2 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒少量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒中量含む。
3. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒中量, ロームブロック中量含む。

[P3 土層説明]

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ロームブロック少量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック中量含む。



[炉 土層説明]

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ロームブロック微量, 焼土粒中量含む。
2. 5YR4/6 赤褐色土 粘性なし 締り有 被熱ロームブロック主体。火床面。
3. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし 締り有 焼土粒少量含む。
4. 10YR4/6 褐色土 粘性なし 締り有 被熱硬化したロームブロック主体層。

第8図 SI01

形状と規模 平面形は楕円形を呈し、規模は長軸4.82m、残存値で短軸3.55m、深さ21～33cmを測る。主軸方位は、N-48°-Wを示す。

壁 最大壁高は25cmを測り、ほぼ垂直に掘り込まれている。

床 褐色土を用いて全面にわたり、厚さ4～18cmの貼床を構築していた。床面はやや起伏を持つものの、全面にわたって踏み固められ、よく締まっていた。西壁際と南壁際の床面には窪みがみられる。

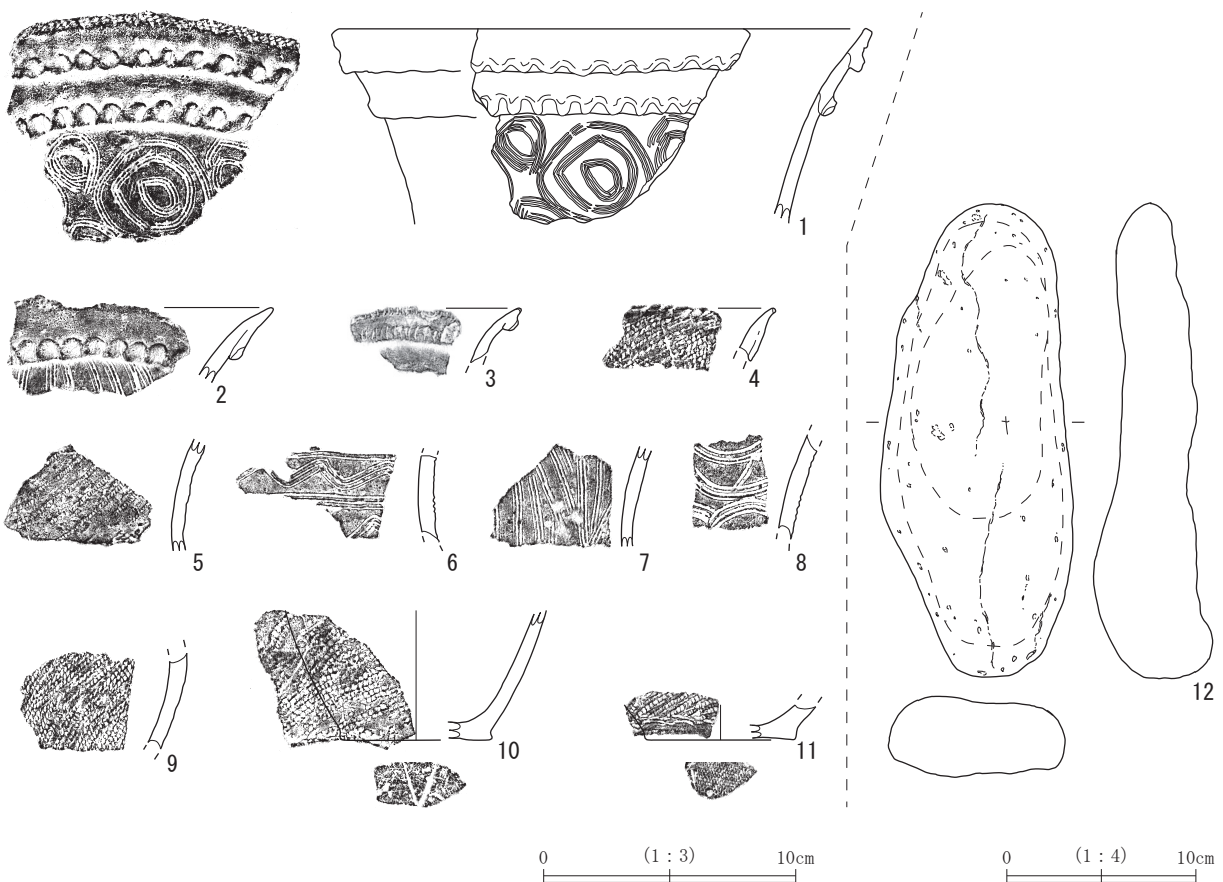
ピット 3基検出された(P1～3)。規模はP1が直径33cm、深さ54cm、P2が48×42cm、深さ54cm、P3は30×24cm、深さ30cmを測る。これらは位置と規模・形状から、支柱穴と考えられる。

炉 建物跡のほぼ中央に1基構築されていた。南北0.96m、東西0.9m、深さ2～3cmの南北にやや長い楕円形を呈する。火床面はよく赤変している。火床面の南側に炉石(12)が置かれていた。

覆土 5層に分けられる。暗褐色土、黒褐色土、褐色土が流れ込んだような堆積を示し、自然堆積と考えられる。6層は貼床である。

遺物 覆土中から床面にかけて弥生土器82点、石製品1点(炉石)が出土した。図示したのは12点である。1は、頸部に3本同時施文具による2重・3重の同心円文を描く。2・6～8も頸部にいずれも3本同時施文具による横走・縦走・斜行文が施され、8は上向き2段、下向き1段の連弧文を施文している。磨石転用炉石(12)は上面に磨り痕が顕著ではあるが、最終的には炉石として使用され、ほぼ全面が赤化していた。

時期 出土遺物からは、弥生時代中期後半から後期前半の所産と推定される。



第9図 S101出土遺物

第3表 SI01 出土土器観察表

法量欄: () 復元値, () 残存値

No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
1	壺	口径:(21.4) 器高:<7.7> 底径:-	口縁～頸部片。頸部から口縁部に向けて外傾して立ちあがる。口唇部は平坦で、単節縄文RLを横位回転。口縁部は2条の隆帯をめぐらせ、各下端に連続する押圧痕。頸部には3条単位の沈線で、2重・3重の同心円文。内外面ともヨコナデ。内面下部はタテナデ。	① 小礫, 長石, 石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面褐灰色, 内面褐色。	北半部 覆土	
2	壺	口径:- 器高:- 底径:-	口縁～頸部片。頸部から口縁部に向けて外傾して立ちあがる。口縁部は1条の隆帯をめぐらせ、下端に連続する押圧痕。頸部には3条単位の沈線で縦線文。口縁部内外面はヨコナデ。	① 長石, 石英粒を含む。 ② 普通。 ③ 内外面灰褐色。	東半部 覆土	内面煤付着。
3	壺	口径:- 器高:- 底径:-	口縁～頸部片。頸部から口縁部に向けて直立して立ちあがる。口唇部は尖り気味で、細かい刻目を付す。口縁部は1条の隆帯をめぐらせ、下位に鋭い刻目。頸部は無文。内面はヨコナデ。	① 微砂粒を含む。 ② 良好。 ③ 褐色。	北半部 覆土	
4	壺	口径:- 器高:- 底径:-	口縁部片。口縁部は複合口縁。口唇部は幅狭い平坦部で、刺突文を加える。口縁部は付加条縄文LR+Lを横位回転。	① 微砂粒を含む。 ② 普通。 ③ 外面黒褐色, 内面暗褐色。	北半部 覆土	
5	壺	口径:- 器高:- 底径:-	頸部片。体部から内湾し、頸部は外反気味に立ちあがる。外面は附加条2種縄文LR+R。内面はヨコナデ。	① 微砂粒, 雲母を含む。 ② 良好。 ③ 外面暗褐色, 内面褐色。	西半部 床面	
6	壺	口径:- 器高:- 底径:-	頸部片。頸部は3条単位の沈線による横線文, 波状文を2段以上。内面はヨコナデ。	① 長石, 石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 暗褐色。	南半部 床面	
7	壺	口径:- 器高:- 底径:-	頸部片。頸部は3条単位の沈線で縦線文, 斜線文。内面はヨコナデ。	① 長石, 石英粒, 雲母, 針状物を含む。 ② 普通。 ③ 橙色。	北半部 床面	
8	壺	口径:- 器高:- 底径:-	頸部片。外面は3条単位の沈線で上向き弧線文を2段。その下は下向き弧線文。内面はヨコナデ。	① 長石, 石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面褐色, 内面赤褐色。	南半部 床面	
9	壺	口径:- 器高:- 底径:-	体部片。外面は付加条縄文LR+Lを横位回転。内面はヨコナデ。	① 微砂粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面暗褐色, 内面黒褐色。	北半部 覆土	
10	壺	口径:- 器高:<5.1> 底径:(6.0)	平底から体部は内湾しつつ立ちあがる。体部下位から底部直上まで単節縄文LRを横位回転。底部外面に木炭痕。内面はヨコナデ。	① 長石, 石英粒を多量に含む。 ② 普通。 ③ 外面暗褐色, 内面褐色。	南半部 床面	外面煤付着。 内面被熱剥落。
11	壺	口径:- 器高:<1.4> 底径:(6.0)	平底から体部は底部直上で直立し外傾する。体部下位は付加条縄文1種のLR+Rを横位回転。底部外面に布目痕。内面はヨコナデ。	① 長石, 石英粒, 雲母を含む。 ② 普通。 ③ 外面褐色, 内面黒褐色。	南半部 覆土	内面煤付着。

第4表 SI01 出土石器観察表

法量欄: () 復元値, () 残存値

No.	器種	法量 (cm)	重量 (g)	特徴	石材	出土位置	備考
12	石器 磨石	長さ:29.3 幅 :11.9 厚さ: 6.3	2,998.3	完形品。上下面, 側面に磨り痕。上面の磨り痕は顕著。	安山岩	炉上面	炉石に転用。 全面被熱。

SI02

位置・重複関係等 A区の北端, A・B-11・12グリッドに位置する。北側の半分以上が調査区外である。西壁の一部と北側床面を攪乱により削られている。

形状と規模 平面形は長楕円形と推測され, 規模は残存値で長軸2.18m, 短軸3.26m, 深さ26cmを測る。主軸方位は, N-10°-Eを示す。

壁 最大壁高は27cmを測り, 比較的急傾斜で掘り込まれている。

床 褐色土を用いて全面にわたり, 厚さ2~4cmの貼床を構築していた。床面は概ね平坦で, 全面が踏み固められていた。

ピット 調査区内では確認されなかった。

炉 調査区内では確認されなかった。

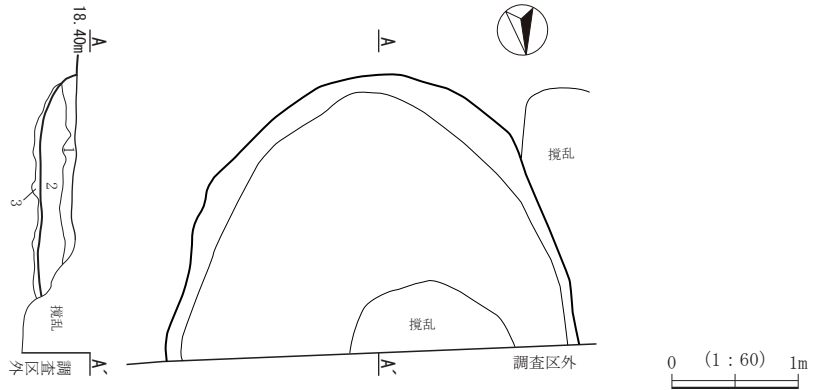
覆土 2層に分けられる。暗褐色土, 黒褐色土が流れ込んだような堆積を示し, 埋没状況は, 自然堆積と考えられる。3層は貼床である。

遺物 弥生土器119点, 石器1点(磨石)が出土した。図示したのは12点である。覆土の中~上層のものが多く。土器(11), 石器(12)は床面からの出土である。

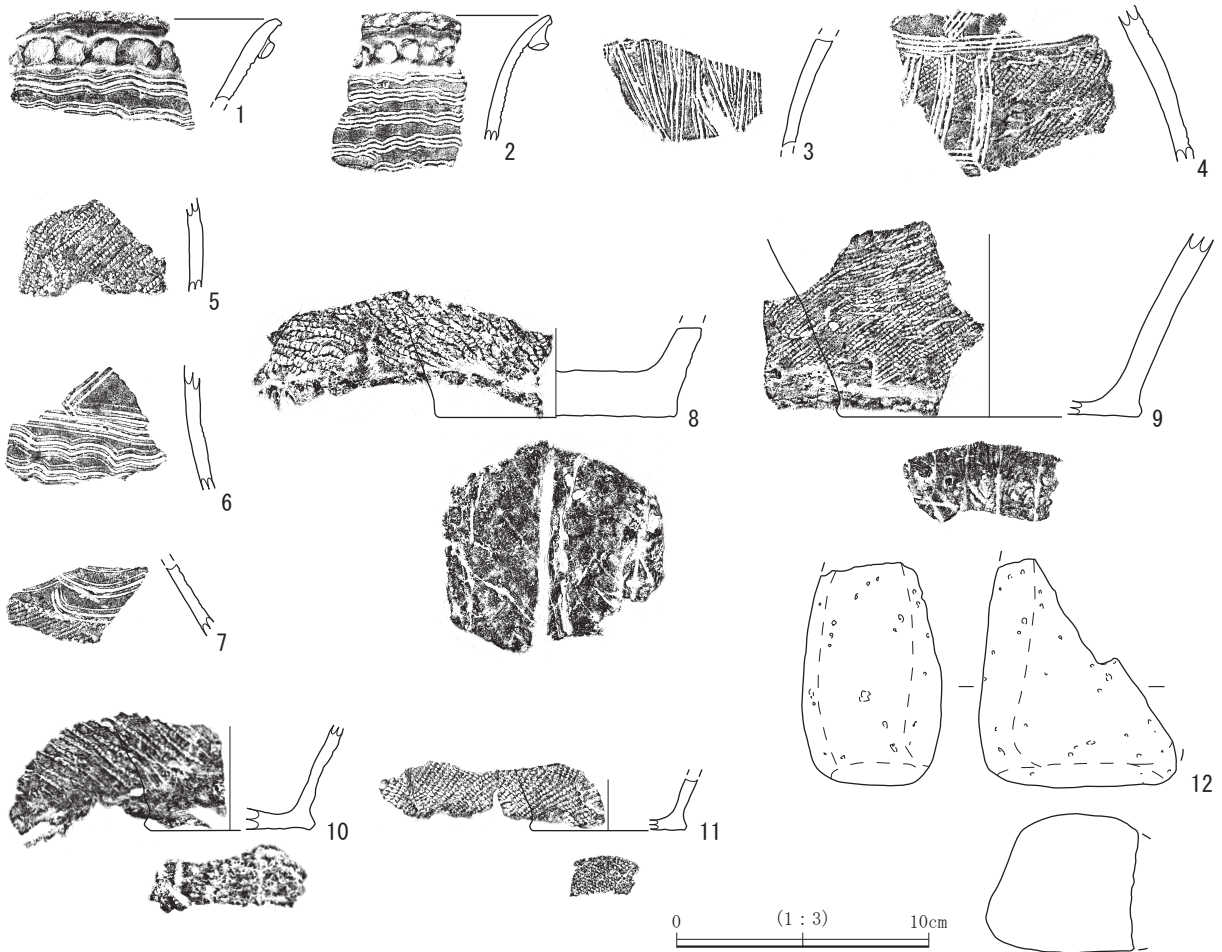
時期 出土遺物からは, 弥生時代後期前半の所産と推定される。

[SI02 土層説明]

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 黒色粒微量, 赤色粒中量, 炭化物中量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 黒色粒・赤色粒中量, 炭化物多量含む。
3. 10YR4/6 褐色土 粘性締り有 ロームブロック多量含む。貼床構築土。



第10図 SI02



第11図 SI02 出土遺物

第5表 SI02 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	法量欄: () 復元値, () 残存値		
				①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
1	壺	口径:(18.5) 器高:- 底径:-	口縁～頸部片。頸部から内湾しつつ口縁部に至る。口唇部は平坦で、付加条縄文LR+Lを横位回転。口縁直下に1条の隆帯をめぐらせ、下端に連続する押圧痕。頸部は4条単位の沈線で波状文2段。内面はヨコナデ。	① 長石, 石英粒, 針状物を含む。 ② 良好。 ③ 外面暗灰褐色, 内面褐色。	東半部 床面	
2	壺	口径:- 器高:- 底径:-	口縁～頸部片。頸部から口縁部に向けて外反して立ちあがる。口縁部は1条の隆帯をめぐらせ、下端に連続する押圧痕。口唇部は平坦で、付加条縄文LR+Lを施す。頸部は3条沈線で波状文を5段。内面はヨコナデ。	① 長石, 石英粒, 針状物を含む。 ② 良好。 ③ 褐色。	西半部 覆土	
3	壺	口径:- 器高:- 底径:-	頸部片。破片上端に横位沈線がめぐり、以下に3条単位の沈線で、V字形を描く。内面はヨコナデ。	① 長石, 石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 暗褐色。	東半部 床面	

No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
4	壺	口径：－ 器高：－ 底径：－	頸部～体部片。体部から頸部にかけて内湾する。頸部は無文地に3本単位の沈線で下端を区画し、斜行文を描く。体部には単節縄文LRの横位回転の地文に3条単位の沈線で縦長の長方形区画文。地文は結節回転文。内面はナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面橙灰褐色、内面褐色。	西半部 覆土	
5	壺	口径：－ 器高：－ 底径：－	体部片。体部は付加条縄文LR+Lを横位回転で施す。内面はヨコナデ。	① 長石、石英粒、雲母、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 暗褐色。	東半部 床面	外面煤付着。
6	壺	口径：－ 器高：－ 底径：－	頸部片。頸部上位に4条単位の沈線で横線文の上に斜行文、下位は沈線文で波状文を2段以上。内面はヨコナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 褐色。	東半部 覆土	
7	壺	口径：－ 器高：－ 底径：－	頸部～体部片。体部から頸部にかけて内湾する。頸部に3条単位の沈線で上向き弧状文を描く。体部は付加条縄文LR+Rを横位回転。内面はヨコナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 暗褐色。	東半部 覆土	内外面煤付着。
8	壺	口径：－ 器高：〈3.5〉 底径：(9.6)	平底から体部は外傾して立ちあがり、底端部は突出する。底部外面に木葉痕。体部下位は付加条縄文RL+Rを横位回転。内面はナデ。	① 長石、石英粒、雲母、針状物を多量を含む。 ② 普通。 ③ 赤褐色。	西半部 覆土	
9	壺	口径：－ 器高：〈7.2〉 底径：(12.0)	平底から体部は外反して立ちあがる。底端部は突出する。底部外面に木葉痕。体部下位は付加条縄文LR+L。内面はヨコナデ。	① 長石、石英粒、雲母、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 外面黄褐色、内面橙色。	西半部 床面	
10	壺	口径：－ 器高：〈4.1〉 底径：(6.8)	平底から体部は外傾して立ちあがる。底端部は突出する。底部外面に木葉痕。体部下位は無節縄文Rを横位回転。内面はヨコナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 暗褐色。	東半部 床面	内外面煤付着。
11	壺	口径：－ 器高：〈2.0〉 底径：(6.2)	平底から体部は外傾して立ちあがる。底端部は突出する。底部外面は布目痕。体部下位は単節縄文LRを横位回転。内面はヨコナデ。	① 微砂粒、針状物を含む。 ② 普通。 ③ 外面赤褐色、内面灰褐色。	東半部 床面	外面被熱痕。

第6表 S102 出土石器観察表

法量欄：()復元値、〈 〉残存値

No.	器種	法量 (cm)	重量 (g)	特徴	石材	出土位置	備考
12	石器 磨石	長さ：〈9.1〉 幅：〈7.7〉 厚さ：5.6	〈360.1〉	欠損。破断面は磨滅している。上下面および側面(2面)に磨り痕を残す。	安山岩	西半部 床面	

S105

位置・重複関係等 A区の北西部、B・C-8・9グリッドに位置する。中央部S104に。

形状と規模 平面形は隅丸長方形を呈し、長軸4.75m、短軸3.52m、深さ30～35cmを測る。主軸方位は、N-54°-Wを示す。

壁 最大壁高は32cmを測り、ほぼ垂直に掘り込まれている。

床 地山のⅢ層上面を床としていた。床面は概ね平坦で、全面が踏み固められていた。

ピット 中央付近より6基が確認された(P1～6)。このうち、P2～5は重複するS104の掘り方中から検出されたが、位置及び覆土の様相から本跡に伴うと判断した。規模・形状と位置から、P1・2・3・6が主柱穴と考えられる。規模はP1は残存値で30×18cm、深さ48cm、P2が30×24cm、深さ24cm、P3は30×27cm、深さ36cm、P6は33×24cm、深さ30cmを測る。またこれ以外のP4・5は小型である。規模はP4が21×15cm、深さ14cm、P5は直径15×12cm、深さ36cmを測る。

土坑 東壁に接して2基の土坑が検出された(SK1・2)。切り合いはSK1がSK2を切り込んでい。建物廃絶時点でSK1は開口していたと考えられる。SK1は平面形は半円形で、北壁に接する。規模は長軸83cm、短軸40cm、深さ10cmを測る。SK2は平面形は半円形で、北壁に接する。規模は残存値で長軸80cm、短軸50cm、深さ15cmを測る。

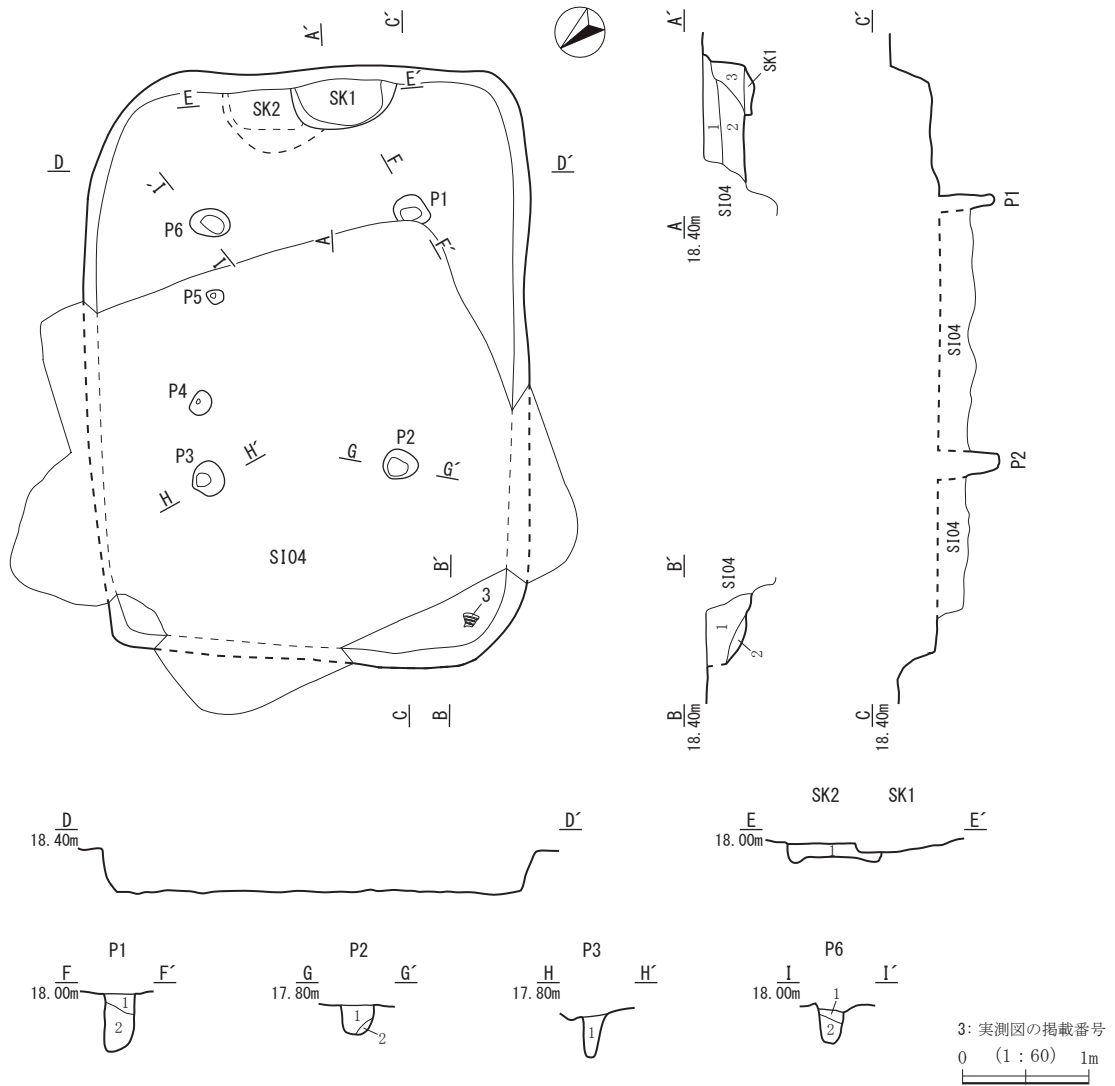
炉 S104の構築時に削平されたと推測される。

覆土 3層に分けられる。黒褐色土が流れ込んだような堆積を示し、埋没状況は、概ね自然堆積と考えられる。

遺物 弥生土器50点、土製品1点(紡錘車)が出土した。また、弥生土器は重複するS104の覆土中

からも95点が出土しているが、これは本跡からの混入であると判断して、掲載遺物の対象とした。図示したのは弥生土器14点、土製品1点である。3は西隅床面での出土で、頸部に4本同時施文具により背合わせ型の重層連弧文が施文されている。14は土製紡錘車で、側面には刻みが入られている。

時期 出土遺物からは、弥生時代後期前半の所産と推定される。



[S105 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒中量, 黒色粒・赤色粒微量含む。
2. 10YR1/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・焼土粒少量含む。
3. 10YR1/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック・赤色粒少量含む。

[SK1 土層説明]

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック少量, 赤色粒微量含む。

[SK2 土層説明]

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ロームブロック多量, 赤色粒微量含む。

[P1 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒少量, ロームブロック中量含む。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有 締り有 ローム粒多量, ロームブロック少量, 黒色粒微量含む。

[P2 土層説明]

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有 締りやや有 ローム粒多量, 黒色粒微量含む。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性締り有 ローム粒多量含む。

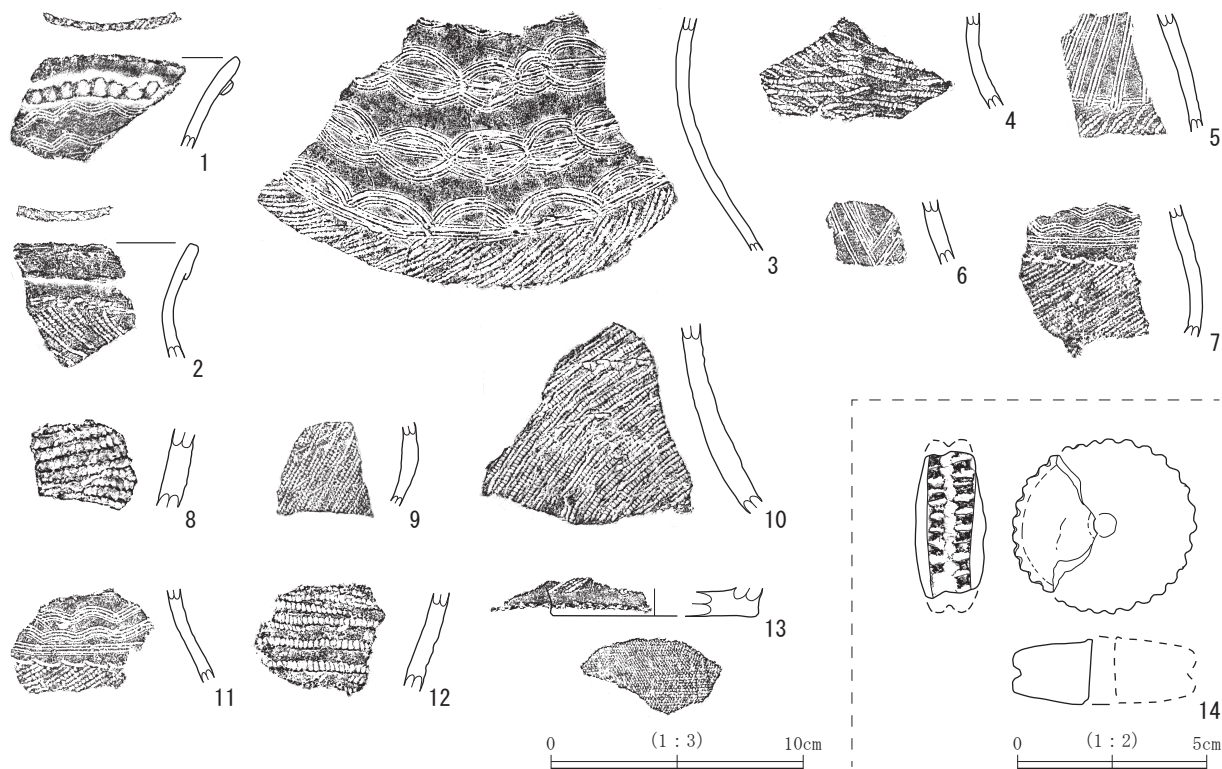
[P3 土層説明]

1. 10YR4/4 褐色土 粘性締り有 ローム粒多量含む。

[P6 土層説明]

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有 締り有 ロームブロック中量, 黒色粒微量含む。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性締り有 ロームブロック多量, 黒色粒微量含む。

第12図 S105



第13図 SI05 出土遺物

第7表 SI05 出土土器観察表

法量欄：() 復元値、() 残存値

№	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
1	壺	口径：- 器高：- 底径：-	口縁～頸部片。頸部から口縁部に向けて外傾して立ちあがる。口唇部は単節縄文LRを横位回転。口縁部無文帯下に1条の隆帯をめぐらせる。隆帯上には連続する押圧痕。頸部に4条単位の沈線で波状文を2段、下位に横線文。内面はヨコナデ。	① 長石，石英粒を含む。 ② 普通。 ③ 暗褐色。	北東部 覆土	
2	壺	口径：- 器高：- 底径：-	口縁～頸部片。頸部から口縁部に向けて外反して立ちあがる。口縁部は複合口縁で無文帯，口唇部は単節縄文RLを横位回転。頸部は付加条縄文RL+R。内面はヨコナデ。	① 長石，石英粒を含む。 ② 普通。 ③ 暗褐色。	SI04 覆土	外面煤付着。
3	壺	口径：- 器高：- 底径：-	頸部～体部片。体部は内湾し，頸部は直立気味に立ちあがる。頸部に4条単位の沈線で横線文と上下に対向する連弧文を描く。体部との区画文には上向き弧線文のみ描く(弧線文は左から右へ施す)。体部は単節縄文LR。内面はナデ，ヘラナデ。	① 長石，石英粒，針状物を含む。 ② 良好。 ③ 外面褐色～暗褐色，内面褐色。	東端部 床面	内外面下位煤付着。
4	壺	口径：- 器高：- 底径：-	頸部～体部片。体部から内湾して頸部は直立して立ちあがる。外面は付加条縄文RL+Rを横位，斜位回転。内面はナデ。	① 長石，石英粒，針状物を含む。 ② 良好。 ③ 外面暗褐色，内面褐色。	SI04 覆土	
5	壺	口径：- 器高：- 底径：-	頸部～体部片。体部から内傾して頸部に至る。体部と頸部は3条本単位の沈線の横線文で区画し，その後上に斜行文。体部は付加条縄文LR+L。内面はナデ。	① 長石，石英粒，針状物を含む。 ② 良好。 ③ 赤褐色，暗褐色。	北東部 覆土	
6	壺	口径：- 器高：- 底径：-	頸部片。頸部は直立気味となる。外面に3条単位の沈線でV字形を描く。内面はヨコナデ。	① 長石，石英粒を含む。 ② 普通。 ③ 暗褐色。	北東部 覆土	
7	壺	口径：- 器高：- 底径：-	頸部～体部片。体部から頸部へ内湾して立ちあがる。頸部と体部は4条単位の沈線の横線文で区画し，頸部は波状文を2段。体部は結節回転文を伴う付加条縄文LR+L。内面はヨコナデ。	① 長石，石英粒を含む。 ② 普通。 ③ 暗褐色。	北東部 覆土	外面煤付着。 内面被熱剥落。
8	壺	口径：- 器高：- 底径：-	体部片。外面は単節縄文LRを横位，斜位回転。内面は丁寧なヨコナデ。	① 長石，石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面暗褐色，内面褐色。	北東部 覆土	
9	壺	口径：- 器高：- 底径：-	体部片。体部は内湾して立ちあがる。体部は付加条縄文LR+Lを横位回転。内面はヨコナデ。	① 長石，石英粒を含む。 ② 普通。 ③ 外面褐色，暗褐色，内面橙褐色。	SI04 覆土	
10	壺	口径：- 器高：- 底径：-	頸部～体部片。体部から頸部にかけて外反して立ちあがる。外面は付加条縄文LR+Lを横位回転。内面はヨコナデ。	① 長石，石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 黄褐色。	SI04 覆土	
11	壺	口径：- 器高：- 底径：-	頸部～体部片。体部から頸部にかけて外反して立ちあがる。頸部と体部は4条単位の沈線の横線文で区画し，頸部は沈状文と横線文。体部は結節回転文を伴う単節縄文LRを横位回転。内面はナデ。	① 長石，石英粒を含む。 ② 普通。 ③ 外面褐色，内面灰褐色。	SI04 覆土	内面被熱剥落。

No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
12	壺	口径：－ 器高：－ 底径：－	体部片。体部は外傾して立ちあがる。外面は付加条縄文RL+R。内面はナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 普通。 ③ 赤褐色。	SI04 覆土	内面煤付着。
13	壺	口径：－ 器高：<1.3> 底径：(8.4)	平底から体部は直立気味に立ちあがる。体部下位は付加条縄文LR+Lを横位回転。底部外面に布目痕。内面はナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 普通。 ③ 褐色。	SI04 覆土	

第8表 SI05 出土土製品観察表

法量欄：()復元値、()残存値

No.	器種	法量 (cm)	重量 (g)	特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
14	土製品 紡錘車	直径：(4.8) 孔径：(0.6) 厚さ：0.9	<11.8>	中央穿孔、上下面ナデ。側面には1条の沈線をめぐらし、上下端に刻目を付す。	① 長石、石英粒含む。 ② 普通。 ③ 褐色。	南西角 床面	

SI09

位置・重複関係等 A区の西壁際、E-7グリッドに位置する。西側の大部分が調査区外である。

形状と規模 平面形は長楕円形あるいは隅丸長方形を呈し、残存値で長軸3.2m、短軸0.97m、深さ20～28cmを測る。主軸方位は、N-2°-Eを示す。

壁 最大壁高は30cmを測り、ほぼ垂直に掘り込まれている。

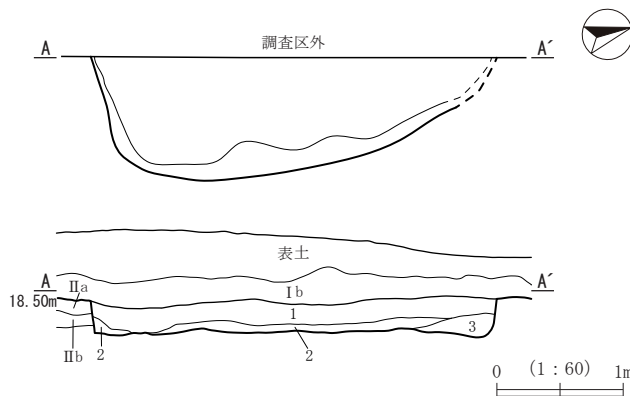
床 Ⅲ層上面と、古い倒木痕を床としていた。床面はやや起伏を持ち、締りはやや弱い。

炉 調査区内では確認されなかった。

覆土 3層に分けられる。黒褐色土及び黒色土が流れ込んだような堆積を示し、自然堆積と考えられる。

遺物 覆土中から弥生土器2点が出土した。図化したのは1点のみである。

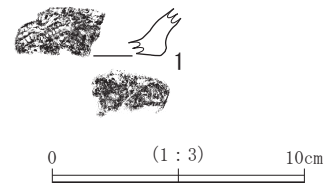
時期 出土遺物は少ないものの、弥生時代後期前半と推定される。 (小野・鈴木)



[SI09 土層説明]

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック少量、赤色粒微量含む。
- 10YR2/1 黒色土 粘性締り有 ローム粒中量、ロームブロック少量、焼土粒微量含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック多量含む。

第14図 SI09



第15図 SI09 出土遺物

第9表 SI09 出土土器観察表

法量欄：()復元値、()残存値

No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
1	壺	口径：－ 器高：－ 底径：－	平底から体部は外反して立ちあがる。体部下位は付加条縄文LR+L。底部外面に木炭痕。	① 長石、石英粒を含む。 ② 普通。 ③ 橙色。	覆土	

第4節 奈良・平安時代

1 竪穴建物跡

S103

位置・重複関係等 A区北西部，C-8・9グリッドに位置する。

形状と規模 平面形は正方形を呈し，規模は南北3.02m，東西3.39m，深さ24～36cmを測る。主軸方位は，N-21°-Eを示す。

壁 最大壁高は25cmを測り，比較的急傾斜で掘り込まれている。

壁溝 北西角付近から南東角までの壁沿いに確認された。幅13～20cm，深さ5～8cmを測る。

床 褐色土を用いて全面にわたり，厚さ2～12cmで貼床を構築していた。やや起伏を持つものの，概ね平坦である。西壁沿いを除き，全面にわたって踏み固められ，硬化していた。

ピット 南壁際で2基確認された(P1・2)。P1は18×21cm，深さ18cm，P2は直径24cm，深さ20cmを測る。位置からすると出入り口に伴うものと推定される。

床下土坑 貼床の下から土坑が3基確認された(SK1～3)。SK1はカマド焚口前方に位置するが，上面が硬化しており，覆土中に焼土を含まないことから，カマドに先行すると判断した。平面形は半円形で，規模は残存値で長軸96cm，短軸60cm，深さ12cmを測る。SK2・3は掘り方の掘削中に検出された。SK2は西壁際に位置し，平面形は不整楕円形を呈し，長軸114cm，短軸96cm，深さ18cmを測る。SK3は東壁寄りに位置する。平面形は楕円形を呈し，長軸99cm，短軸69cm，深さ30cmを測る。いずれもロームブロックを含む埋め戻したような覆土である。

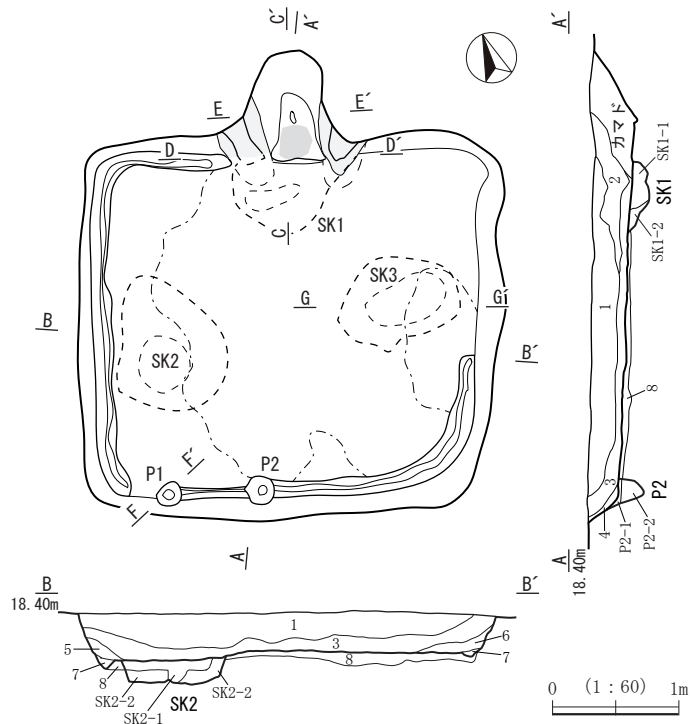
カマド 北壁の中央に構築されていた。規模は残存値で長108cm，幅118cm，両袖部の内法42cmを測る。袖部は灰黄褐色砂質粘土と暗褐色土の混合土を用いて構築されており，竪穴建物跡の覆土と似ていたために確認・検出が困難であった。天井部は崩落しており，2層がそれに該当すると考えられる。燃烧部から煙道部には，広い範囲に焼土が堆積しており，火床面は赤化している。火床面奥に支脚の最下部(凝灰岩製切石)のみが残されていた。

覆土 7層に分けられる。黒褐色土，暗褐色土が流れ込んだような堆積を示し，自然堆積と考えられる。8層は貼床である。

遺物出土状況 カマドの正面から北東隅にかけては，床面に坏や甕の破片が散在していた。

遺物 覆土から土師器278点(坏類，高台付坏・高台付皿・小型甕・甕)，須恵器87点(坏・坏蓋・甕)，石製品1点(支脚)，金属製品1点(器種不明)，掘り方から土師器14点(甕)，須恵器2点(甕)が出土した。図化したのは覆土から出土した14点である。1～6の須恵器坏はいずれも類似する器形で，底部は回転ヘラ切りのもので主である。7・10は内黒処理の高台付坏と皿である。11・12は常総型甕である。須恵器坏には体部外面に墨書のあるものが4点みられる。1・7の体部には漢数字の「六」のような文字があり，4・5の体部には縦書き3文字?が書かれるが，同じ文字のように思われる。1・7も同じ文字であるとすれば，2個体ずつ認められるということになる。

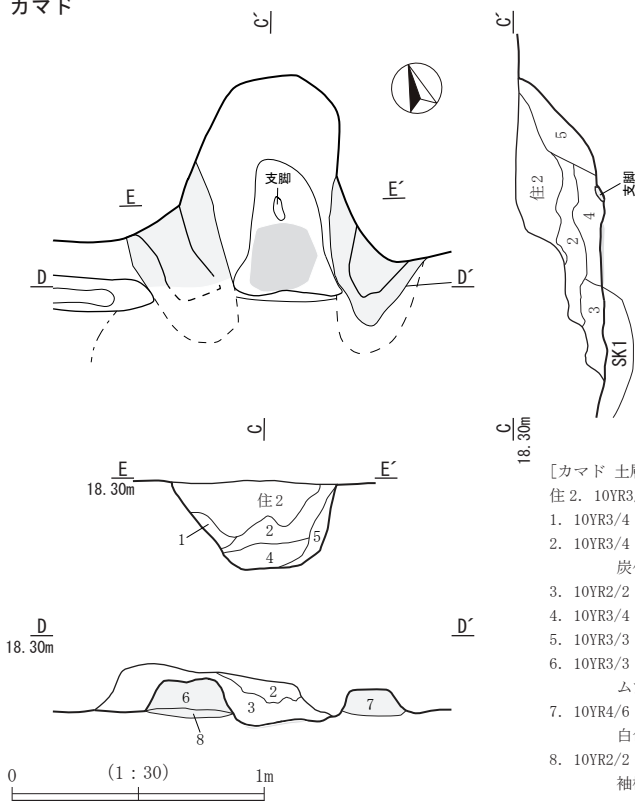
時期 出土遺物からは，9世紀中葉と推測される。



[SI03 土層説明]

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 黒色粒少量, 赤色粒微量, 炭化物少量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ロームブロック中量, 黒色粒・赤色粒少量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ロームブロック中量, 黒色粒・赤色粒少量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ロームブロック少量含む。
5. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ロームブロック中量, 黒色粒少量含む。
6. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ロームブロック中量, 黒色粒・赤色粒少量含む。
7. 10YR3/4 暗褐色土 粘性締り有 黒色粒少量含む。壁溝覆土。
8. 10YR4/6 褐色土 粘性締り有 ロームブロック多量含む。貼床構築土。

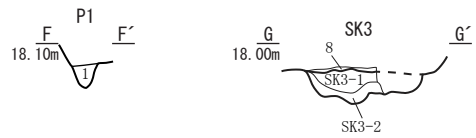
カマド



[カマド 土層説明]

- 住2. 10YR3/3 暗褐色土 SI03-2層と同。
1. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有 締り有 ロームブロック多量, 焼土少量含む。
 2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有 締り有 灰黄褐色砂質粘土中量, ローム粒・焼土少量, 炭化物微量含む。
 3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締りやや有 焼土少量含む。
 4. 10YR3/4 暗褐色土 粘性有 締りなし 土器集中。
 5. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有 締り有 焼土粒中量含む。
 6. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有 締りやや有 灰黄褐色砂質粘土多量, ローム粒中量, ロームブロック少量, 焼土・白色粒少量含む。袖構築土。
 7. 10YR4/6 褐色土 粘性有 締りやや有 灰黄褐色砂質粘土・ローム粒多量, 炭化物微量, 白色粒中量含む。袖構築土。
 8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締りやや有 ローム粒・ロームブロック中量, 白色粒少量含む。袖構築土。

第16図 SI03



[SK1 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック少量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック中量含む。

[SK2 土層説明]

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有 締りやや有 ローム粒・ロームブロック中量, 黒色粒微量含む。
2. 10YR4/6 褐色土 粘性有 締りやや有 ロームブロック多量, 赤色粒少量含む。

[SK3 土層説明]

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック中量含む。
2. 10YR4/6 褐色土 粘性有 締りやや有 ローム土・ロームブロック主体層。

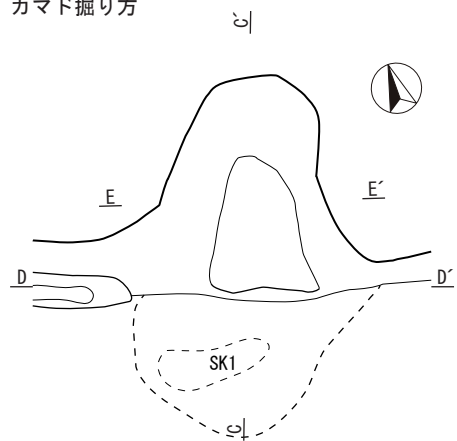
[P1 土層説明]

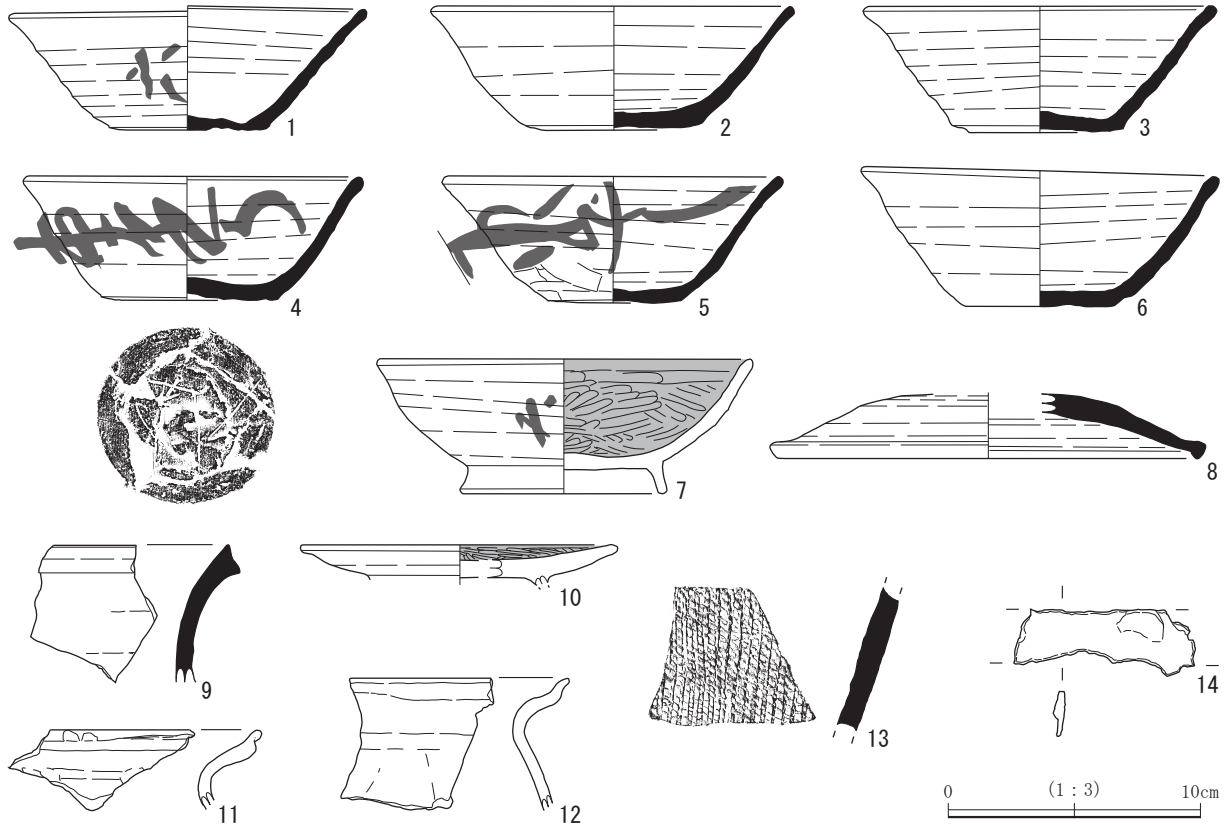
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック・赤色粒・炭化物少量含む。

[P2 土層説明]

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック少量含む。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒中量含む。

カマド掘り方





第17図 S103 出土遺物

第10表 S103 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調		出土位置	備考
				法量 (cm)	器形・技法の特徴		
1	須恵器 坏	口径:14.2 器高:5.9 底径:6.4	平底から体部は直線的に外傾して立ちあがり、口縁部は外反する。外面は稜が強く残る。内面はヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切りの後、回転ヘラケズリ。	① 小礫、長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。酸化炎焼成。 ③ 灰黄褐色。	北東部 床面	体部外面:墨書 〔六か〕(横向き)	
2	須恵器 坏	口径:(14.9) 器高:4.9 底径:7.1	平底から体部は内湾気味に立ちあがり、口縁部は外反する。内面はヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切りの後、回転ヘラケズリ。	① 小礫、長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	北東部 床面		
3	須恵器 坏	口径:14.0 器高:5.0 底径:6.8	平底から体部は外傾して立ちあがり、口縁部は外反する。外面に稜をもつ。内面はヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切り、粘土にひび割れ入る。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 暗灰色。	南東部 覆土		
4	須恵器 坏	口径:13.5 器高:4.9 底径:7.0	平底から体部は内湾気味に立ちあがり、口縁部は外反する。内面はヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切りの後、回転ヘラケズリ、中央部は少し凹み、焼成前の線刻〔不明〕あり。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 明灰色。	南西部 床面	体部外面:墨書 〔不明〕(縦書で3 文字か)	
5	須恵器 坏	口径:13.5 器高:5.0 底径:5.2	平底から体部は内湾して立ちあがり、口縁部は外反する。内面は丁寧なヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切りの後、ヘラケズリ、体部下位手持ちヘラケズリ。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	北東部 覆土	外面煤付着。 体部外面:墨書 〔不明〕(縦書)	
6	須恵器 坏	口径:14.2 器高:5.5 底径:6.2	平底から体部は内湾気味に立ちあがり、口縁部は外反する。内面はヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切りの後、回転ナデ。	① 小礫、長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 暗灰色。	北東部 覆土	外面煤付着。	
7	土師器 高台付埴	口径:14.8 器高:5.3 底径:8.2	平底から体部は内湾して立ちあがり、口縁部に至る。高台はやや外傾して貼付。体部下半は回転ヘラケズリ。上半はヨコナデ。高台部内外は回転ナデ、高台内は回転ヘラケズリ。埴部内面は丁寧なミガキ、黒色処理。	① 長石、石英粒を少量含む。 ② 良好。 ③ 外面黄褐色、内面黒褐色。	南東部 覆土	体部外面:墨書 〔六か〕(横向き)	
8	須恵器 坏蓋	口径:(17.3) 器高:<2.6>	天井部は平坦になり、端部に向って外傾する。端部は短く立ちあがる。天井部は回転ヘラケズリ。内外面はヨコナデ。端部内外面は重ね焼き痕で、変色。	① 小礫、長石、石英粒含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	南東部 覆土		
9	須恵器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	体部から口縁部は外反して立ちあがり、口唇部は外削ぎ状。内外面はヨコナデ。外面自然袖降灰。	① 長石、石英粒含む。 ② 良好。 ③ 外面黄灰色、内面暗灰色。	南東部 覆土		
10	土師器 高台付皿	口径:(12.5) 器高:<1.6> 底径:(7.0)	平底から体部は直線的に外傾して開き、口縁部に至る。高台は外傾して貼付(欠損)。皿部外面はヨコナデ。高台部内外は回転ナデ、内面は丁寧なミガキ、黒色処理。	① 長石、石英の微粒含む。 ② 良好。 ③ 外面橙褐色、内面黒褐色。	北西部 床面		
11	土師器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	頸部はくびれ、口縁部はくの字状に立ちあがり、口唇部は摘みあげ。内外面はヨコナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 褐灰色。	北西部 覆土		

12	土師器 甕	口径：－ 器高：－ 底径：－	頸部はくびれ、口縁部はくの字状に立ちあがり、口唇部は摘みあげ。外面口縁部・頸部はヨコナデ、体部はナデ。内面はナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面橙褐色、内面褐色。	カマド 覆土	
13	須恵器 甕	口径：－ 器高：－ 底径：－	体部片。外面は縦位の平行タタキ目。内面は剥落のため調整は不明。	① 長石、石英粒、雲母を含む。 ② 良好。 ③ 暗灰色。	覆土	北西部被熱。

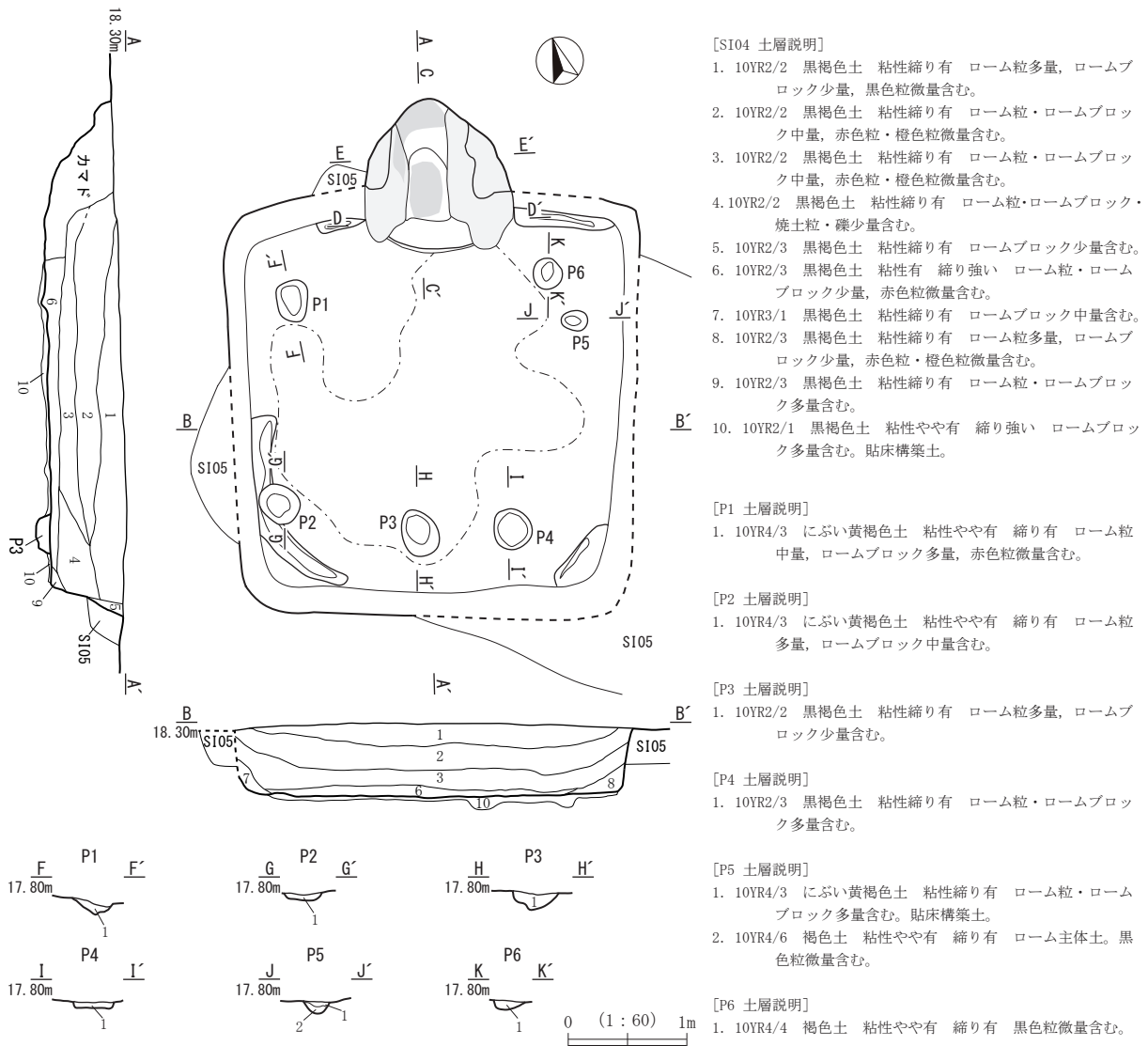
第11表 SI03 出土金属製品観察表

No.	器種	法量 (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置	備考
14	鉄製品 不明	長さ：<7.1> 幅：<2.6> 厚さ：<0.4>	9.7	平らな鉄製品。刃部を持つか。	北東部 床面	

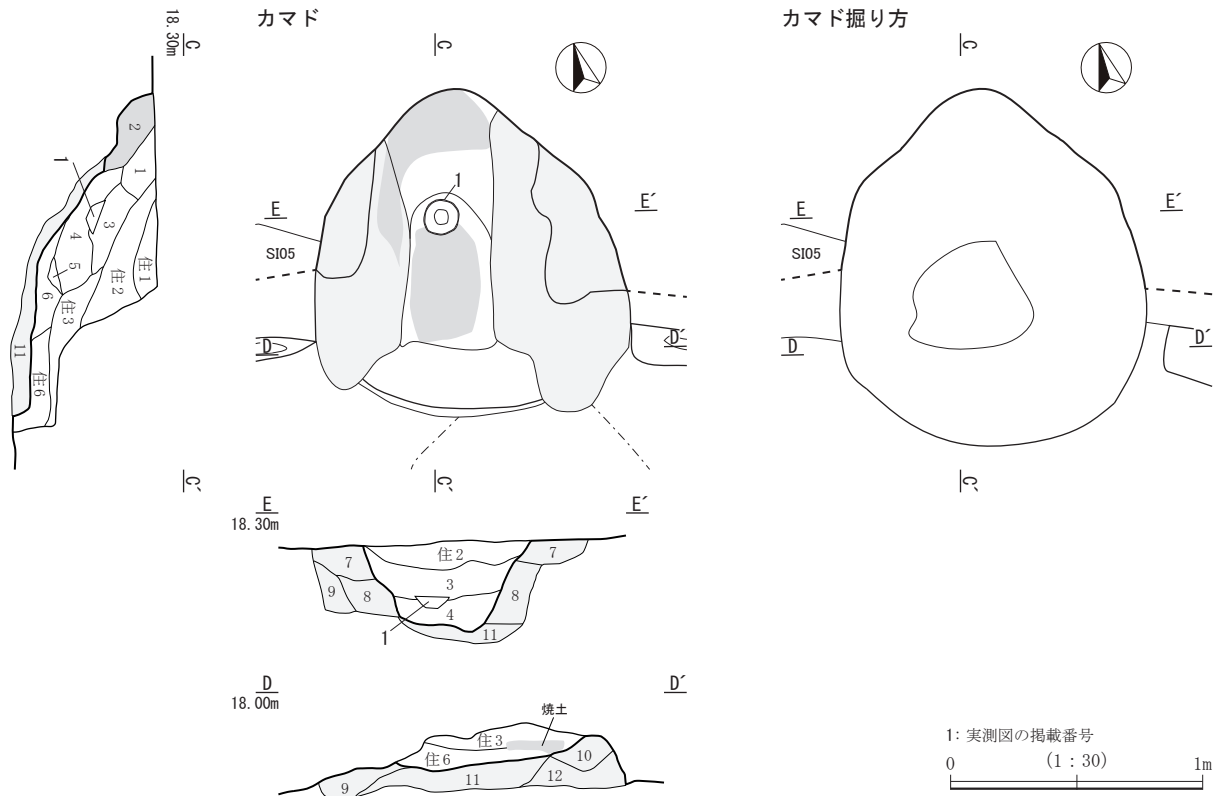
SI04

位置・重複関係等 A区の北西部、B・C-8・9グリッドに位置する。SI05の中央部を切り込んでおり、本遺構の床面はSI04の床面を突き抜けて、IV層に達していた。

形状と規模 平面形は正方形を呈し、規模は残存値で南北3.60m、東西3.52m、深さ57～62cmを測る。主軸方位は、N-13°-Eを示す。



第18図 SI04 (1)



[カマド 土層説明]

- | | |
|--|--|
| <p>住1. 10YR2/2 黒褐色土 SI04-1層と同。
 住2. 10YR2/2 黒褐色土 SI04-2層と同。
 住3. 10YR2/2 黒褐色土 SI04-3層と同。
 住6. 10YR2/3 黒褐色土 SI04-6層と同。</p> <p>1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性締りやや有 ローム粒・焼土中量、礫少量含む。崩落天井部。
 2. 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性なし 締りやや有 焼土多量、炭化物少量含む。煙道の被熱面。
 3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ロームブロック・焼土少量含む。
 4. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締りやや有 焼土・焼土塊・被熱ロームブロック多量、炭化物微量含む。天井崩落部。
 5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締りやや有 焼土粒・焼土塊少量含む。
 6. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有 締り有 ローム粒多量、焼土・炭化物少量含む。</p> | <p>7. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性なし 締り強い 径10～30mmの小礫中量、赤色粒微量含む。袖構築土。
 8. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締りやや有 にぶい黄褐色砂質粘土中量、径10mmの小礫少量、焼土粒中量、炭化物微量含む。袖構築土。
 9. 10YR3/2 黒褐色土 粘性締り有 にぶい黄褐色砂質粘土・ロームブロック少量、焼土粒微量含む。袖構築土。
 10. 10YR3/4 暗褐色土 粘性なし 締り有 黒色粒少量、焼土粒微量含む。袖構築土。
 11. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有 締り強い ローム粒・ロームブロック多量、焼土中量含む。カマド底面の構築土。
 12. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性なし 締り有 ローム粒少量、黒色粒・焼土粒微量含む。袖構築土。</p> |
|--|--|

第19図 SI04(2)

壁 最大壁高は62cmを測り、ほぼ垂直に掘り込まれている。

壁溝 北壁のカマドの両脇と南西・南東の角付近に断片的に確認された。幅10～24cm、深さ4～7cmを測る。

床 黒褐色土を用いてほぼ全面にわたり、厚さ2～10cmの貼床を構築していた。床面は概ね平坦である。中央部から西側にかけて踏み固められ、硬化していた。

ピット 建物跡の四隅近くと南側中央の壁沿いに6基確認された(P1～6)。規模はP1は39×27cm、深さ12cm、P2は直径36cm、深さ9cm、P3は48×36cm、深さ12cm、P4は36×30cm、深さ6cm、P5は21×18cm、深さ12cm、P6は27×24cm、深さ9cmを測り、いずれも浅い。P3は位置からみれば出入口に伴う可能性がある。

カマド 北壁の中央に構築されていた。全長133cm、幅124cm、両袖部の内法34cmを測る。袖はにぶい黄褐色砂質粘土と暗褐色土の混合土を用いて構築されていた。天井部は崩落しており、1・4層が該当すると考えられる。この層の上に、完形品の須恵器坯(1)が正位で出土した。燃烧部から煙道部には、広い範囲にわたって焼土が堆積しており、火床面は赤化している。煙道部の奥壁は特に被

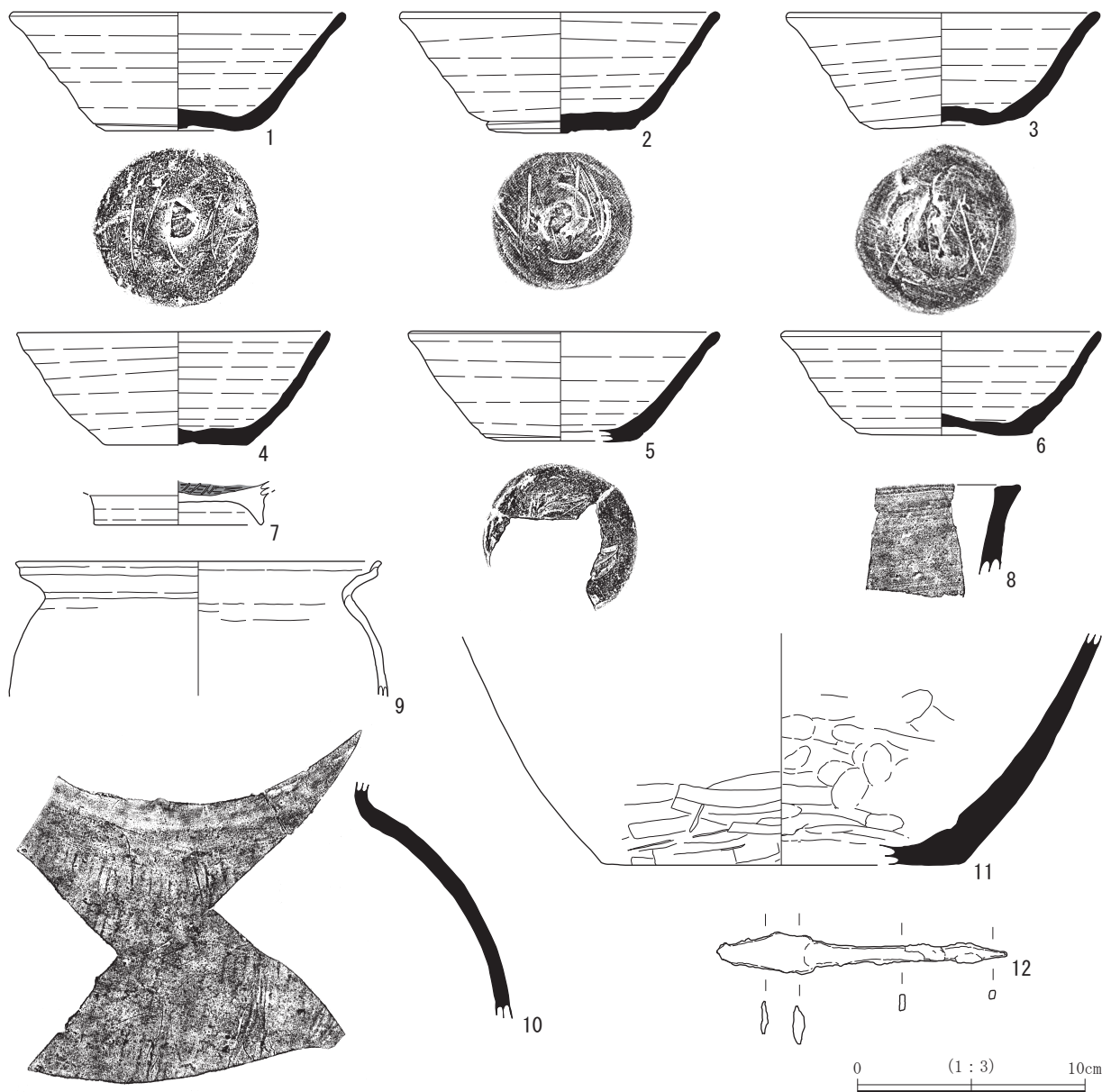
熱が強く、厚い焼土の堆積がみられた(2層)。カマドの構築順序は、地山Ⅲ層の掘り方へ暗褐色土(11層)を入れて底面を形成し、その上を火床面としていた。つまり、建物の床面より8cm高い位置で火を焚いていたと推測される。

覆土 9層に分けられる。黒褐色土が流れ込んだような堆積を示し(1~4層)、自然堆積と考えられる。10層は貼床である。

遺物出土状況 覆土中の出土が主で、特に北半部に多くみられた。

遺物 土師器91点(坏・高台付坏)、須恵器85点(坏・盤・甑・甕)、金属製品1点(刀子か)が出土した。図化したのは12点である。1~6は須恵器坏で底部回転ヘラ切りで外周回転ヘラケズリを施す類似する器形・胎土の製品である(胎土に白色針状物質を含む)。1~3はいずれも底部に焼成前の刻書が施される。この刻書は連続する山型文であり、同一窯の同時期生産の可能性もある。

時期 出土遺物の中から9世紀中葉と推測される。



第20図 SI04 出土遺物

第12表 S104 出土土器観察表

法量欄：() 復元値、() 残存値

No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
1	須恵器 坏	口径:14.8 器高:5.2 底径:7.0	平底から口縁部は直線的に外傾して立ちあがる。内面はヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切りの後、外周回転ヘラケズリ、焼成前の線刻〔連続山型文〕あり。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。酸化炎焼成。 ③ 黄灰色。	カマド 覆土	口縁部煤付着。
2	須恵器 坏	口径:14.1 器高:5.3 底径:6.7	平底から口縁部は外傾して立ちあがる。内面はヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切りの後、外周回転ヘラケズリ、焼成前の線刻〔連続山型文〕あり。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 明灰色。	北西部 覆土	
3	須恵器 坏	口径:13.8 器高:5.1 底径:7.3	平底から体部は直線的に外傾して立ちあがり、口縁部は外反する。内面はヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切りの後、外周回転ヘラケズリ、焼成前の線刻〔連続山型文〕あり。口縁部内外重ね焼きで変色。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	南東部 覆土	
4	須恵器 坏	口径:13.7 器高:5.0 底径:6.4	平底から体部は内湾しつつ外傾して立ちあがる。内面はヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切りの後、回転ヘラケズリ。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	南西部 覆土	
5	須恵器 坏	口径:13.6 器高:4.8 底径:6.7	平底から体部は直線的に外傾して立ちあがり、口縁部は外反する。内面はヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切りの後、外周回転ヘラケズリ。底部焼成前の線刻〔不明〕あり。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 灰黄褐色。	北西部 覆土	
6	須恵器 坏	口径:(14.1) 器高:4.5 底径:7.8	平底から口縁部は内湾して立ちあがり、口縁部は外反する。内面ヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切りの後、外周回転ヘラケズリ。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 灰黄褐色。	北東部 覆土	
7	土師器 高台付埴	口径: - 器高:<1.9> 底径:(7.4)	底部から体部は外傾して立ちあがる。高台部は直立して貼付、端部は尖り気味。高台部内面は回転ナデ、高台内中央は回転ヘラケズリ。埴部内面は丁寧なミガキ、黒色処理。	① 長石、石英粒、雲母を含む。 ② 良好。 ③ 外面褐色、内面黒色。	北東部 覆土	
8	須恵器 甗	口径: - 器高: - 底径: -	体部から口縁部は外反気味に立ちあがり、口唇部は平坦。内外面はヨコナデ。	① 小礫、長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	覆土	
9	土師器 甗	口径:(16.0) 器高:<5.8> 底径: -	頸部はくびれ、口縁部はくの字状に立ちあがる。口唇部は摘みあげられる。外面の口縁部と頸部はヨコナデ、体部はナデ。内面はナデ。	① 長石、石英粒、雲母を含む。 ② 良好。 ③ 褐色を呈する。	北西部 覆土	
10	須恵器 甗	口径: - 器高: - 底径: -	口縁部欠損。体部は内傾して立ちあがり、頸部でくびれる。体部内面は円形あて具痕。外面縦位の平行タタキ目。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 暗灰褐色。	覆土	
11	須恵器 甗	口径: - 器高:<10.1> 底径:(16.0)	平底から体部は外傾して立ちあがる。体部下位は丁寧なナデを施し、体部外面の底部際は横位のヘラケズリ。内面はナデ。	① 小礫、長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面暗赤褐色、内面灰褐色。	カマド内	

第13表 S104 出土金属製品観察表

法量欄：() 復元値、() 残存値

No.	器種	法量 (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置	備考
12	鉄製品 刀子か	長さ:12.8 幅: 1.7 厚さ: 0.5	11.1	完形品。基部は尖り、体部は断面長方形を呈し、尖端の刃部は折れ曲がる。刃部は両側が薄くなり、両刃と考えられる。	南東部 覆土	

S106

位置・重複関係等 A区の中央西側，E-7・8グリッドに位置する。

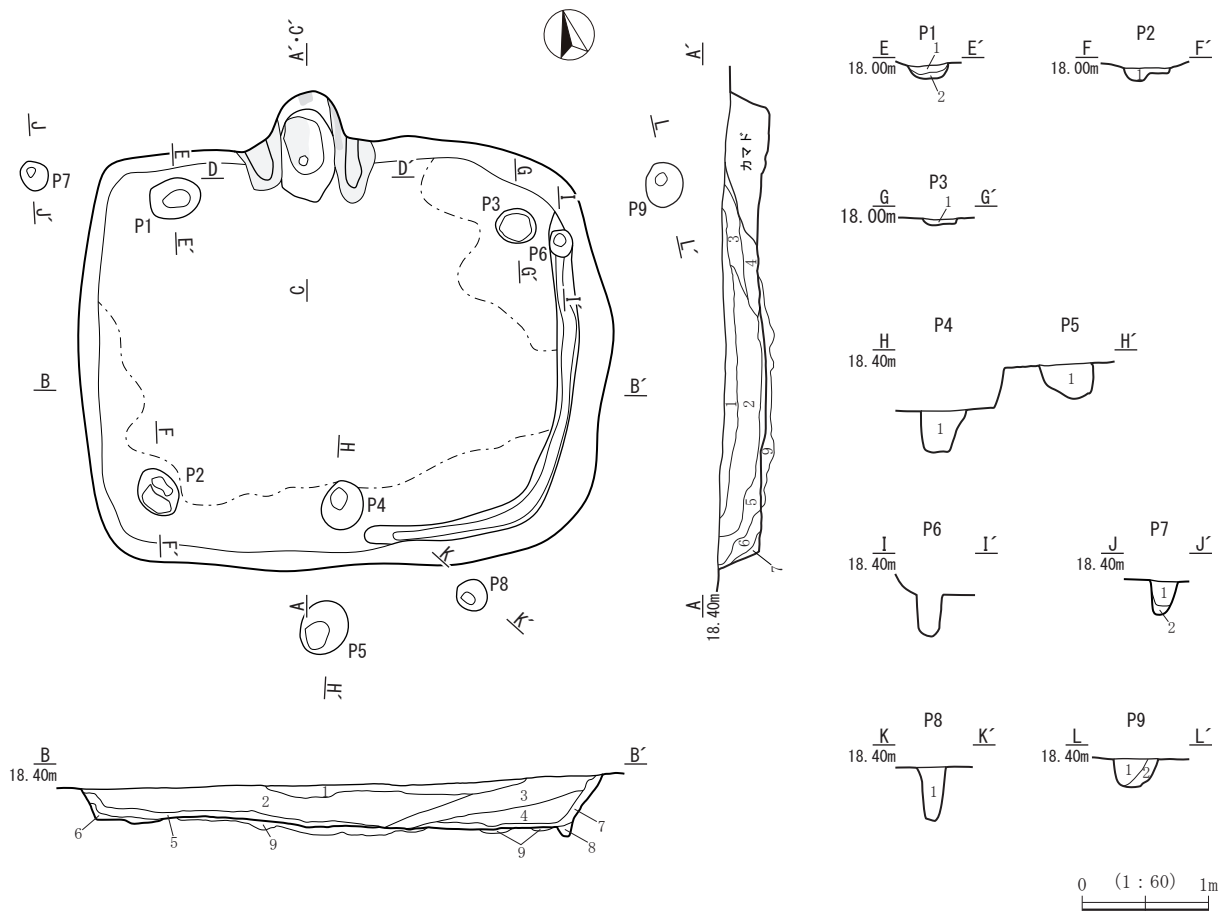
形状と規模 平面形は長方形を呈し，南北3.40m，東西4.26m，深さ24～37cmを測る。主軸方位は，N-14°-Eを示す。

壁 最大壁高は37cmを測り，急傾斜で掘り込まれている。

壁溝 東壁から南壁の東半にかけて確認された。幅12～20cm，深さ2～8cmを測る。

床 褐色土を用いて西南部に貼床を構築していた。概ね平坦である。北西角を除く壁際以外は，踏み固められ，硬化していた。

ピット 建物跡の南東を除く角部と南壁中央に5基確認された(P1～4・6)。規模はP1が42×36cm，深さ12cm，P2は42×30cm，深さ9cm，P3は33×30cm，深さ6cm，P4は42×30cm，深さ30cmを測る。浅いものが多い。P4は位置からすると出入口に伴うものと推定される。北東角の壁溝内にP6が存在する。規模は24×18cm，深さ33cmを測る。また，建物跡の外側にも4基確認され(P5・7・8・9)，覆土や形状，位置から本跡に伴うと判断した。位置はP5が南壁中央の外側，P7は北西角の外側，P8は南壁東側，P9は北東角の外側にある。規模はP5は45×36cm，



[SI06 土層説明]

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒中量, ロームブロック少量, 炭化物少量, 黒色粒中量, 橙色粒少量含む。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有 締り有 ローム粒多量, ロームブロック少量, 黒色粒微量含む。
3. 10YR3/3 暗褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒・ロームブロック多量, 黒色粒・橙色粒中量, 赤色粒少量含む。径5cm以内の黒褐色土多量混入。
4. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ロームブロック・焼土・黒色粒・赤色粒中量, 橙色粒少量含む。
5. 10YR4/4 褐色土 粘性強い 締り有 ロームブロック多量, 黒色粒・橙色粒少量, 炭化物微量含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒・ロームブロック多量, 黒色粒中量, 橙色粒微量含む。
7. 10YR8/3 黄褐色土 粘性締り有 ロームブロック中量含む。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック多量含む。
9. 10YR4/6 褐色土 粘性やや有 締り強い ロームブロック多量, 黒色粒微量含む。貼床構築土。

[P1 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ロームブロック多量, 黒色粒微量, 橙色粒中量, 焼土多量, 炭化物中量含む。暗褐色土との互層。
2. 10YR5/6 黄褐色土 粘性強い 締り有 黒色粒微量, 焼土少量含む。

[P2 土層説明]

1. 10YR5/6 黄褐色土 粘性強い 締り有 黒色粒微量含む。褐色シルトとの互層。

[P3 土層説明]

1. 10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘性締り有 黒色粒少量含む。

[P4 土層説明]

1. 10YR3/2 暗褐色土 粘性締り有 黒色粒微量含む。径5cm以内の黄褐色シルトブロック混入。

[P5 土層説明]

1. 10YR3/2 暗褐色土 粘性締り有 ロームブロック多量, 黒色粒少量, 橙色粒微量含む。

[P7 土層説明]

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締りやや有 ローム粒多量, ロームブロック少量, 黒色粒微量含む。
2. 10YR4/6 褐色土 粘性締り有 ローム粒多量, ロームブロック少量含む。

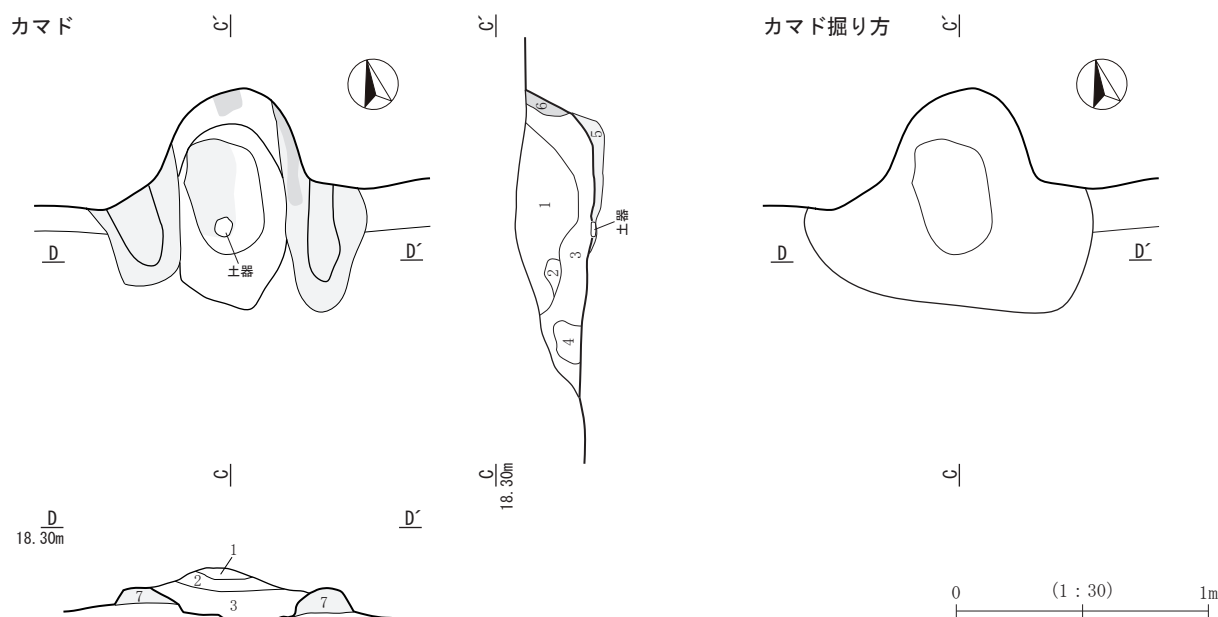
[P8 土層説明]

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ロームブロック少量, 黒色粒微量含む。

[P9 土層説明]

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締りやや有 ロームブロック少量含む。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性締り有 ロームブロック中量含む。

第21図 SI06 (1)



[カマド 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有 締り有 灰黄褐色砂質粘土・焼土ブロック少量、焼土微量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有 締り有 焼土微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有 締り有 灰黄褐色砂質粘土中量、焼土・焼土ブロック少量含む。天井崩落土。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有 締り有 焼土少量含む。
5. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性締り有 粘土。
6. 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性なし 締り有 焼土・焼土ブロック中量含む。
7. 7.5YR4/6 褐色土 粘性なし 締り有 ローム粒中量含む。袖構築土。

第22図 S106(2)

深さ30cmを測る。P7は21×18cm、深さ36cmを測る。P8は24×21cm、深さ45cmを測る。P9は36×30cm、深さ24cmを測る。

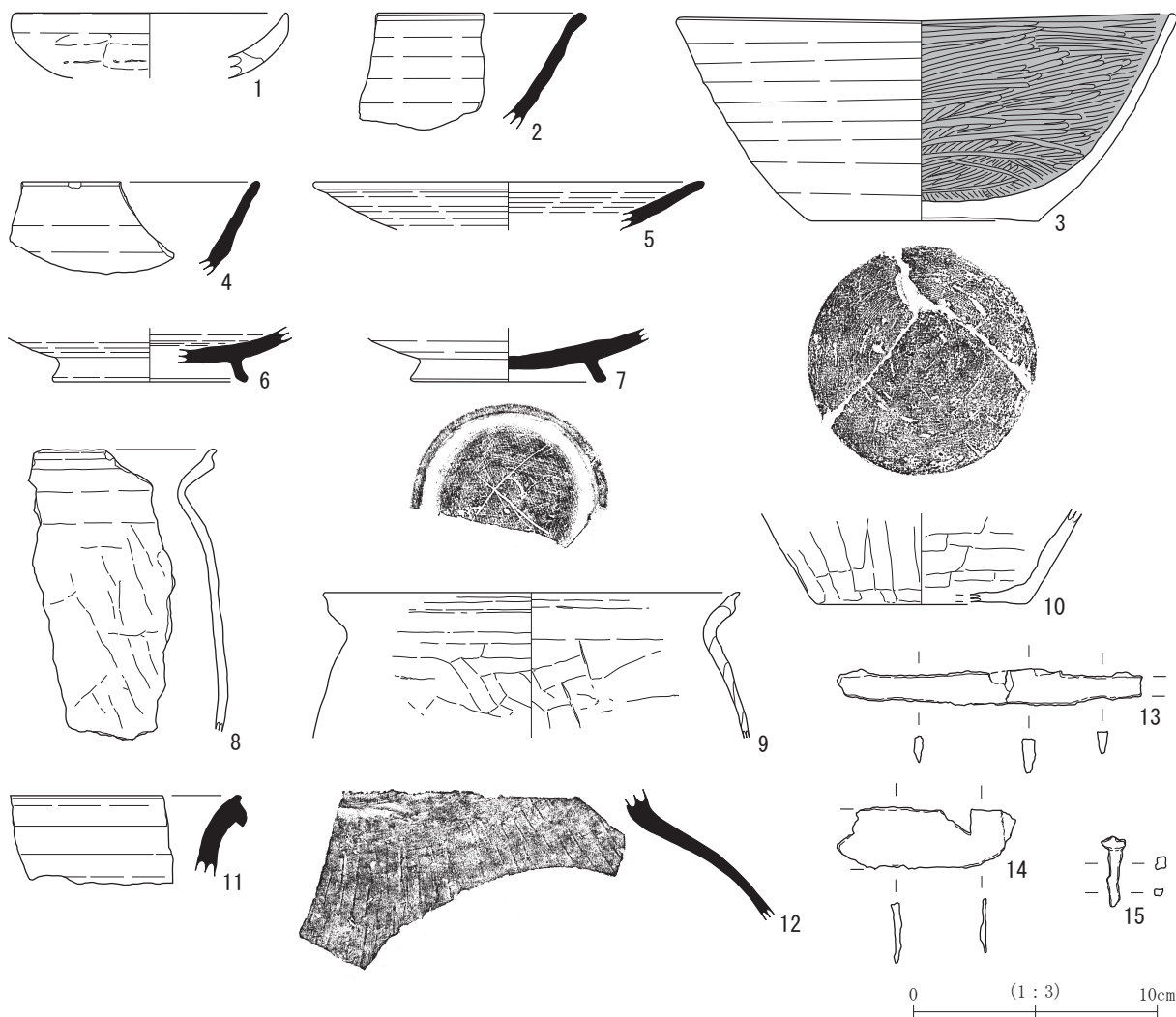
カマド 北壁の中央やや西寄りに構築されていた。全長92cm、幅110cm、両袖部の内法40cmを測る。袖部にはぶい黄褐色砂質粘土と褐色土の混合土を用いて構築されていた(7層)。天井部は崩落しており、3層がそれに該当すると考えられる。燃烧部から煙道部には、広い範囲にわたって焼土が堆積しているが、明瞭な火床面は確認できなかった。煙道部の奥壁は特に被熱が強く、厚い焼土の堆積が見られた。底面のやや奥に、灰黄褐色の粘土を敷設していた(5層)。この粘土の焚口側の先端に、土師器甕の底部が逆位で出土した。あるいは、この上に支脚を据えていたとも考えられる。

覆土 8層に分けられる。暗褐色土、黒褐色土、褐色土などが流れ込んだような堆積を示し、自然堆積と考えられる。9層は貼床である。

遺物出土状況 西半部の覆土中から多くが出土しており、東半部ではほとんど出土しなかった。

遺物 土師器137点(坏・皿・甕)、須恵器25点(坏・高台付坏・坏蓋・盤・壺・甕)、金属製品3点(刀子・鎌・釘)が出土した。なお、これ以外に掘り方から土師器1点(甕)が検出された。図化したのは15点であるが、破片が多い。1は小型の丸底の坏である。3はほぼ完形の鉢であるが、西壁際から正位で出土した。5～7は須恵器の盤であるが、器形・胎土から木葉下窯跡群の製品と推定される。8・9は器壁の薄い常総型甕である。

時期 出土遺物の様相、特に須恵器の盤、土師器甕の形態から8世紀後半と思われる。



第23図 SI06 出土遺物

第14表 SI06 出土土器観察表

法量欄：() 復元値、() 残存値

№	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
1	土師器 杯	口径:(11.0) 器高:<2.7 底径:-	丸底から体部は内湾して立ちあがる。口縁部は尖り気味となる。口縁部外面はヨコナデ、体部から丸底はミガキ。内面は丁寧なミガキ。	① 微砂粒を含む。 ② 良好。 ③ 暗褐色。	南西部 覆土	
2	須恵器 杯	口径:- 器高:- 底径:-	体部から口縁部は外傾して立ちあがり、口縁部は外反する。内外面はヨコナデ。	① 小礫、長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	北東部 覆土	口縁部内面擦れている。
3	土師器 鉢	口径:20.6 器高:8.5 底径:9.4	平底から口縁部は内湾して立ちあがる。体部外面上半はヨコナデ、下半はヘラケズリ。底部外面は回転ヘラケズリ。内面は丁寧なミガキ、黒色処理。	① 長石粒を少量含む。 ② 良好。 ③ 外面橙褐色、内面黒褐色。	北西部 覆土	
4	須恵器 高台付杯	口径:- 器高:- 底径:-	体部下位に稜を有し、体部は外傾して立ちあがる。内外面はヨコナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	北東部 覆土	
5	須恵器 盤	口径:(16.0) 器高:<2.0 底径:-	体部から口縁部は外傾して立ちあがる。内外面はヨコナデ。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	北東部 覆土	
6	須恵器 盤	口径:- 器高:<2.2 底径:(10.0)	底部から体部は外傾して立ちあがる。高台部は外傾して貼付、端部は内削ぎ状。底部回転ヘラ切り後、高台部内外面回転ナデ。内面はヨコナデ。底部外面には焼成前の線刻〔不明〕あり。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	北東部 覆土	
7	須恵器 盤	口径:- 器高:<2.2 底径:(8.0)	底部から体部は外傾して立ちあがる。高台部はやや外傾して貼付、端部は内削ぎ状。高台部内外面回転ナデ。内面はナデ。底部外面には焼成前の線刻〔×〕あり。	① 大粒の長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 灰色～暗灰色。	北西部 覆土	内面擦れている。

8	土師器 甕	口径：－ 器高：－ 底径：－	体部は内湾して立ちあがり、頸部でくびれ、口縁部はくの字状に立ちあがる。口唇部は端部が揃みあげられる。外面口縁部と頸部はヨコナデ、体部はナデ。内面口縁部はヨコナデ、体部は横位のヘラナデ。	① 長石、石英粒、雲母を含む。 ② 良好。 ③ 褐色。	北東部 覆土	内外被熱。
9	土師器 甕	口径：(17.0) 器高<(5.9) 底径：－	頸部はくびれ、口縁部はくの字状に立ちあがる。口唇部は端部が揃みあげ、外面口縁部と頸部ヨコナデ、体部ナデ。内面口縁部はヨコナデ、体部は横位のヘラナデ。	① 長石、石英粒、雲母を含む。 ② 良好。 ③ 褐色。	南東部 床面	被熱剥落。
10	土師器 甕	口径：－ 器高<(3.7) 底径：(8.8)	平底から体部は外傾して立ちあがる。体部外面下位は縦位のナデ。内面はナデ。	① 石英粒を多量に含む。 ② 普通。 ③ 外面暗褐色、内面灰褐色。	南東部 床面	体部外面煤付着。 被熱。
11	須恵器 甕	口径：－ 器高：－ 底径：－	頸部から口縁部にかけて外反する。口縁部は有段となり、端部は揃みあげ。頸部外面はナデ。内面はヨコナデ。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	北東部 覆土	
12	須恵器 甕	口径：－ 器高：－ 底径：－	体部から頸部にかけて内湾して立ちあがる。頸部にヨコナデが施され、体部外面に縦位の平行タタキ目。内面はヨコナデ。	① 微砂粒を含む。 ② 良好。酸化炭焼成。 ③ 外面橙褐色、内面灰褐色。	南東部 覆土	

第15表 S106 出土金属製品観察表

法量欄：() 復元値、() 残存値

No.	器種	法量 (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置	備考
13	鉄製品 刀子	長さ<(12.4) 幅 : 1.5 厚さ: 0.3	<(13.9)>	2つに分かれた断片。基部および先端部は欠損する。断面形は棟部は平坦で、刃部は薄く尖る。断面形から刀子とした。	北西部 覆土	
14	鉄製品 鎌	長さ<(7.3) 幅 :<(2.5) 厚さ<(0.3)	<(9.4)>	2つに分かれた断片。両端を欠損する。棟部は薄いが平坦に作出され、刃部は薄く尖る。断面形から鎌とした。	南東部 床面	
15	鉄製品 釘	長さ<(2.7) 幅 : 1.0 厚さ: 0.4	<(2.1)>	断面方形を呈する鉄釘。先端は欠損する。頭部は断面正方形。	覆土	

S107

位置・重複関係等 A区の南西部，G・H－8グリッドに位置する。南西側でS I 12を切り込み，北東隅をSK13とP 14に切り込まれている。

形状と規模 平面形は長方形を呈し，南北3.43m，東西3.65m，深さ8～18cmを測る。主軸方位は，N－99°－Wを示す。

壁 最大壁高は18cmを測り，急傾斜で掘り込まれている。

壁溝 南東隅付近のみで確認された。幅12～20cm，深さ5～8cmを測る。

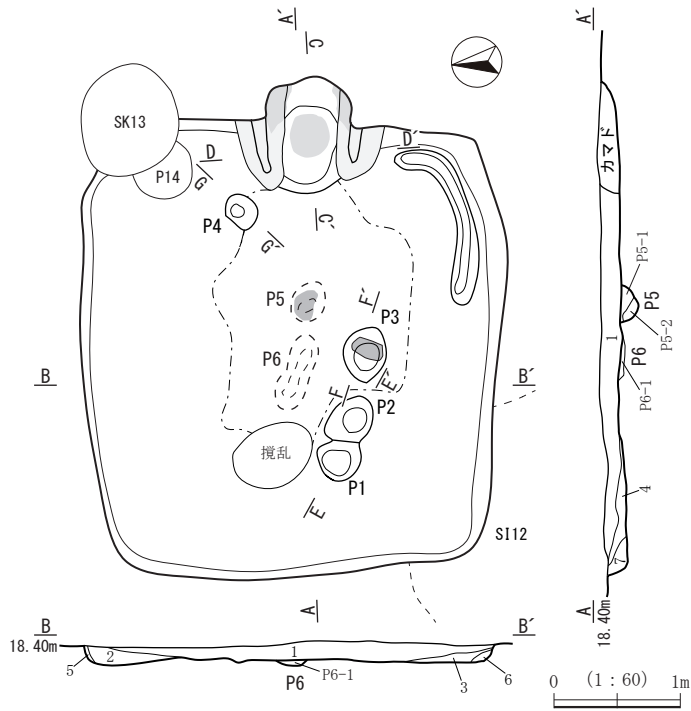
床 地山のⅢ層上面を床とする。床面は概ね平坦で，中央部からカマド前が特に硬化していた。

ピット 中央から南西にかけて4基(P 1～4)，床面を剥がした下から2基(P 5・6)確認された。いずれも中央部に集中している。P 1は36×33cm，深さ6cm，P 2は45×36cm，深さ9cm，P 3は48×33cm，深さ9cm，P 4は30×24cm，深さ6cmを測る。浅いものが多い。床下のP 5は36×24cm，深さ12cmを測る。P 6は平面形が長楕円形で63×21cm，深さ6cmを測る。覆土には鍛造剥片を含んでいた。またP 3とP 4は共に底面が焼けており，P 3はその上に細砂を含む黒色土が堆積していた。

カマド 東壁のほぼ中央に構築されていた。全長93cm，幅119cm，両袖部の内径42cmを測る。袖部はにぶい黄褐色砂質粘土と黒褐色土の混合土を用いて構築されていた。天井部は崩落しており，2・3層がそれに該当すると考えられる。燃烧部から煙道部には，広い範囲にわたって焼土が堆積しており，火床面は赤化している。奥壁は特に被熱が強く，赤変した焼土が厚く付着していた。カマドの燃烧部上からは構築材と推測される長軸35cm・厚さ16cmほどの被熱した長方体の凝灰岩製の切石2点と，同じ材質の破片が複数検出された。この他，打ち欠いた土師器坏(2・3)が2点出土した。

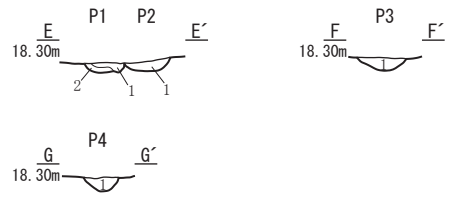
覆土 7層に分けられる。黒褐色土，暗褐色土が流れ込んだような堆積を示し，自然堆積と考えられる。
遺物出土状況 全体的には出土位置の偏りはみられず，覆土中に散在していた。

遺物 土師器103点(坏・高台付埴・皿・甕)，須恵器62点(坏・高台付坏・坏蓋・壺・甕)，灰釉陶



[SI12 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック・焼土粒・焼土塊・炭化物少量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒少量, 白色粒微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒少量, 白色粒微量含む。
4. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック多量, 黒色粒微量含む。
5. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒中量含む。
6. 10YR3/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒中量含む。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック少量, 赤色粒微量含む。



[P1 土層説明]

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒多量, 赤色粒微量含む。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性締り有 ローム土主体。

[P2 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック中量, 赤色粒微量含む。

[P3 土層説明]

1. 10YR1.7/1 黒色土 粘性締りやや有 ローム粒・ロームブロック・焼土粒・細砂少量含む。底面焼け。

[P4 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒多量, ロームブロック中量, 赤色粒微量含む。

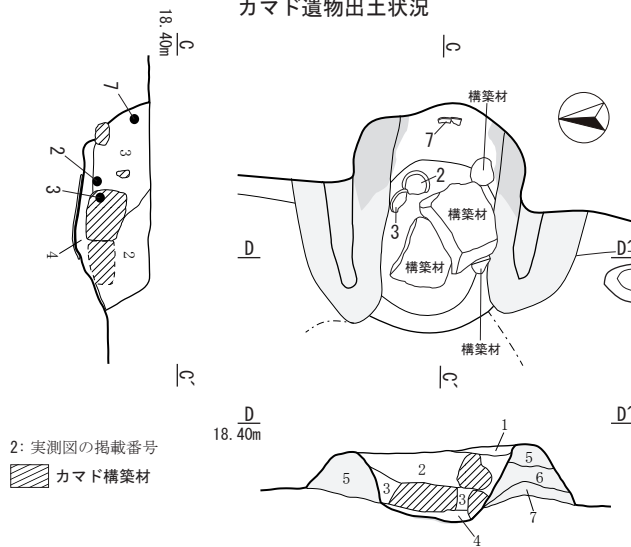
[P5 土層説明]

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒多量, 焼土粒・炭化物少量含む。
2. 2.5Y2/1 黒色土 粘性なし 締りなし ローム粒・細砂少量含む。底面焼け。やや砂質。

[P6 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック中量, 焼土粒・炭化物・鉄細片少量含む。

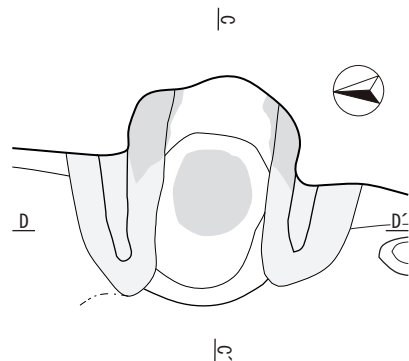
カマド遺物出土状況



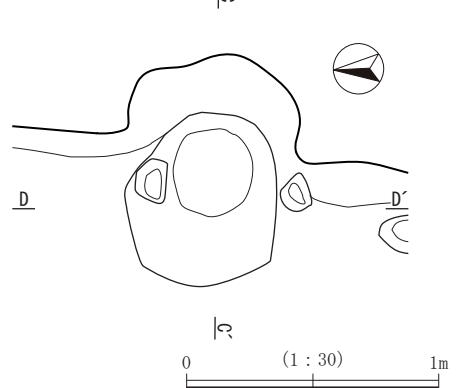
[カマド 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有 締り有 ローム粒・焼土粒少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有 締り有 ローム粒多量, 焼土粒・被熱凝灰岩ブロック中量含む。天井崩落土。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有 締り有 焼土粒・被熱凝灰岩ブロック少量含む。天井崩落土。
4. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有 締りやや有 ローム粒中量, 焼土粒少量含む。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有 締り有 にぶい黄褐色砂質粘土・ローム粒中量, 焼土粒・凝灰岩ブロック少量含む。袖構築土。
6. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有 締り有 にぶい黄褐色砂質粘土・ロームブロック少量, 焼土粒中量含む。袖構築土。
7. 10YR1.7/1 黒色土 粘性締り有 ロームブロック中量, 焼土粒微量含む。袖構築土。

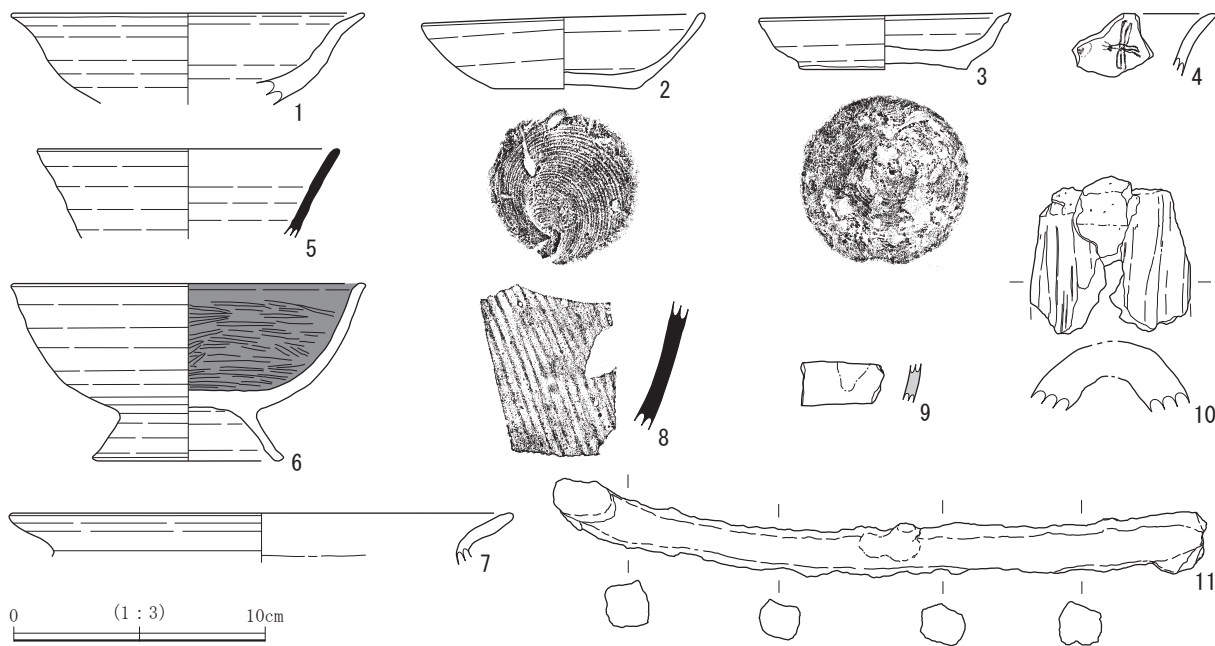
カマド



カマド掘り方



第24図 SI12



第25図 SI07 出土遺物

第16表 SI07 出土土器観察表

法量欄：() 復元値、() 残存値

No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
1	土師器 高台付埴	口径:(14.0) 器高:<3.6> 底径:-	体部から口縁部にかけて大きく外反する。内外面はヨコナデ。	① 微砂粒を含む。 ② 普通。 ③ 外面黄灰褐色、内面暗褐色。	北西部 覆土	
2	土師器 坏	口径:11.2 器高:3.0 底径:5.8	平底から体部は外傾して立ちあがる。ロクロ成形で、底部は右回転糸切り痕。底部内面黒処理。	① 雲母を含む。 ② 普通。 ③ 外面赤褐色、内面黒褐色。	カマド内	
3	土師器 皿	口径:10.0 器高:2.2 底径:6.6	平底から体部は外傾して立ちあがるが、体部中位に稜あり。口唇部は内削ぎ状。ロクロ成形で、底部は中心回転糸切り痕。	① 微砂粒を含む。 ② 普通。 ③ 外面橙褐色、内面橙褐色。	カマド内	口縁部煤付着。
4	土師器 坏	口径:- 器高:- 底径:-	体部から口縁部は外反する。内外面ヨコナデ。	① 微砂粒を含む。 ② 普通。 ③ 明褐色。	北西部 覆土	口縁部:墨書 [十の字か]
5	須恵器 坏	口径:(12.0) 器高:<3.5> 底径:-	体部から口縁部にかけて外傾する。内外面はヨコナデ。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	北東部 覆土	
6	土師器 高台付埴	口径:- 器高:- 底径:-	底部から体部は内湾して立ちあがり、口縁部は外反する。高台は外傾して貼付。口唇部は内削ぎ状。高台部は高く、端部は平坦。体部下位は回転ヘラケズリ。体部外面ヨコナデ。高台部内外面は回転ナデ。埴部内面は、黒色処理。	① 微砂粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面橙褐色、内面黒褐色。	南西部 覆土	
7	土師器 甕	口径:(20.0) 器高:<2.0> 底径:-	口縁部は外傾する。口縁部外面はヨコナデ。内面はナデ。	① 微砂粒を含む。 ② 普通。 ③ 黄褐色。	カマド内	
8	須恵器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	体部片。外面に横位の平行タタキ目。内面はヨコナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面暗灰色、内面灰色。	南西部 覆土	
9	灰釉陶器 壺	口径:- 器高:- 底径:-	体部片。内面はヨコナデ。外面灰釉。	① 微砂粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面青灰色、内面明灰色。	南西部 覆土	

第17表 SI07 出土土製品観察表

法量欄：() 復元値、() 残存値

No.	器種	法量 (cm)	重量 (g)	特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
10	土製品 羽口	長さ:<6.2> 先端外径:(6.3) 厚さ:<1.5>	<73.2>	先端内径:(5.6cm)。先端部の破片。先端部は発泡。側面は縦位のヘラケズリ。内面はナデ。	① 小礫、微砂粒を含む。 ② 普通。 ③ 外面灰褐色、内面橙褐色。	南西部 覆土	

第18表 SI07 出土金属製品観察表

法量欄：() 復元値、() 残存値

No.	器種	法量 (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置	備考
11	鉄製品 不明	長さ:<26.4> 幅 : 2.0 厚さ: 1.7	<398.4>	両端を欠損する太い鉄棒状の製品。断面は方形を呈する。	北西部 覆土	

器1点(壺), 土製品2点(羽口), 金属製品1点(棒状の不明製品), 製鉄関連遺物15点(鉄滓)が出土した。図示したのは11点, 写真のみ掲載した鉄滓が10点である。2・3の土師器坏は回転糸切り痕を残すもので, 2は底部の内面のみ黒色処理で薄手である。年代は10世紀後葉と考えられる。5の須恵器坏は底径の大きい木葉下窯跡群の製品と推定するが, 混入であろう。4は土師器坏の口縁部片であるが, 外面に「十」字形の墨書が残る。6は高台付壺であるが, SI15にも類似する製品がある。12~21は鉄滓類である(写真のみ掲載, 写真図版16)。12~14は椀型滓である。15は羽口の先端部片, 16~21は鉄滓の小破片である。P 6の覆土からは鍛造剥片が検出されており, これも写真を掲載した(写真図版16)。

時期 出土遺物からは, 10世紀後葉と推測される。

SI08

位置・重複関係等 A区の北西部, D・E-13グリッドに位置する。全体の約7割は調査区外である(第8地点第3次調査で報告)。北西隅から中央にかけては, 攪乱で壊されている。

形状と規模 確認部分の平面形は長方形を呈し, 規模は残存値で南北3.55m, 東西1.20m, 深さ36~40cmを測る。主軸方位は, N-7°-Eを示す。

壁 最大壁高は40cmを測り, ほぼ垂直に掘り込まれている。

壁溝 確認部分を全周する。幅20~23cm, 深さ5cmを測る。

床 暗褐色土を用いて貼床を構築していた。床面はほぼ平坦で, 確認部分は硬化していた。

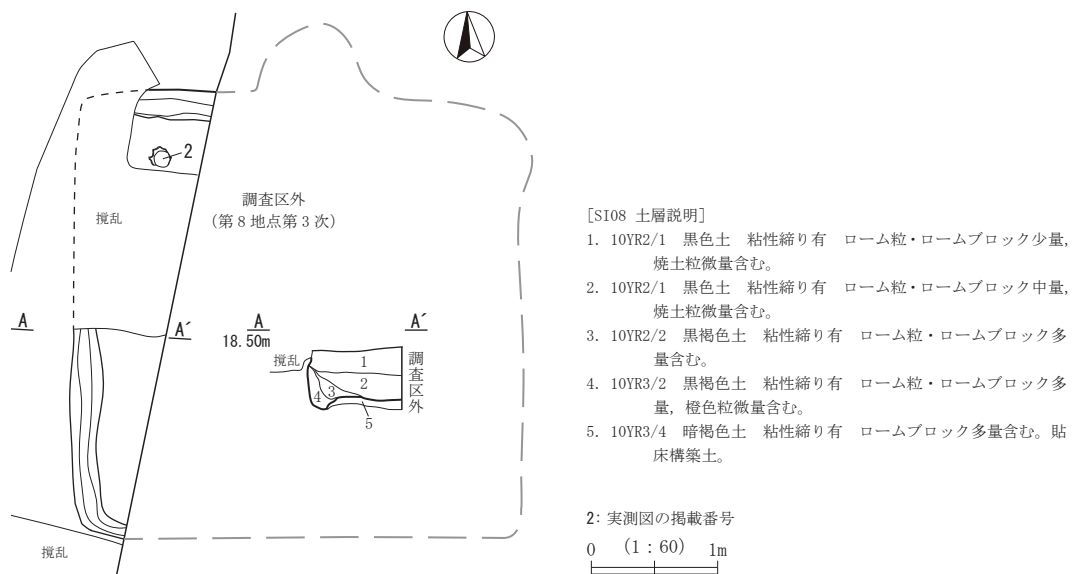
ピット 調査区内では確認されなかった。

カマド 調査区内では確認されなかった。

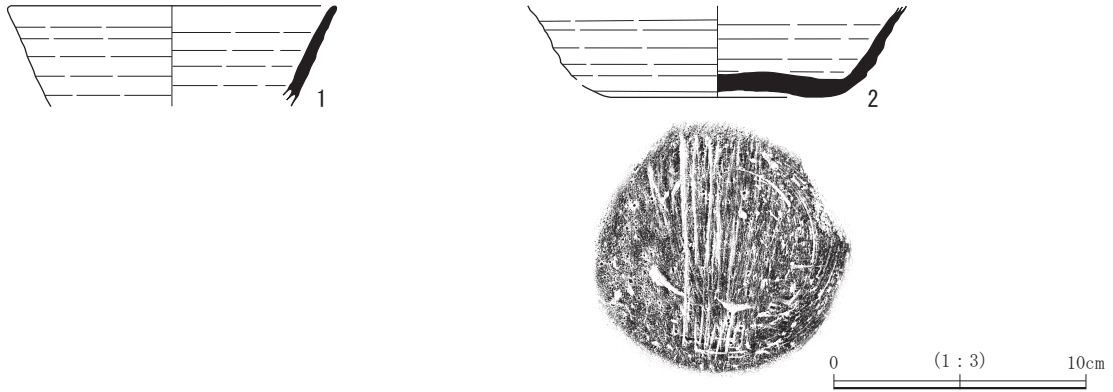
覆土 4層に分けられる。黒色土, 黒褐色土が流れ込んだような堆積を示し, 自然堆積と考えられる。第5層は貼床である。

遺物 調査した部分が少なかつたため遺物も少ない。土師器3点(甕), 須恵器6点(坏・坏蓋)である。図化したのは2点のみである。2の須恵器坏は底径の大きなタイプである。

時期 出土遺物からは, 8世紀後半と推測される。



第26図 SI08



第27図 SI08 出土遺物

第19表 SI08 出土土器観察表

法量欄：() 復元値、〈 〉 残存値

No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
1	須恵器 坏	口径:(13.0) 器高:〈4.0〉 底径:-	体部から口縁部にかけて外傾する。ヨコナデ。	① 長石, 石英粒, 針状物を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	覆土	
2	須恵器 坏	口径:- 器高:〈3.6〉 底径:9.0	平底から体部は外傾して立ちあがる。底部外面回転ヘラ切りの後, 外周は回転ヘラケズリ, 焼成前の線刻(一定方向の複数の直線)あり。	① 長石, 石英粒, 雲母を含む。 ② やや不良。 ③ 黄灰色。	床面	

SI10

位置・重複関係等 A区の南西部, G-10, H-10・11グリッドに位置する。南西隅をP12に, 南西部をSK06にそれぞれ切り込まれ, 北西隅を攪乱に壊される。

形状と規模 平面形は長方形を呈し, 規模は南北2.52m, 東西3.00m, 深さ32~38cmを測る。主軸方位は, N-3°-Eを示す。

壁 最大壁高は35cmを測り, 急傾斜で掘り込まれている。

壁溝 北・東・南で確認され, 西壁と東壁中央では一端切れている。幅12~20cm, 深さ5~8cmを測る。

床 地山のⅢ層上面を床としていた。床面は概ね平坦で, 中央から北東隅にかけて硬化していた。

ピット 南壁中央に1基確認された(P1)。規模は42×30cm, 深さ18cmを測る。位置からすると出入口に伴うものと推定される。

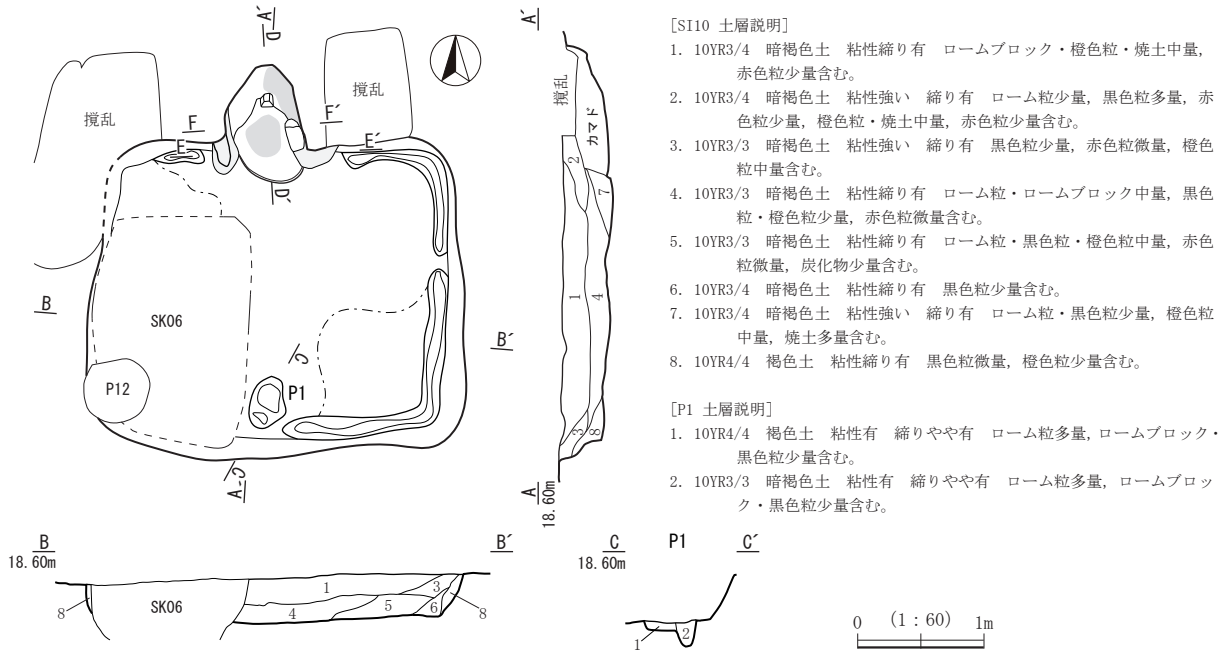
カマド 北壁のほぼ中央に構築されていた。全長95cm, 幅103cm, 両袖部の内法は42cmを測る。袖部は地山のⅢ層を5~13cmほど削り残した上に, にぶい黄褐色砂質粘土と暗褐色土の混合土を用いて構築されている。燃烧部東壁に張り付くように26×20cm, 厚さ12cmの凝灰岩製の切石1点が据えられていた。天井部は崩落しており, 1~3層がそれに該当すると考えられる。燃烧部から煙道部には, 広い範囲にわたって焼土が堆積しており, 火床面は赤化している。奥壁東側が強く被熱していた。火床面北側に凝灰岩製の支脚が直立で据えられていた。カマドの内部からは, 大量の土師器片と須恵器片が出土した。また切石と相対する左袖内側には, 土師器甕片(18)が据えられていたと思われる状態で検出された。

覆土 8層に分けられる。暗褐色土が流れ込んだような堆積を示し, 自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 カマド覆土内から多くの遺物が出土した(1・2・4~8)。これらはカマド2層と3層の間, 覆土中の出土であり, 建物跡廃絶時ではない可能性がある。

遺物 土師器176点(坏・高台付埴・鉢・小型甕・甕), 須恵器65点(坏・高台付坏・坏蓋・壺・甕), 石製品1点(支脚), 製鉄関連1点(鉄滓)。図化したのは7点, 写真のみ掲載は1点である。1~3

は須恵器坏で、2・3は体部のみであるが、底部は回転ヘラ切りと推定する。5は須恵器高台付坏である。6・7は常総型甕である。4の土師器高台付坏は体部外面に墨書が僅かに残っている。10は鉄滓であるが(覆土から出土; 写真図版17), SI07からの混入と思われる
 時期 出土遺物の様相からは、9世紀中葉と推測する。



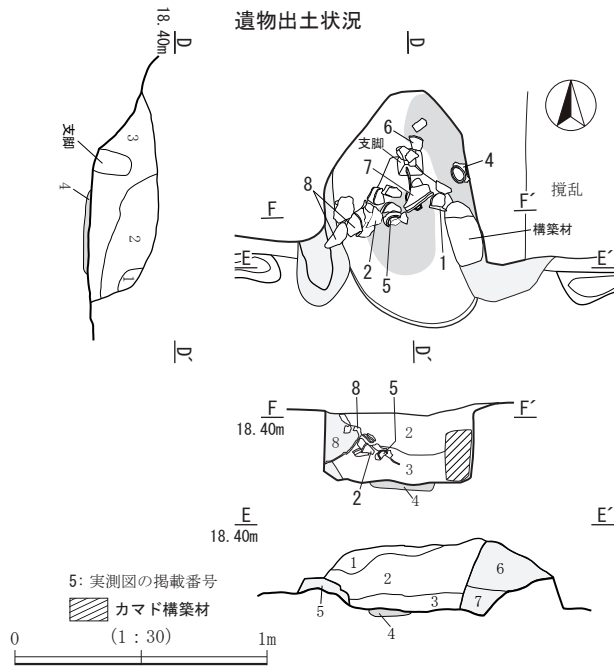
[SI10 土層説明]

1. 10YR3/4 暗褐色土 粘性締り有 ロームブロック・橙色粒・焼土中量, 赤色粒少量含む。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒少量, 黒色粒多量, 赤色粒少量, 橙色粒・焼土中量, 赤色粒少量含む。
3. 10YR3/3 暗褐色土 粘性強い 締り有 黒色粒少量, 赤色粒微量, 橙色粒中量含む。
4. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック中量, 黒色粒・橙色粒少量, 赤色粒微量含む。
5. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒・黒色粒・橙色粒中量, 赤色粒微量, 炭化物少量含む。
6. 10YR3/4 暗褐色土 粘性締り有 黒色粒少量含む。
7. 10YR3/4 暗褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒・黒色粒少量, 橙色粒中量, 焼土多量含む。
8. 10YR4/4 褐色土 粘性締り有 黒色粒微量, 橙色粒少量含む。

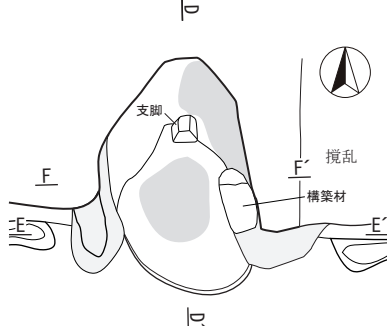
[P1 土層説明]

1. 10YR4/4 褐色土 粘性有 締りやや有 ローム粒多量, ロームブロック・黒色粒少量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有 締りやや有 ローム粒多量, ロームブロック・黒色粒少量含む。

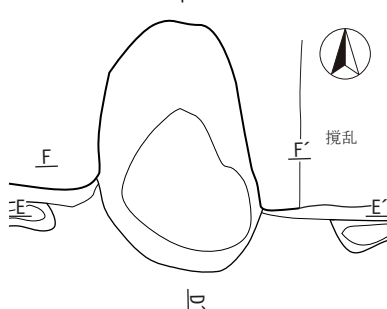
遺物出土状況



カマド



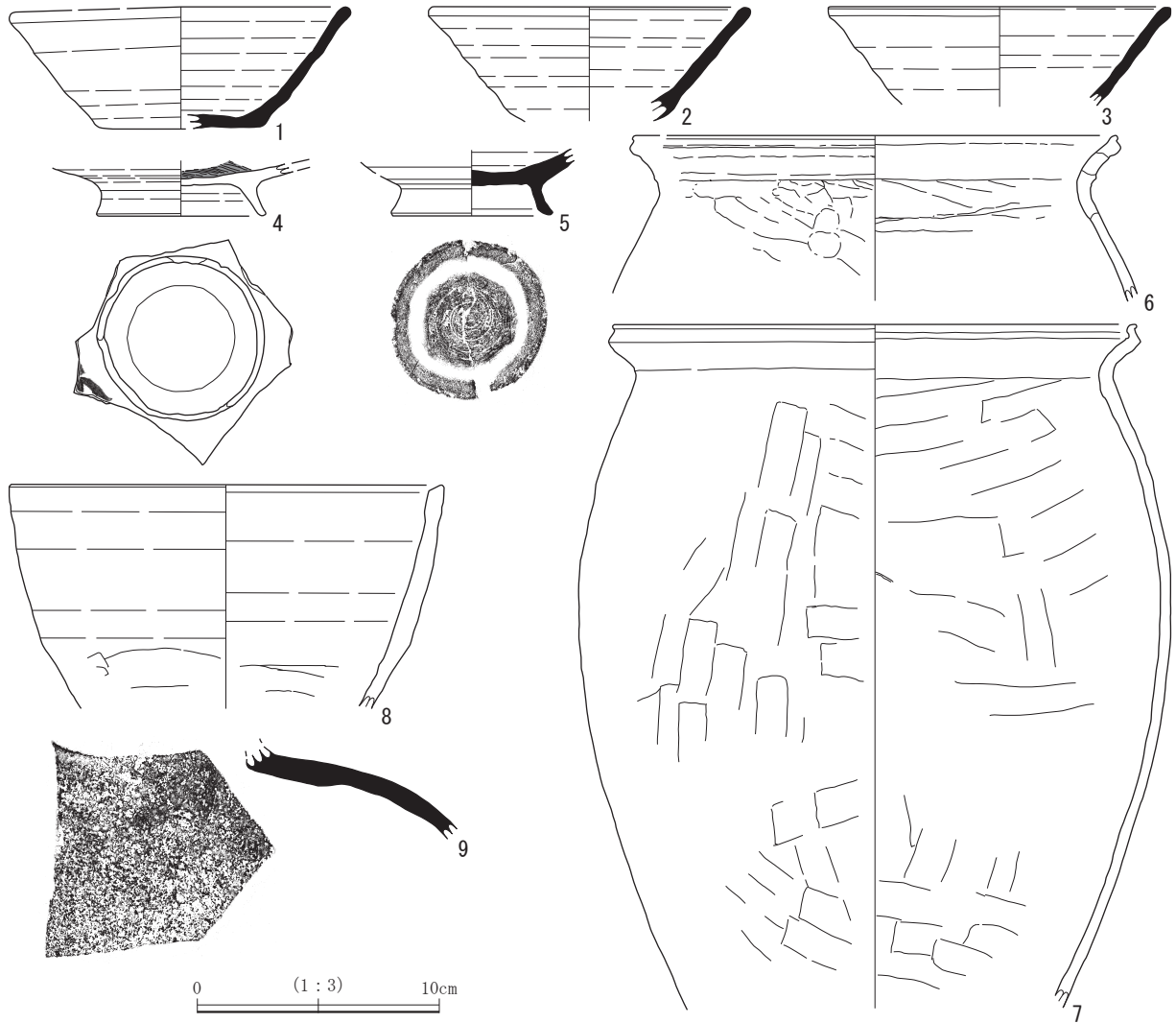
カマド掘り方



[カマド 土層説明]

1. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性なし 締り有 焼土粒少量, 白色粒多量含む。やや砂質の粘土。天井崩落土。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有 締り有 灰黄褐色砂質粘土少量, ローム粒多量, 焼土粒・炭化物少量含む。天井崩落土。
3. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有 締りやや有 ロームブロック・被熱凝灰岩ブロック中量, 焼土粒多量, 炭化物微量含む。天井崩落土。
4. 10YR4/4 褐色土 粘性締りなし 被熱ローム。
5. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性なし 締り有 灰黄褐色砂質粘土多量, 黒色粒・白色粒・焼土粒微量含む。袖構築土。
6. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし 締り有 灰黄褐色砂質粘土中量, ローム粒・黒色粒・白色粒少量, 焼土粒微量含む。袖構築土。
7. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし 締り有 灰黄褐色砂質粘土・ローム粒中量, 白色粒少量, 黒色粒・焼土粒微量含む。袖構築土。
8. 10YR4/4 褐色土 粘性なし 締り有 ローム粒多量, 焼土粒中量含む。袖構築土。

第28図 SI10



第29図 SI10 出土遺物

第20表 SI10 出土土器観察表

法量欄：() 復元値、() 残存値

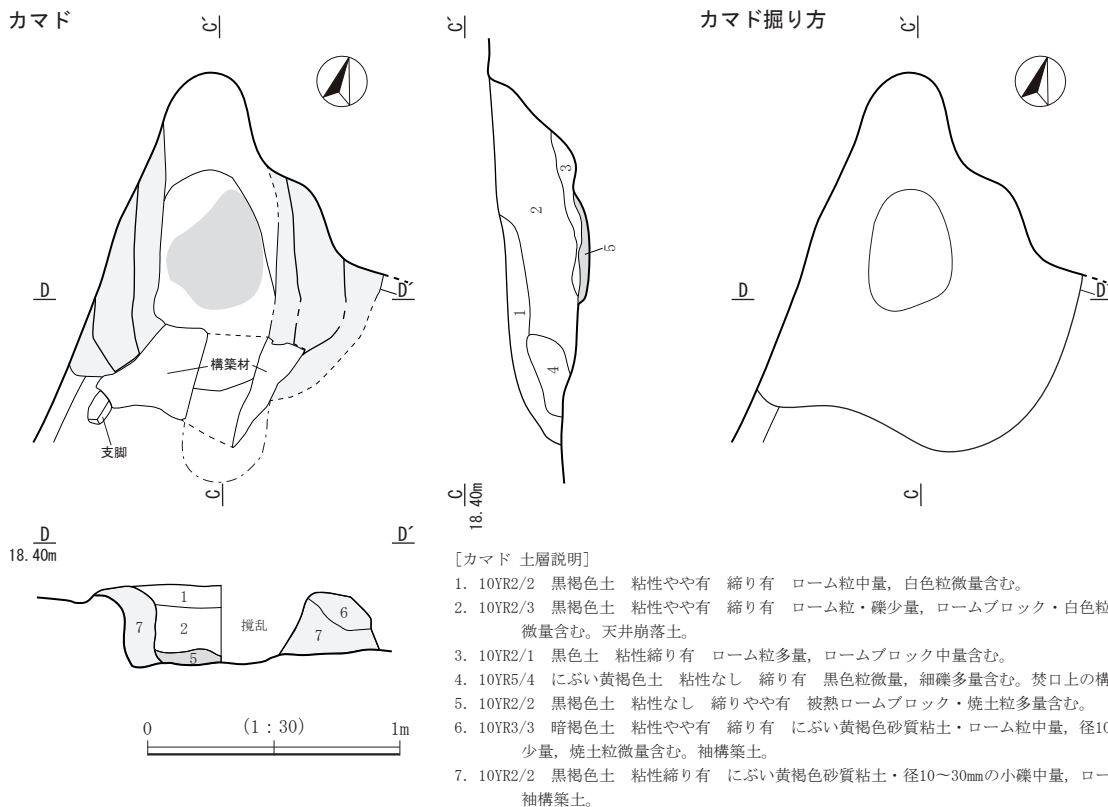
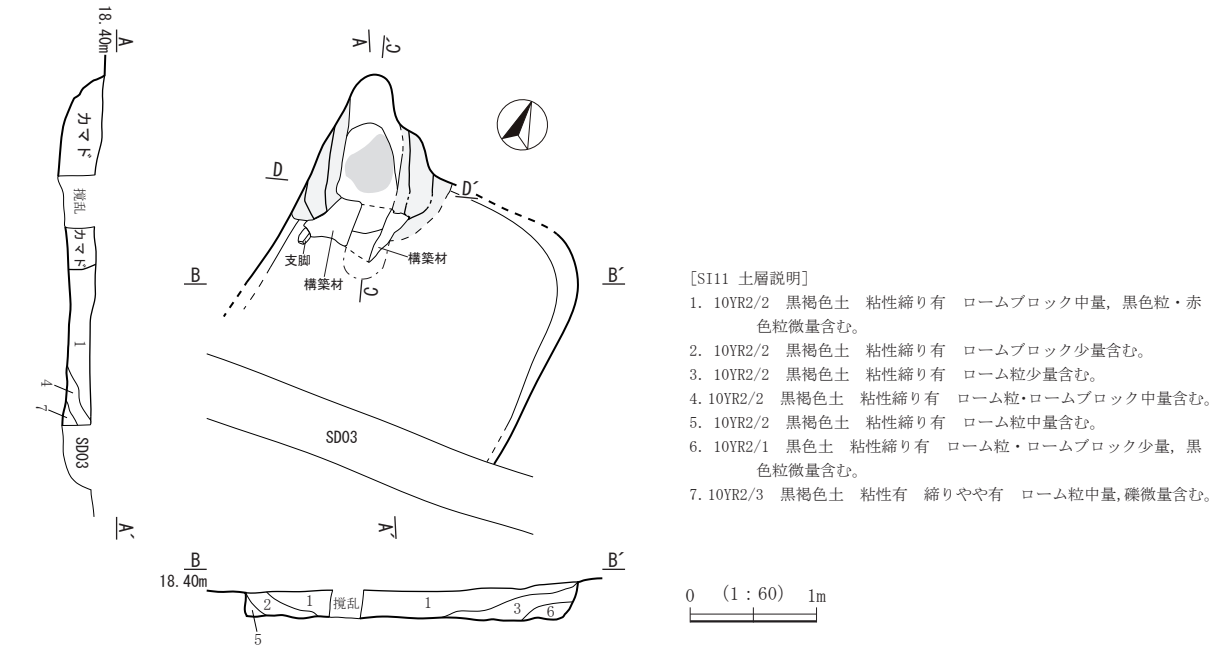
No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
1	須恵器 坏	口径:14.1 器高:7.0 底径:7.0	平底から口縁部は外傾して立ちあがり、口縁部は外反する。底部外面は回転ヘラ切りした後、ヘラケズリ。内外面はヨコナデ。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 暗灰色。	カマド内	
2	須恵器 坏	口径:(13.3) 器高:(4.7) 底径: -	体部から口縁部は直線的に外傾する。体部下位はヘラケズリ。内外面はヨコナデ。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 外面暗灰色、内面灰色。	カマド内	
3	須恵器 坏	口径:(14.2) 器高:(4.1) 底径: -	体部から口縁部は直線的に外傾する。内外面はヨコナデ。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 暗灰色～褐灰色。	南東部 覆土	
4	土師器 高台付埴	口径: - 器高:(2.3) 底径:7.0	平底から体部は外傾して立ちあがる。高台部は外傾して貼付、端部は平坦。高台部内外面回転ナデ。高台内回転ヘラ切り。内面は丁寧なミガキ、黒色処理。	① 微砂粒、雲母を含む。 ② 良好。 ③ 外面橙褐色、内面黒褐色。	カマド内	体部外面煤付着。 体部下位:墨書 〔不明〕。
5	須恵器 高台付坏	口径: - 器高:(2.7) 底径:6.6	平底から体部は外傾して立ちあがる。高台部は外傾して貼付、端部は内削ぎ状。高台部内外面は回転ヘラナデ。高台内回転ヘラケズリ。内面はヨコナデ。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	カマド内	被熱(焼土付着)。
6	土師器 甕	口径:(20.0) 器高:(6.8) 底径: -	頸部でくびれ、口唇部は端部を掴みあげ。体部外面はナデ。内外面口縁部はヨコナデ。内面はヘラナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 褐色。	カマド内	被熱剥落。
7	土師器 甕	口径:(21.6) 器高:(28.3) 底径: -	体部中位に最大径を有す、頸部でくびれ、口縁部はくの字状に立ちあがる。口唇部は端部を掴みあげ。体部外面はナデ。外面口縁部はヨコナデ、内面は横位のヘラナデ。	① 長石、石英粒、雲母を含む。 ② 普通。 ③ 外面褐色。	カマド内	体部内外下位煤付着。
8	土師器 鉢	口径:(18.0) 器高:(9.2) 底径: -	体部から口縁部は内湾して立ちあがる。口唇部は内削ぎ状。体部外面上位はヨコナデ、下位はヘラケズリ。内面はヨコナデ。	① 微砂粒を含む。 ② 良好。 ③ 暗褐色、褐色。	カマド内	
9	須恵器 甕	口径: - 器高: - 底径: -	体部片。体部上位から頸部にかけて内傾する。内面はヨコナデ。外面自然袖降灰。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面暗灰色、内面灰色。	北東部 覆土	

SI11

位置・重複関係等 A区中央西側，F-8・9グリッドに位置する。南壁をSD03に切り込まれている。
 形状と規模 平面形は正方形を呈する小型の建物跡である。残存値南北1.95m，東西2.40m，深さ17～30cmを測る。主軸方位は，N-7°-Eを示す。

壁 最大壁高は27cmを測り，ほぼ垂直に掘り込まれている。

壁溝 確認されなかった。



第30図 SI11

床 地山のⅢ層上面を床としていた。床面は概ね平坦で、カマド焚口前のみ硬化していた。

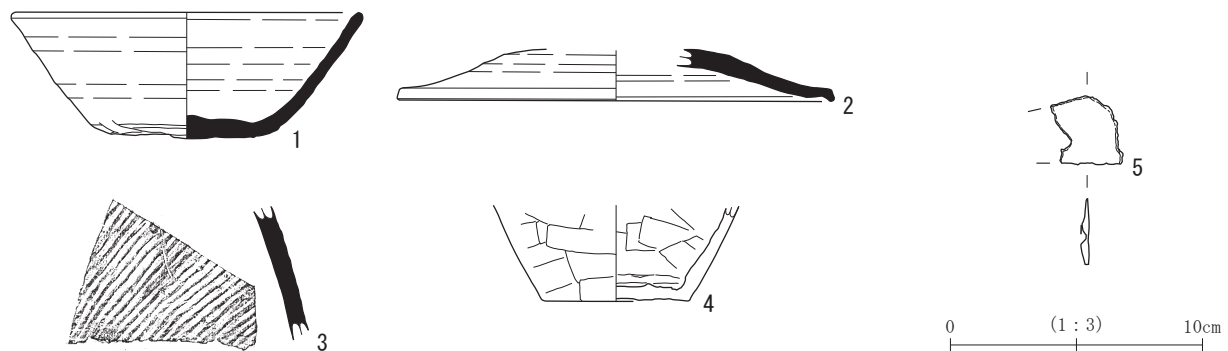
ピット 確認されなかった。

カマド 北西隅に構築されている。主軸方向は、N-20°-Wで、西壁の北側の延長線上に煙道部が延びる。全長127cm、幅130cm、両袖部の内法46cmを測る。袖部はにぶい黄褐色砂質粘土と黒褐色土・暗褐色土の混合土を用いて構築されていた。天井部は崩落しており(2層)、4層は焚口上の構架石材の由来土と推測される。構架石材は硬い凝灰岩の切石である(切石の中央部は攪乱で欠失し、2分割されている)。燃烧部から煙道部にかけての焼土の堆積は薄い、火床面は赤化している。構築材の西側から、凝灰岩製の切石の支脚が倒れた状態で出土した。

覆土 7層に分けられる。黒褐色土が流れ込んだような堆積を示し、自然堆積と考えられる。

遺物 土師器39点(坏・甕)、須恵器17点(坏・坏蓋・壺・甕)、石製品1点(支脚)、金属製品1点(不明製品)が出土したが、いずれも覆土中で検出された。図化したのは5点である。1は底部回転ヘラ切りの須恵器坏である。4は常総型甕の底部である。

時期 出土遺物から9世紀前葉～中葉と推測される。



第31図 SI111 出土遺物

第21表 SI111 出土土器観察表

法量欄: () 復元値, () 残存値						
No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
1	須恵器 坏	口径:14.0 器高:5.0 底径:7.5	平底から口縁部は外傾して立ちあがる。内外面はヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切りの後、外周回転ヘラケズリ。内外口縁～体部上半は褐灰色に変色(重ね焼き痕)。	① 長石, 石英粒, 針状物を含む。 ② 良好。 ③ 灰色～褐灰色。	南東部 覆土	
2	須恵器 坏蓋	口径:(17.3) 器高:<2.0>	天井部は平坦で、端部に向かって外傾し、端部は短く立つ。天井部は回転ヘラケズリ。内外面はヨコナデ。	① 小礫, 長石, 石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	南東部 覆土	
3	須恵器 甕	口径: - 器高: - 底径: -	体部片。外面に斜位の平行タタキ目。内面はヨコナデ。	① 小礫, 長石, 石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 暗灰色。	南東部 覆土	
4	土師器 甕	口径: - 器高:<3.8> 底径:(5.8)	平底から体部は外傾して立ちあがる。体部外面下位は横位のヘラケズリ、底部外面・内面はナデ。	① 長石, 石英粒含む。 ② 普通。 ③ 外面黒褐色, 内面暗灰褐色。	覆土	外面煤付着。

第22表 SI111 出土金属製品観察表

法量欄: () 復元値, () 残存値						
No.	器種	法量 (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置	備考
5	鉄製品 不明	長さ:<2.9> 幅:<2.7> 厚さ:<3.3>	<3.3>	薄く扁平な鉄製品。	覆土	

SI12

位置・重複関係等 A区南西端，H-7・8グリッドに位置する。南側大部分が調査区外に延びる。北東側でSI07に切り込まれている。

形状と規模 平面形は正方形ないし長方形を呈し，残存値で南北1.72m，東西1.27m，深さ60～72cmを測る。主軸方位は，N-87°-Wを示す。

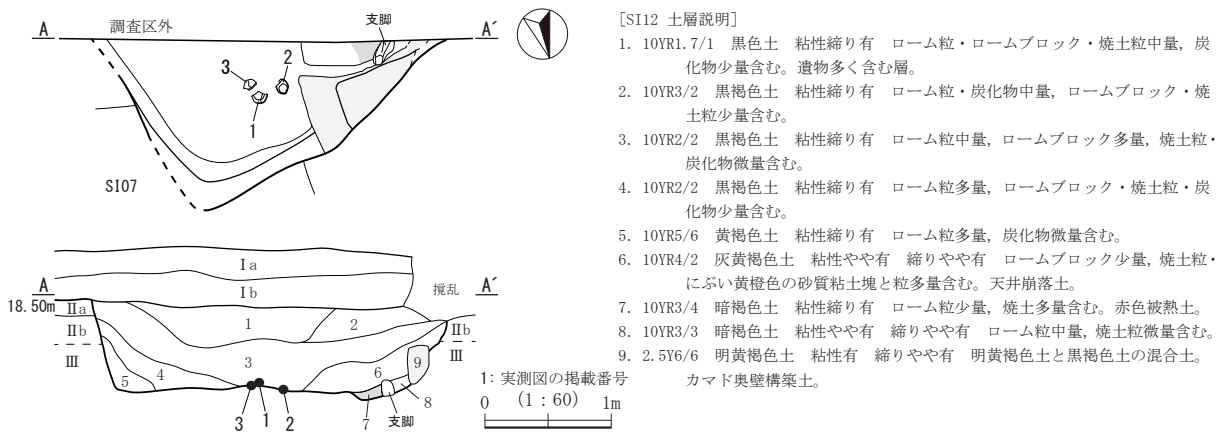
壁 最大壁高は72cmを測り，ほぼ垂直で掘り込まれている。

壁溝 確認されなかった。

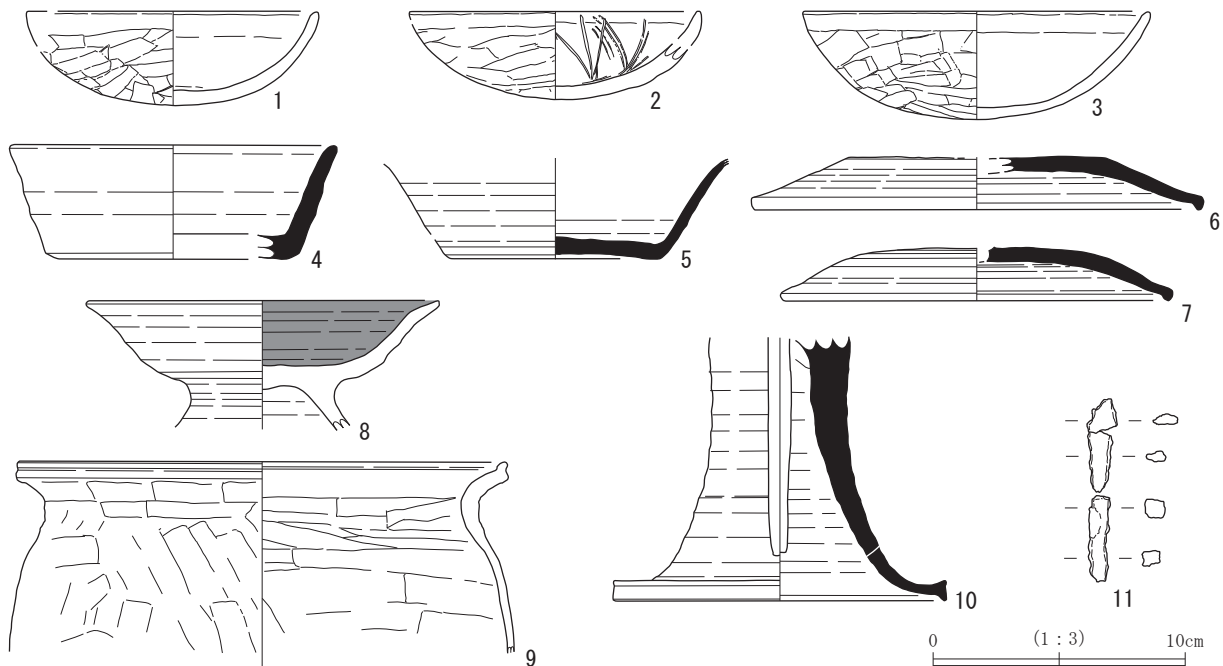
床 地山のⅢ層中と，古い倒木痕を床としていた。床面は概ね平坦で，よく踏み固められていた。

ピット 調査区内では確認されなかった。

カマド 北西隅に構築されている。検出されたのはカマド北半部で，具体的には右袖部から火床面の北半分と推定される。このことからカマドの位置は建物跡の北西隅と推測され，煙道部は北壁の延長上にあると推定される。規模は残存値で長さ133cm，幅94cmである。袖部は灰黄褐色とにぶい黄橙色，明黄褐色の砂質粘土の混合土を用いて構築されていた。天井部は崩落しており（6層），燃燒部から



第32図 SI12



第33図 SI12 出土遺物

第23表 SI12 出土土器観察表

法量欄：() 復元値、() 残存値

No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
1	土師器 坏	口径:(11.6) 器高:3.7	丸底から口縁部は内湾しつつ立ちあがる。体部外面はヘラケズリ、口縁部はヨコナデ。内面はヨコナデ。内面黒色処理か。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面暗褐色、内面黒灰褐色。	床面	
2	土師器 坏	口径:(11.6) 器高:3.5	丸底から口縁部は内湾しつつ立ちあがる。体部外面はヘラケズリ後、雑なミガキ。口縁部はヨコナデ。内面に放射状暗文。内外面黒色処理か。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面暗褐色、内面暗褐色。	床面	
3	土師器 坏	口径:(13.8) 器高:4.3	丸底から口縁部は内湾しつつ立ちあがる。体部外面はヘラケズリ後、雑なミガキ。内面はヨコナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面暗褐色、内面暗灰色。	床面	
4	須恵器 坏	口径:(13.0) 器高:(4.5) 底径:(9.6)	平底から体部は直線的に立ちあがる。内外面ヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切りの後、回転ヘラケズリ。	① 長石、石英粒、雲母を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	覆土	口縁部内外面擦れている。
5	須恵器 坏	口径: - 器高:(4.0) 底径:8.2	平底から口縁部は外傾して立ちあがり、口縁部は外反する。底部外面回転ヘラ切り後、体部下端は回転ヘラケズリ。上位はヨコナデ。内面はヨコナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	覆土	外面底部縁辺～体部下位、内面底部擦れている。
6	須恵器 坏蓋	口径:(18.0) 器高:(2.1)	天井部は平坦で、端部にむけて外傾する。端部は短く直立。天井部は回転ヘラケズリ。内面はヨコナデ。外面端部周辺は黒灰色に変色(重ね焼き痕)。	① 小礫、長石、石英粒、針状物をを含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	覆土	
7	須恵器 坏蓋	口径:(15.6) 器高:(2.1)	天井部に摘みの痕跡。端部にむけて外傾する。端部は短く直立。天井部は回転ヘラケズリ。内外面はヨコナデ。内面に自然釉降灰。	① 小礫、長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	覆土	
8	土師器 高台付坏	口径:(14.0) 器高:(5.1) 底径: -	平底から体部は外傾して立ちあがり、口縁部は外反する。高台部は外傾して貼付。高台部内外面はナデ。内面は黒色処理。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面褐色、内面黒褐色。	覆土	
9	土師器 甕	口径:(19.4) 器高:(8.1) 底径: -	頸部はくびれ、口縁部はくの字状に立ちあがる。体部外面はナデ。頸部、口縁部はヨコナデ。内面はヨコナデ、横位のヘラナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 普通。 ③ 外面灰褐色～暗褐色、内面灰褐色。	床面	体部外面煤付着。体部内面下位被熱剥落。
10	須恵器 高坏	口径: - 器高:(10.4) 底径:(13.2)	脚部片。脚部は直立して立ちあがり、端部にむけて外反し、端部は短く直立。透しは縦長で2箇所残存(全体で4箇所か)。内面はヨコナデ。外面と内面脚部下半は自然釉降灰。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面暗青灰色、内面灰色。	覆土	

第24表 SI12 出土金属製品観察表

法量欄：() 復元値、() 残存値

No.	器種	法量 (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置	備考
11	鉄製品 釘	長さ:(7.1) 厚さ:0.6~0.8	6.9	2つに分かれた断片。頭部と先端は欠損。断面形上半は長方形、下半は方形。	覆土	

煙道部にかけては、焼土の堆積は薄い。火床面は赤化している。火床面西側に、凝灰岩製の支脚が倒れた状態で出土した。

覆土 5層に分けられる。黒褐色土が流れ込んだような堆積を示し、自然堆積と考えられる。6～9層はカマド覆土である。

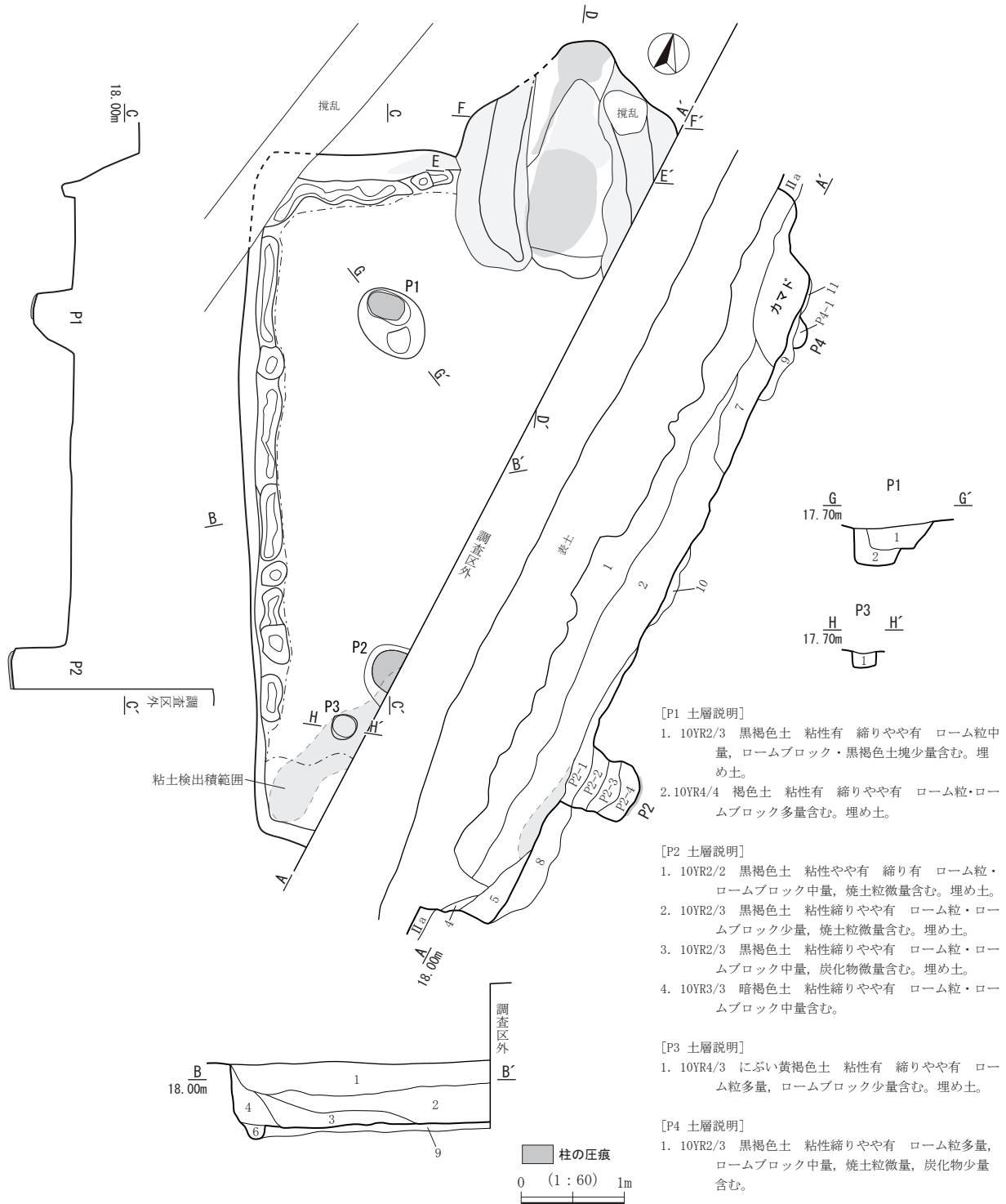
遺物 土師器55点(坏・高台付坏・甕)、須恵器49点(坏・高台付坏・坏蓋・高坏・甕)、石製品2点(支脚)、金属製品1点(釘)、製鉄関連遺物1点(鉄滓)が検出された。図化したのは11点、他に写真のみ掲載が1点である。1～3は土師器の丸底の坏で、2は内面に放射状の暗文が施される。4・5は須恵器坏で、底径が大きなタイプである。9は器壁が薄手の常総型甕である。10は脚部に透かしの入る高坏である。この他12は写真のみ掲載(写真図版17)の椀型滓(覆土から出土)であるが、上部に構築されたSI07からの混入と考えられる。

時期 出土遺物からは、8世紀中葉～後葉と推測される。

SI13

位置・重複関係等 B区中央東端、M・N-2・3グリッドに位置する。東半分が調査区外に位置している。北西角を攪乱に壊されている。

形状と規模 平面形は長方形と推定される大型の建物跡である。規模は残存値で南北6.82m、東西3.52m、深さ74～84cmを測る。主軸方位は、N-14°-Wを示す。

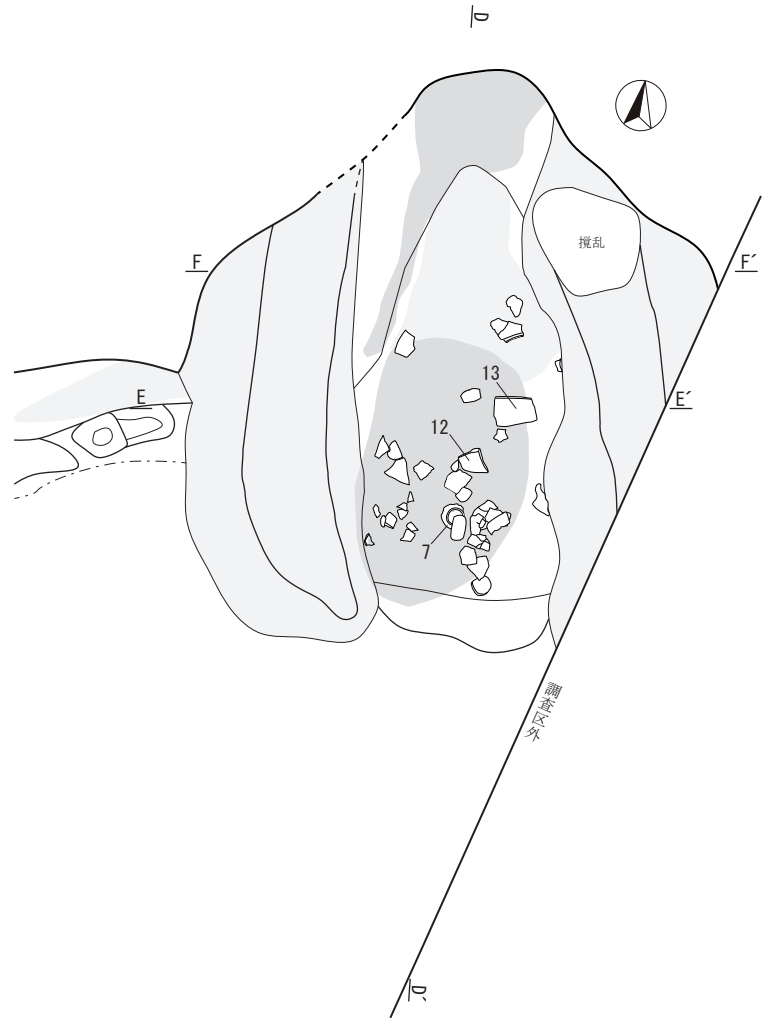
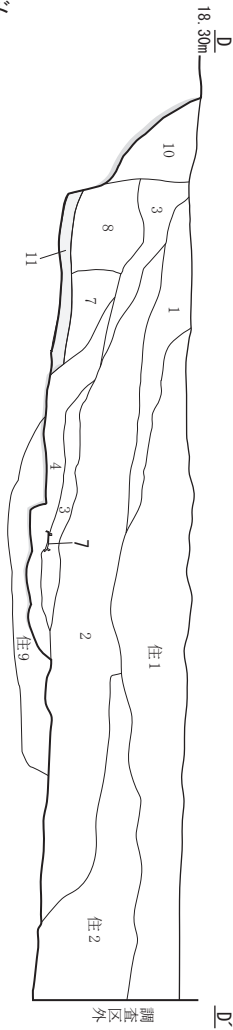


[S113 土層説明]

- 10YR2/1 黒色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック・赤色粒微量含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック多量, 焼土粒微量, 黒褐色土ブロック少量, 貼床状の硬いロームブロックをP2以南に含む。埋め土。
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック多量含む。埋め土。
- 10YR2/4 灰黄褐色土 粘性締り有 ローム粒中量, ロームブロック少量, 黒褐色土塊微量含む。埋め土。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック少量, 焼土粒微量含む。埋め土。
- 10YR2/4 灰黄褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック中量含む。埋め土。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・褐色土粒多量, ロームブロック・焼土粒・粘土小ブロック・炭化物少量, 焼土粒微量含む。カマドの崩れた土。
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック多量含む。貼床構築土。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性有 締り強い ローム粒・ロームブロック多量, 焼土粒・被熱赤化粘土中量含む。貼床構築土。
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性有 締り強い ローム粒・ロームブロック多量, 炭化物少量含む。貼床構築土。
- 10YR2/1 黒色土 粘性有 締り強い ローム粒・ロームブロック少量含む。貼床構築土。

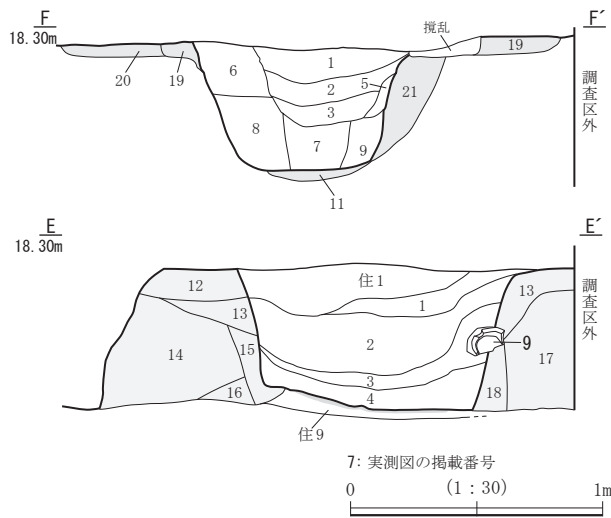
第34図 S113 (1)

カマド



[カマド 土層説明]

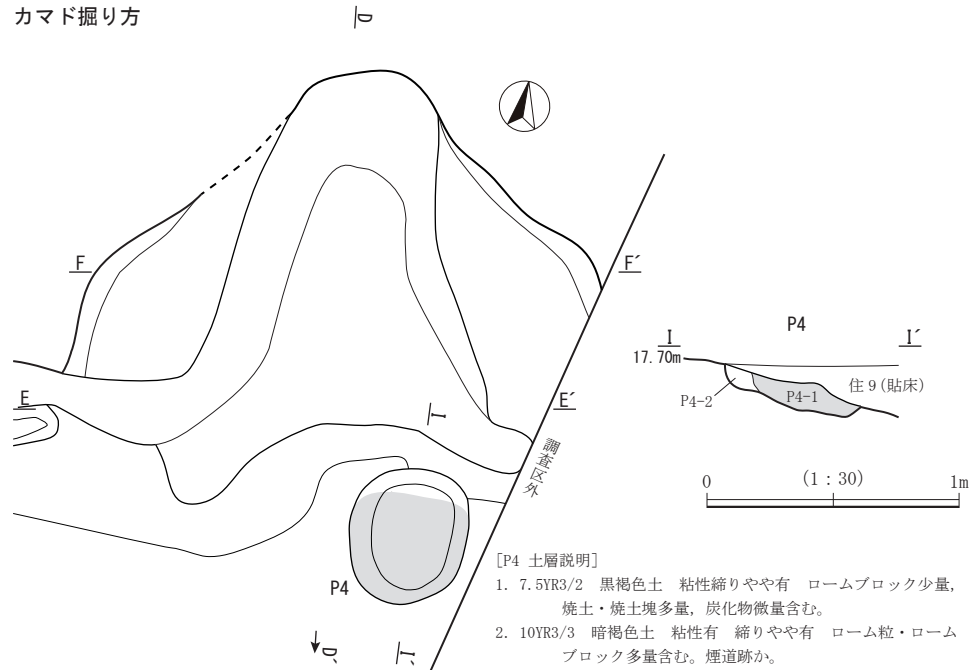
- 住1. 10YR2/1 黒色土 SI13-1層に同じ。
- 住2. 10YR2/2 黒褐色土 SI13-2層に同じ。
- 住9. 10YR2/3 黒褐色土 SI13-9層に同じ。
- 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒中量, 焼土粒少量含む。
- 2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒少量, 炭化物微量, 明黄褐色土塊中量含む。
- 3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒多量, 焼土粒中量, 明黄褐色土塊少量含む。
- 4. 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒・焼土粒中量, にぶい黄褐色土塊少量含む。
- 5. 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性締りやや有 焼土粒・被熱ロームブロック中量含む。
- 6. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性締り有 焼土粒・にぶい黄褐色粒少量含む。
- 7. 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性締りやや有 ローム粒・ロームブロック少量, 焼土塊・焼土粒多量, 被熱ロームブロック中量含む。カマド内面の崩落土。相当長期の使用。
- 8. 10YR4/1 褐灰色土 粘性締りやや有 ローム粒・炭化物少量, 焼土粒多量含む。
- 9. 10YR4/1 褐灰色土 粘性締りやや有 ローム粒・炭化物少量, 焼土粒少量含む。
- 10. 7.5YR4/3 褐色土 粘性有 締りやや有 ローム粒・焼土粒・黒褐色土ブロック中量, 被熱ロームブロック少量含む。煙道。
- 11. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性締り有 粘土。
- 12. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有 締り強い にぶい黄褐色粒中量, 焼土粒少量含む。袖構築土。
- 13. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有 締り強い にぶい黄褐色粒中量, 焼土粒少量含む。袖構築土。
- 14. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有 締り有 ローム粒・ロームブロック少量, 焼土粒微量含む。袖構築土。
- 15. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有 締り有 ローム粒中量, 焼土粒微量含む。袖構築土。
- 16. 10YR4/6 にぶい黄褐色土 粘性やや有 締り有 ローム粒・ロームブロック多量, にぶい黄褐色土塊少量含む。袖構築土。



- 17. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・焼土粒少量, にぶい黄褐色土塊多量含む。袖構築土。
- 18. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒少量, 焼土粒微量含む。袖構築土。
- 19. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性やや有 締り強い にぶい黄褐色土粒・焼土粒少量含む。袖構築土。
- 20. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒多量, 炭化物少量含む。袖構築土。
- 21. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有 締り強い 褐色土粒少量含む。袖構築土。

第35図 SI13(2)

カマド掘り方



第36図 S113(3)

壁 最大壁高は84cmを測り、ほぼ垂直に掘り込まれている。カマド左袖脇の北壁には、幅17cmにわたって灰白色粘土の付着が観察された。

壁溝 南西隅付近を除き全周する。規模は幅15～25cm、深さ5～10cmを測る。溝の底面は0.7～2.0mの不均等な間隔の10～20cmの深さのピットがみられた。

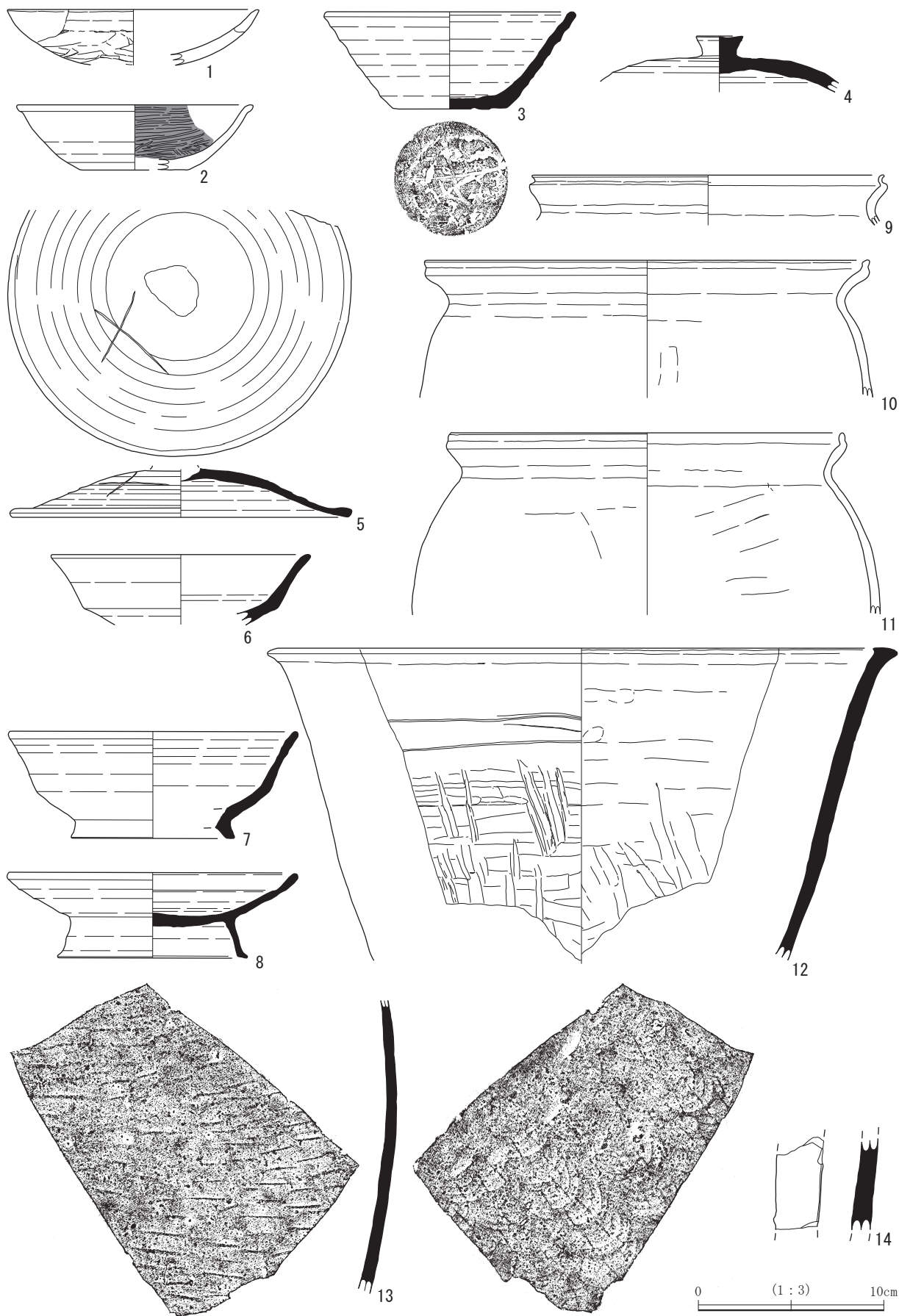
床 地山のⅢ層中を床とし、P1から北壁の間付近と、中央部、南西隅など部分的に暗褐色と黒褐色土を用いて貼床としていた。床面は概ね平坦で、壁溝際まで全面にわたってよく硬化していた。

ピット 建物跡の北西に1基(P1)、南西に2基(P2・3)、またカマド前方の貼床下から1基(P4)確認された。北西のP1と南西のP2の規模は、P1が80×52cm、深さ32cm、P2が残存値で60×36cm、深さ72cmを測る。どちらも大型でロームブロック混じりの埋め戻したような覆土を持つ。地山Ⅵ層近くまで掘り込まれ、底部には柱圧痕が認められた。規模・形状と位置からは、主柱穴と考えられる。P2の南側に位置するP3の規模は、直径24cm、深さ16cmを測る。P4は焚口の直下で焼土を多量に含む土を覆土としていた。規模は46×44cm、深さ12cmを測る。

カマド カマドは北壁に構築されていた。規模は残存値で長さ220cm、幅210cm、両袖部の内法は82cmを測り、大型である。袖部はにぶい黄橙色砂質粘土と黒褐色土や暗褐色土などの混合土を用いて構築されている。天井部は崩落しており、2～7層がそれに該当すると考えられる。燃焼部から煙道部には、広い範囲にわたって焼土が堆積しており、火床面は赤化している。煙道の奥壁も焼土がみられた。また、火床面の奥から煙道直下にかけては、灰黄褐色の粘土を敷設していた。カマドの火床面の上のレベルからは、土師器・須恵器片が多く出土した。

覆土 7層に分けられる。2～7層は、ロームブロックやカマド構築材等を多く含み、建物廃絶時の人為的な埋め土と考えられる。また、P2以南の2層中に、貼床状の硬い褐色土ブロックが南から投棄された状態でまとまって検出された。8～11層は貼床であるが、特にカマド前の9層は被熱粘土塊や焼土が多く含まれており、P4覆土も含めてこの場所でカマドの修築等が行われた可能性もある。

遺物 土師器196点(坏・鉢・甕)、須恵器124点(坏・高台付坏・坏蓋・盤・甑・壺・甕・円面硯)



第37图 SI13 出土遺物

第25表 SI13 出土土器観察表

法量欄：() 復元値、() 残存値

No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
1	土師器 坏	口径:(13.6) 器高:(3.0)	体部から口縁部は内湾して立ちあがる。体部外面はヘラケズリ、ヘラナデ。口縁部外面はヨコナデ。内面はヨコナデ。	① 微砂粒を含む。 ② 良好。 ③ 褐色。	北半部 覆土	
2	土師器 坏	口径:(12.8) 器高:3.5 底径:(7.0)	平底から体部は内湾して立ちあがり、口縁部は外反する。底部外面は回転ヘラケズリ。外面底部際の体部も回転ヘラケズリ。体部上位はヨコナデ。内面は丁寧なヘラミガキ、黒色処理。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 外面暗灰褐色、内面黒褐色。	カマド内	
3	須恵器 坏	口径:(13.6) 器高:5.2 底径:6.1	平底から口縁部は直線的に外傾する。底部外面は回転ヘラ切りの後、ヘラナデ、焼成前の線刻〔×印〕あり。体部下位回転ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	① 小礫を大量に、長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 暗灰色。	覆土	
4	須恵器 坏蓋	口径: - 器高:(3.0)	天井部は平坦で、端部に向けて外傾する。天井部に逆円錐台形の摘みを貼付。外面は回転ヘラケズリ。内面はヨコナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	北半部 覆土	
5	須恵器 坏蓋	口径:18.6 器高:(2.6)	天井部は平坦に作出され、端部へ向けてふくらみながら至る。端部は平坦。摘みは欠損。内面はヨコナデ。天井部脇に焼成前の線刻〔×印〕あり。	① 小礫、長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	南半部 床面	
6	須恵器 高台付坏	口径:(14.0) 器高:(3.8)	体部下位に明瞭な稜を有し、口縁部に向けて外反する。体部内外面はヨコナデ。	① 小礫、長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 橙褐色。	南半部 覆土	
7	須恵器 高台付坏	口径:(15.6) 器高:(5.7) 底径:(8.8)	体部下位に稜を有し、口縁部に向けて外傾する。高台部は外傾して貼付、端部は平坦。体部内外面はヨコナデ。	① 小礫、長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面暗灰色、内面灰色。	カマド内	
8	須恵器 盤	口径:(15.7) 器高:4.6 底径:(10.2)	平底から口縁部にかけて内湾して立ちあがる。口縁部内面に稜を有す。高台部は高く外反して貼付、端部は平坦。高台部内外面回転ナデ。体部内外面はヨコナデ。外面に降灰。	① 小礫、長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面黄灰色、内面灰色。	カマド内	
9	土師器 甕	口径:(19.0) 器高:(2.7) 底径: -	頸部はくびれ、口縁部はくの字状に立ちあがる。口唇部は摘みあげ。口縁部内外面はヨコナデ。	① 長石、石英粒、雲母を含む。 ② 良好。 ③ 橙褐色。	カマド内	
10	土師器 甕	口径:(24.0) 器高:(7.4) 底径: -	頸部はくびれ、口縁部はくの字状に立ちあがる。口唇部は摘みあげ。体部外面はナデ、口縁部はヨコナデ。内面はヨコナデ。	① 小礫、長石、石英粒、雲母を含む。 ② 普通。 ③ 外面赤橙色、内面橙灰色。	カマド内	被熱。
11	土師器 甕	口径:(21.2) 器高:(9.8) 底径: -	頸部はくびれ、口縁部はくの字状に立ちあがる。口唇部は摘みあげ。体部外面はナデ、口縁部はヨコナデ。内面は丁寧なナデ。	① 長石、石英粒、雲母を含む。 ② 普通。 ③ 外面赤橙色、内面橙色。	カマド内	口縁部外面煤付着。被熱。
12	須恵器 甕	口径:(34.0) 器高:(16.8) 底径: -	体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。口唇部は平坦。口縁部外面上位はヨコナデ、下位は横位のヘラケズリの後、雑な縦位のミガキ。内面はヨコナデの上から縦位のケズリ。	① 小礫、長石、石英粒、雲母を含む。 ② 良好。酸化炎焼成。 ③ 橙色。	カマド内	
13	須恵器 甕	口径: - 器高: - 底径: -	体部片。外面は斜位の平行タタキ目、内面は同心円タタキ目。	① 小礫、長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面暗灰色、内面灰色。	カマド内	
14	須恵器 円面硯	口径: - 器高: - 底径: -	脚部片。内外面ヨコナデ。長辺両端は透し。	① 小礫、長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 暗灰色。	南半部 覆土	

が出土した。また掘り方からも須恵器3点(高台付坏・甕)が検出された。凶化した遺物は14点である。3は底部回転ヘラ切りの須恵器坏、4は擬宝珠形の摘みのつく坏蓋、5の坏蓋は端部が直線的に延びている。6・7は須恵器高台付坏、9～11は薄手の器壁の常総型甕である。14は須恵器の円面硯の脚部の透かしのある部分の破片である。

時期 出土遺物からは、9世紀後半と推測される。

SI14

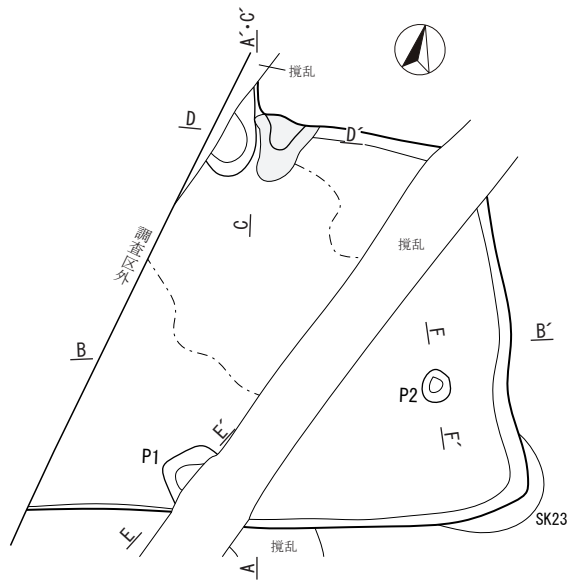
位置・重複関係等 B区中央西端、N-1・2グリッドに位置する。西側3分の1が調査区外に延びる。南東隅でSK23を切り込まれ、カマドの一部と建物跡の中央部を縦断する攪乱に壊されている。

形状と規模 平面形は主軸と直交する方向を長軸とする長方形と思われ、規模は残存値で南北3.18m、東西4.0m、深さ12～18cmを測る。主軸方位は、N-13°-Wを示す。

壁 最大壁高は18cmを測り、ほぼ垂直に掘り込まれている。

壁溝 調査区内では確認されなかった。

床 地山のⅢ層中を床とし、中央部付近に黒褐色土を用いて部分的に貼床としていた。床面は概ね平



[SI14 土層説明]

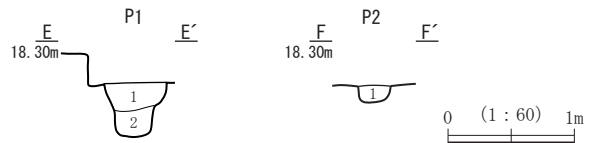
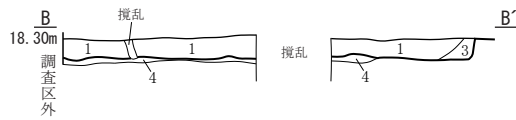
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック・赤色粒少量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有 締り有 ローム粒少量、焼土粒中量含む。
3. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック少量、黒色粒微量含む。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有 締り強い ロームブロック多量含む。貼床。

[P1 土層説明]

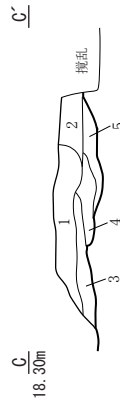
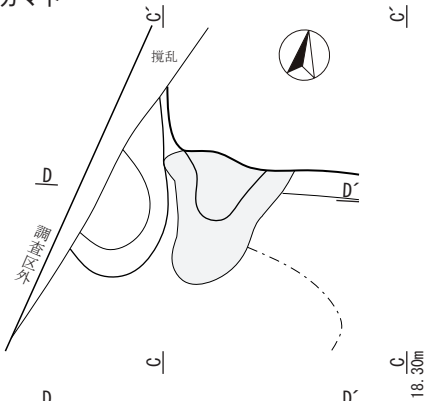
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒中量、ロームブロック少量、炭化物微量含む。埋め土。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック多量含む。埋め土。

[P2 土層説明]

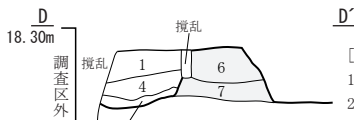
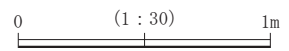
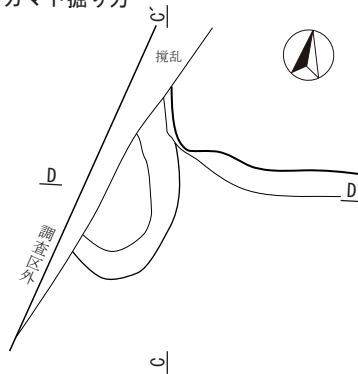
1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒多量、ロームブロック中量含む。埋め土。



カマド



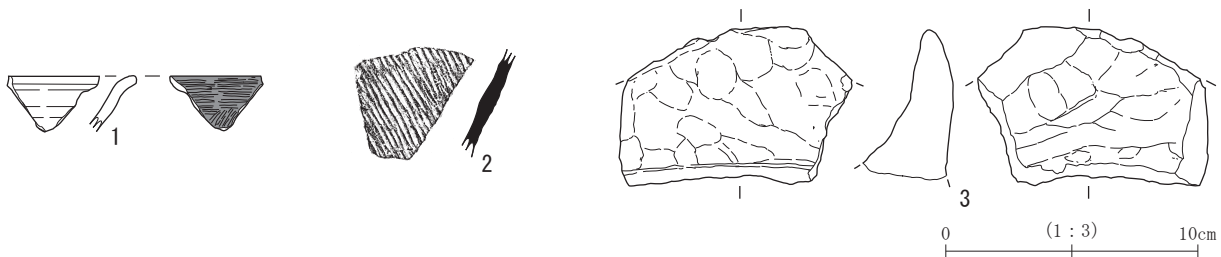
カマド掘り方



[カマド 土層説明]

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有 締り有 ローム粒・焼土粒少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄橙色土 粘性やや有 締り有 ローム粒多量、ロームブロック・焼土粒少量含む。天井崩落土。
3. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有 締り有 にぶい黄橙色砂質粘土中量、ローム粒・ロームブロック・焼土粒多量含む。天井崩落土。
4. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有 締り有 ロームブロック少量、焼土塊・焼土多量含む。火床面。
5. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒少量、焼土粒中量含む。
6. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 にぶい黄橙色砂質粘土少量、ローム粒・ロームブロック中量、焼土粒少量含む。袖構築土。
7. 10YR4/4 褐色土 粘性締り有 にぶい黄橙色砂質粘土中量、ローム粒多量、焼土粒微量含む。袖構築土。

第38図 SI14



第39図 SI14 出土遺物

第26表 SI14 出土土器観察表

法量欄：() 復元値、() 残存値

No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
1	土師器 坏	口径：－ 器高：－ 底径：－	口縁部片。口縁部は外反する。口縁部外面ヨコナデ。内面はヘラミガキ、黒色処理。	① 微砂粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面灰褐色、内面黒褐色。	北東部 覆土	
2	須恵器 甕	口径：－ 器高：－ 底径：－	体部片。外面は平行タタキ目。内面はヘラナデ。外面自然釉降灰。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面灰黄色、内面灰色。	北東部 覆土	
3	不明 土製品	長さ：〈6.2〉 幅：〈8.9〉 厚さ：〈3.3〉	下端剥落痕、左右両端欠損し、器形不明。内外面指頭で調整、後内外面下半部～下端横位の指ナデ。	① 小礫、長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面橙褐色、内面灰褐色。	北東部 覆土	

坦で、中央部からカマド前にかけて硬化していた。

ピット 建物跡の南端に1基(P1)、南東に1基(P2)確認された。P1は攪乱により東半分を欠失する。規模は残存値で54×24cm、深さ42cmを測り、覆土はロームブロック混じりの埋め戻したような土である。P2は24×21cm、深さ15cmを測る。P1は、位置からみれば出入口に伴うものと推定される。

カマド 北壁の中央に構築されている。袖部の規模は残存値で全長78cm、幅82cm、両袖部の内法36cmを測る。袖部はにぶい黄橙色砂質粘土と暗褐色土、褐色土の混合土を用いて構築されている。天井部は崩落しており、1～3層がそれに該当すると考えられる。燃烧部から煙道部には、広い範囲にわたって焼土が堆積しているが、明瞭な火床面は確認できなかった。

覆土 3層に分けられる。黒褐色土と暗褐色が流れ込んだような堆積を示し、自然堆積と考えられる。4層は貼床である。

遺物 土師器47点(坏・甕)、須恵器13点(坏、高台付坏)、土製品1点(不明製品)が検出されたが、遺物の量は少ない。図化した遺物は3点である。1は内黒処理の土師器坏、3は手づくねで作られた不明製品の破片であるが、下方は接合していたと思われる。

時期 出土遺物から、9世紀と推測される。

SI15

位置・重複関係等 B区東端、L・M-2グリッドに位置する。西側3分の2が調査区外に延びる。P30を切り込み、北東隅をP25に切り込まれている。南西隅からカマド直上にかけて攪乱に壊されている。

形状と規模 平面形は方形か長方形と推定される。規模は残存値で南北1.74m、東西3.7m、深さ28～46cmを測る。主軸方位は、N-100°-Eを示す。

壁 最大壁高は46cmを測り、ほぼ垂直に掘り込まれている。カマド以北の東壁西半部に沿って、浅い掘り込みの柵状施設が構築されていた。規模は長さは南北2.03m、幅40～67cm、確認面からの深さ3～5cmを測る。

壁溝 カマド前を除き、確認部分を全周する。幅10～20cm、深さ3～6cmを測る。

床 地山のⅢ層上面を床としていた。床面は概ね平坦で、カマド前から中央にかけて硬化していた。

ピット カマドの前方の貼床の下から1基確認された(P1)。残存値で42×36cm、深さ39cmを測る。覆土はロームブロック混じりの埋め戻したような土である。

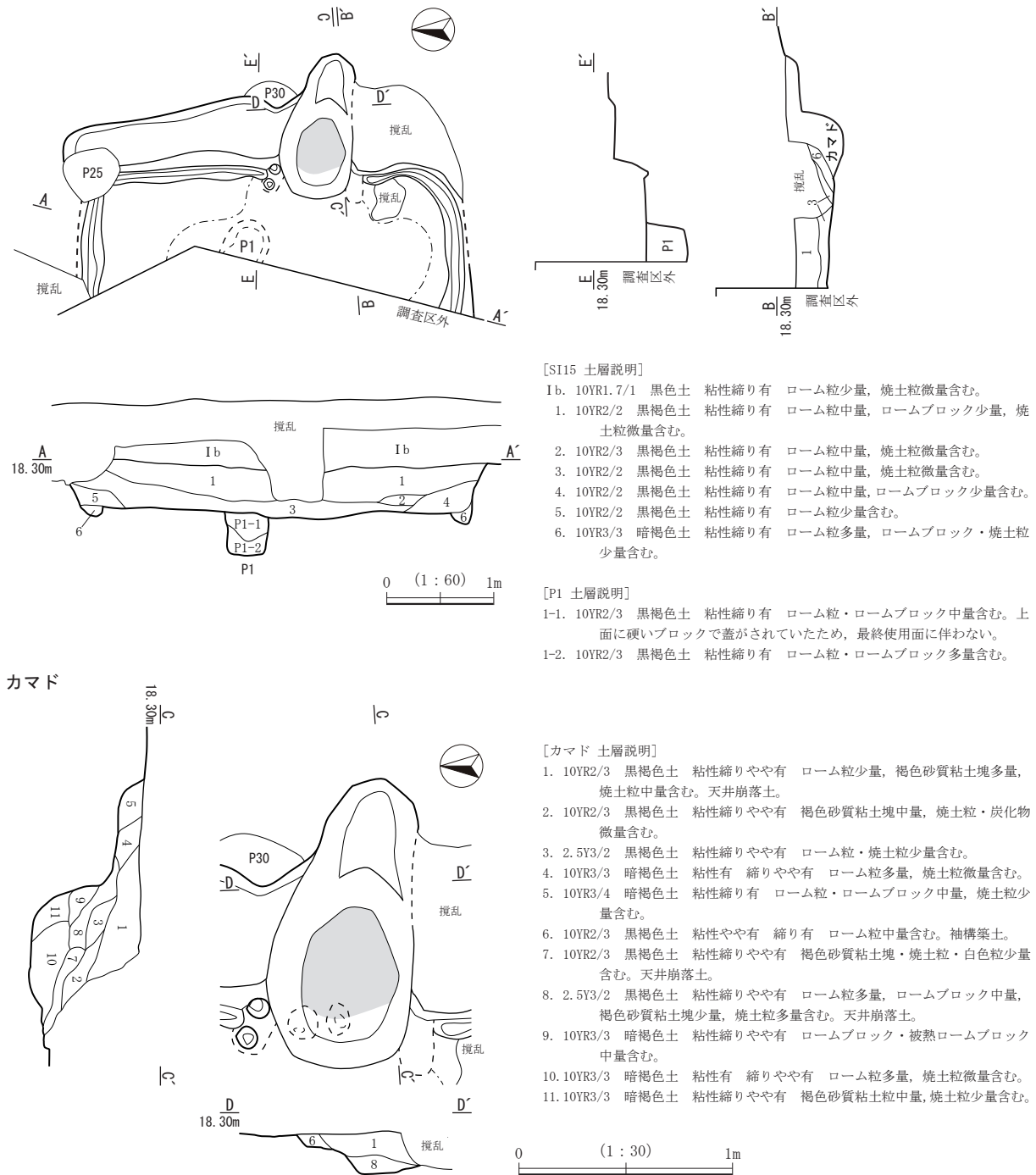
カマド 東壁の中央南寄りに構築されていたが、遺存状態は悪かった。規模は残存値で長さ140cm、幅92cm、両袖部の内法59cmを測る。燃烧部と煙道部の間は約30cmの段差がついており、煙道部の深さは5cm程の浅い掘り込みとなっている。袖部は褐色砂質粘土と黒褐色土や暗褐色などの混合土を用いて構築されていたが、壁際に僅かに残るのみであった。燃烧部には、広い範囲にわたって厚く焼土

が堆積しており、火床面は赤化していた。焚口付近から、直径10cm、深さ5～8cm程のピットが4基検出された。カマドの火床面上からは、土師器・須恵器片が多く出土した。

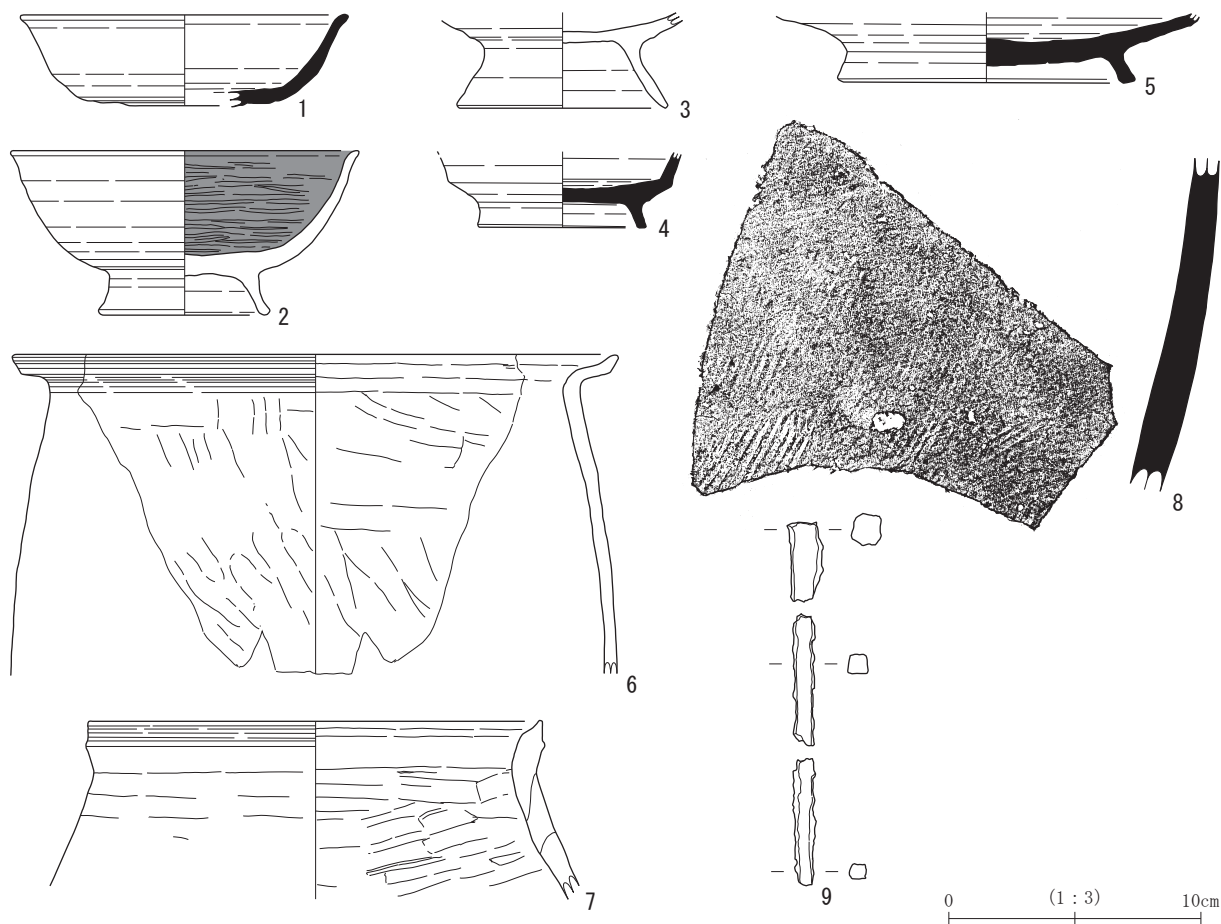
覆土 6層に分けられる。黒褐色土が流れ込んだ様相を示し、自然堆積と考えられる。

遺物 土師器99点(坏・高台付坏・高台付埴・甕), 須恵器19点(坏・高台付坏・坏蓋・盤・甕), 金属製品1点(釘)が出土した。凶化したのは9点である。2・3は高い高台の内黒の埴と思われるが、2はSI07-6に類似する器形であり、同年代であろう。1・4・5の須恵器は混入と考えられる。

時期 出土遺物からは、10世紀後葉～11世紀前葉と推測される。



第40図 SI15



第41図 SI15出土遺物

第27表 SI15出土土器観察表

				法量欄：() 復元値, () 残存値		
No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
1	須恵器 坏	口径:(13.0) 器高:3.6 底径:(7.4)	平底から体部は内湾しながら立ちあがり、口縁部は外反する。底部外面は回転ヘラ切り後、外周は回転ヘラケズリ。口縁部外面はヨコナデ。内面はヨコナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 普通。 ③ 外面黄橙色、内面灰褐色。	カマド内	
2	土師器 高台付埴	口径:(13.8) 器高:6.5 底径:6.8	平底から口縁部は内湾して立ちあがる。高台部は外傾して貼付。高台部外面回転ナデ。体部外面はヨコナデ。下位は回転ヘラケズリ。内面はミガキ、黒色処理。	① 微砂粒を含む。 ② 普通。 ③ 外面赤橙褐色、内面黒褐色。	南半部 床面	被熱。
3	土師器 高台付埴	口径:- 器高:(3.8) 底径:8.4	平底から体部は内湾して立ちあがる。高台部は高く、外傾して貼付。体部最下位回転ナデ。内面は剥落し調整は不明。高台部内外面回転ナデ、高台内回転ケズリ。	① 微砂粒を含む。 ② 普通。 ③ 外面灰褐色、内面橙色。	カマド内	被熱。
4	須恵器 高台付坏	口径:- 器高:(3.0) 底径:6.7	体部下位に外傾し明瞭な稜を有し、体部は外傾して立ちあがる。高台部はやや外傾して貼付、端部は平坦。体部外面下位と内面はヨコナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面青灰色、内面灰色。	カマド内	
5	須恵器 盤	口径:- 器高:(2.8) 底径:11.8	底部から体部は外傾して立ちあがる。底部回転ヘラ切り後、高台部は外傾して貼付、端部は平坦。高台部内外面回転ナデ。内面はヨコナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 暗灰色。	カマド内	内面擦れている。
6	土師器 甕	口径:(24.0) 器高:(12.6) 底径:-	頸部はくびれ、口縁部はくの字状に立ちあがる。外面口縁部、頸部はヨコナデが施され、体部は斜位のナデ。内面はヨコナデ、斜位のナデ。	① 小礫、長石、石英粒、雲母を含む。 ② 良好。 ③ 橙褐色。	床面	
7	土師器 甕	口径:18.0 器高:7.0 底径:-	体部から頸部、口縁部に向けて内傾して立ちあがり、口縁部は直立し、端部は尖り気味となる。外面の口縁部、頸部はヨコナデ、体部はナデ。内面はヨコナデ。	① 小礫、長石、石英粒、雲母を含む。 ② 普通。 ③ 外面赤褐色、内面橙色。	カマド内	
8	須恵器 甕	口径:- 器高:- 底径:-	体部片。外面に縦位、斜位の平行タタキ目。内面は横位の丁寧なナデ。	① 長石、石英粒含む。 ② 良好。 ③ 外面灰色、内面黄灰色。	覆土	内外面体部被熱剥落。

第28表 SI15出土金属製品観察表

				法量欄：() 復元値, () 残存値		
No.	器種	法量 (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置	備考
9	鉄製品 釘	長さ:(13.2) 厚さ:0.7~1.2	<22.6>	3つに分かれた断片。断面形は方形を呈する。尖端部は欠損する。	北半部 覆土	

SI16

位置・重複関係等 B区北東端，K・L-3グリッドに位置する。東側3分の1が調査区外に延びる。南西隅から北東隅は攪乱溝に壊されている。

形状と規模 平面形は東西方向を長辺とする方形か長方形と推定される。規模は残存値で南北3.55m，東西3.56m，深さ22～30cmを測る。主軸方位は，N-84°-Eを示す。

壁 最大壁高は30cmを測り，急傾斜で掘り込まれている。

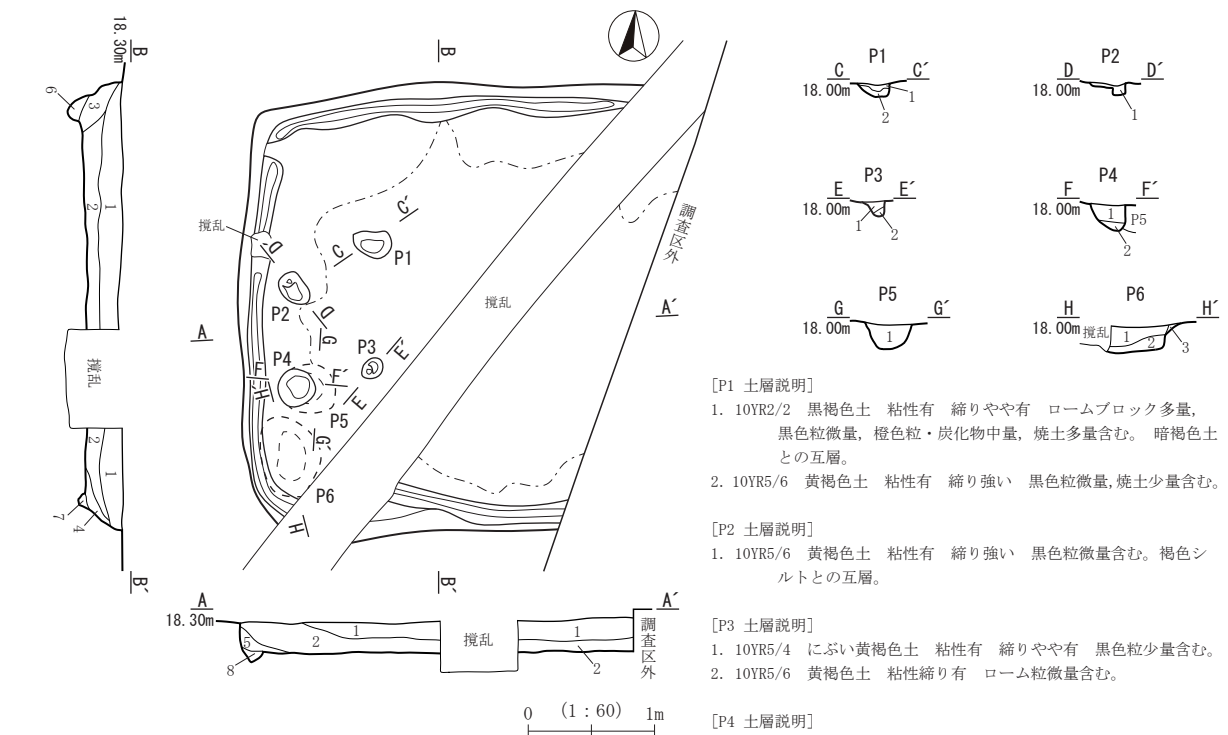
壁溝 確認部分を全周する。幅11～18cm，深さ3～7cmを測る。

床 地山のⅢ層上面を床としていた。床面は概ね平坦で，壁際を除いた全面が硬化していた。

ピット 西壁寄りに4基確認された(P1～4)。P1が36×21cm，深さ12cm，P2が30×18cm，深さ6cm，P3が18×15cm，深さ12cm，P4が30×24cm，深さ21cmを測る。P2は，位置からすると出入口に伴う可能性がある。また西南角付近の硬化面の下からピット2基(P5・6)が確認された。P5はP4と西側で重複している。規模はP5は残存値で39×36cm，深さ18cm，P6は大型で，平面形は楕円形を呈し，規模は残存値で65×48cm，深さ23cmを測る。

カマド 調査区内では確認されなかった。

覆土 8層に分けられる。黒褐色土と暗褐色土が流れ込んだような堆積を示し，自然堆積と考えられる。



[SI16 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック少量，焼土粒・炭化物微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒中量，ロームブロック・焼土粒少量含む。
3. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック中量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有 締りやや有 ローム粒多量，焼土粒・炭化物微量含む。
5. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック中量，焼土粒微量含む。
6. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有 締りやや有 ローム粒多量，ロームブロック中量含む。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有 締りやや有 ローム粒多量，ロームブロック少量，焼土粒微量含む。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有 締りやや有 ローム粒多量，ロームブロック中量含む。

[P1 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有 締りやや有 ロームブロック多量，黒色粒微量，橙色粒・炭化物中量，焼土多量含む。暗褐色土との互層。
2. 10YR5/6 黄褐色土 粘性有 締り強い 黒色粒微量，焼土少量含む。

[P2 土層説明]

1. 10YR5/6 黄褐色土 粘性有 締り強い 黒色粒微量含む。褐色シルトとの互層。

[P3 土層説明]

1. 10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘性有 締りやや有 黒色粒少量含む。
2. 10YR5/6 黄褐色土 粘性締り有 ローム粒微量含む。

[P4 土層説明]

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性有 締りやや有 黒色粒少量含む。径5cm以内の黄褐色シルトブロック混入。柱穴。
2. 10YR5/6 黄褐色土 粘性有 締り強い 炭化物少量含む。

[P5 土層説明]

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック少量含む。P4に壊され，上面が硬化する。

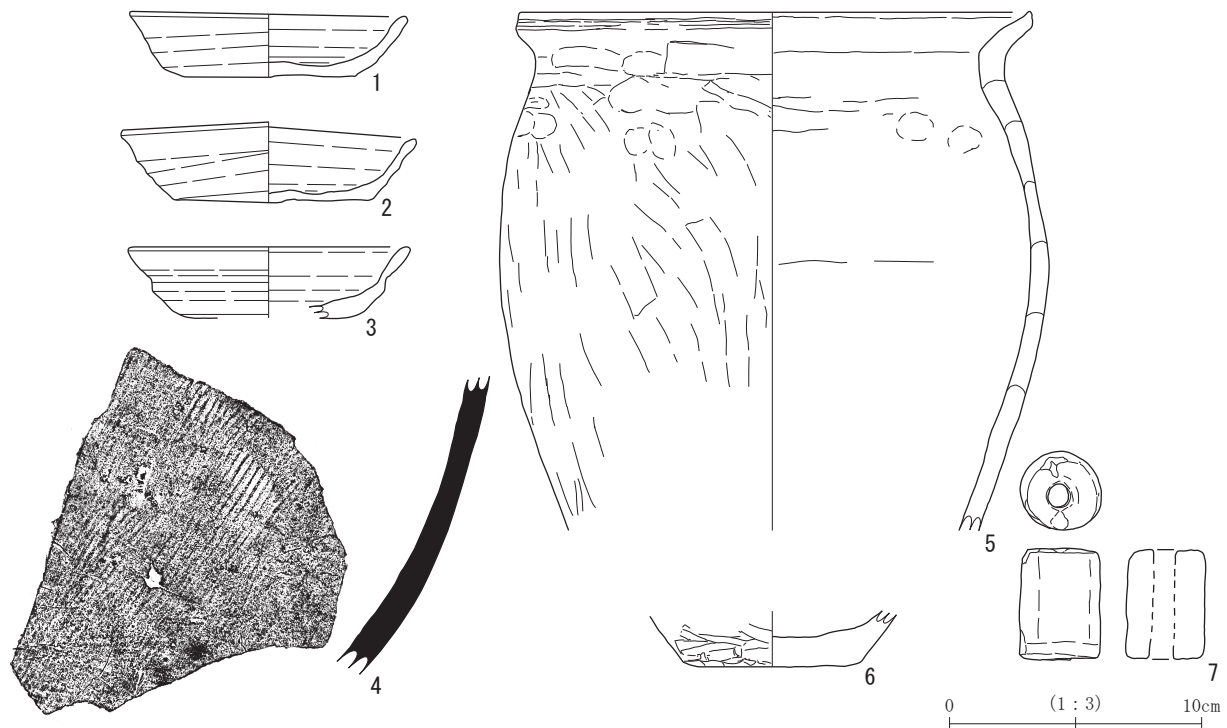
[P6 土層説明]

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック少量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性締り有 ローム粒多量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性締り有 ローム粒少量含む。

第42図 SI16

遺物 土師器137点(坏・高台付坏・皿・鉢・甕), 須恵器49点(坏・高台付坏・坏蓋・盤・壺・甕), 土製品1点(土錘), 製鉄関連1点(鉄滓)である。図化した遺物は7点, 写真のみ掲載が1点である。1~3は底部回転ヘラ切りの土師器坏である。いずれも底形が大きく, 類似する器形・寸法である。5は器壁が厚い常総型甕の年代的には新しいタイプと思われる。7は53gを量る管状土錘である。8は鉄滓であるが(覆土から出土; 写真図版19), SI07からの混入と思われる。

時期 出土遺物からは, 10世紀後葉~11世紀前葉と推測される。



第43図 SI16出土遺物

第29表 SI16出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調			出土位置	備考
				法量欄: () 復元値, () 残存値				
1	土師器 坏	口径:11.0 器高:2.6 底径:7.0	平底から口縁部は外傾して立ちあがる。内外面ヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切り。	① 長石, 石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 黄褐色。		北東部		
2	土師器 坏	口径:11.7 器高:3.2 底径:7.7	平底から口縁部は外傾して立ちあがる。内外面ヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切り。	① 長石, 石英粒を含む。 ② 普通。 ③ 黄褐色。		南東部 壁溝内	内外面剥落。	
3	土師器 坏	口径:(11.2) 器高:<2.8> 底径: -	平底から体部は内湾しつつ立ちあがり, 口縁部は外反する。中位にくびれあり。内外面はヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切り。	① 長石, 石英粒を含む。 ② 普通。 ③ 黄褐色。		覆土	被熱。	
4	須恵器 甕	口径: - 器高: - 底径: -	体部片。外面に斜位の平行タタキ目。内面にヨコナデ。	① 小礫, 長石, 石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面青灰色, 内面灰色。		P6 覆土		
5	土師器 甕	口径:20.5 器高:<22.3> 底径: -	体部上位に最大径を有す。頸部~口縁部はくの字状に立ちあがる。腰部は摘みあげ。外面口縁部はヨコナデ, 体部はナデ。内面は上位はヨコナデ, 下位はナデ。	① 長石, 石英粒を含む。 ② 普通。 ③ 灰褐色。		北東部 覆土	被熱。	
6	土師器 甕	口径: - 器高:<7.0> 底径:7.0	平底から体部は外傾して立ちあがる。底部外面, 体部下位はヘラケズリ。内面はナデ。	① 小礫, 長石, 石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 褐色。		南西部 覆土	内外面剥落。	

第30表 SI16出土土製品観察表

No.	器種	法量(cm)	重量(g)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調			出土位置	備考
					法量欄: () 復元値, () 残存値				
7	土製品 管状土錘	長さ: 4.4 口径: 3.2 厚さ: 0.9	53.0	両端が切断され, 長軸に孔を有する。孔径:5mm。側面は丁寧にナデが施される。	① 長石, 石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 赤褐色。		南西部 床面		

SI17

位置・重複関係等 B区南西端，P-1グリッドに位置する。大部分は西側の調査区外に延びる。

形状と規模 平面形は方形か長方形と推定され。規模は残存値で南北2.70m，東西0.85m，深さ36cmを測る。主軸方位は，N-86°-Wを示す。

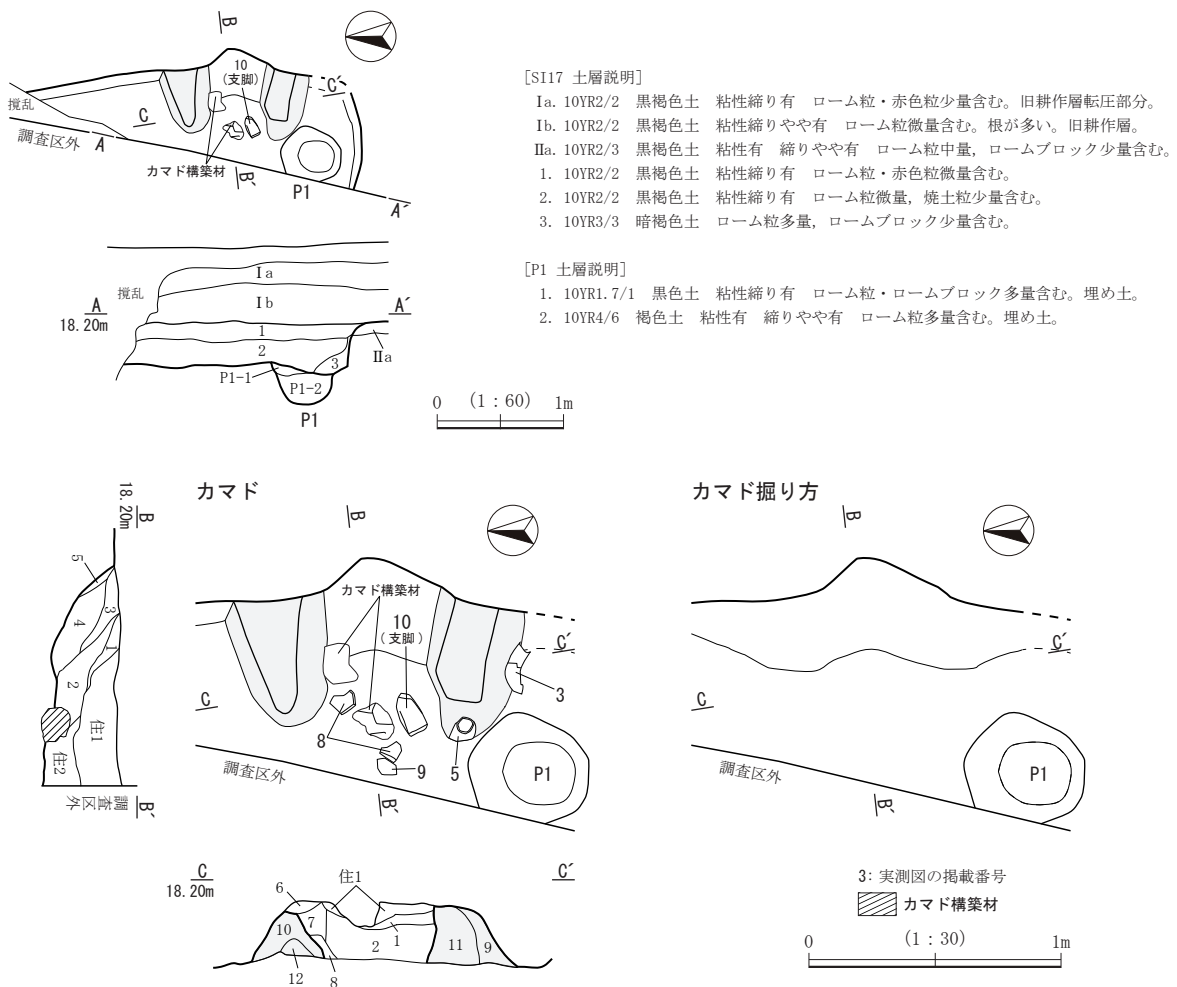
壁 最大壁高は36cmを測り，ほぼ垂直に掘り込まれている。

壁溝 調査区内では確認されなかった。

床 地山のⅢ層上面を床としていた。床面は概ね平坦で，全面にわたって硬化していた。

ピット 南東隅に1基確認された(P1)。規模は残存値で48×42cm，深さ32cmを測る。ロームブロック混じりの埋め戻したような覆土である。形状・規模と位置から，支柱穴ないし貯蔵穴と考えられる。

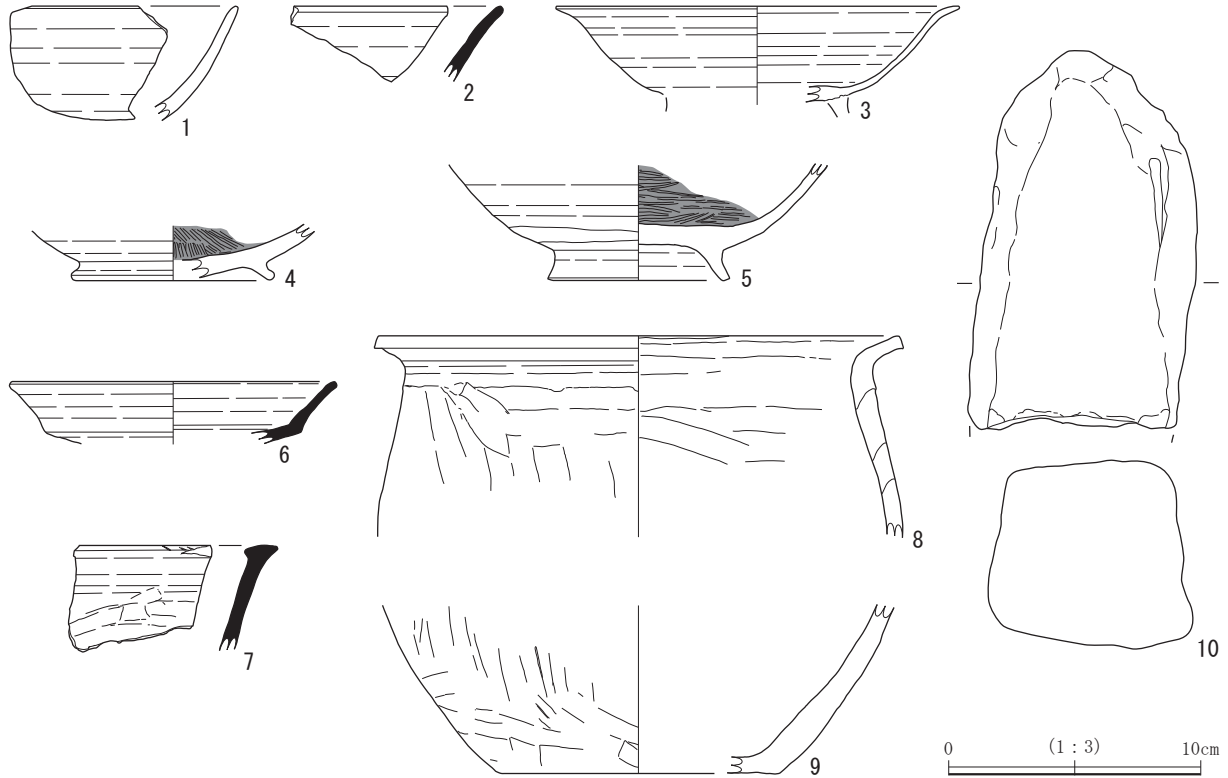
カマド 東壁の中央南寄りに構築されていた。規模は全長75cm，幅117cm，両袖部の内法46cmを測る。



[カマド 土層説明]

- 住1. 10YR2/2 黒褐色土。[SI17-1と同]
- 住2. 10YR2/2 黒褐色土。[SI17-2と同]
- 1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締りやや有 ローム粒・焼土粒少量，ロームブロック微量含む。
- 2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性有 締りやや有 ローム粒・焼土・焼土粒中量含む。天井崩落土。
- 3. 10YR4/3 にぶい黄橙色土 粘性締りやや有 同色塊・焼土塊中量含む。天井崩落土。
- 4. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締りやや有 ローム粒少量，焼土粒中量含む。
- 5. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒・焼土粒少量含む。
- 6. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有 締りやや有 ローム粒微量含む。
- 7. 10YR4/3 にぶい黄橙色土 粘性締り有 同色塊・焼土塊中量含む。壁面崩落土。
- 8. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし 締りやや有 焼土粒多量含む。壁面の焼成部。
- 9. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒少量，炭化物・赤色粒微量含む。袖構築土。
- 10. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有 締りやや有 ローム粒・焼土粒少量含む。袖構築土。
- 11. 10YR4/3 にぶい黄橙色土 粘性締り有 同色粒中量，ロームブロック・焼土粒少量含む。袖構築土。
- 12. 10YR4/4 褐色土 粘性締り有 褐色土塊主体，焼土粒少量含む。袖構築土。

第44図 SI17



第45図 SI17出土遺物

第31表 SI17出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	法量欄: () 復元値, () 残存値		
				①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
1	土師器 坏	口径: - 器高: - 底径: -	体部から口縁部は内湾して立ちあがる。内外面ヨコナデ。	① 長石, 石英粒を含む。 ② 普通。 ③ 外面黄橙色, 内面暗灰色。	カマド 燃烧部	
2	須恵器 坏	口径: - 器高: - 底径: -	口縁部は外反する。内外面ヨコナデ。	① 黒色粒を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	カマド内	
3	土師器 高台付埴	口径: (16.0) 器高: <3.8> 底径: -	底部から体部は内湾して立ちあがり, 口縁部は強く外反する。高台部は剥落, 薄手。高台内回転糸切り。外面底部際の体部回転ヘラケズリ。内外面はヨコナデ。	① 微砂粒を含む。 ② 良好。 ③ 褐色。	カマド 左袖外側	
4	土師器 高台付埴	口径: - 器高: <2.2> 底径: (8.0)	底部から体部は内湾して立ちあがる。高台部は低い外傾して貼付, 端部は丸みをもつ。高台部内外面回転ナデ。体部外面ヨコナデ。内面はヘラミガキ, 黒色処理。	① 微砂粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面灰褐色, 内面黒褐色。	カマド袖	
5	土師器 高台付埴	口径: - 器高: <4.6> 底径: (7.2)	底部から体部は内湾して立ちあがる。高台部は外傾して貼付, 端部は平坦。体部外面上位はヨコナデ。下位底部は回転ヘラケズリ, 高台部周囲は回転ナデ。内面はヘラミガキ, 黒色処理。	① 微砂粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面褐色, 内面橙褐色, 暗褐色。	カマド 左袖先	
6	須恵器 盤	口径: (13.0) 器高: <2.5> 底径: -	体部中位に稜があり, 口縁部は外反する。内外面ヨコナデ。	① 小礫, 長石, 石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	カマド内	
7	須恵器 甔	口径: - 器高: - 底径: -	体部から口縁部にかけて外傾して立ちあがる。口唇部は幅広く平坦。口縁部内外面はヨコナデ。	① 長石, 石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	床面	
8	土師器 甕	口径: (21.0) 器高: <8.0> 底径: -	頸部〜口縁部はくの字状に立ちあがる。口唇部は平坦に作出される。外面口縁部と頸部はヨコナデ, 体部はナデ。内面口縁部はヨコナデ, 体部ヘラナデ。	① 長石, 石英粒, 雲母を含む。 ② 普通。 ③ 外面褐色, 内面暗橙色。	カマド内	口縁部内外面に煤附着。
9	土師器 甕	口径: - 器高: <6.7> 底径: (11.2)	平底から体部は外傾して立ちあがる。体部外面下位は縦位のナデ, 体部下端は横位のケズリ。内面はナデ。	① 長石, 石英粒, 雲母を含む。 ② 普通。 ③ 赤橙色。	床面	被熱し, 内外面剥落。

第32表 SI17出土石製品観察表

No.	器種	法量 (cm)	重量 (g)	法量欄: () 復元値, () 残存値			
				特徴	石材	出土位置	備考
10	石製品 支脚	長さ: 14.0 幅: 8.0 厚さ: 6.8	489.5	四角柱で, 頂部は尖る。横断面は方形を呈する。側面は縦位のヘラケズリ。色調は灰黄色。	凝灰岩	カマド内	外面被熱。

壁外への突出部分は小さい。袖部はにぶい黄橙色砂質粘土と黒褐色土や暗褐色などの混合土を用いて構築されていた。天井部は崩落しており、2・3層がそれに該当すると考えられる。燃烧部から煙道部には、広い範囲にわたって焼土が堆積しているが、明瞭な火床面は確認できなかった。焚口部付近には、被熱して赤化した凝灰岩の破片が検出された。カマドの内部からは、土師器・須恵器片が出土しており、焚口部には凝灰岩製の支脚(10)が奥に向かって倒れた状態で出土した。

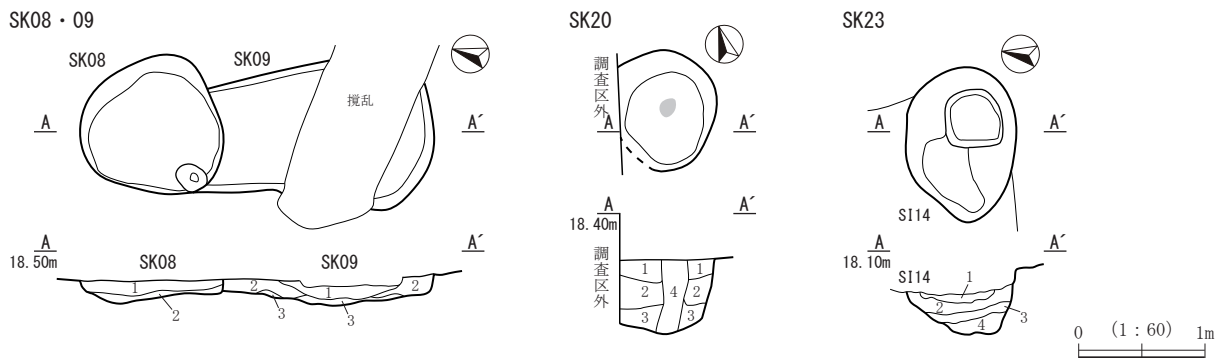
覆土 3層に分けられる。黒褐色土と暗褐色土が流れ込んだような堆積を示し、自然堆積と考えられる。

遺物 土師器70点(坏・高台付碗・小型甕・甕), 須恵器20点(坏・盤・甑・甕), 石製品1点(支脚)である。図化した遺物は、10点である。3は薄手の土師器高台付碗で11世紀第2四半期か。4・5は高台が低く、ハの字形に広がる内黒の高台付碗で、年代は10世紀後半である。8は厚手の常総型甕で、年代的には新しい。10は凝灰岩を面取りして四角柱に加工している。

時期 出土遺物からは、10世紀後葉～11世紀前葉と推測される。

2 土坑

この時期の土坑は4基検出した。出土場所はA区南側で2基、B区内で2基である。覆土と出土遺物の様相からこの時期としたが、SK20は柱痕跡がみられることから柱穴の可能性もある。形態は円形を中心とし、一部長方形もある。規模は長軸・短軸共に100cm内外である。出土遺物は土師器片が多く、図化可能な遺物はない。



[SK08 土層説明]

- 10YR2/5 黒褐色土 粘性強い 締り有 焼土粒・炭化物微量、橙色粒少量含む。
- 10YR4/6 褐色土 粘性強い 締り有 ローム主体層。

[SK09 土層説明]

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし 締り有 ローム粒微量含む。攪乱土。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・橙色粒少量、ロームブロック微量含む。
- 10YR4/4 褐色土 粘性やや有 締り有 橙色粒微量含む。

[SK20 土層説明]

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし 締り有 ローム粒・黒色粒微量含む。埋め土。
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性強い 締り有 ロームブロック多量、黒色粒微量含む。埋め土。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒・黒色粒微量、ロームブロック中量含む。埋め土。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒少量、黒色粒微量含む。

[SK23 土層説明]

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性強い 締り有 ロームブロック少量含む。
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性強い 締り有 ロームブロック多量、黒色粒少量含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性強い 締りやや有 ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
- 10YR4/6 褐色土 粘性強い 締り有 ローム主体層。

第46図 奈良・平安時代の土坑(SK08・SK09・SK20・SK23)

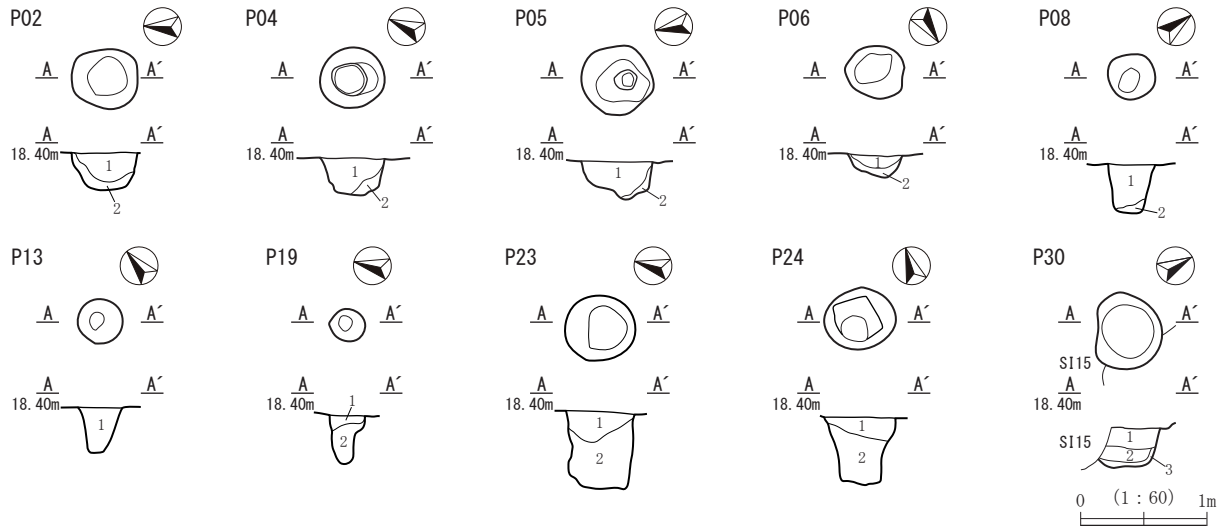
第33表 奈良・平安時代の土坑一覧表

土坑名	区	グリッド	平面形	断面形	寸法(cm)			切り合い関係	出土遺物(総数, 単位点)等
					長軸	短軸	深さ		
SK08	A区	G-9・10	不整形円形	皿形	115	108	18	SK09を切る。	土師器11: 坏, 坏蓋, 小型甕, 甕, 須恵器2: 坏蓋
SK09	A区	G・H-9・10	不整形長方形	皿形	<168>	111	18	SK08に切られる。	土師器7: 甕
SK20	B区	Q-1	不整形円形	逆台形	94	<80>	57	-	なし, 柱痕あり
SK23	B区	N-2	不整形円形	逆台形	122	88	42	SI14に切られる。	なし

*「出土遺物」欄の遺物は、その遺構に伴う時代の遺物のみ記述している。

3 ピット

この時期のピットは10基検出した。出土場所はA区南側に集中する傾向があるが(6基)、並びのみられるものはない。覆土と出土遺物の様相からこの時期とした。ピットの形態はいずれも円形を中心とし、規模は26~72cm、深さは17~61cmで、柱痕跡が認められるものはなかった。出土遺物は土師器の破片が主であり、図化可能な遺物はなかった。(小野・鈴木)



[P02 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強い 締り有 ローム粒・橙色粒微量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有 締り有 橙色粒微量含む。

[P04 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有 締りやや有 ローム粒・黒色粒微量含む。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有 締り悪い ローム粒中量、ロームブロック微量含む。

[P05 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒・黒色粒・橙色粒微量含む。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性弱い 締り悪い ローム主体層。

[P06 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒・ロームブロック・橙色粒微量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ロームブロック・橙色粒微量含む。

[P08 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック中量含む。
2. 10YR5/8 黄褐色土 粘性締り有 ローム土多量含む。

[P13 土層説明]

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック中量含む。

[P19 土層説明]

1. 10YR2/1 黒色土 粘性締り有 ローム粒中量、ロームブロック少量含む。
2. 10YR2/1 黒色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック少量含む。

[P23 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒中量、黒色粒微量含む。
2. 10YR1.7/1 黒色土 粘性締り有 ローム粒多量、ロームブロック少量、黒色粒微量含む。

[P24 土層説明]

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒少量、ロームブロック中量、赤色粒微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒、ロームブロック中量含む。

[P30 土層説明]

1. 10YR2/1 黒色土 粘性やや有 締り有 ローム粒・ロームブロック少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有 締り有 ローム粒少量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック中量含む。

第47図 奈良・平安時代のピット
(P02・P04・P05・P06・P08・P13・P19・P23・P24・P30)

第34表 奈良・平安時代のピット一覧表

寸法欄() 残存値

ピット名	区	グリッド	平面形	断面形	寸法 (cm)				切り合い関係	出土遺物(総数, 単位点)等
					長軸	短軸	深さ	底面標高		
P 02	A区	H-9	不整楕円形	逆台形	72	63	59	17.70	-	土師器: 甕1
P 04	A区	G-9	円形	椀形	52	48	29	18.00	-	土師器: 甕2, 須恵器: 杯類1
P 05	A区	G-9	不整円形	凹字形	54	53	30	17.95	-	なし
P 06	A区	G-8	不整円形	皿形	47	42	17	18.10	-	土師器: 坏類1
P 08	A区	D-9	円形	逆台形	39	37	38	17.85	-	なし
P 13	A区	F-9	円形	逆台形	35	35	36	17.90	-	なし
P 19	A区	C-10	円形	段形	29	26	40	17.85	-	なし
P 23	A区	G-7	円形	箱形	57	52	61	17.65	-	土師器: 甕9
P 24	A区	G-6	不整楕円形	逆台形	57	49	54	17.65	-	土師器: 甕1, 須恵器: 甕1
P 30	B区	L-2	不整楕円形	箱形	60	(54)	31	17.80	S I 15に切られる。	なし

*「出土遺物」欄の遺物は、その遺構に伴う時代の遺物のみ記述している。

第5節 中・近世

1 溝跡

SD01

位置・重複関係等 A区南端，H-9～11，I-9～12グリッドに位置し，A区の南端に沿って東西方向に延びている。SD03を切り込んでいる。南壁の大部分と，両端部は調査区外に延びている。

形状と規模 規模は残存値で全長18.5mを測る。走行方向はN-86°-Wを示す。東半部と西半部で断面形及び底面の形状が異なる。東半分は，幅4.14m，深さ0.93～1.33mを測り，断面形は箱葉研状を呈する。北側に長さ8.06m，幅1.30～1.42mの平場が設けられている。平場の確認面からの深さは24～42cm，溝の底面からの高さは69～93cmを測り，壁面は比較的急傾斜で掘り込まれている。溝の底面は概ね平坦で，幅0.42～0.6mを測る。西半分は，南側が調査区外のため全容は不明ではあるが，残存値で幅2.6m，深さ76～102cmを測り，断面形は逆台形を呈する。壁面は比較的急傾斜で掘り込まれている。底面は概ね平坦で，残存値で幅2.12mを測る。東西両端の底面標高は，西高東低で37cmの高低差が認められる。流水，滞水の痕跡は確認されなかった。

覆土 東端付近で13層，中央付近で4層の計17層に分けられる。ローム粒とロームブロックを多く含んだ黒褐色と暗褐色土を中心としており，基本的には埋め土と考えられる。

遺物 東端に近い覆土上層から土器の焙烙が2点(1・2)，陶器大甕の破片が，覆土下層から1点(3)，断面Aの3層から1点(4)，B付近の上層から1点(5)の計3点が出土した。

時期 覆土の様相と出土遺物から，中・近世の所産と考えられる。内耳土器からは近世にまで下る可能性がある。

SD02

位置・重複関係等 A区南側中央，G-8～12グリッドに位置するが，東西両端は消失している。SD04を切り込み，SD03に切り込まれている。東側を部分的に攪乱で壊されている。

形状と規模 走行方向は東西方向で，長軸方向はN-84°-Wを示す。規模は残存値で全長17m，幅0.54～1.22m，深さ3～14cmを測る。断面形は皿状を呈し，浅い。東西両端の底面標高は，東高西低で16cmの高低差が認められる。流水，滞水の痕跡は確認されなかった。

覆土 3層に分けられる。ローム粒を少量含んだ黒褐色土を中心としており，自然堆積と考えられる。

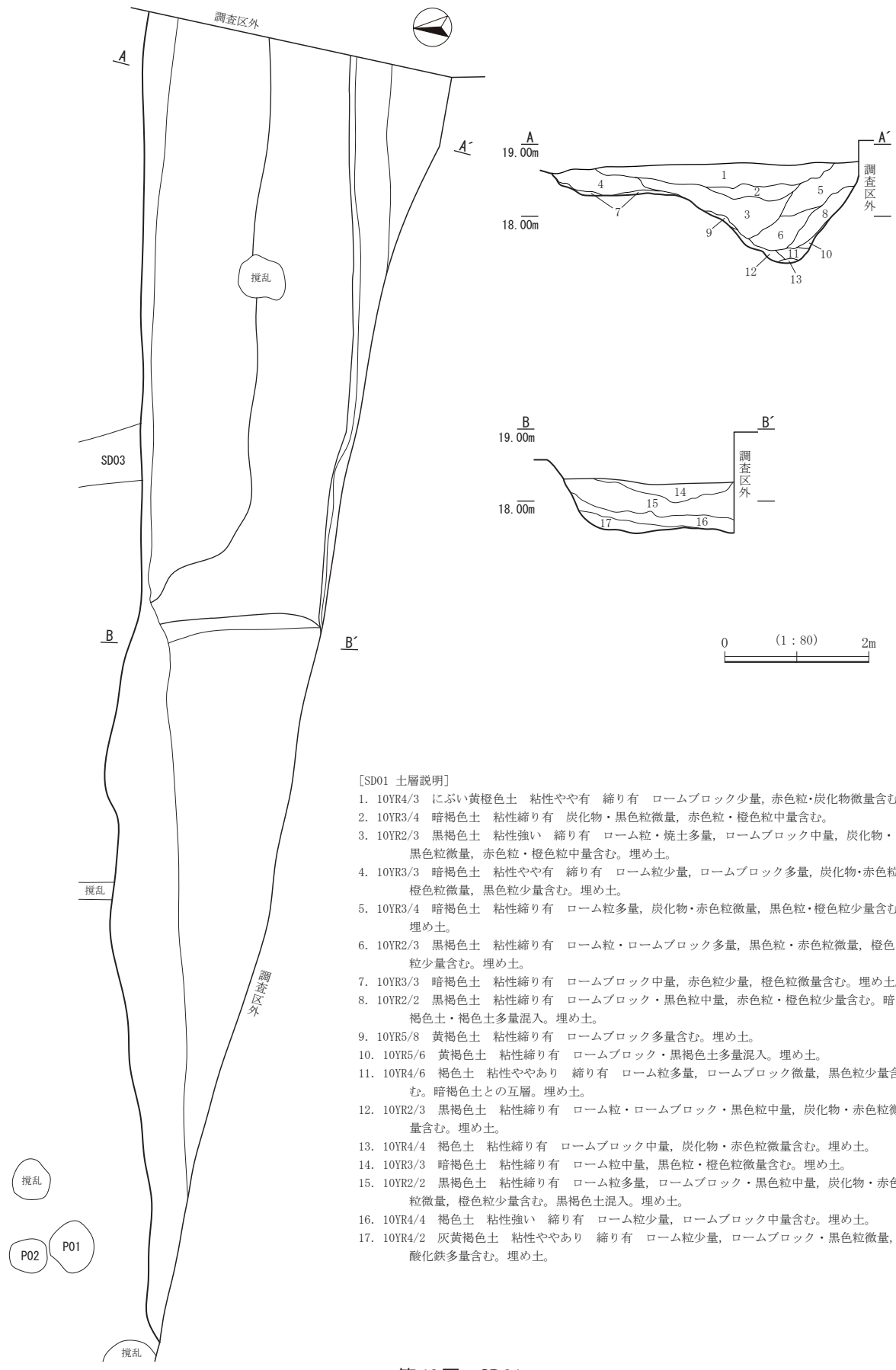
遺物 本遺構に伴う遺物はない。

時期 覆土の様相と走行方向から，中・近世の所産と考えられる。

SD03

位置・重複関係等 A区南側，F-6～11，G・H-11グリッドに位置し，掘り込み面はIIa層上面である。SD02・04を切り込み，SD01に切り込まれて欠失する。

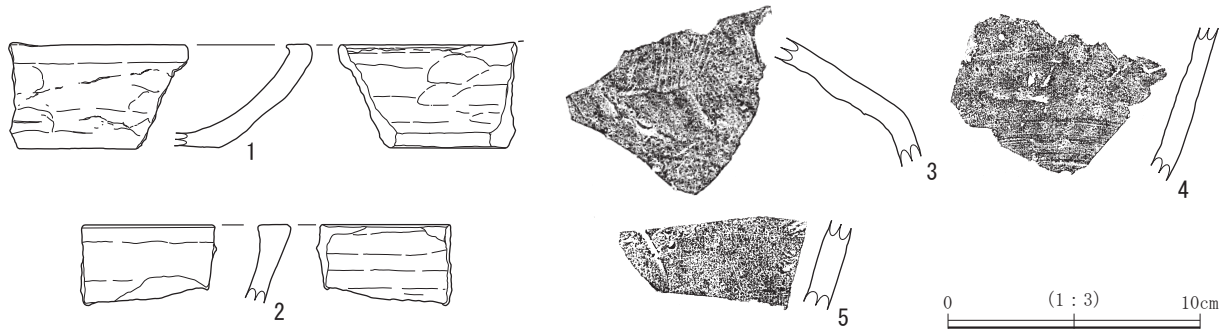
形状と規模 走行方向はF-10グリッドで東西方向から向きを変えて南東方向に変える。F・G-6～10グリッドでは3m弱の間隔でSD04と並行する。全長32.92m，幅0.44～1.08m，深さ20～28cmを測る。長軸方向は，N-18°-WからN-87°-Wへと変わる。掘り込み面から残る西壁の断面Eでは，幅1.5m，幅0.94m，深さ66cmを測り，断面形は逆台形を呈する。底面はやや起伏を持つものの，概ね平坦である。本溝の西と南両端の底面標高は，南高西低で17cmの高低差が認められる。流水，滞水の痕跡は確認されなかった。



[SD01 土層説明]

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性やや有 締り有 ロームブロック少量, 赤色粒・炭化物微量含む。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性締り有 炭化物・黒色粒微量, 赤色粒・橙色粒中量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒・焼土多量, ロームブロック中量, 炭化物・黒色粒微量, 赤色粒・橙色粒中量含む。埋め土。
4. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有 締り有 ローム粒少量, ロームブロック多量, 炭化物・赤色粒・橙色粒微量, 黒色粒少量含む。埋め土。
5. 10YR3/4 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒多量, 炭化物・赤色粒微量, 黒色粒・橙色粒少量含む。埋め土。
6. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック多量, 黒色粒・赤色粒微量, 橙色粒少量含む。埋め土。
7. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ロームブロック中量, 赤色粒少量, 橙色粒微量含む。埋め土。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ロームブロック・黒色粒中量, 赤色粒・橙色粒少量含む。暗褐色土・褐色土多量混入。埋め土。
9. 10YR5/8 黄褐色土 粘性締り有 ロームブロック多量含む。埋め土。
10. 10YR5/6 黄褐色土 粘性締り有 ロームブロック・黒褐色土多量混入。埋め土。
11. 10YR4/6 褐色土 粘性ややあり 締り有 ローム粒多量, ロームブロック微量, 黒色粒少量含む。暗褐色土との互層。埋め土。
12. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック・黒色粒中量, 炭化物・赤色粒微量含む。埋め土。
13. 10YR4/4 褐色土 粘性締り有 ロームブロック中量, 炭化物・赤色粒微量含む。埋め土。
14. 10YR3/3 暗褐色土 粘性締り有 ローム粒中量, 黒色粒・橙色粒微量含む。埋め土。
15. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒多量, ロームブロック・黒色粒中量, 炭化物・赤色粒微量, 橙色粒少量含む。黒褐色土混入。埋め土。
16. 10YR4/4 褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒少量, ロームブロック中量含む。埋め土。
17. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性ややあり 締り有 ローム粒少量, ロームブロック・黒色粒微量, 酸化鉄多量含む。埋め土。

第48図 SD01



第49図 SD01出土遺物

第35表 SD01出土陶器・土器観察表

法量欄：() 復元値、() 残存値

No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
1	土器 焙烙	口径：－ 器高：－ 底径：－	瓦質。平底から体部は外傾して立ちあがる。口唇部は平坦で、内端部は突出する。体部外面は紐作り成形で、内外面はヨコナデ。体部下端はヘラケズリ。	① 長石、石英粒、雲母を含む。 ② 普通。 ③ 暗褐色。	1～5層 I-12グリッド	外面煤付着。 17～19世紀。
2	土器 焙烙	口径：－ 器高：－ 底径：－	瓦質。体部から口縁部は外傾して立ちあがる。口唇部は平坦に作出する。口縁部内外面はヨコナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 普通。 ③ 黒褐色。	1～5層 I-12グリッド	内外面煤付着。 17～19世紀。
3	陶器 大甕	口径：－ 器高：－ 底径：－	肩部から体部片。内面はヨコナデ。外面降灰。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面褐灰色、内面暗褐色。	1～5層 I-12グリッド	常滑産 14・15世紀
4	陶器 大甕	口径：－ 器高：－ 底径：－	体部片。体部は輪積みで成形され、内外面共にヨコナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面暗赤色、内面灰色。	土層断面Aの 3層 I-12グリッド	常滑産 14・15世紀
5	陶器 大甕	口径：－ 器高：－ 底径：－	体部片。内外面共にナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 暗赤褐色。	1～5層 I-10グリッド	常滑産 14・15世紀

覆土 5層に分けられる。ローム粒を少量含んだ黒褐色土を中心としており、自然堆積と考えられる。

遺物 本遺構に伴う遺物はない。

時期 覆土の様相と走行方向から、中・近世の所産と考えられる。

SD04

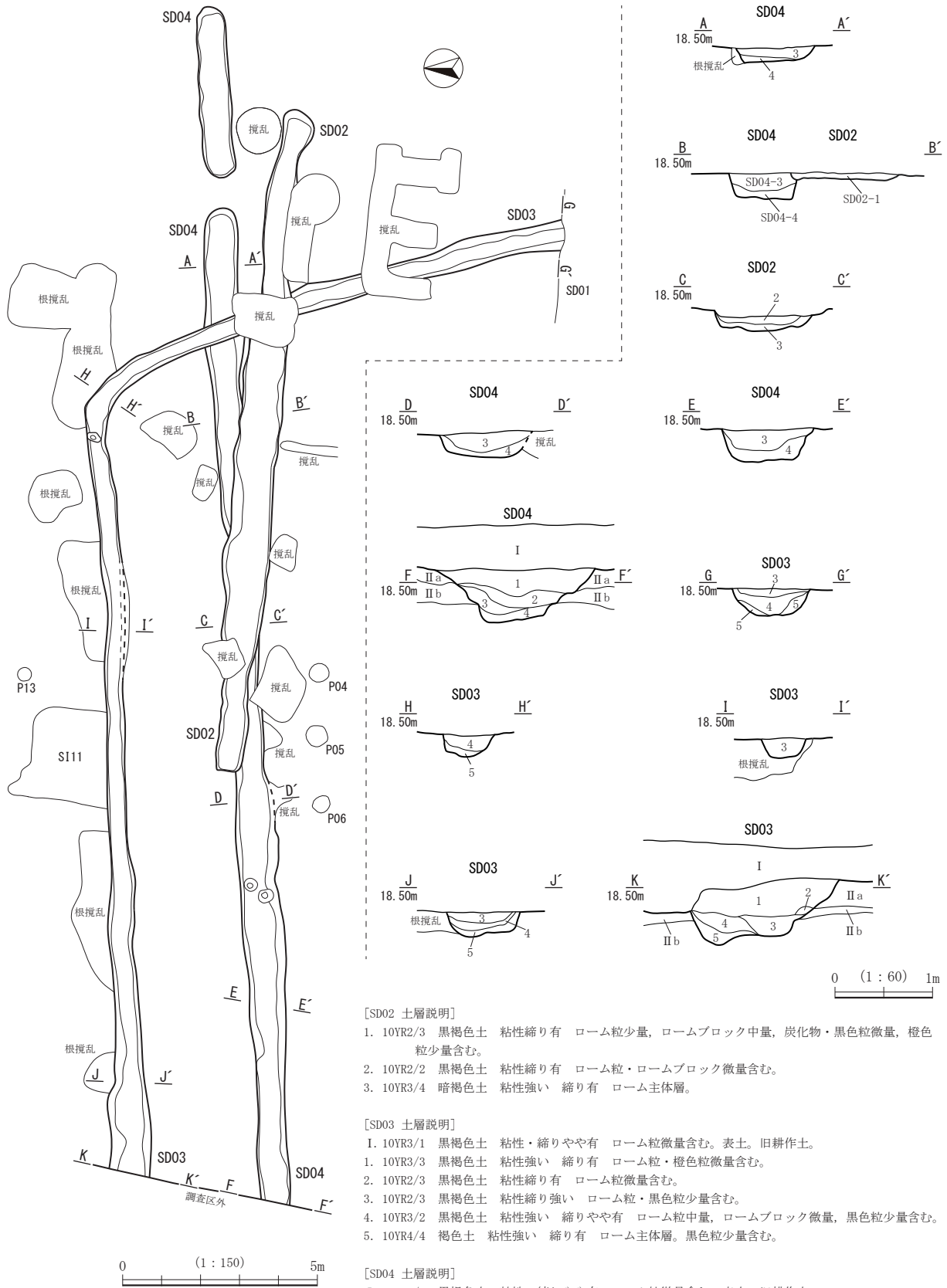
位置・重複関係等 A区南側中央，G-6～12グリッドに位置し，掘り込み面はII a層である。東端は浅くなり消失しており，西側は調査区外へ延びる。F・G 6～10グリッドでは3 m弱の間隔でSD03と並行する。SD02・03に切り込まれている。

形状と規模 走行方向は東西方向で，方向はN-87°-Eを示す。残存値で長30.84m，幅0.64～1.08m，深さ18～34cmを測る。掘り込み面から残る西壁では幅1.82 m，底面幅0.64m，深さ54cmを測り，断面は逆台形を呈する。底面は概ね平坦である。本溝の東西両端の底面標高は，東高西低で8 cmの高低差が認められる。流水，滞水の痕跡は確認されなかった。

覆土 西壁の断面Fで4層に分けられる。ローム粒とロームブロックを少量含んだ黒褐色土を中心としており，自然堆積と考えられる。

遺物 本遺構に伴う遺物はない。

時期 覆土の様相と走行方向から，中・近世の所産と考えられる。



[SD02 土層説明]

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒少量, ロームブロック中量, 炭化物・黒色粒微量, 橙色粒少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒・ロームブロック微量含む。
3. 10YR3/4 暗褐色土 粘性強い 締り有 ローム主体層。

[SD03 土層説明]

- I. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締りやや有 ローム粒微量含む。表土。旧耕作土。
1. 10YR3/3 黒褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒・橙色粒微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒微量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性締り強い ローム粒・黒色粒少量含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性強い 締りやや有 ローム粒中量, ロームブロック微量, 黒色粒少量含む。
5. 10YR4/4 褐色土 粘性強い 締り有 ローム主体層。黒色粒少量含む。

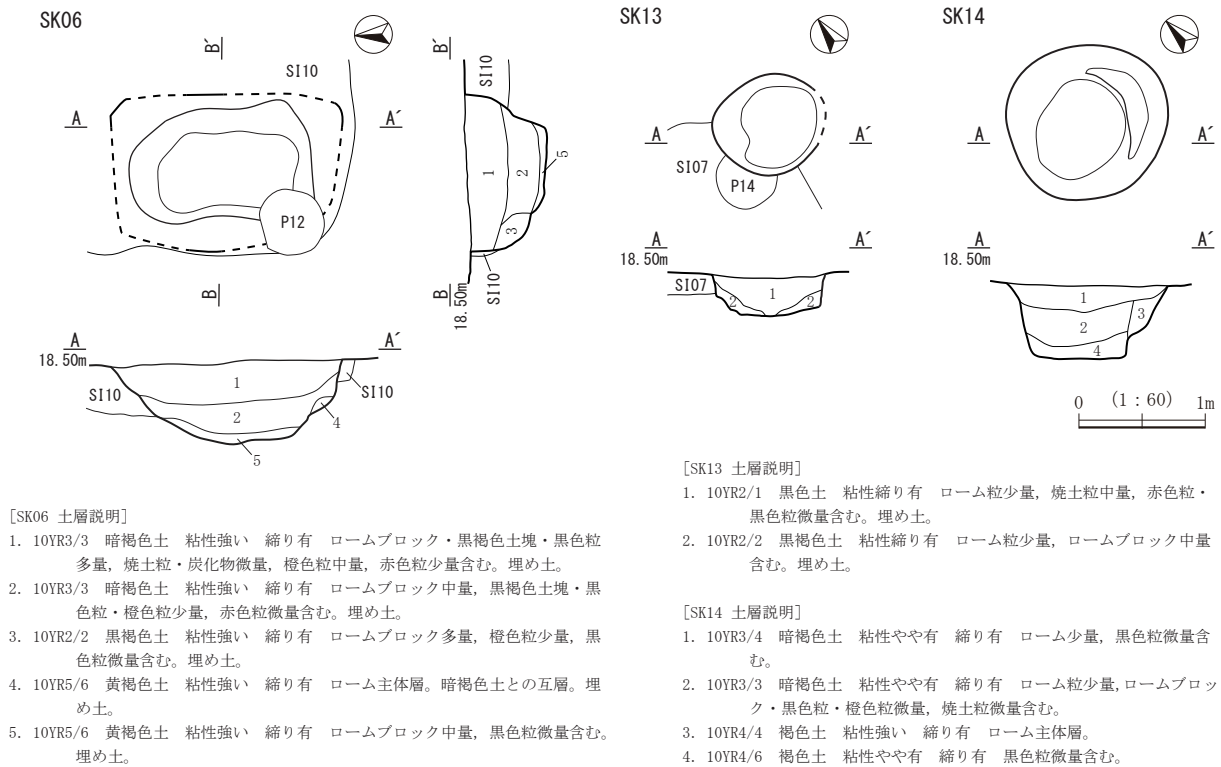
[SD04 土層説明]

- I. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締りやや有 ローム粒微量含む。表土。旧耕作土。
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性締り有 ローム粒少量, ロームブロック・炭化物・黒色粒微量含む。
2. 10YR2/1 黒色土 粘性強い 締り有 ローム粒微量, 黒色粒少量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒・黒色粒少量含む。
4. 10YR3/4 暗褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒・ロームブロック多量, 黒色粒・橙色粒微量含む。

第50図 SD02・SD03・SD04

2 土坑

この時期の土坑は4基検出した。出土場所はA区で3基，B区で1基である。覆土と出土遺物の様相からこの時期とした。形態は平面形ではSK06が長方形，SK13・14が円形である。規模はSK06が長軸で170cm以上，SK13・14は80～130cm，深さは30～65cmを測る。出土遺物はSK13から羽口と鉄滓がみられるが，これは小鍛冶址と推定されるS I 07を切り込んで構築されていることから，混入と考えられる。但し本報告ではSK13出土遺物として他の遺物も含めて掲載した。

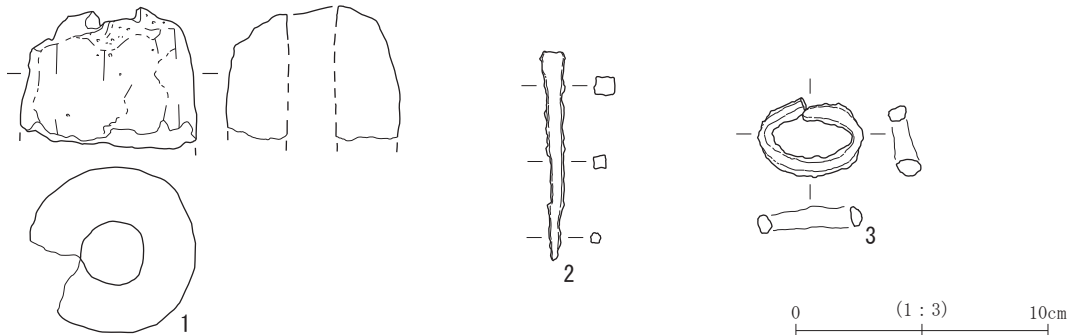


第51図 中・近世の土坑 (SK06・SK13・SK14)

第36表 中・近世の土坑一覧表

土坑名	区	グリッド	平面形	断面形	寸法 (cm)			切り合い関係	出土遺物 (総数, 単位点) 等
					長軸	短軸	深さ		
SK06	A区	H-10	長方形	椀形	177	125	65	S I 10・P 12を切る。	伴う遺物はなし
SK13	A区	G-8	不整形円形	箱形	(92)	80	34	S I 07・P 14を切る。	金属製品2, 土製品1, 鉄滓2
SK14	A区	D-11	不整形円形	段形	130	125	57	なし。	なし

*「出土遺物」欄の遺物は，その遺構に伴う時代の遺物のみ記載している。



第52図 SK13出土遺物

第37表 SK13出土土製品観察表

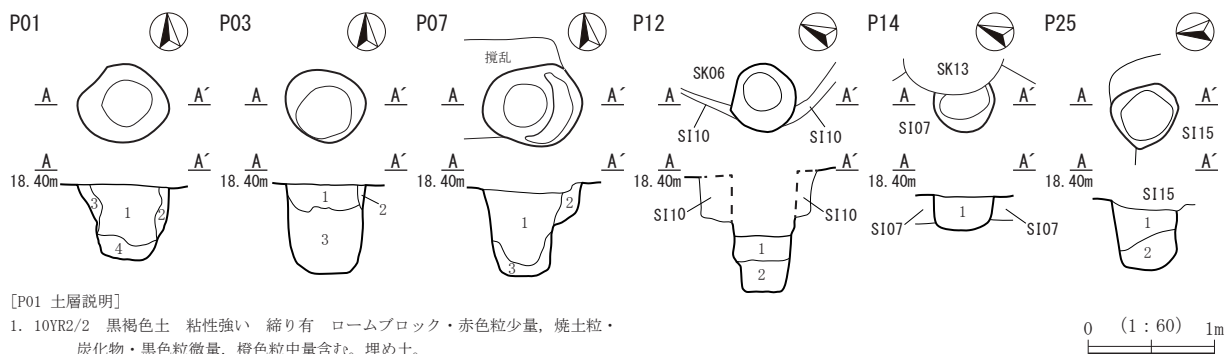
No.	器種	法量 (cm)	特徴	①胎土・②焼成・③色調		出土位置	備考
				①胎土・②焼成・③色調	出土位置		
1	土製品 羽口	長さ: <5.9> 幅 : <7.0> 厚さ: <2.1>	孔径2.4cm。先端部分の破片。中央孔を有する。	① 微砂粒含む。 ② 良好。 ③ 外面灰褐色, 内面橙褐色。	覆土		

第38表 SK13出土金属製品観察表

No.	器種	法量 (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置	備考
3	鉄製品 器種不明	長さ: 4.1 幅 : 3.1 厚さ: 1.0	13.1	楕円環状。断面形は楕円形を呈する。	覆土	

3 ピット

この時期のピットは6基検出した。出土場所はA区南側で5基, B区で1基とA区に集中するが, 並びはみられない。覆土の様相からこの時期とした。形態は平面形では円形を主とし, 規模は47~79cmで, 深さは26~75cmとまちまちである。柱痕跡は認められなかった。出土遺物は土師器片と須恵器片を主としており, 実測遺物はない。(小野・鈴木)



[P01 土層説明]

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性強い 締り有 ロームブロック・赤色粒少量, 焼土粒・炭化物・黒色粒微量, 橙色粒中量含む。埋め土。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒少量, ロームブロック多量含む。
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒・ロームブロック微量含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒・ロームブロック・橙色粒微量含む。埋め土。

[P03 土層説明]

- 10YR3/3 暗褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒・黒色粒少量含む。埋め土。
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒少量含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有 締り有 ローム粒微量含む。埋め土。

[P07 土層説明]

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒少量, ロームブロック微量含む。埋め土。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性有 締りやや有 ロームブロック微量含む。埋め土。
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性有 締りなし ローム粒微量含む。埋め土。

[P12 土層説明]

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有 締りやや有 ローム粒・黒色粒少量, 焼土粒微量含む。埋め土。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性強い 締りやや有 ローム粒・ロームブロック微量含む。埋め土。

[P14 土層説明]

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒・ロームブロック少量, 赤色粒微量含む。

[P25 土層説明]

- 10YR3/2 黒褐色土 粘性強い 締り有 ローム粒少量, ロームブロック・黒色粒微量含む。
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性強い 締りやや有 ローム粒・黒色粒少量含む。

第53図 中・近世のピット (P 01・P 03・P 07・P 12・P 14・P 25)

第39表 中・近世のピット一覧表

ピット名	区	グリッド	平面形	断面形	寸法 (cm)				切り合い関係	出土遺物 (総数, 単位点) 等
					長軸	短軸	深さ	底面標高		
P 01	A区	H-9	不整楕円形	逆台形	72	63	59	17.70	-	伴う遺物はなし
P 03	A区	H-9	不整楕円形	箱形	64	55	70	17.60	-	伴う遺物はなし
P 07	A区	H-10	不整楕円形	段形	(79)	67	75	17.55	-	伴う遺物はなし
P 12	A区	H-10	不整形	筒形	(54)	(53)	(61)	17.40	S I 10を切り, SK06に切られる。	伴う遺物はなし
P 14	A区	G・H-8	不整形	箱形	47	(30)	26	17.90	S I 07を切り, SK13に切られる。	なし
P 25	B区	L-2	不整形	箱形	(50)	(49)	59	17.60	S I 15を切る。	なし

*「出土遺物」欄の遺物は, その遺構に伴う時代の遺物のみ記載している。

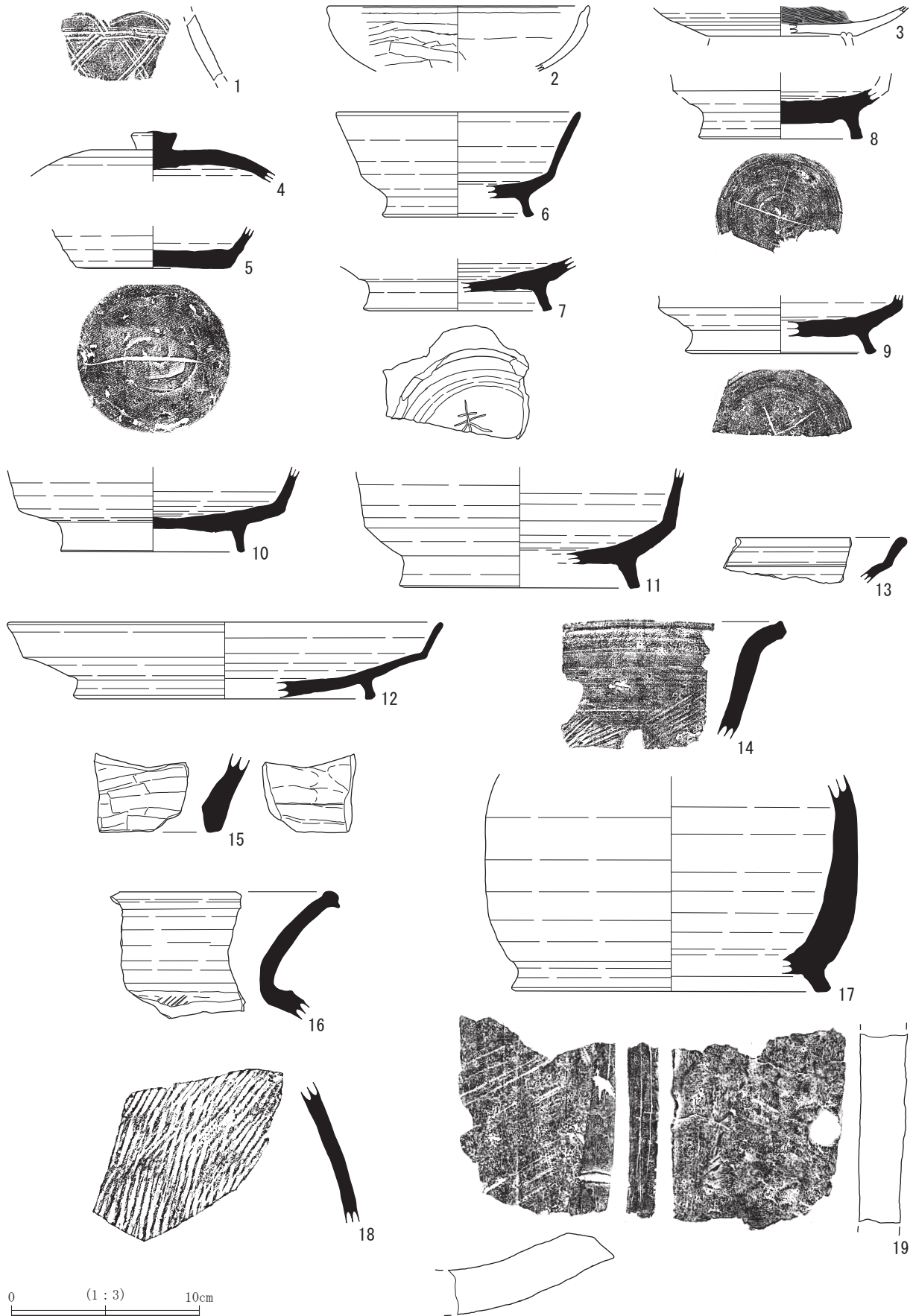
第6節 遺構外出土遺物

遺構以外から出土した遺物，その遺構に伴わない時代の遺物計25点の実測図を掲載した。前者は7点，後者は18点である。SD01は奈良・平安時代の遺物の多く出土するが，これはSD01の規模が大型であること，東南側隣接地点(第8地点第3次調査)にも奈良・平安時代の竪穴建物跡や掘立柱建物が存在することからの混入と考える。SD03からの出土遺物も多いが，これも同様の理由が考えられる。

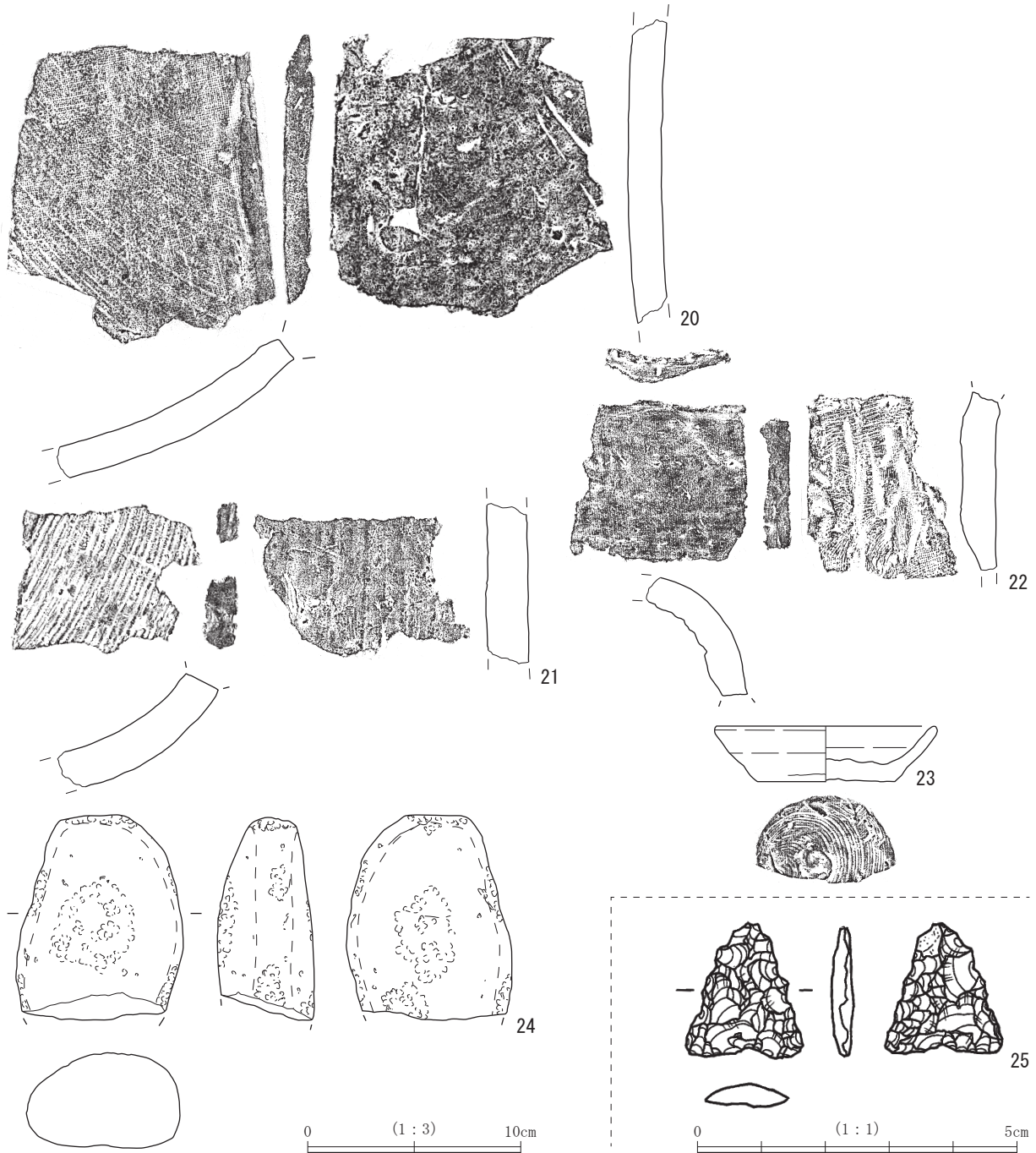
4は須恵器擬宝珠形摘みの付く坏蓋。5は底部回転ヘラ切りの木葉下窯跡群産の須恵器坏，6～11は須恵器高台付坏で木葉下窯跡群の製品も多いと思われる。年代は12・13の盤も含めて下限は8世紀後半と考えられる。これらは今次調査の竪穴建物跡で検出されているのと同タイプの製品が目立つ。19～21は平瓦であるが，裏面はいずれも斜方向の削り痕が顕著である。22は丸瓦で内面側には布目痕が残る。23は底部内面に渦巻を残す中世のかわらけである。底部は右回転糸切である。24・25は縄文時代の石器である。24は砂岩製の敲石で裏面に窪みがみられる。25は黒曜石製の凹基鏃である。

第7節 出土遺物集計表について

第44～49表に全出土遺物の時代別，材質別，器種別の集計表を掲げた。これは破片数を数えたものを「破片」数とし，その器種の底部片の数を「個体」数とした。個体数の換算法をこの方法にしたのは，土師器の甕が沢山の破片になりやすく，破片数と個体数の間に大きな誤差が生じることによる。また土師器甕は薄い破片が多いため，口縁から底部までの全形を把握できる個体の復元がしづらいことから，部位の破片で代表させることとした。それには多くの破片になりやすい口縁部ではなく，底部片を採用した。とはいえこの数は，より実数に近い数を表しているにすぎないのではあるが(この実態は第44表の土師器甕の破片数と個体数の差をみれば一目瞭然である)。この集計方法は弥生土器，中・近世の出土遺物でも同様であり，実測遺物も「破片」数，「個体」数のどちらかに含まれる。なお「土製品」「石器」「金属製品」「製鉄関連」等のもともと出土量が少なく，個体資料としての認識がしやすい資料は「個体」数として換算した。各集計表の右端の「総数」が，その遺構の総破片数となる。(鈴木)



第54図 遺構外出土遺物(1)



第55図 遺構外出土遺物(2)

第40表 遺構外出土土器観察表

法量欄：() 復元値、() 残存値

No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
1	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	頸部～体部片。3条単位の沈線で頸部と体部を区画し、斜格子目文を施す。体部の上位には上向き連弧文。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 暗褐色。	F-11グリッド 攪乱	
2	土師器 埴	口径：(14.0) 器高：(3.5)	丸底から体部は内湾して立ちあがり、口縁部は直立する。口唇部は尖り気味に作出され、くの字状。体部外面はヘラケズリ、口縁部はヨコナデ。内面はヨコナデ。	① 長石、石英粒、雲母を含む。 ② 普通。 ③ 内外面暗褐色、褐色。	SD01 I-11グリッド 1～5・7層	
3	土師器 高台付埴	口径：- 器高：(1.6) 底径：(8.0)	平底から体部は外傾しつつ立ちあがる。高台部は剥落。内外面ヨコナデ。体部下位～底部外面は回転ヘラケズリ。内面はヘラミガキ、黒色処理。	① 小礫、長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 外面褐色、内面黒色。	SD03 H-11グリッド 覆土	
4	須恵器 坏蓋	口径：- 器高：(2.7)	摘み径2.4cm。天井部は平坦に作出され、逆円錐台形の摘みを貼付。端部に向けて内湾する。天井部は回転ヘラケズリ。内面はヨコナデ。外周部に自然釉降灰。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	SD03 F-8グリッド 覆土	

No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
5	須恵器 坏	口径：－ 器高：<2.1> 底径：8.1	平底から体部は外傾して立ちあがる。内外面ヨコナデ。底部外面は回転ヘラ切りの後、回転ヘラナデ。焼成前の線刻〔一の字状〕あり。	① 小礫、長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	SD04 G-8グリッド	底部外面外周 擦れている。
6	須恵器 高台付坏	口径：(13.0) 器高：5.6 底径：(8.0)	体部下位に明瞭な稜を有し、体部は外傾して立ちあがる。高台部は外傾して貼付、端部は平坦。高台部内外面は回転ナデ。内外面ヨコナデ。底部内面重ね焼きで変色。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 外面暗灰褐色。	P-1グリッド 表土	
7	須恵器 高台付坏	口径：－ 器高：<2.8> 底径：(10.0)	底部から体部は外傾して立ちあがる。内外面ヨコナデ。高台部は外傾して貼付。端部は平坦。内面はヨコナデ。底部外面に焼成前の線刻〔未の字状〕あり。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	SD01 覆土	
8	須恵器 高台付坏	口径：－ 器高：<3.5> 底径：(8.9)	体部下位に明瞭な稜を有す。高台部は外傾して貼付、端部は平坦。底部外面は回転ヘラ切り。高台部内外面は回転ナデ。内外面ヨコナデ。底部外面に焼成前の線刻〔×印〕あり。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 外面暗青灰褐色、内面暗灰色。	A区 表土	
9	須恵器 高台付坏	口径：－ 器高：<3.1> 底径：(10.2)	体部下位に明瞭な稜を有す。高台部は外傾して貼付。端部は平坦。高台部内外面回転ナデ。内外面ヨコナデ。底部外面に焼成前の線刻〔×印〕あり。底部外面回転ヘラ切り。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 普通。 ③ 灰色。	F-11グリッド 表土	
10	須恵器 高台付坏	口径：－ 器高：<4.5> 底径：9.8	体部下位に外傾し明瞭な稜を有し、体部は外傾して立ちあがる。高台部は直立気味に付き、端部は平坦。底部外面回転ヘラ切り。高台部内外面、高台内回転ナデ。内外面ヨコナデ。	① 小礫、長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	F-12グリッド 確認面	内面底部、高 台端部擦れて いる。
11	須恵器 高台付坏	口径：－ 器高：<6.4> 底径：(12.8)	体部下位に明瞭な稜を有し、体部は外傾して立ちあがる。高台部は直立気味に付き、端部は平坦。底部外面回転ヘラ切り。高台部内外面回転ナデ。高台内回転ケズリ。内外面ヨコナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	F-12グリッド 攪乱	
12	須恵器 盤	口径：(23.1) 器高：4.1 底径：(15.8)	体部と口縁部の境に明瞭な稜を有し、体部は外傾して立ちあがる。口縁部は外反する。高台部は直立して貼付、端部は平坦。底部外面回転ヘラ切り。高台部内外面回転ナデ。高台内回転ケズリ。内外面ヨコナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 暗灰色。	SD04 1層	高台端部擦れ ている。
13	須恵器 盤	口径：－ 器高：－ 底径：－	体部と口縁部の境に明瞭な稜を有す。口縁部は外反する。内外面ヨコナデ。	① 長石、石英粒、針状物を含む。 ② 良好。 ③ 暗灰色。	SD03 F-11グリッド 覆土	
14	須恵器 甌	口径：－ 器高：－ 底径：－	体部から直立気味に立ちあがり、口縁部は強く外反する。口唇部は外削ぎ状で平坦。体部外面は斜位の平行タタキ目、口縁部内外面ヨコナデ。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 暗青灰色、灰白色。	SD01 覆土	内面口縁部下 帯状の擦れ。
15	須恵器 甌	口径：－ 器高：－ 底径：－	底部片。底端部は平坦に作出され、体部下端は内削ぎ状。内面はナデ。外面は横位のヘラケズリ。	① 長石、石英粒、雲母を含む。 ② 普通。 ③ 灰黄色。	SD03 F-9グリッド 覆土	
16	須恵器 甕	口径：－ 器高：－ 底径：－	体部から内傾して頸部に至り、口縁部は大きく外反する。口唇部は平坦。体部外面斜位の平行タタキ目。口縁部内外面ヨコナデ。内外面口縁部自然釉降灰。	① 小礫、長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 暗青灰色、灰色。	SD01 6・8～13層	
17	須恵器 壺	口径：－ 器高：<11.5> 底径：(17.0)	底部から体部は内湾しつつ立ちあがる。外面下位は横位のケズリ。内面はヨコナデ。高台部は外傾して貼付、端部は平坦。高台部内外面回転ナデ。外面自然釉降灰。	① 小礫、長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 内外面暗灰色。	SD01 6・8～13層	高台端部擦れ ている。
18	須恵器 甕	口径：－ 器高：－ 底径：－	体部片。体部外面は斜位の平行タタキ目。内面はヨコナデの上から同心円あて具痕。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 暗灰色。	SD03 H-11グリッド 覆土	

第41表 遺構外出土瓦観察表

法量欄：() 復元値、< > 残存値

No.	器種	法量 (cm)	特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
19	瓦 平瓦	長さ：<9.5> 幅：<8.6> 厚さ：<2.5>	右側面にヘラ切りによる切り込みを残し、縦位の線状痕。表面はナデ。裏面は斜位の削り痕。	① 長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 灰色。	SD03 F-8グリッド 覆土	
20	瓦 平瓦	長さ：<14.2> 幅：<12.0> 厚さ：<1.8>	裏面には糸切り痕に布目痕。表面に縦位ケズリ痕。凸面に灰釉がかぶる。	① 小礫、長石、石英粒を含む。 ② 良好。 ③ 外面黒灰褐色、内面灰青色。	SD01 I-12グリッド 6・8～13層	
21	瓦 平瓦	長さ：7.5 幅：8.0 厚さ：2.0	右側面は切り込みあり。表面は縦位のヘラナデ。裏面は斜位のケズリ痕。	① 長石、石英粒を多量に含む。 ② 良好。 ③ 外面灰褐色、内面褐灰色。	A区表土	被熱。
22	瓦 有段式丸瓦	長さ：<8.3> 幅：<6.8> 厚さ：<1.7>	凸面にヨコナデを施す。凹面は布目痕を残す。	① 小礫、長石、石英粒を含む。 ② 普通。 ③ 灰色。	SD01 断面A 3層	

第42表 遺構外出土土師質土器観察表

法量欄：() 復元値、< > 残存値

No.	器種	法量 (cm)	器形・技法の特徴	①胎土・②焼成・③色調	出土位置	備考
23	かわらけ 皿	口径：(10.4) 器高：2.6 底径：(6.4)	平底から体部は外傾して立ちあがる。内外面ヨコナデ。底部内面渦巻状ナデ。底部外面に左回転糸切り痕。	① 微砂粒を含む。 ② 普通。 ③ 外面灰褐色、内面橙灰褐色。	S I 10 カマド内	

第43表 遺構外出土石器観察表

法量欄：() 復元値、< > 残存値

No.	器種	法量 (cm)	重量 (g)	特徴	石材	出土位置	備考
24	石器 敲石	長さ：<9.9> 幅：<7.8> 厚さ：<4.4>	512.8	下端欠損。断面は不整三角形。下面に凹穴があり、磨り痕もみられる。	砂岩	S I 12 覆土	
25	石器 石鏃	長さ：2.1 幅：1.9 厚さ：0.3	0.1	扁平な凹基鏃。黒曜石製。先端および左脚部をわずかに欠損する。挟りは浅い。押圧剥離による調整が両面になされている。裏面の先端の一部に素材面が残される。	黒曜石	S I 12 覆土	

第44表 出土遺物集計表(1) 奈良・平安時代：土師器

単位：点

所屬時代	出土遺構	坏		高台付坏		坏類		坏小計		坏蓋		埴		高台付埴		皿		高台付皿		鉢		小型甕		甕		土師器合計			
		破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体
奈良・平安時代	SI03	1	1	-	-	18	-	19	1	-	-	-	-	5	1	-	-	1	1	-	-	1	-	249	-	275	3	278	
	SI03 掘り方	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	14	0	14	
	SI03 小計	1	1	0	0	18	0	19	1	0	0	0	0	5	1	0	0	1	1	0	0	1	0	263	0	289	3	292	
	SI04	3	3	-	-	4	-	7	3	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2	-	77	-	87	4	91	
	SI06	6	1	-	-	-	-	6	1	-	-	-	-	-	5	1	-	-	-	-	-	-	-	123	1	134	3	137	
	SI06 掘り方	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	1	1	
	SI06 小計	6	1	0	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	123	2	134	4	138	
	SI07	5	4	-	-	16	-	21	4	-	-	-	-	3	1	2	2	7	2	-	-	-	-	59	2	92	11	103	
	SI08	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	0	3	
	SI10	3	3	-	-	12	-	15	3	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	4	-	2	-	144	6	166	10	176
	SI11	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	36	1	37	2	39	
	SI12	11	5	4	1	5	-	20	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28	1	48	7	55	
	SI13	7	6	-	-	10	-	17	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	-	-	168	-	189	7	196	
	SI13 掘り方	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	SI13 小計	7	6	0	0	10	0	17	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	168	0	189	7	196	
	SI14	2	1	-	-	5	-	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	39	-	46	1	47	
	SI15	2	2	2	2	11	-	15	4	-	-	-	-	10	2	-	-	-	-	-	-	-	-	67	1	92	7	99	
	SI16	7	7	2	-	21	-	27	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	95	4	126	11	137	
	SI17	2	1	-	-	4	-	6	1	-	-	-	-	4	2	-	-	-	-	-	-	-	1	1	51	4	62	8	70
	SK08	-	-	-	-	1	-	1	0	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	7	-	10	1	11
	SK09	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	7	0	7
	SK20	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	SK23	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	P2	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0	1	
	P4	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	0	2	
	P5	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	P6	-	-	-	-	1	-	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	1
	P8	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	P13	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	P19	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
P23	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	9	0	9		
P24	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0	1		
P30	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	
小計	50	35	8	3	108	0	163	35	1	1	0	0	24	8	7	3	8	3	9	1	7	1	1180	21	1402	76	1478		
弥生時代，中・近世	SI01	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0	1		
	SI02	2	-	-	-	-	2	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4	0	4		
	SI05	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	
	SI09	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	0	3		
	SD01	2	2	2	2	13	-	17	4	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	88	3	107	8	115		
	SD02	-	-	-	-	5	-	5	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	0	5	
	SD03	3	1	-	-	11	-	14	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	56	1	70	2	72		
	SD04	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	39	1	39	1	40		
	SK06	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	
	SK13	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	
	SK14	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	
	P01	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	0	2		
	P03	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	4	1	5		
	P07	-	-	-	-	1	-	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	1	
	P12	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	
P14	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0		
P25	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0		
小計	8	4	2	2	30	0	40	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	194	5	236	12	248
A区表土	-	-	-	-	18	-	18	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	40	8	59	9	68		
B区表土	6	6	7	6	25	-	38	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	77	-	115	12	127			
小計	6	6	7	6	43	0	56	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	117	8	174	21	195		
合計	64	45	17	11	181	0	259	53	1	1	1	0	24	8	7	3	8	3	11	3	7	1	1491	34	1812	109	1921		

※ 「個体数」は底部破片の数であり、「破片数」には含まれていない。実測遺物も「破片」「個体」数に含まれる。

第45表 出土遺物集計表(2) 奈良・平安時代：須恵器

単位：点

所 属 時 代	出土場所	环		高台付环		环類		环合計		环蓋		皿		盤		鉢		高坏		甌		壺		甕		円面碗		須恵器合計				
		破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	總数
奈良・平安時代	SI03	42	10	-	-	20	-	62	10	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	77	10	87		
	SI03 掘り方	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	0	2		
	SI03 小計	42	10	0	0	20	0	62	10	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	79	10	89			
	SI04	33	8	-	-	16	-	49	8	-	-	-	-	3	3	-	-	-	-	1	-	-	-	20	1	-	-	73	12	85		
	SI06	1	-	2	1	5	-	8	1	3	-	-	-	3	2	-	-	-	-	-	-	-	2	1	5	-	-	21	4	25		
	SI06 掘り方	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0		
	SI06 小計	1	0	2	1	5	0	8	1	3	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	2	1	5	0	0	21	4	25		
	SI07	8	5	4	3	15	-	27	8	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	8	-	-	52	10	62		
	SI08	2	1	-	2	-	2	-	4	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1	6		
	SI10	20	11	2	1	22	-	44	12	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	52	13	65		
	SI11	4	2	-	-	4	-	8	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	-	-	14	3	17		
	SI12	2	1	1	1	8	-	11	2	27	2	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	3	-	-	-	44	5	49		
	SI13	11	6	9	7	20	-	40	13	13	2	-	-	5	1	-	-	-	-	9	-	1	-	39	-	1	-	108	16	124		
	SI13 掘り方	-	-	-	1	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	1	3		
	SI13 小計	11	6	9	8	21	0	41	14	13	2	0	0	5	1	0	0	0	0	9	0	1	0	40	0	1	0	110	17	127		
	SI14	2	2	-	2	6	-	8	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	9	4	13		
	SI15	1	1	2	2	6	-	9	3	2	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	15	4	19		
	SI16	10	10	1	-	13	-	24	10	3	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	8	-	-	36	13	49		
	SI17	5	4	-	-	3	-	8	4	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	15	5	20		
	SK08	-	-	-	-	-	-	0	0	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0	2		
	SK09	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0		
	SK20	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0		
	SK23	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0		
	P 02	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0		
	P 04	-	-	-	-	1	-	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	1		
	P 05	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0		
	P 06	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0		
	P 08	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0		
	P 13	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0		
	P 19	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0		
P 23	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0			
P 24	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	0	1			
P 30	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0			
小計	141	61	21	18	142	0	304	79	72	5	0	0	14	11	0	0	2	1	12	0	9	4	115	1	1	0	529	101	630			
弥生時代、中・近世	SI01	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0			
	SI02	-	-	-	-	1	-	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	1			
	SI05	-	-	-	-	2	-	2	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0	2			
	SI09	-	-	-	-	1	-	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	1			
	SD01	10	10	5	5	34	5	49	20	6	1	-	-	3	2	-	-	-	2	-	1	-	1	2	-	-	62	25	87			
	SD02	-	-	-	-	-	-	0	0	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	7	0	7			
	SD03	9	9	2	-	23	-	34	9	1	1	-	-	1	1	-	-	1	-	1	-	-	11	-	-	-	49	11	60			
	SD04	5	5	8	7	17	-	30	12	8	1	-	-	5	4	-	-	1	-	-	-	-	7	1	-	-	51	18	69			
	SK06	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0			
	SK13	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0			
	SK14	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0			
	P 01	-	-	-	-	-	-	0	0	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0	3			
	P 03	1	1	-	-	1	-	2	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	5			
	P 07	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0			
	P 12	-	-	-	-	-	-	0	0	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	1			
P 14	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0				
P 25	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0				
小計	25	25	15	12	79	5	119	42	22	3	0	0	9	7	0	0	2	0	3	0	2	0	24	3	0	0	181	55	236			
A区表土	13	13	5	4	28	2	46	19	15	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	63	19	82			
B区表土	6	6	16	15	2	2	24	23	6	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	31	28	59				
小計	19	19	21	19	30	4	70	42	21	0	0	0	0	5	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	94	47	141			
合計	185	105	57	49	251	9	493	163	115	8	0	0	23	23	2	0	4	1	15	0	11	4	140	4	1	0	804	203	1007			

※ 「個体数」は底部破片の数であり、「破片数」には含まれていない。実測遺物も「破片」「個体」数に含まれる。

第46表 出土遺物集計表(3)
奈良・平安時代：土師器，須恵器以外の製品

所 属 時 代	出土遺構	灰釉陶器		土製品	瓦	石製品	金属製品	製鉄関連	その他合計		総数
		破片	個体	個体	個体	個体	個体	個体	破片	個体	
		単位：点									
奈良・平安時代	SI03	-	-	-	-	1	1	-	0	2	2
	SI03 掘り方	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	SI03 小計	0	0	0	0	1	1	0	0	2	2
	SI04	-	-	-	-	0	1	-	0	1	1
	SI06	-	-	-	-	-	3	-	0	3	3
	SI06 掘り方	-	-	-	-	-	0	-	0	0	0
	SI06 小計	0	0	0	0	0	3	0	0	3	3
	SI07	1	-	2	-	0	1	15	1	18	19
	SI08	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	SI10	-	-	-	-	1	-	1	0	2	2
	SI11	-	-	-	-	1	1	-	0	2	2
	SI12	-	-	-	-	2	1	1	0	4	4
	SI13	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	SI13 掘り方	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	SI13 小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SI14	-	-	1	-	-	-	-	0	1	1
	SI15	-	-	-	-	-	1	-	0	1	1
	SI16	-	-	1	-	-	-	1	0	2	2
	SI17	-	-	-	-	1	-	-	0	1	1
	SK08	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	SK09	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	SK20	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	SK23	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	P 02	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	P 04	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	P 05	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	P 06	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	P 08	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	P 13	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	P 19	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
P 23	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	
P 24	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	
P 30	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	
小計	1	0	4	0	6	9	18	1	37	38	
弥生時代，中・近世	SI01	-	-	-	-	-	-	0	0	0	
	SI02	-	-	-	-	-	-	0	0	0	
	SI05	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	SI09	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	SD01	-	-	-	2	3	-	-	0	5	5
	SD02	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	SD03	-	-	-	1	-	-	-	0	1	1
	SD04	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	SK06	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	SK13	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	SK14	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	P 01	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	P 03	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	P 07	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	P 12	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
	P 14	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
P 25	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	
小計	0	0	0	3	3	0	0	0	6	6	
A区表土	-	-	-	1	1	-	-	0	2	2	
B区表土	-	-	-	-	1	-	-	0	1	1	
小計	0	0	0	1	2	0	0	0	3	3	
合計	1	0	4	4	11	9	18	1	46	47	

第47表 出土遺物集計表(4)
奈良・平安時代：全体

所 属 時 代	出土遺構	土師器		須恵器		その他		総計		
		破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	総数
		単位：点								
奈良・平安時代	SI03	275	3	77	10	0	1	352	14	366
	SI03 掘り方	14	0	2	0	0	0	16	0	16
	SI03 小計	289	3	79	10	0	1	368	14	382
	SI04	87	4	73	12	0	1	160	17	177
	SI06	134	3	21	4	0	3	155	10	165
	SI06 掘り方	0	1	0	0	0	0	0	1	1
	SI06 小計	134	4	21	4	0	3	155	11	166
	SI07	92	11	52	10	1	18	145	39	184
	SI08	3	0	5	1	0	0	8	1	9
	SI10	166	10	52	13	0	1	218	24	242
	SI11	37	2	14	3	0	2	51	7	58
	SI12	48	7	44	5	0	4	92	16	108
	SI13	189	7	108	16	0	0	297	23	320
	SI13 掘り方	0	0	2	1	0	0	2	1	3
	SI13 小計	189	7	110	17	0	0	299	24	323
	SI14	46	1	9	4	0	1	55	6	61
	SI15	92	7	15	4	0	1	107	12	119
	SI16	126	11	36	13	0	2	162	26	188
	SI17	62	8	15	5	0	1	77	14	91
	SK08	10	1	2	0	0	0	12	1	13
	SK09	7	0	0	0	0	0	7	0	7
	SK20	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK23	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P 02	1	0	0	0	0	0	1	0	1
	P 04	2	0	1	0	0	0	3	0	3
	P 05	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P 06	1	0	0	0	0	0	1	0	1
	P 08	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P 13	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P 19	0	0	0	0	0	0	0	0	0
P 23	9	0	0	0	0	0	9	0	9	
P 24	1	0	1	0	0	0	2	0	2	
P 30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計	1402	76	529	101	1	35	1932	212	2144	
弥生時代，中・近世	SI01	1	0	0	0	0	0	1	0	1
	SI02	4	0	1	0	0	0	5	0	5
	SI05	0	0	2	0	0	0	2	0	2
	SI09	3	0	1	0	0	0	4	0	4
	SD01	107	8	62	25	0	5	169	38	207
	SD02	5	0	7	0	0	0	12	0	12
	SD03	70	2	49	11	0	1	119	14	133
	SD04	39	1	51	18	0	0	90	19	109
	SK06	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK13	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	SK14	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P 01	2	0	3	0	0	0	5	0	5
	P 03	4	1	4	1	0	0	8	2	10
	P 07	1	0	0	0	0	0	1	0	1
	P 12	0	0	1	0	0	0	1	0	1
	P 14	0	0	0	0	0	0	0	0	0
P 25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計	236	12	181	55	0	7	417	73	490	
A区表土	59	9	63	19	0	2	122	30	152	
B区表土	115	12	31	28	0	1	146	41	187	
小計	174	21	94	47	0	3	268	71	339	
合計	1812	109	804	203	1	45	2617	356	2973	

※1. 「個体数」は底部破片の数であり、「破片数」には含まれていない。実測遺物も「破片」「個体」数に含まれる。但し「土製品」「石製品」「金属製品」「製鉄関連」は破片であっても「個体」のみとした。
 ※2. SK13出土遺物はすべて遺構に伴う遺物とし、第49表での集計に含めた。

第48表 出土遺物集計表(5) 弥生時代

単位:点

所屬時代	出土遺構	高坏		壺		土製品	石器	弥生時代合計		
		破片	個体	破片	個体	個体	個体	破片	個体	総数
弥生時代	SI01	1	-	78	2	-	1	79	3	82
	SI01 掘り方	-	-	1	-	-	-	1	0	1
	SI01 小計	1	0	79	2	0	1	80	3	83
	SI02	-	-	110	9	-	1	110	10	120
	SI05	-	-	49	1	1	-	49	2	51
	SI09	-	-	2	-	-	-	2	0	2
小計	1	0	240	12	1	2	241	15	256	

奈良・平安時代・中・近世	SI03	-	-	13	3	-	-	13	3	16
	SI04	-	-	95	5	-	-	95	5	100
	SI06	-	-	3	-	-	-	3	0	3
	SI07	-	-	1	-	-	-	1	0	1
	SI08	-	-	6	-	-	-	6	0	6
	SI10	-	-	2	-	-	-	2	0	2
	SI12	-	-	1	-	-	2	1	2	3
	SI14	-	-	2	-	-	-	2	0	2
	SI15	-	-	3	-	-	-	3	0	3
	SD01	-	-	3	-	-	-	3	0	3
	SD02	-	-	3	-	-	-	3	0	3
	SD03	-	-	3	1	-	-	3	1	4
	SD04	-	-	14	2	-	-	14	2	16
	SK06	-	-	1	-	-	-	1	0	1
	P 23	-	-	1	-	-	-	1	0	1
小計	0	0	151	11	0	2	151	13	164	

A区表土	-	-	12	1	-	-	12	1	13
B区表土	-	-	1	-	-	-	1	0	1
小計	0	0	13	1	0	0	13	1	14

合計	1	0	404	24	1	4	405	29	434
----	---	---	-----	----	---	---	-----	----	-----

※ 「個体数」は底部破片の数であり、「破片数」には含まれていない。実測遺物も「破片」「個体」数に含まれる。但し「土製品」「石器」は破片であっても「個体」のみとした。

第49表 出土遺物集計表(6) 中・近世

単位:点

所屬時代	出土遺構	中世陶器		中世土器		金属製品	製鉄関連	近世陶器		近世土器		中・近世土製品		中・近世合計		
		破片	個体	破片	個体	個体	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	総数
中・近世	SD01	3	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	5	1	6
	SK13	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	1	-	1	4	5
	小計	3	0	-	-	2	2	0	0	2	1	1	0	6	5	11

奈良・平安	SI10	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2
	SI14	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	2
	小計	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	2	2	4

B区表土	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	0	1
小計	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	-	-	1	0	1

合計	3	0	1	1	2	2	2	1	0	3	2	1	0	9	7	16
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

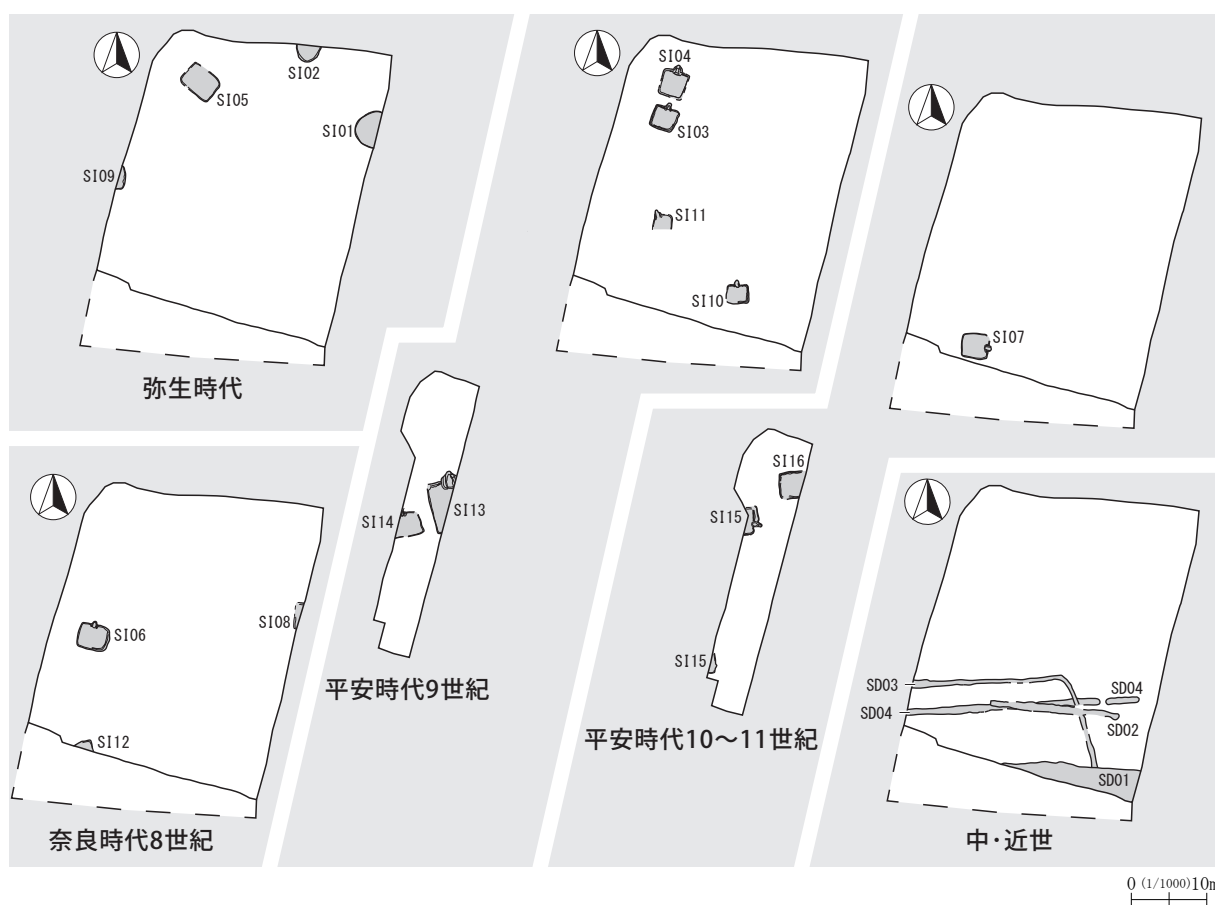
※1. 「個体数」は底部破片の数であり、「破片数」には含まれていない。実測遺物も「破片」「個体」数に含まれる。但し「金属製品」「製鉄関連」は破片であっても「個体」のみとした。
 ※2. SK13出土遺物は、すべて遺構に伴う遺物とした。

第4章 総括

本地点の調査で検出された遺構は、奈良・平安時代、中・近世と断続的ではあるが、3つの時代にまたがる。ここではその土地利用の変遷を遺構・遺物からまとめてみることにしたい。

弥生時代 検出された竪穴建物跡は4軒で、A区北半部に10～15m間隔で単独で立地しており、台地の縁辺に寄る傾向がみられる。建物跡の平面形は円形のSI01・02と長方形のSI05・09に大別される。一方出土土器はSI01・02・05では後期前半の東中根式でも3、4条単位の施文具で波状文や連弧文を描いており、型式学的にはそれほどの差異は認められないと考える。建物跡の平面形は東中根式1式から2式への移行時の特徴として正円形が表われるとされるが(鈴木他2010)、本地点の土器の型式はいずれも東中根1式の範疇と推定され、大きく外れるものでもないようである。鶴見貞雄によれば那珂川下流域と恋瀬川流域には弥生時代後期前半に炉石が出現するが(鶴見1996)、SI01は炉石が検出されている。いずれにせよ本調査は那珂川下流右岸域の水戸市域においての弥生時代後期前半の竪穴建物集落として初検出であった。なおSI01では福島県浜通り南部域の「輪山式」の系譜と推測される同心円施文がみられる土器(第9図-1)があることを特記しておく。

奈良・平安時代 この時期は竪穴建物跡13軒が検出された。これらは出土遺物の様相から(特に須恵器坯の口径底径比)、8世紀と9世紀前葉～中葉、10世紀後葉～11世紀前葉の3時期に分けられる。8世紀の竪穴建物跡はSI06・08・12の3軒である。8世紀中葉～後葉のSI12を本地点での奈



第56図 遺構の変遷 (1/1,000)

良時代の初現とし、8世紀後半はSI06・08の2軒である。建物間の距離は10～20m空いている。北西に隅カマドをもつSI12は全貌が不明であるが、9世紀のSI11と同様に居住するには小さすぎるサイズの竪穴建物跡であり、具体的な用途は不明であるが、居住を伴わない作業場や非日常的な行為のための空間などが想定される。

9世紀は前葉～中葉のSI11、中葉のSI03・04・10・13と、年代の特定できないSI14を含めれば6軒となる。このうちSI03・04・10・13は須恵器坏の器形・寸法は同タイプであり、3～6個体が揃っている。同時期の廃絶の可能性もあるが、SI03とSI04は1m強しか離れておらず、同時存在には疑問がある。SI13は本地点内では最も大きい竪穴建物跡である。カマドも他の建物跡よりひと回り大きい。壁溝内にはピットが数基検出されており、これは重量のある上屋構造を補強するためと考えられる。A区中央に位置するSI11は北西隅にカマドを持つ小型の建物跡である。上記のSI12と同様な空間と推測する。遺物もSI03からは4点、SI10からは1点の墨書のある坏が出土している。また、SI13からは円面硯の破片が出土している。これらの遺物の存在から官衙関係の想定もできよう。

10世紀後葉～11世紀前葉に展開するのは、SI07・15・16・17の4軒である。検出場所は最も近いSI15・16間が約3mであるが、あとは15～20mの間隔で点在する。カマドはいずれも東向きであり、8・9世紀の竪穴建物跡は北向きであったのとは相違する。出土遺物から見た年代では、SI07を10世紀後葉としたが、ハの字状に開く高い高台の内黒の塊は、SI15にも共通する器種であり、SI07の下限が下がる可能性もある。またSI07は中央部の床面に小鍛冶址と推定されるピットを有する。鍛造剥片も検出されており、この集落の村の鍛冶屋的な存在を担っていたとも思われる。

空間的な広がりを考えてみると、東側に隣接する第8地点第3次調査でも8世紀後半、9世紀前半、10世紀第2四半期以降の3時期の竪穴建物跡が15軒検出されており、本地点と同様な年代での集落の展開となっている。10世紀以降の竪穴建物跡のカマドの向きは、検出された7軒の内6軒が東カマドであり、本地点の同時期の竪穴建物跡のカマドの向きと同じである。同一の集落と捉えることが妥当であろう。なお、3次調査ではこの年代の掘立柱建物も3棟検出されており、これらも伴っての集落が継続して営まれていたと推測される。

中・近世 A区南半部で東西を走行方向とする溝が検出された。SD01はA区南端にかかる幅も広く、深さも深い大型の溝で、その北側6mに位置するSD02と走行方向は同じである。一方SD03とSD04はSD01・02より走行方向は北にずれるが、並行する部分がある。奈良・平安時代の竪穴建物跡の軸方向とは明らかに相違しており、竪穴建物跡(SI11)も切っている。SD02～04は遺構に伴う遺物はないが、SD01は中世後半の陶器と近世の土器が出土しており、これは廃絶時期を示していると推測される。検出されたのは一部のみであり、その性格を語るのは早急ではあるが、大型のSD01は敷地の境界を示すためや、居館の周囲の区画溝、また規模が小さく、一部走行方向が並行するSD03・04は道の側溝などの可能性をあげておく。近代初期の地図(特に道や字名など)との整合も必要になってくると思われる。

東前原遺跡では本地点も含めて約10地点の発掘調査が行われている。1地点1地点の調査は、遺跡の中では点の調査にすぎない。まずは遺跡の全貌を把握するための作業が急務と考える。

(小野・鈴木)

【引用・参考文献】

- 秋元吉郎校注 1958「常陸国風土記」『風土記』日本古典文学大系2 岩波書店
- 浅井哲也 1991「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅰ）」『研究ノート創刊号』財団法人茨城県教育財団
- 1992「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅱ）」『研究ノート2号』財団法人茨城県教育財団
- 伊東重敏 1976『大六天古墳（森戸古墳群第12号墳）』茨城県東茨城郡常澄村教育委員会
- 井上義安 1985『水戸市下畑遺跡 市道酒門8号線拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 1994『水戸市大串遺跡 市道常澄8-1495号線埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市
- 1998『伊豆屋敷跡確認調査報告書 墓地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸地方埋蔵文化財研究会
- 井上義安・金子浩正 1996『水戸市大串遺跡 常澄中学校増改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市
- 井上義安・千葉隆司 1995『水戸市北屋敷古墳 市道常澄7-0057号線埋蔵文化財発掘調査報告書』茨城県水戸市
- 太田有里乃・土生朗治 2015『小原遺跡（第3地点） 都計道7・6・1号外3路線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 小川和博・大淵淳志・川口武彦・木本挙周・渥美賢吾・関口慶久・株式会社京都科学 2008『大串遺跡（第7地点）—介護老人保健施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 樫村宣行 1995『一般国道6号東水戸道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 梶内遺跡』財団法人茨城県教育財団
- 川口武彦 2005「水戸市下入野町出土の神子柴型尖頭器」『婆良岐考古』第27号 婆良岐考古同人会
- 2008「水戸市百合ヶ丘町出土の神子柴型尖頭器」『婆良岐考古』第30号 婆良岐考古同人会
- 川口武彦・小川和博・大淵淳志 2002『水戸市元石川町所在 小仲根遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 桐生直彦 2007「集落遺跡検討の一視点—茨城県花房・大日遺跡の分析を中心として—」『婆良岐考古』第29号 婆良岐考古同人会
- 小玉秀成 2010「東中根1式土器の細分とそれに併行する土器群」『茨城県考古学協会誌』第22号 茨城県考古学協会
- 齋藤 洋・米川暢敬 2016『小原遺跡（第16地点） 都市計画道路7・6・1号線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 佐々木義則 2009「武田遺跡群における平安時代土師器杯・小皿編年」『婆良岐考古』第31号 婆良岐考古同人会
- 鈴木素行 2010「弥生時代後期「十王台式」の集落構造」鈴木素行・佐々木義則・稲田健一・長沼正樹 『武田遺跡群総括・補遺編』ひたちなか市教育委員会
- 高野浩之 2016『東前原遺跡（第8地点第3次）区画道路10-2号線道路改良（その1）及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 鶴見貞雄 1996「炉石住居覚書—茨城県の弥生・古墳時代住居例から—」『研究ノート5号 平成7年度』財団法人茨城県教育財団
- 中山信名 1979『新編常陸国誌』宮崎報恩会
- 水戸市教育委員会 1999『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書（平成10年度版）』

写真図版



SI01 (南東から)



A区 完掘全景 (南東から)



B区 完掘全景 (北東から)



A区 基本層序 (東から)



A区 調査前現況 (南西から)



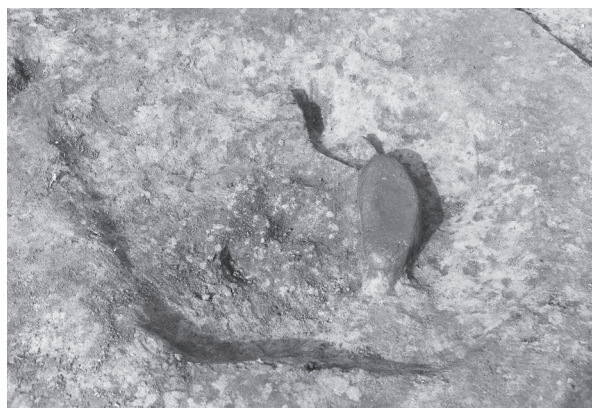
B区 調査前現況 (南から)



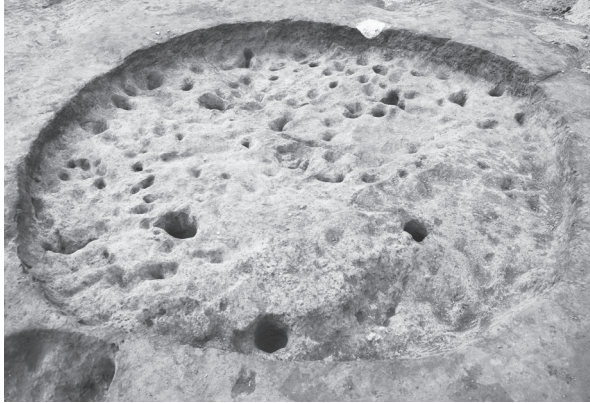
SI01 完掘 (南東から)



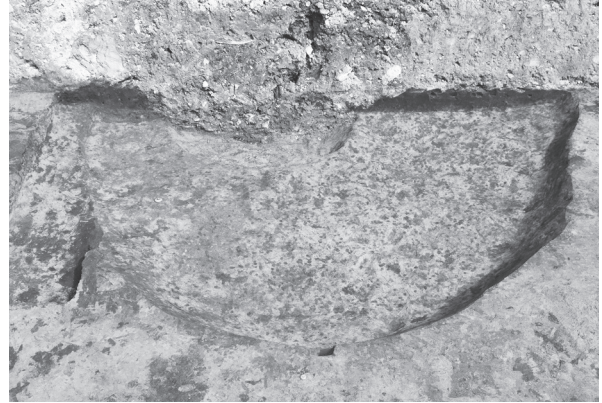
SI01 遺物出土状況 (西から)



SI01 炉 完掘 (南西から)



SI01 掘り方 完掘 (南東から)



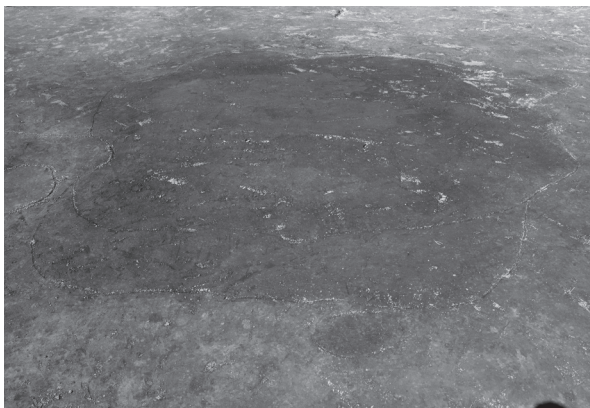
SI02 完掘 (南から)



SI02 遺物出土状況 (西から)



SI02 掘り方 完掘 (南から)



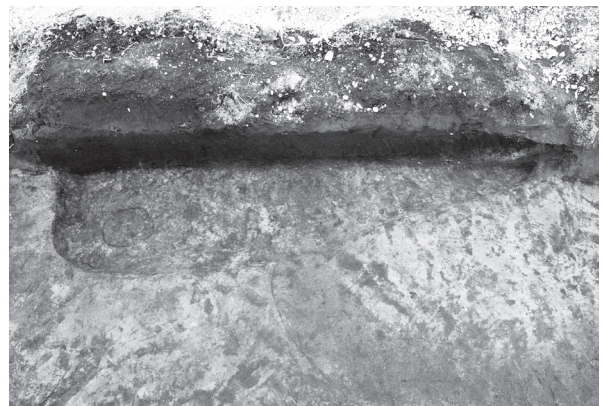
SI04・SI05 検出状況 (東から)



SI05 完掘 (東から)



SI05 土器 (第13図-3) 出土状況 (西から)



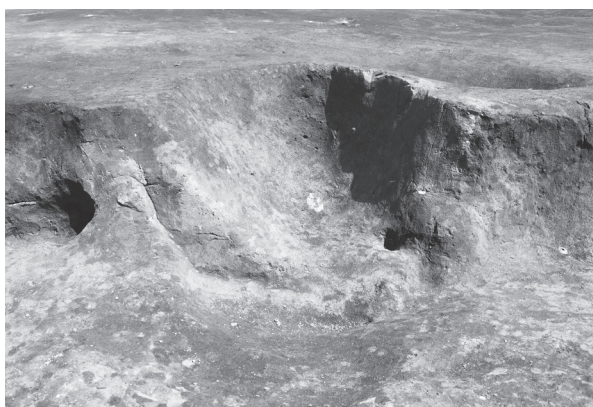
SI09 完掘 (東から)



SI03 完掘 (南西から)



SI03 遺物出土状況 (南西から)



SI03 カマド 完掘 (南西から)



SI03 掘り方 完掘 (南西から)



SI04 東西土層断面 (南から)



SI04 完掘 (南西から)



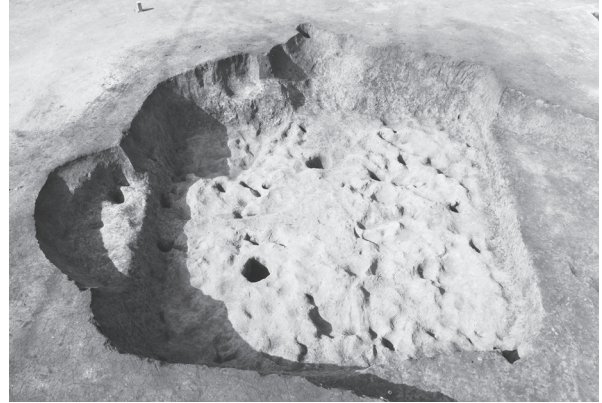
SI04 遺物出土状況 (南西から)



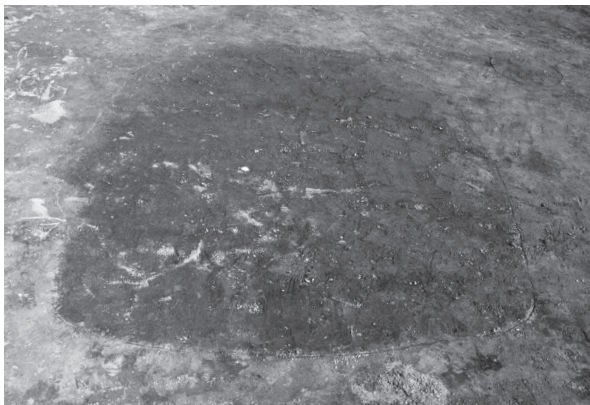
SI04 鉄製品 (第20図-12) 出土状況 (南西から)



SI04 カマド 完掘 (南西から)



SI04 掘り方 完掘 (南西から)



SI06 検出状況 (西から)



SI06 完掘 (南西から)



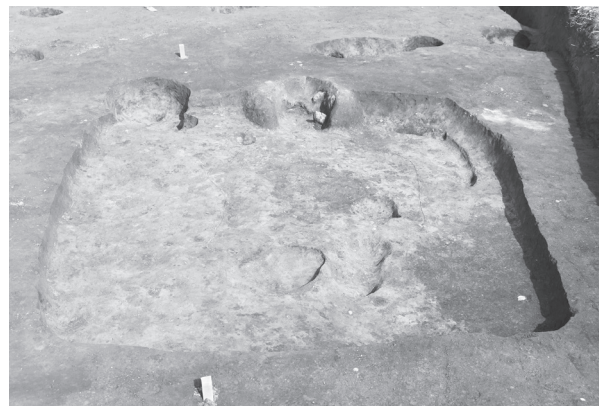
SI06 遺物出土状況 (西から)



SI06 カマド 完掘 (南西から)



SI06 掘り方 完掘 (南西から)



SI07 完掘 (西から)



SI07 遺物出土状況 (西から)



SI07 鉄製品 (第25図-11) 出土状況 (北から)



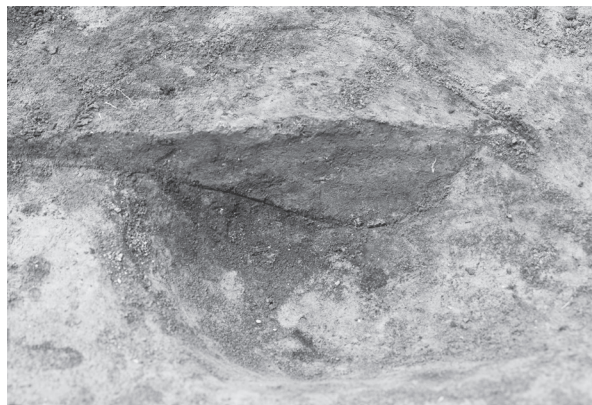
SI07 カマド 遺物出土状況1 (西から)



SI07 カマド 遺物出土状況2 (北から)



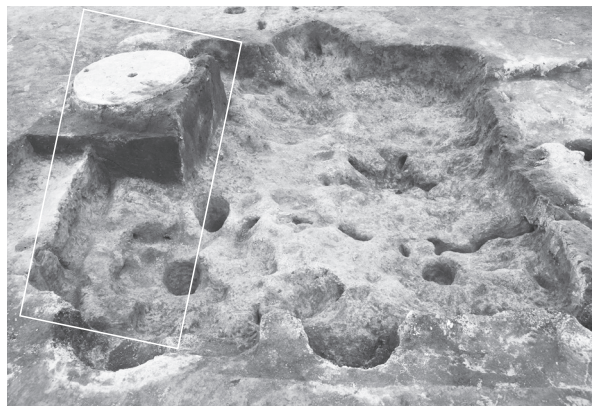
SI07 カマド 完掘 (西から)



SI07 P5 土層断面 (南から)



SI07 掘り方 完掘 (西から)



SI08 完掘 (南から: 枠線内が今回調査部分)



SI08 完掘西部（東から：枠線内が今回調査部分）



SI08 須恵器坏（第27図-2）出土状況（東から）



SI10 完掘（南から）



SI10 カマド 遺物出土状況（南から）



SI10 カマド 完掘（南から）



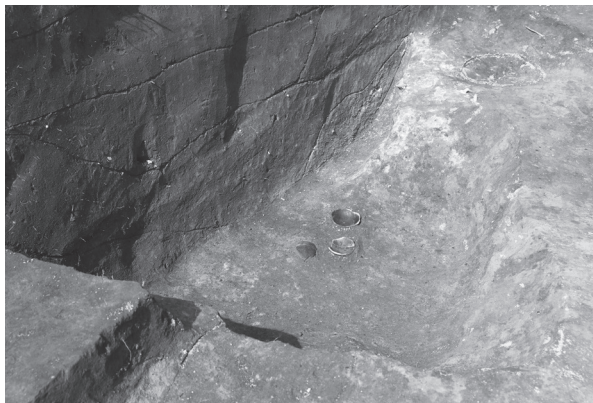
SI11 完掘（南から）



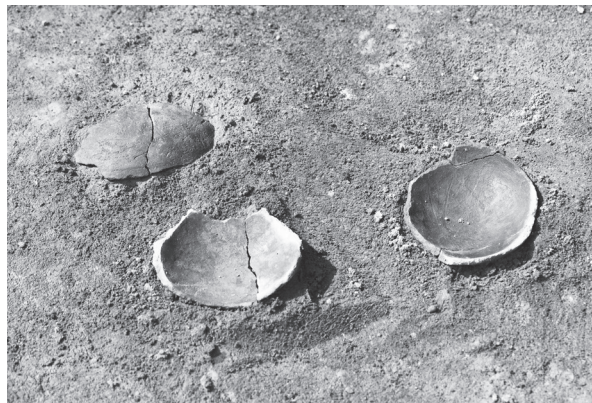
SI11 須恵器坏（第31図-1）出土状況（南から）



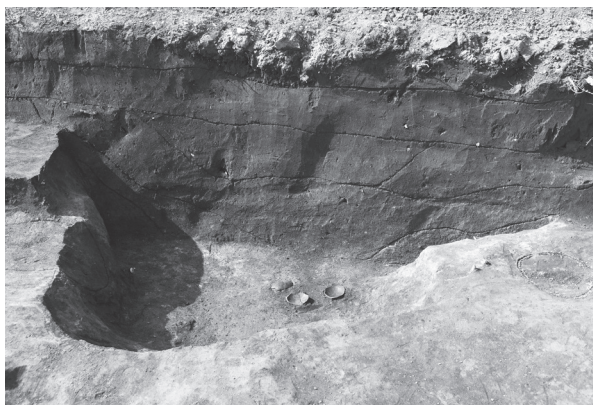
SI11 カマド 完掘（南から）



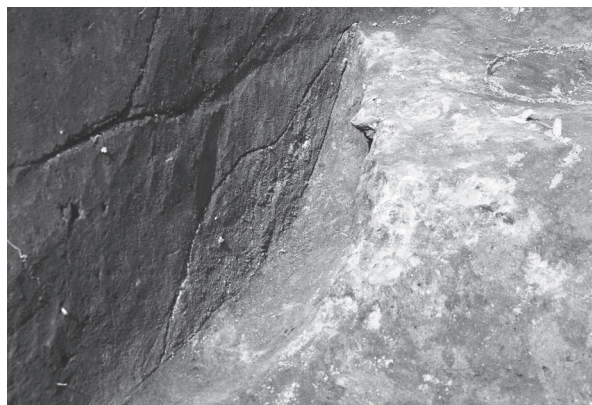
S112 完掘 (北東から)



S112 土師器坏 (第33図-1~3) 出土状況 (北から)



S112 土層断面 (北から)



S112 カマド 完掘 (北東から)



S112 カマド 土層断面 (北から)



S113 完掘1 (南から)



S113 完掘2 (西から)



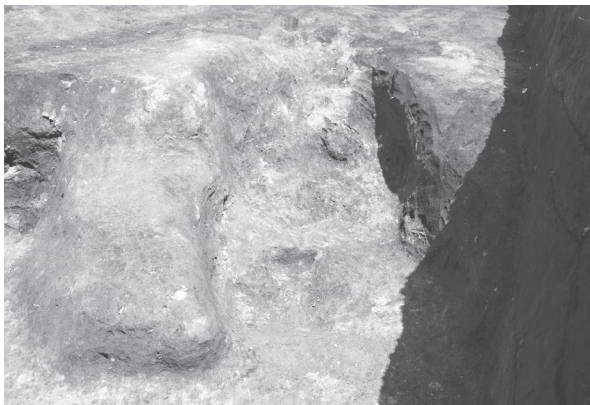
S113 土層断面 (北西から)



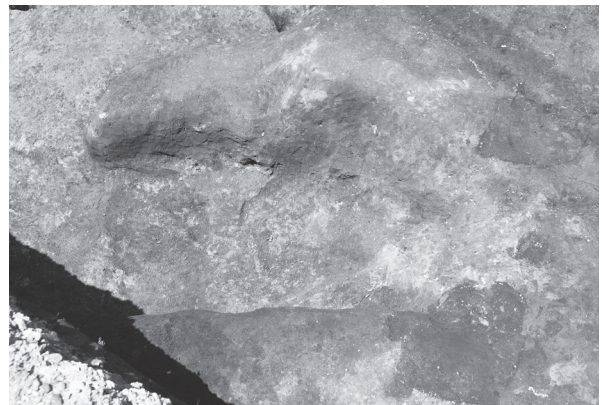
SI13 須恵器坏蓋 (第37図-5) 出土状況 (南から)



SI13 カマド 遺物出土状況 (南から)



SI13 カマド 完掘1 (南から)



SI13 カマド 完掘2 (東から)



SI13 P4 土層断面 (西から)



SI13 南西隅 粘土塊出土状況 (北西から)



SI13 掘り方 完掘 (南から)



SI14 完掘 (南東から)



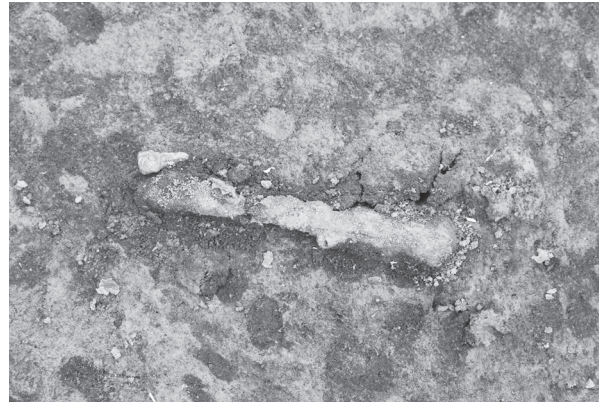
SI14 カマド 完掘 (南東から)



SI15 完掘1 (西から)



SI15 完掘2 (東から)



SI15 鉄製品 (第41図-9) 出土状況 (南から)



SI15 カマド 完掘 (西から)



SI15 棚状遺構 完掘 (北から)



SI16 完掘 (西から)



SI16 遺物出土状況 (西から)



SI16 土師器甕(第43図-5) 出土状況(西から)



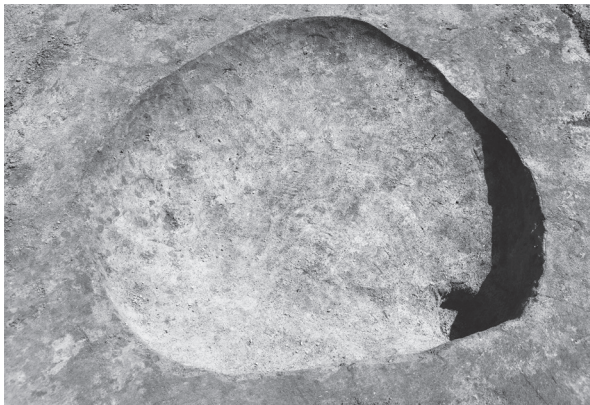
SI17 完掘(西から)



SI17 遺物出土状況(北東から)



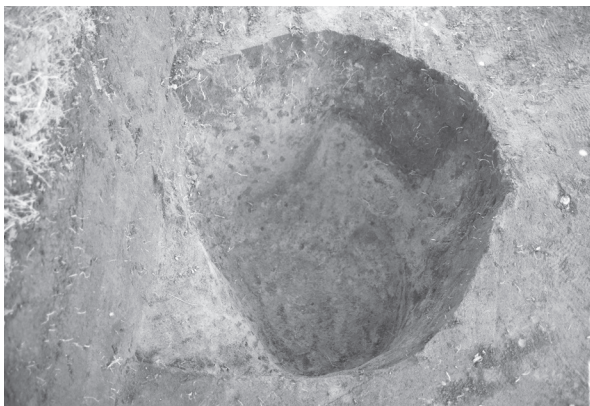
SI17 カマド 完掘(西から)



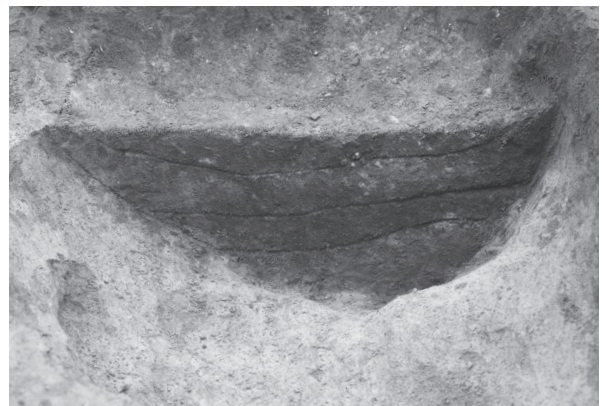
SK08 完掘(西から)



SK09 完掘(西から)



SK20 完掘(南から)



SK23 土層断面(西から)



SD01 完掘全景(東から)



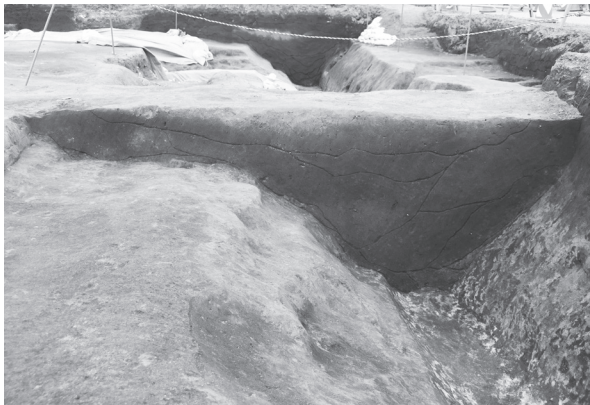
SD01 完掘全景(西から)



SD01 完掘西半部(東から)



SD01 完掘東半張出部(西から)



SD01 土層断面A(西から)



SD02 完掘(東から)



SD02(右)・SD03(左) 完掘(西から)



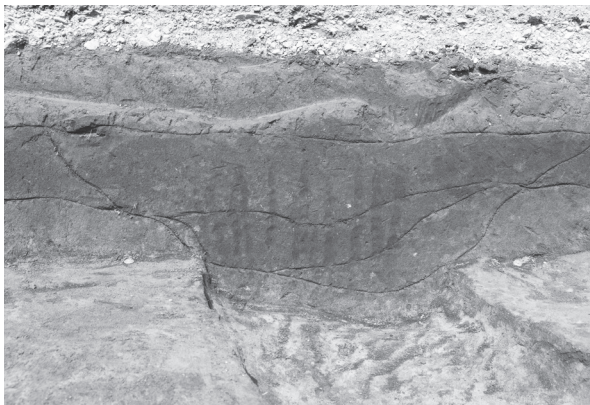
SD03 完掘東半部(北から)



SD03 土層断面K(東から)



SD03(左)・SD04(右) 完掘(西から)



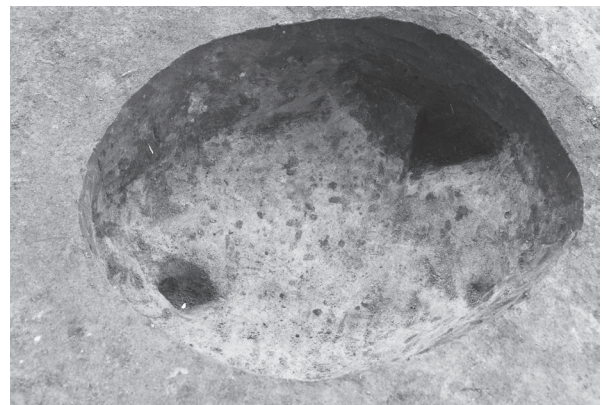
SD04 土層断面F(東から)



SK06 完掘(東から)



SK06 土層断面(西から)



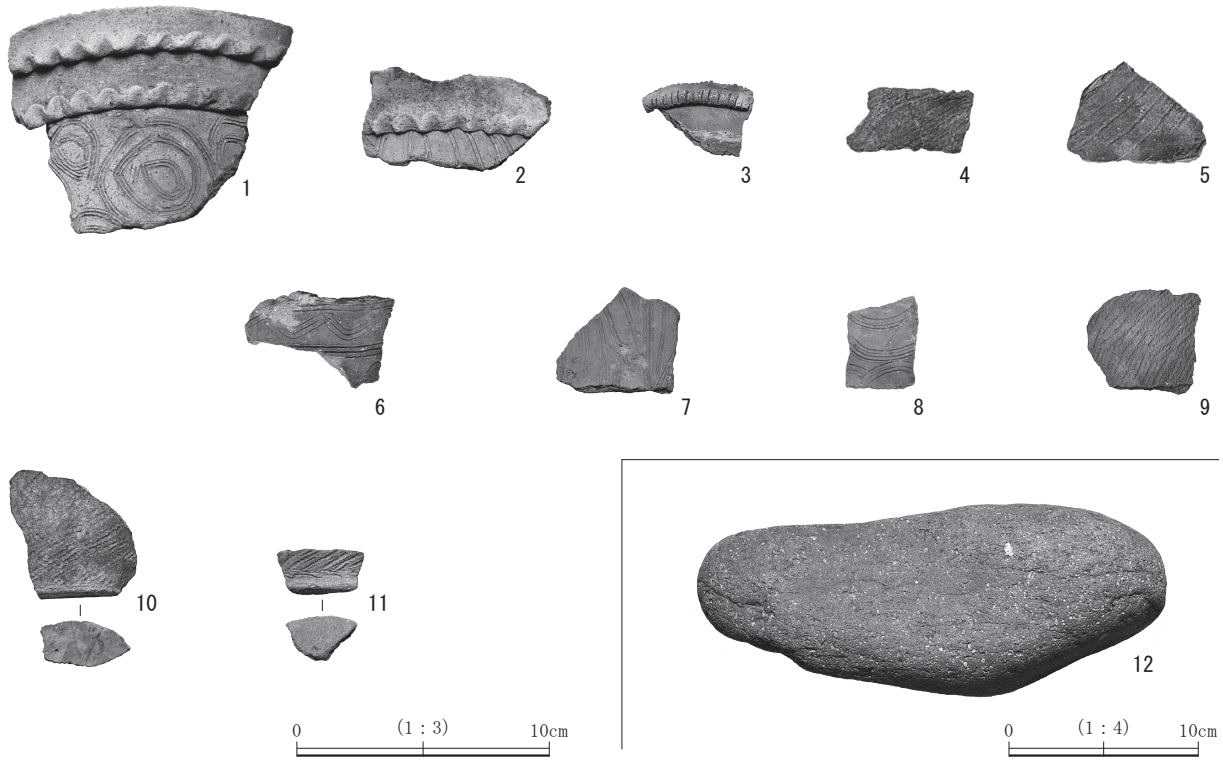
SK13 完掘(北東から)



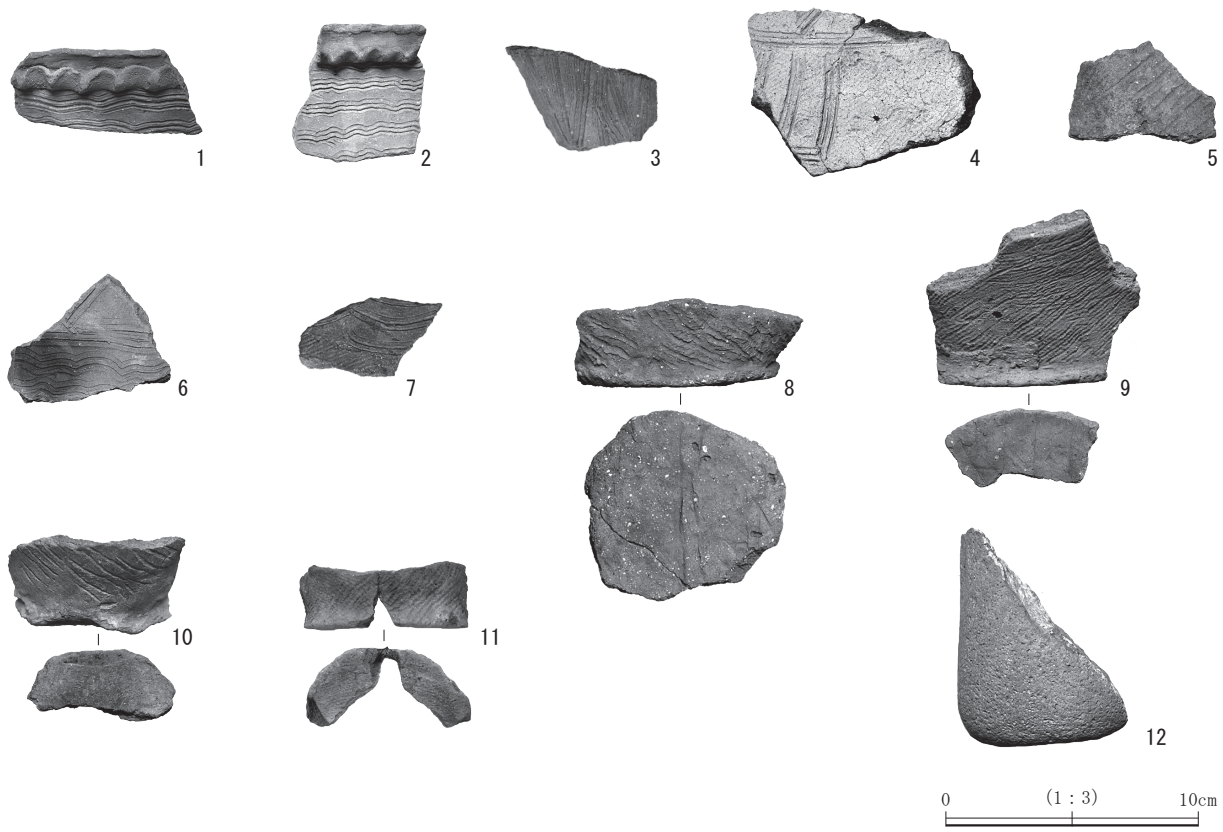
SK13 羽口(第52図-1) 出土状況(北東から)



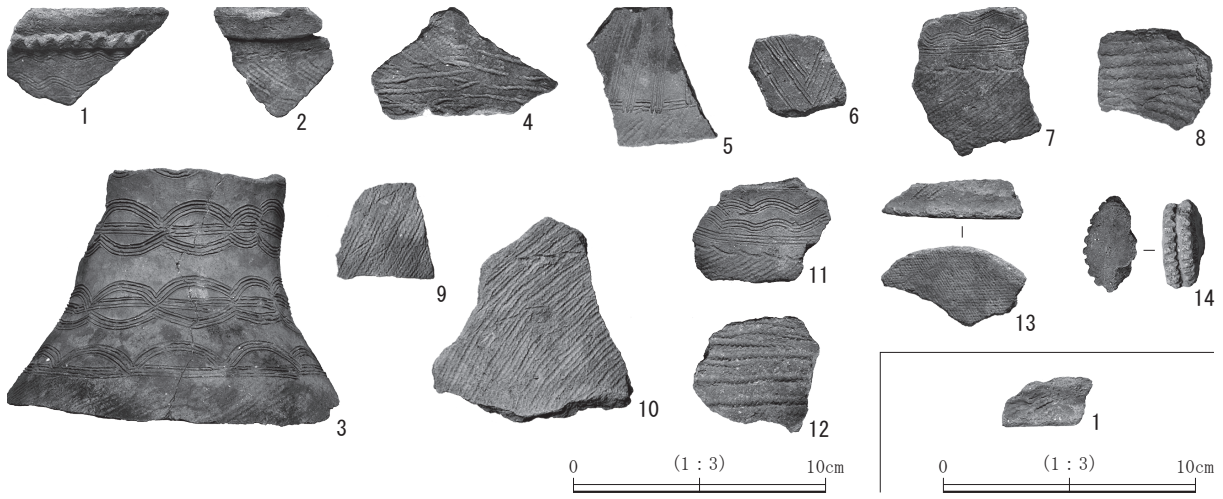
SK14 完掘(西から)



1. SI01 出土遺物

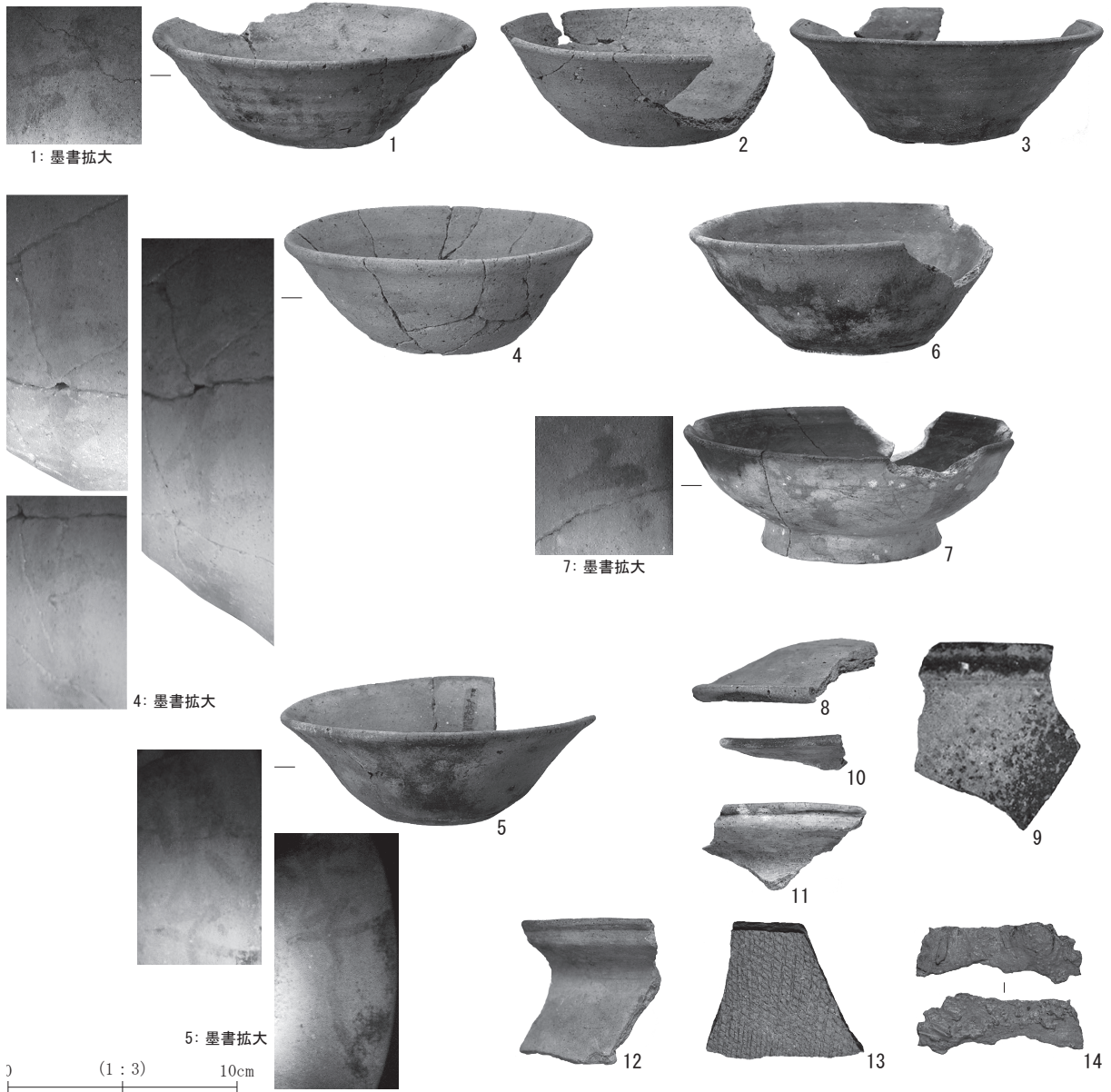


2. SI02 出土遺物

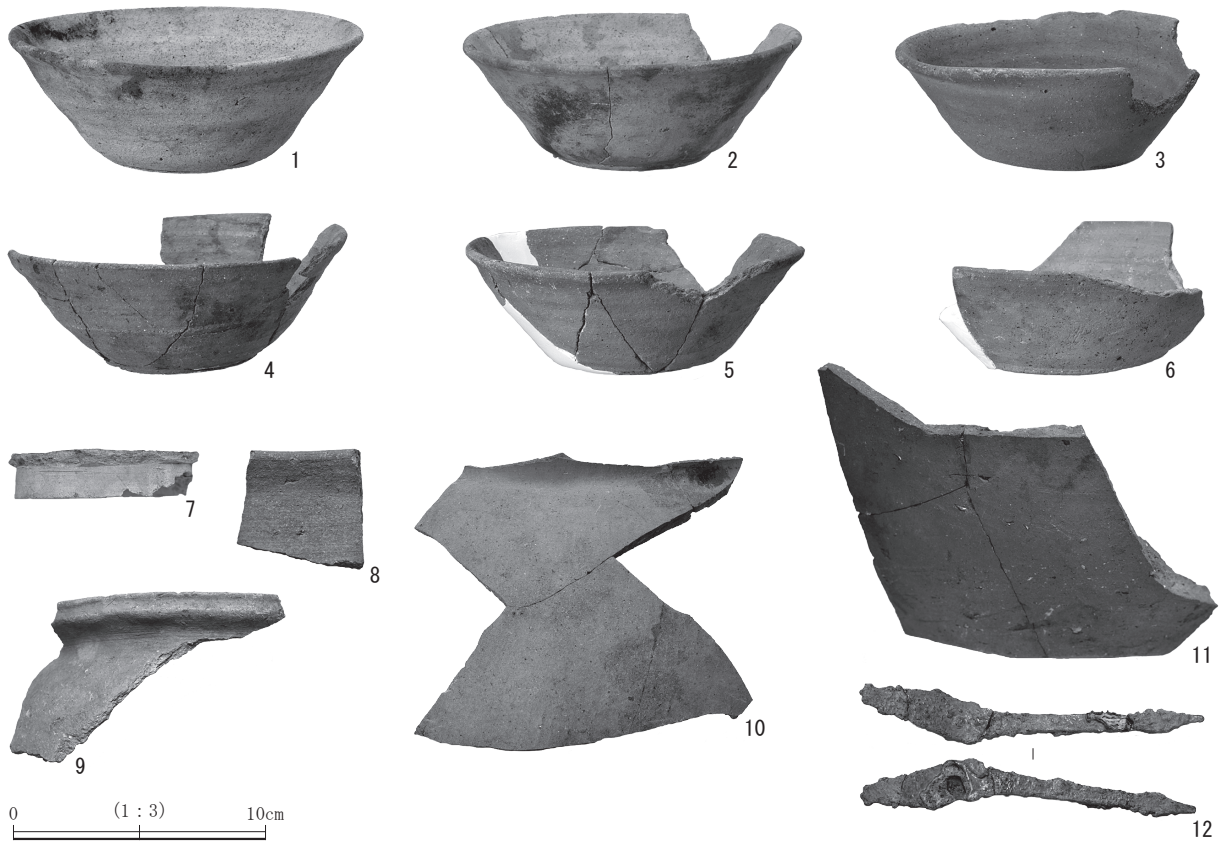


1. SI05 出土遺物

2. SI09 出土遺物



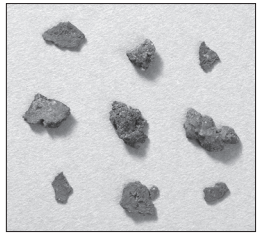
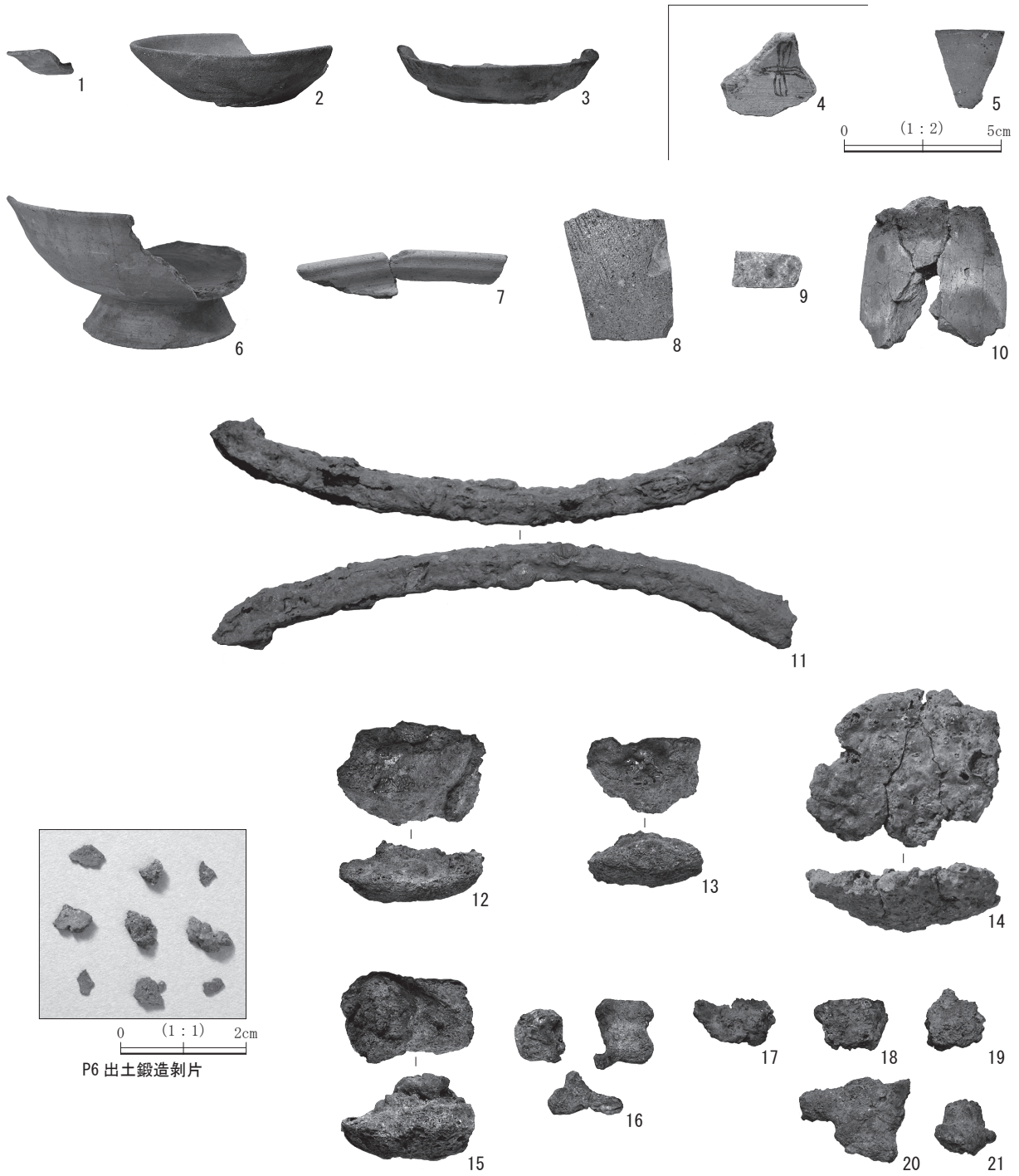
3. SI03 出土遺物



1. SI04 出土遺物



2. SI06 出土遺物



0 (1:1) 2cm
P6 出土鍛造剥片

12~21: 製鉄関連遺物 12~14: 椀型鍛冶滓 15: 羽口 16~21: 鉄滓

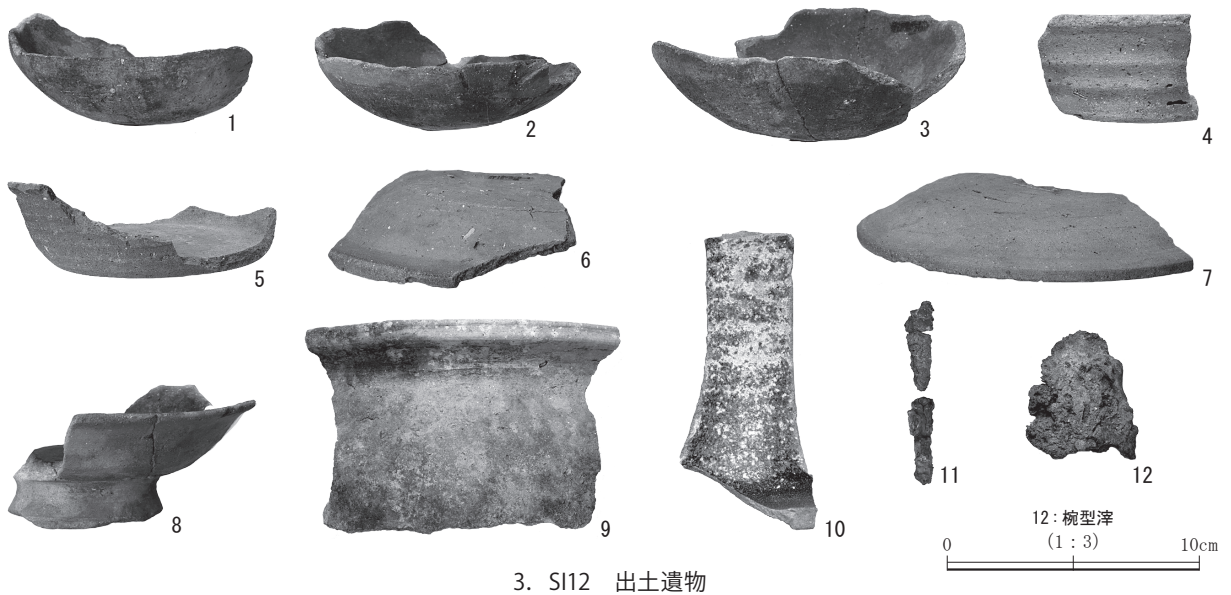
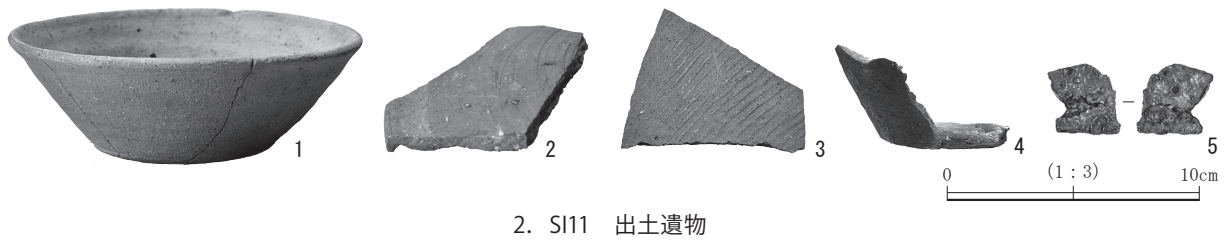
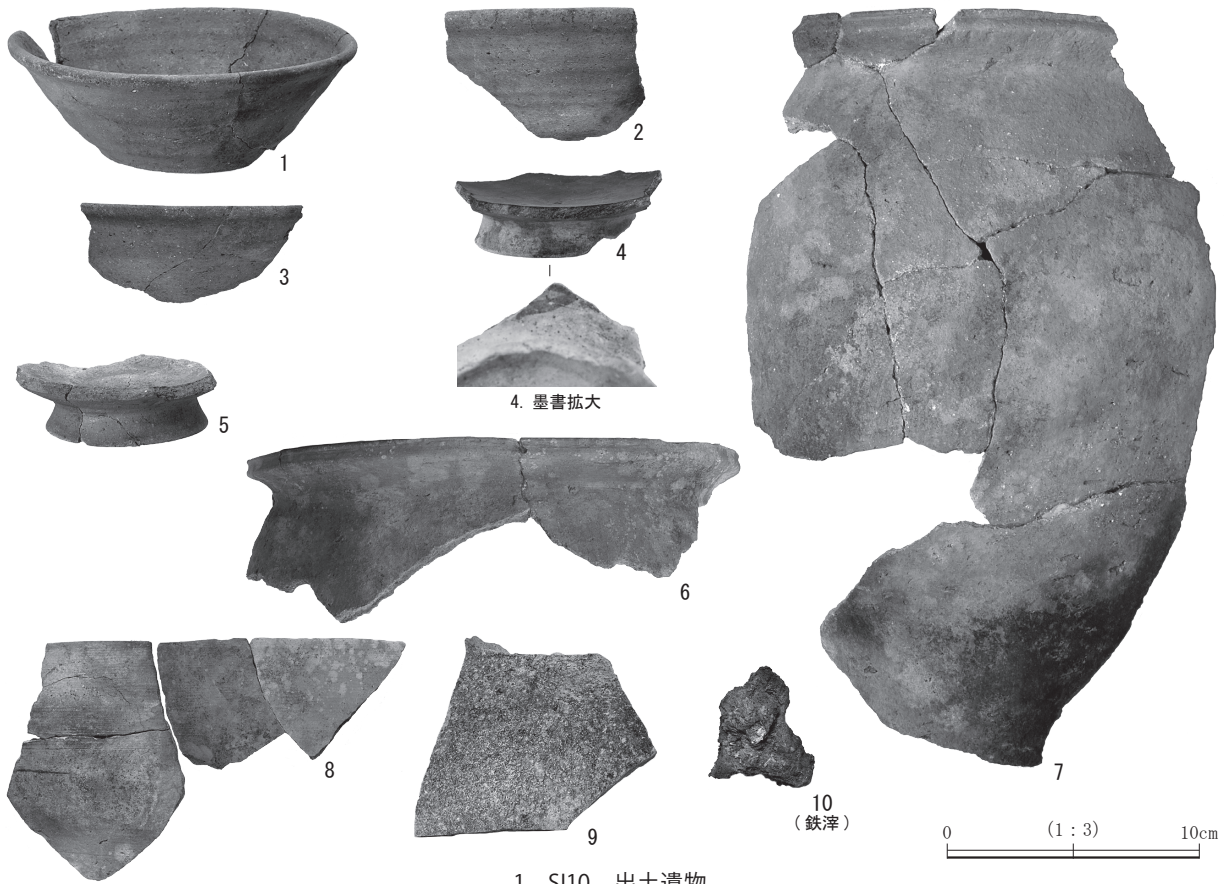
0 (1:3) 10cm

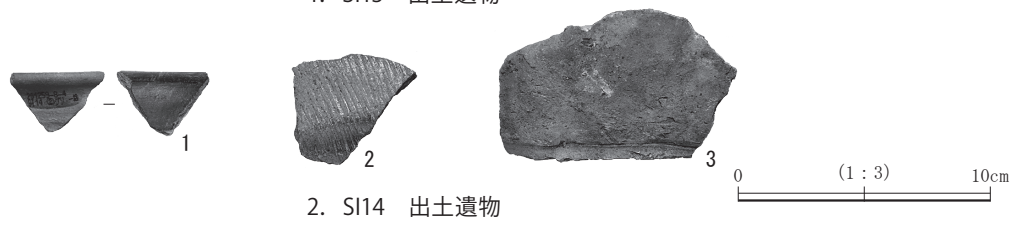
1. SI07 出土遺物

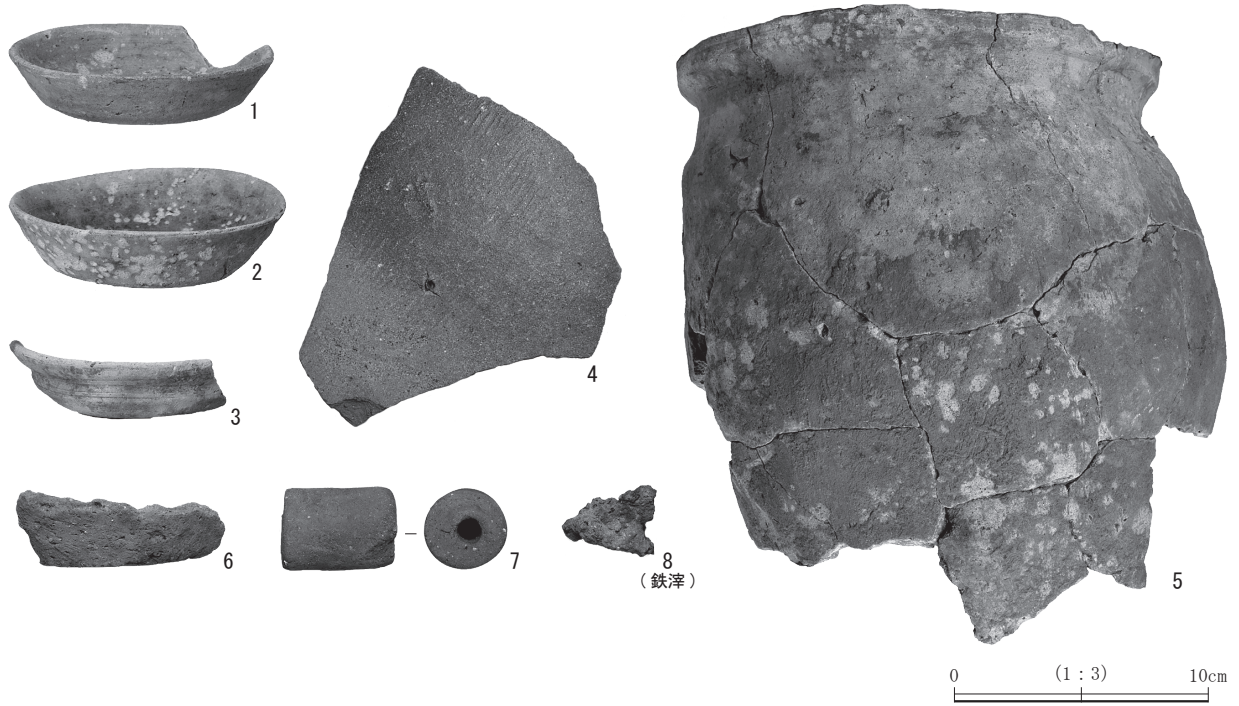


0 (1:3) 10cm

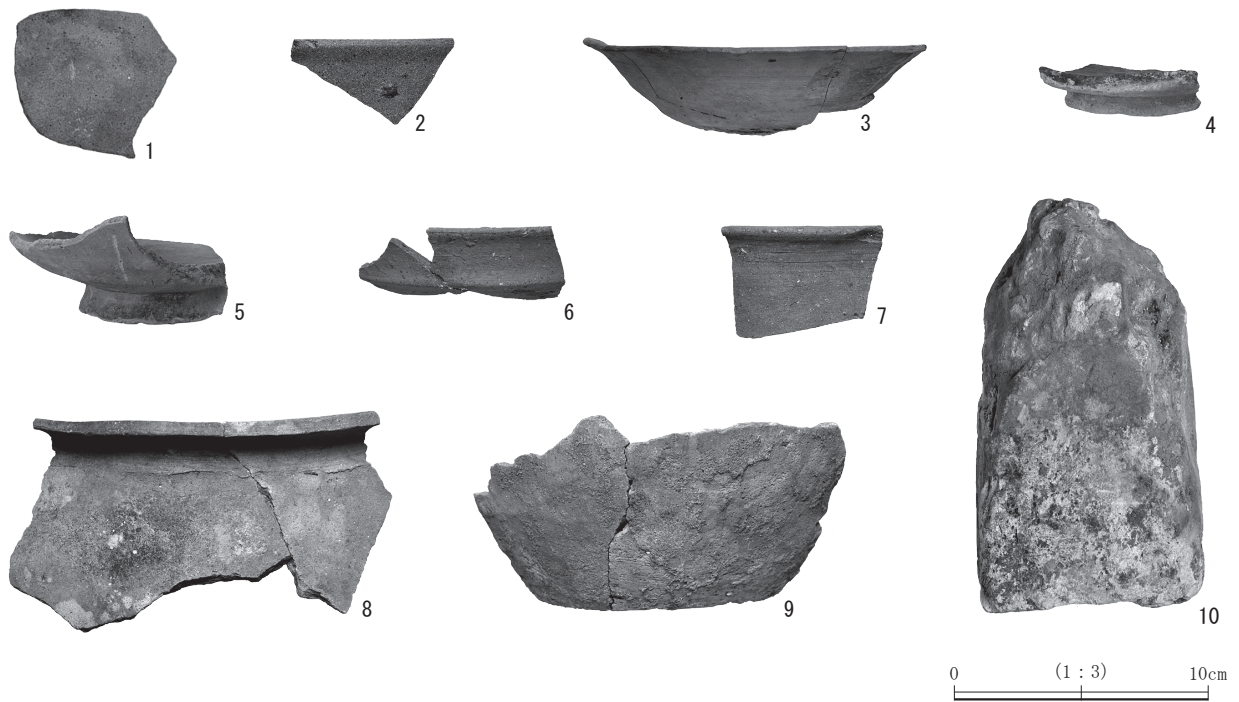
2. SI08 出土遺物



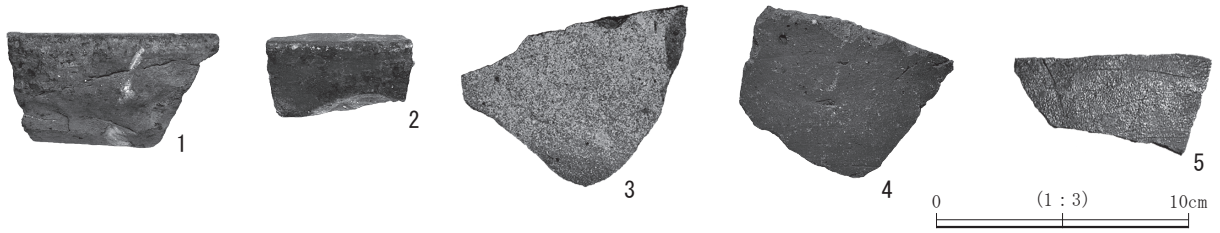




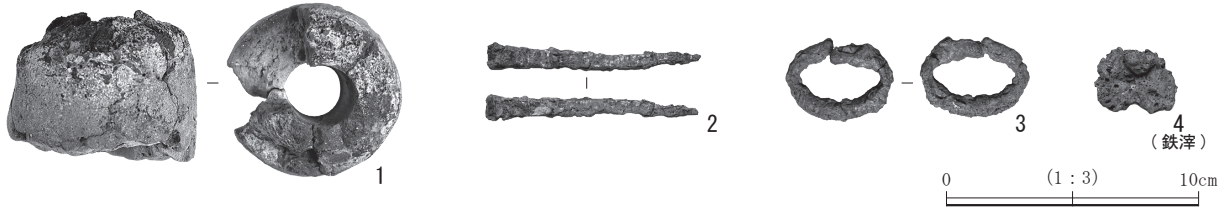
1. SI16 出土遺物



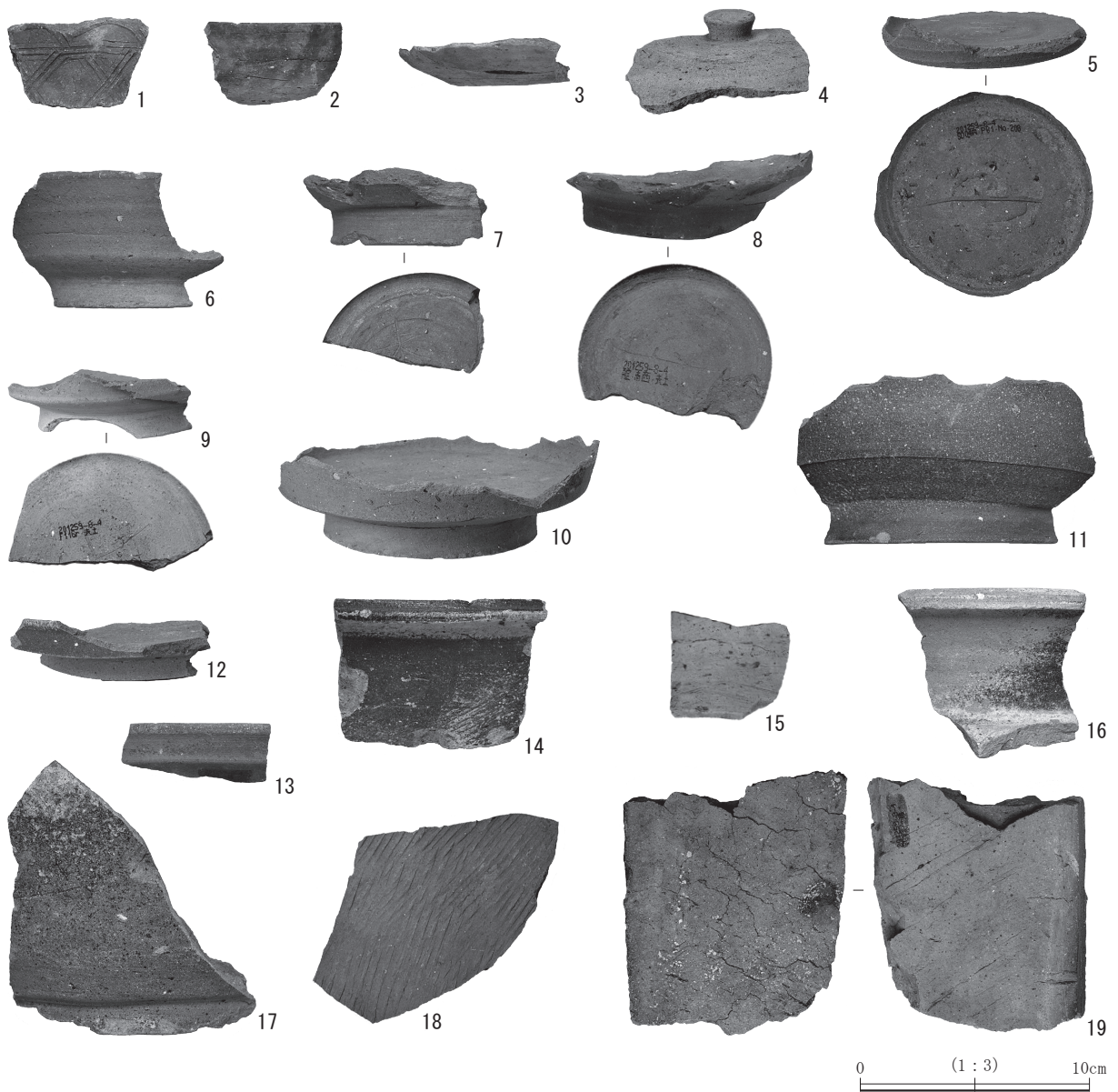
2. SI17 出土遺物



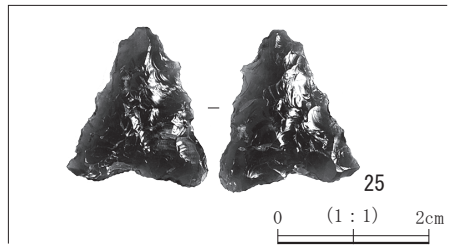
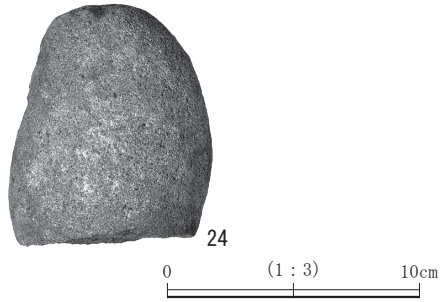
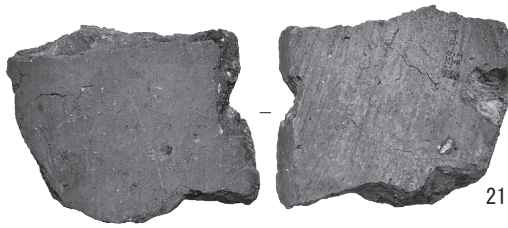
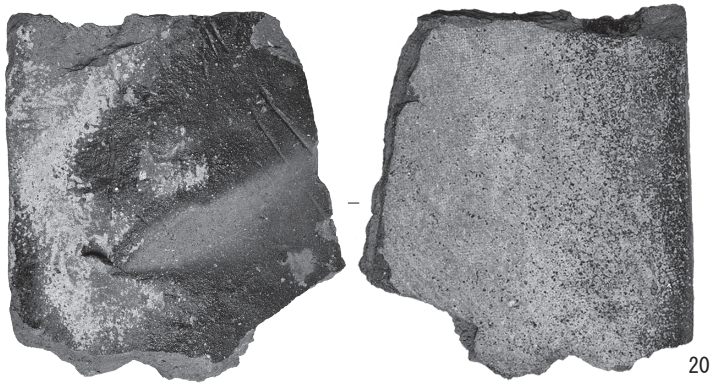
1. SD01 出土遺物



2. SK13 出土遺物



3. 遺構外出土遺物 (1)



1. 遺構外出土遺物 (2)

報告書抄録

ふりがな	とうまえはらいせき だいはちちてんだいよじ							
書名	東前原遺跡(第8地点第4次)							
副書名	区画道路6-27号線道路改良及び造成並びに流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告 第83集							
編集者名	小野麻人・鈴木裕子・米川暢敬							
著者名	小野麻人・鈴木裕子・米川暢敬・丸山優香里							
編集機関	株式会社イビソク 千葉営業所							
発行機関	水戸市教育委員会							
所在地	〒310-0852 茨城県水戸市笠原町978-5(歴史文化財課) TEL 029-306-8132							
	〒273-0033 千葉県船橋市本郷町405-203 TEL 029-306-8132							
発行年月日	平成28(2016)年9月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°、′、″	°、′、″			
とうまえはらいせき 東前原遺跡 (第8地点 第4次)	いばらきけん とし 茨城県水戸市 とうまえちょう 東前町1121, 1192-4, 1209-3・5・6・7・9	08201	259	36° 20′ 28″	140° 31′ 37″	2016.3.8 ～ 2016.5.17	1,670㎡	区画道路6-27号線道路改良及び造成並びに流域関連下水道工事に伴う調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
東前原遺跡 (第8地点 第4次)	集落跡	弥生		堅穴建物跡	4軒	弥生土器, 土製品(紡錘車), 石器(磨石)		那珂川下流右岸域の水戸市域での弥生時代後期前半集落の検出は初。奈良・平安時代では墨書のある須恵器・土師器坏類が6点、円面硯の破片が出土。
	集落跡	奈良・平安		堅穴建物跡	13軒	須恵器, 土師器, 土製品(羽口・ 管状土錘),		
	集落跡	中・近世		土坑 ピット	4基 10基	石製品(支脚), 鉄製品, 鉄滓		
要約	溝				4条	土器, 陶器, 土製品(羽口), 鉄製品, 鉄滓		
	土坑				3基			
	ピット				6基			
要約	<p>東前原遺跡は水戸市の南東端に近い東茨城台地の東端部に位置する。台地の北側の縁辺近くにあり、標高は19mを測る平坦な土地が広がっている。本地点では弥生、奈良・平安、中近世の3時代の遺構が検出された。弥生時代は堅穴建物跡が4軒、それぞれ15m位の間隔で見られる。時期は後期前半の東中根式器である。この時期の集落は那珂川下流右岸域の水戸市域では初出である。奈良・平安時代の堅穴建物跡は13軒検出され、調査区内の散在する。その年代は、8世紀中葉～後半と9世紀前・中葉、10世紀後葉から11世紀前葉の3時期に分けられる。8世紀は3軒検出された。中・後葉にかけて点在したと推測する。小規模な隅カマドの堅穴建物が見られる(居住には適さない作業場や、非日常的な行いで使用されたか)。9世紀は6軒検出され、9世紀前葉～中葉を中心に展開がみられる。この中には一辺約7mの大型の堅穴建物や、規模が小さい隅カマドの堅穴もある。出土遺物では大型の堅穴建物跡からは円面硯の破片、1軒の建物跡からは須恵器坏の体部に2種類と思われる墨書が2個体ずつ認められた。10世紀後葉～11世紀前葉は4軒である。カマドの向きは東向きとなり、8・9世紀の北向きとは相違する。SI07は内部に小鍛冶跡と推測されるピットが存在し、鉄滓類が出土しており、ムラの鍛冶屋的な存在が窺える。このような様相からは、一定規模の集落として継続していた可能性がある。中近世は溝が4条検出された。奈良・平安時代の堅穴建物跡とは軸方位は違っており、4条共に走行方向は概ね同じで、調査区を東西方向に横断するもので、帰属年代も同じと推測する。伴う遺物は最も大型のSD01では、14・15世紀の陶器大甕と近世の17～19世紀の土器が出土している。検出範囲が少ないものの、居館の内外を区画するため、敷地境を表わしたり、道路の側溝などの可能性がある。</p>							
<p>遺物の取り扱い</p> <p>水洗い すべて行った。</p> <p>注記 インクジェットプリンターを使用し、例)「210259-8-4」のように注記した。</p> <p>接合 接合は必要に応じて最小限行った。</p> <p>実測 遺物実測図は報告書掲載分についてのみ作成した。</p> <p>台帳 遺物台帳、図面台帳、写真台帳があり、検索が可能なように作成している。合計1冊(綴り)</p> <p>遺物保管方法 出土遺物は、報告書使用と未使用に分け、遺物収納箱に納めた。各箱には収納内容を明記している。なお、未使用分については種別ごとに分類、収納してある。</p>								

水戸市埋蔵文化財調査報告 第83集

東前原遺跡

(第8地点第4次)

—区画道路6-27号線道路改良及び造成並びに流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

印刷 平成28(2016)年9月30日

発行 平成28(2016)年9月30日

編集・発行 水戸市教育委員会

〒310-8610 茨城県水戸市笠原町978-5

TEL: 029-306-8132 (歴史文化財課)

印刷 株式会社 東ブリ

〒144-0052 東京都大田区蒲田4-41-11

TEL: 03-3732-4155